岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第578集

矢盛（やもり）遺跡第23・24次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

2011

盛岡市都市整備部盛岡南整備課
(独)都市再生機構岩手都市開発事務所
(財)岩手県文化振興事業団

矢盛遺跡第23・24次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

遺跡遠景（南から）

掘立柱建物群（南から）

RI65・66井戸（東から）

調査区西端柱穴群（北東から）

序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡市広域都市計画事業盛岡南新都市土地区画整理事業に関連して平成21年度に発掘調査された盛岡市矢盛遺跡第23・24次調査の成果をまとめたものであります。

矢盛遺跡は20回以上の発掘調査によって、縄文時代から近世まで幅広い時代の遺構や遺物が見つかっていますが、今回の調査では特に、江戸時代後期から明治時代の建物跡が15棟と、それに関連する墓坑や井戸、溝が見つかりました。遺構の多くは明治時代初頭に描かれた「飯岡新田地割絵図」にも記載された「宅地」や「墓」に比定されるものと推測され、今回の調査で得た成果は、当時を知る上で、貴重な資料となりえます。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました盛岡市都市整備部盛岡南整備課および独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成23年2月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　　池　田　克　典

例　　言

1　本報告書は、盛岡市向中野字野原に所在する矢盛遺跡の第23・24次発掘調査の結果を収録したものである。

2　今回の調査は、盛岡南新都市土地区画整理事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所および盛岡市都市整備部盛岡南整備課との協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3　遺跡台帳に登録されている遺跡番号は、ＬＥ26－0139である。

4　各調査における、遺跡略号、発掘調査期間、担当者、調査面積、委託者は以下の通りである。

［第23次調査］

遺跡略号：ＩＹＭ－09－23

調査期間：平成21年7月1日～11月26日

調査担当者：高木　晃・須原　拓・北田　勲・小林弘卓

調査面積：5,720㎡

委託者：盛岡市都市整備部盛岡南整備課

［第24次調査］

遺跡略号：ＩＹＭ－09－24

調査期間：平成21年7月1日～11月26日

調査担当者：高木　晃・須原　拓・北田　勲・小林弘卓

調査面積：425㎡

委託者：独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所

5　室内整理期間と担当者は、以下の通りである。

［第23次調査］

整理期間：平成22年2月1日～3月31日

担当者：須原　拓・小林弘卓

［第24次調査］

整理期間：平成21年12月1日～平成22年1月29日

担当者：小林弘卓

6　遺構名は、盛岡市教育委員会の命名法に準拠した。略号は以下の通り、番号は三桁で付し、過去の調査からの連番になるようにした（盛岡市教育委員会による調査分も含んでいる）。

［略号］

ＲＢ→掘立柱建物跡、ＲＤ→陥し穴状遺構・墓坑・土坑、ＲＩ→井戸、ＲＧ→溝、

ＲＦ→焼土遺構、　　ＲＺ→性格不明遺構

7　航空写真撮影および遺物の鑑定、保存処理は次の機関に依頼した。

航空写真撮影：東邦航空

石質鑑定：花崗岩研究会

樹種同定：古代の森研究舎

保存処理（鉄製品・木製品）：岩手県立博物館

8　本遺跡の調査成果は、すでに『平成21年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第571集）において発表しているが、内容については本書が優先する。

9　野外調査・室内整理にあたって次の方々の御協力・御指導をいただいた（敬称略）。
岡喜園茶補、北田聡子、木津屋味噌店、原田祐参（岩手県立博物館）、盛岡市教育委員会

10　本文執筆、編集は須原が行った。ただし人骨の観察、表作成については当センター職員川又晋に協力してもらった。

11　土色の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1993）を使用している。

12　本報告書で使用した地形図は、国土地理院発行1：25,000「盛岡」「日詰」を使用している。

13　調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡周辺の地理的環境
1　遺跡の位置 …… 1
2　遺跡の立地 …… 1
3　遺跡周辺の歴史環境 …… 3
（1）盛岡市の遺跡 …… 3
（2）これまでの矢盛遺跡の調査から …… 3
（3）周辺の遺跡～近世～ …… 6

Ⅲ　調査の経過と方法
1　第23次調査について …… 9
2　第24次調査について …… 10
3　凡　　例 …… 10

Ⅳ　基本層序 …… 14

Ⅴ　検出した遺構・遺物
1　調査の概要
（1）第23次調査 …… 15
（2）第24次調査 …… 15
2　検出遺構と出土遺物
（1）縄文時代 …… 24
（2）古　　代 …… 28
（3）近　　世 …… 29
3　第18次調査「北区」との関連と出土遺物 …… 109
4　調査区外から出土した近代～現代遺物について …… 115

Ⅵ　自然化学分析 …… 118

Ⅶ　まとめ
1　明治時代初頭の地割図からみた矢盛遺跡の近世遺構群 …… 120
2　掘立柱建物跡群の変遷について …… 124
報告書抄録 …… 187

図版目次

第 1 図　遺跡位置図 …… 2
第 2 図　これまでと今回の調査範囲 …… 5
第 3 図　周辺の遺跡 …… 7
第 4 図　大グリッド配置図 …… 11
第 5 図　凡例 …… 12
第 6 図　基本土層 …… 14
第 7 図　調査区全体図 …… 18
第 8 図　遺構配置図（1） …… 19
第 9 図　遺構配置図（2） …… 20
第 10 図　遺構配置図（3） …… 21
第 11 図　遺構配置図（4） …… 22
第 12 図　遺構配置図（5） …… 23
第 13 図　ＲＤ 185 ～ 189 土坑 …… 25
第 14 図　縄文時代・古代の遺物 …… 27
第 15 図　ＲＢ 048 掘立柱建物跡 …… 30
第 16 図　ＲＢ 049・050 掘立柱建物跡 …… 31
第 17 図　ＲＢ 051・052 掘立柱建物跡 …… 33
第 18 図　ＲＢ 053 掘立柱建物跡 …… 34
第 19 図　ＲＢ 054・055 掘立柱建物跡 …… 36
第 20 図　ＲＢ 056・057 掘立柱建物跡 …… 37
第 21 図　ＲＢ 058・059 掘立柱建物跡 …… 38
第 22 図　ＲＢ 060・061 掘立柱建物跡 …… 40
第 23 図　ＲＢ 062 掘立柱建物跡 …… 41
第 24 図　柱穴群出土遺物（1） …… 42
第 25 図　柱穴群出土遺物（2） …… 43
第 26 図　ＲＩ 065・066 井戸 …… 57
第 27 図　ＲＩ 067 ～ 069 井戸 …… 59
第 28 図　井戸出土遺物（1） …… 60
第 29 図　井戸出土遺物（2） …… 61
第 30 図　井戸出土遺物（3） …… 62
第 31 図　井戸出土遺物（4） …… 63
第 32 図　ＲＤ 190・191 墓壙 …… 66
第 33 図　ＲＤ 192 ～ 205・236 ～ 240 墓壙 …… 68
第 34 図　墓坑出土遺物（1） …… 71
第 35 図　墓坑出土遺物（2） …… 72
第 36 図　墓坑出土遺物（3） …… 73
第 37 図　墓坑出土遺物（4） …… 74
第 38 図　墓坑出土遺物（5） …… 75
第 39 図　ＲＤ 206 ～ 212 土坑 …… 83
第 40 図　ＲＤ 213 ～ 218・220・221 土坑 …… 84
第 41 図　ＲＤ 222 ～ 228 土坑 …… 85
第 42 図　ＲＤ 229 ～ 233 土坑 …… 86
第 43 図　ＲＤ 234・235・241～244 土坑 …… 87
第 44 図　土坑出土遺物（1） …… 89
第 45 図　土坑出土遺物（2） …… 90
第 46 図　ＲＦ 012・013 焼土遺構 …… 92
第 47 図　ＲＤ 219 土坑・
ＲＺ 001 性格不明遺構 …… 93
第 48 図　ＲＺ 001 出土遺物 …… 94
第 49 図　ＲＺ 002・旧河道 …… 95
第 50 図　ＲＧ 068 ～ 073 溝 …… 97
第 51 図　ＲＧ 074 溝 …… 98
第 52 図　ＲＧ 068 ～ 074 溝断面 …… 99
第 53 図　溝出土遺物 …… 100
第 54 図　遺構外出土遺物（1） …… 101
第 55 図　遺構外出土遺物（2） …… 102
第 56 図　遺構外出土遺物（3） …… 103
第 57 図　遺構外出土遺物（4） …… 104
第 58 図　遺構外出土遺物（5） …… 105
第 59 図　遺構外出土遺物（6） …… 106
第 60 図　第 18 次調査区出土近世遺物（1） …… 111
第 61 図　第 18 次調査区出土近世遺物（2） …… 112
第 62 図　矢盛遺跡出土木製品の顕微鏡写真 …… 119
第 63 図　飯岡新田地割絵図第二地割才川 …… 121
第 64 図　飯岡新田地割絵図との比較 …… 123
第 65 図　掘立柱建物跡群変遷図（1） …… 125
第 66 図　掘立柱建物跡群変遷図（2） …… 126

表　目　次

第 1 表　矢盛遺跡の調査履歴 …… 4
第 2 表　周辺の遺跡一覧～近世～ …… 8
第 3 表　遺構名変更表 …… 13
第 4 表　遺構別出土遺物一覧 …… 16
第 5 表　縄文時代・古代出土遺物観察表 …… 28
第 6 表　掘立柱建物跡・柱穴出土遺物観察表 …… 44
第 7 表　柱穴一覧表 …… 45
第 8 表　井戸出土遺物観察表 …… 64
第 9 表　墓壙出土人骨一覧表 …… 76
第 10 表　墓壙出土遺物観察表 …… 78
第 11 表　土坑一覧 …… 87
第 12 表　土坑出土遺物観察表 …… 91
第 13 表　ＲＺ 001 出土遺物観察表 …… 94
第 14 表　溝一覧 …… 99
第 15 表　溝出土遺物観察表 …… 100
第 16 表　遺構外遺物観察表 …… 107
第 17 表　第 18 次調査区出土遺物観察表 …… 113
第 18 表　近代～現代遺物観察表 …… 116
第 19 表　矢盛遺跡出土木製品の樹種 …… 118

写真図版目次

写真図版 1　調査区全景、基本層序 …… 130
写真図版 2　掘立柱建物 1 …… 131
写真図版 3　掘立柱建物 2 …… 132
写真図版 4　掘立柱建物 3 …… 133
写真図版 5　掘立柱建物 4 …… 134
写真図版 6　掘立柱建物 5 …… 135
写真図版 7　掘立柱建物 6 …… 136
写真図版 8　掘立柱建物 7 …… 137
写真図版 9　井戸 1 …… 138
写真図版 10　井戸 2 …… 139
写真図版 11　井戸 3 …… 140
写真図版 12　井戸 4 …… 141
写真図版 13　墓壙 1 …… 142
写真図版 14　墓壙 2 …… 143
写真図版 15　墓壙 3 …… 144
写真図版 16　土坑 1 …… 145
写真図版 17　土坑 2 …… 146
写真図版 18　土坑 3 …… 147
写真図版 19　土坑 4 …… 148
写真図版 20　土坑 5 …… 149
写真図版 21　土坑 6 …… 150
写真図版 22　土坑 7 …… 151
写真図版 23　土坑 8 …… 152
写真図版 24　土坑 9 …… 153
写真図版 25　土坑 10、焼土遺構 1 …… 154
写真図版 26　焼土遺構、性格不明遺構、旧河道 …… 155
写真図版 27　溝 1 …… 156
写真図版 28　溝 2 …… 157
写真図版 29　縄文時代・古代の遺物 …… 158
写真図版 30　近世・近代の遺物（陶器 1） …… 159
写真図版 31　近世・近代の遺物（陶器 2） …… 160
写真図版 32　近世・近代の遺物（陶器・陶胎染付） …… 161
写真図版 33　近世・近代の遺物（磁器 1） …… 162
写真図版 34　近世・近代の遺物（磁器 2） …… 163
写真図版 35　近世・近代の遺物（磁器 3） …… 164
写真図版 36　近世・近代の遺物（磁器 4） …… 165
写真図版 37　近世・近代の遺物（磁器 5） …… 166
写真図版 38　近世・近代の遺物（磁器 6） …… 167
写真図版 39　近世・近代の遺物（磁器 7） …… 168
写真図版 40　近世・近代の遺物（磁器 8） …… 169
写真図版 41　近世・近代の遺物（ガラス・金属製品） …… 170
写真図版 42　近世・近代の遺物（金属製品・銭貨 1） …… 171
写真図版 43　近世・近代の遺物（銭貨 2） …… 172
写真図版 44　近世・近代の遺物（銭貨 3・石製品 1） …… 173
写真図版 45　近世・近代の遺物（石製品 2） …… 174
写真図版 46　近世・近代の遺物（石製品 3・ガラス瓶） …… 175
写真図版 47　近世・近代の遺物（木製品・瓦） …… 176
写真図版 48　近世・近代の遺物（有機質資料） …… 177
写真図版 49　近代以降の遺物 1 …… 178
写真図版 50　近代以降の遺物 2 …… 179
写真図版 51　墓壙出土人骨 1 …… 180
写真図版 52　墓壙出土人骨 2 …… 181
写真図版 53　墓壙出土人骨 3 …… 182
写真図版 54　墓壙出土人骨 4 …… 183
写真図版 55　墓壙出土人骨 5 …… 184
写真図版 56　墓壙出土人骨 6 …… 185
写真図版 57　墓壙出土人骨 7 …… 186

Ⅰ　調査に至る経過

盛岡南新都市土地区画整理事業は、平成２年９月に岩手県、盛岡市、都南村（当時）の三者が地域振興整備公団（現、独立行政法人都市再生機構）に対して事業要請を行い、これを受けて公団が実施計画を作成した。平成３年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成３年度から面積313ヘクタールを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、本調査に関しては、盛岡市教育委員会が試掘調査を行って本調査を必要とする範囲を確定した上で、財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

矢盛遺跡第23次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市と、第24次調査については独立行政法人都市再生機構と協議の結果、平成21年度の事業として確定した。これを受け、第23次調査については平成21年５月１日に財団法人岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長、第24次調査については平成21年６月11日に都市再生機構岩手都市開発事務所長との間で、委託契約を締結した。

Ⅱ　遺跡周辺の地理的環境

１　遺 跡 の 位 置

矢盛遺跡は盛岡市の西南部、北緯39度40分26秒、東経度141分08秒～01秒付近の地点に位置し、国土地理院発行の５万分の１地形図「盛岡」NJ-54-13-14（盛岡14号）の図幅に含まれる（第１図）。矢盛遺跡の遺跡推定範囲は広く、過去の調査区を現在（平成22年）の住所名と照らし合わせても、盛岡市飯岡新田第４地割、向中野、矢盛などに及んでいる。今回の第23次・第24次調査区は住所名でいうと、盛岡市向中野字野原が該当する。

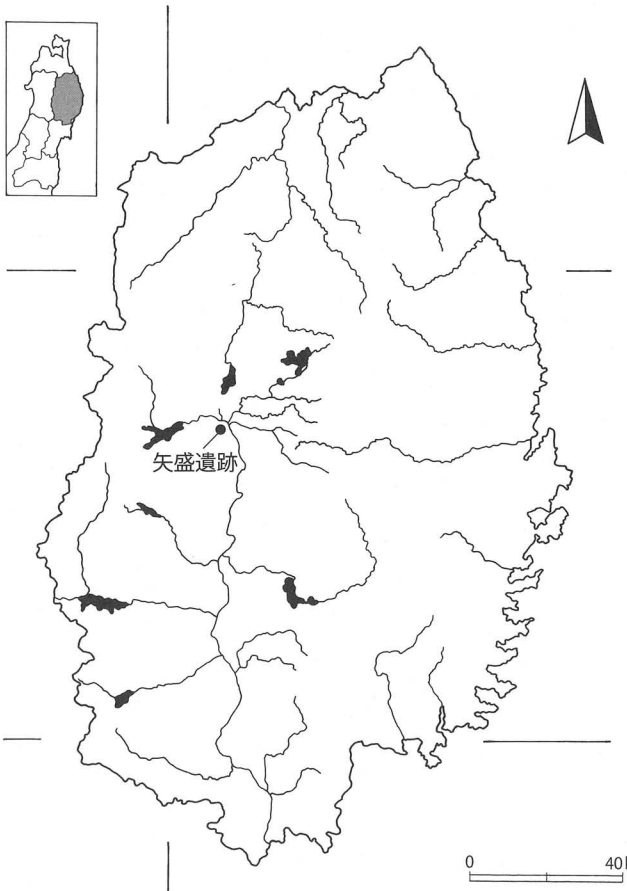
調査前は宅地、畑、荒れ地であった。また地権者ゆかりの墓地もあったと聞いているが、地権者自身は昭和時代ころに当地に越してこられたとのことであり、従って墓地も昭和時代より古くさかのぼるものではない。

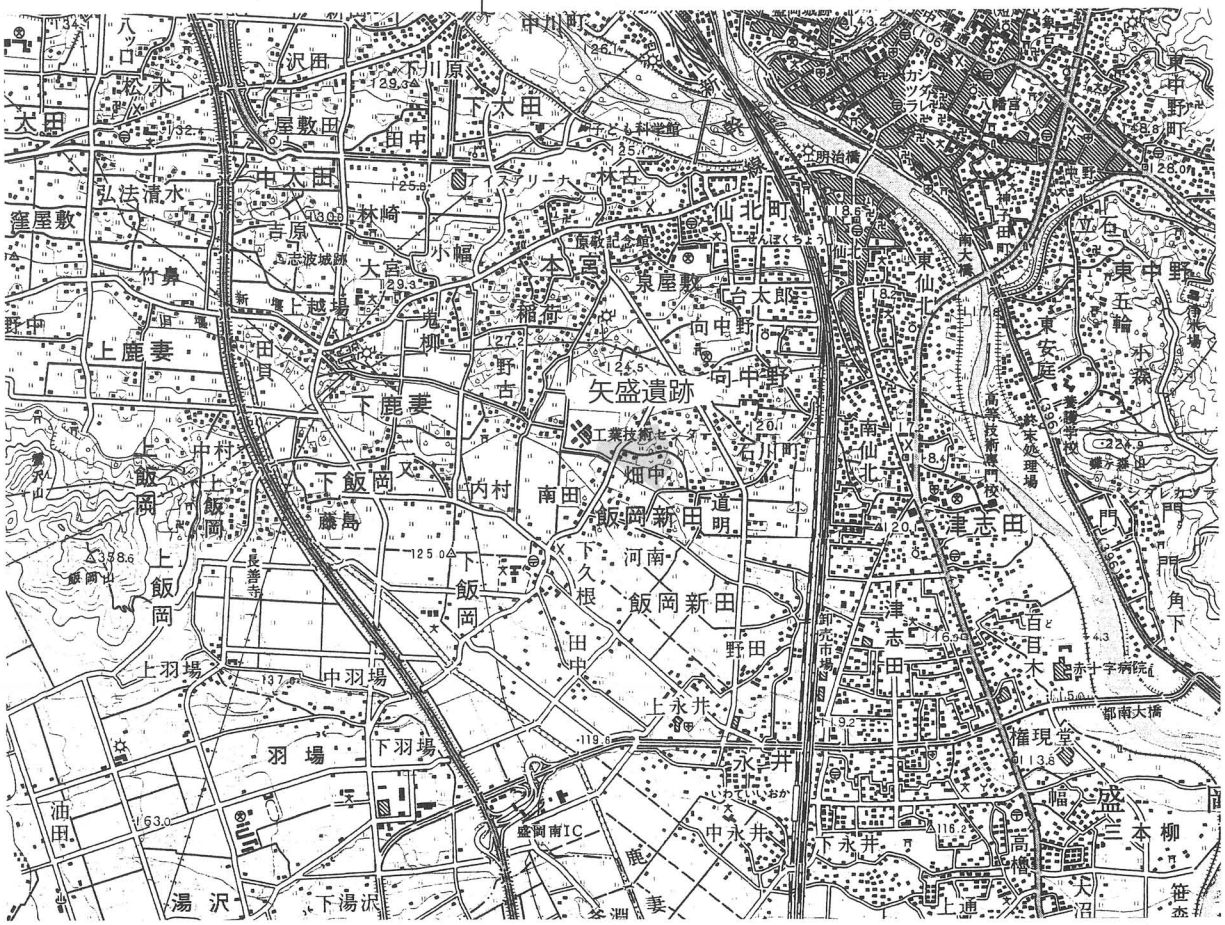
２　遺 跡 の 立 地

矢盛遺跡の立地は雫石川によって形成された沖積段丘上と周囲の旧河道である。標高は123～124mで、周辺の地形と比べ、50～100cmほど高い場所である。

遺跡周辺の立地環境や地質については、過去の盛南開発関連による発掘調査報告書に、詳細な記載があるので、ここでは今回の調査区の地形についてのみ触れておく。

今回の調査区は南北両側を旧河道に挟まれており、特に調査区南側をはしる旧河道は一部、調査区内で検出している。この旧河道の周辺はやや低くなっており、また表土下は小礫を多量に含んだ砂層が露出している。調査区は北側に向かうにつれ、砂質な黄褐色土が厚くなり、またその上には黒ボク土が堆積する。したがって調査区北側については、過去の調査、及び周辺に分布する遺跡群の立地や地質環境と同様と考えられる。


矢盛遺跡
0
40km


矢盛遺跡
下太田
中太田
上鹿妻
下鹿妻
下飯岡
飯岡新田
津志田
上羽場
中羽場
下羽場
羽場
上永井
永井
中永井
下永井
盛岡南IC
下湯沢
湯沢
中川町
仙北町
東仙北
南仙北
東中野
東安庭
高等技術専門校
工業技術センター
都南大橋
赤十字病院
盛岡市場
高橋
三本柳
上通

第１図　遺跡位置図

3　遺跡周辺の歴史環境

（1）盛岡市の遺跡

平成21年3月発行の盛岡市教育委員会作成『盛岡市遺跡地図（2008年版）』によれば、盛岡市内では733箇所の遺跡が登録されている。時代別の内訳は旧石器時代5箇所、縄文時代546箇所、弥生時代25箇所、古墳時代が4箇所、古代281箇所、中世114箇所、近世65箇所等となっており（時代が重複する遺跡については各時代毎に別々に集計した）、縄文時代の遺跡が全体の6割強を占め、それに古代の遺跡が次いでいる。

矢盛遺跡のある雫石川西岸の沖積段丘上には主に古代の集落遺跡が多い。縄文時代の遺跡が多く点在する北上川の東岸側とは大きく様相を異にする。

（2）これまでの矢盛遺跡の調査から

矢盛遺跡は平成21年度までに試掘調査も含み26回の調査が行われてきた（調査範囲については第2図参照）。各調査の概要と成果については第1表にあるとおりである。そしてこれまでの調査から矢盛遺跡は縄文時代の狩猟場、古代（9世紀後半～10世紀）の集落、中世（16世紀代）の居館跡を含んだ集落、近世（19世紀後半）以降の民家跡とそれに関連する施設群といった性格の遺構・遺物が見つかっており、時代・性格共に多岐にわたる複合遺跡であることが判明している。そして今回の第23・24次調査においては近世から近代にかけての民家跡と、その付属施設がみつかっている。各次調査の成果については、発掘調査報告書がすでに刊行されており、そちらを参照していただくとして、以下には矢盛遺跡の調査成果の中でも今回の調査で特に多く見つかった近世の遺構についてのみに限定し概観する。

第3・4次調査では掘立柱建物跡3棟が見つかっている。それらの柱穴底面から17世紀の肥前産皿が出土しており、これらの建物群も同時期に比定されるものと推測する。なお今回の調査で見つかっている掘立柱建物跡群と比べると時期は大きく異なるものの、軸方向がほぼ一致するなど共通点も認められる。また、周辺には井戸が3基見つかっており（第3次調査1基、第4次調査2基）、建物群との関連が伺われる。ただし井戸から出土した擂鉢片は15～16世紀の所産であり、掘立柱建物跡群とは時期がややずれる可能性も捨てきれない。

第9次調査では、掘立柱建物跡が2棟見つかっている。どちらも規模が小さく、報告書によると水田耕作に伴うホンニョウ杭（ハセ）の可能性が示唆されている。

第12・13次調査では、堀に囲まれた居館跡と思われる掘立柱建物跡群とその周辺から井戸が多数検出した。しかし帰属時期は16世紀代に推定されており、今回見つかった掘立柱建物跡群とは大きく時期を異にする。

第14次調査では、掘立柱建物跡1棟が見つかっている。報告書によると近世に帰属する可能性が示唆されているが、遺物が伴わず、詳細は不明である。また今回の調査で見つかった掘立柱建物跡と比べると、軸方向が異なっている。

第18次調査においては、近世以降の遺構・遺物が集中する箇所が認められる。特に今回の第23次調査区の東側に隣接する第18次調査区「北区」が相当する。報告書中で「植栽痕」とされている「柱穴状土坑の並び」は、規模や配列方向が、今回見つかった掘立柱建物群と共通しており、近世の掘立柱建物跡であった可能性が高い。また「植栽痕（柱穴か）」の埋土からは寛永通宝が出土しており、今回の調査で見つかった建物群と近い時期のものとも考えられる。植栽痕が建物群と想定すると、そ

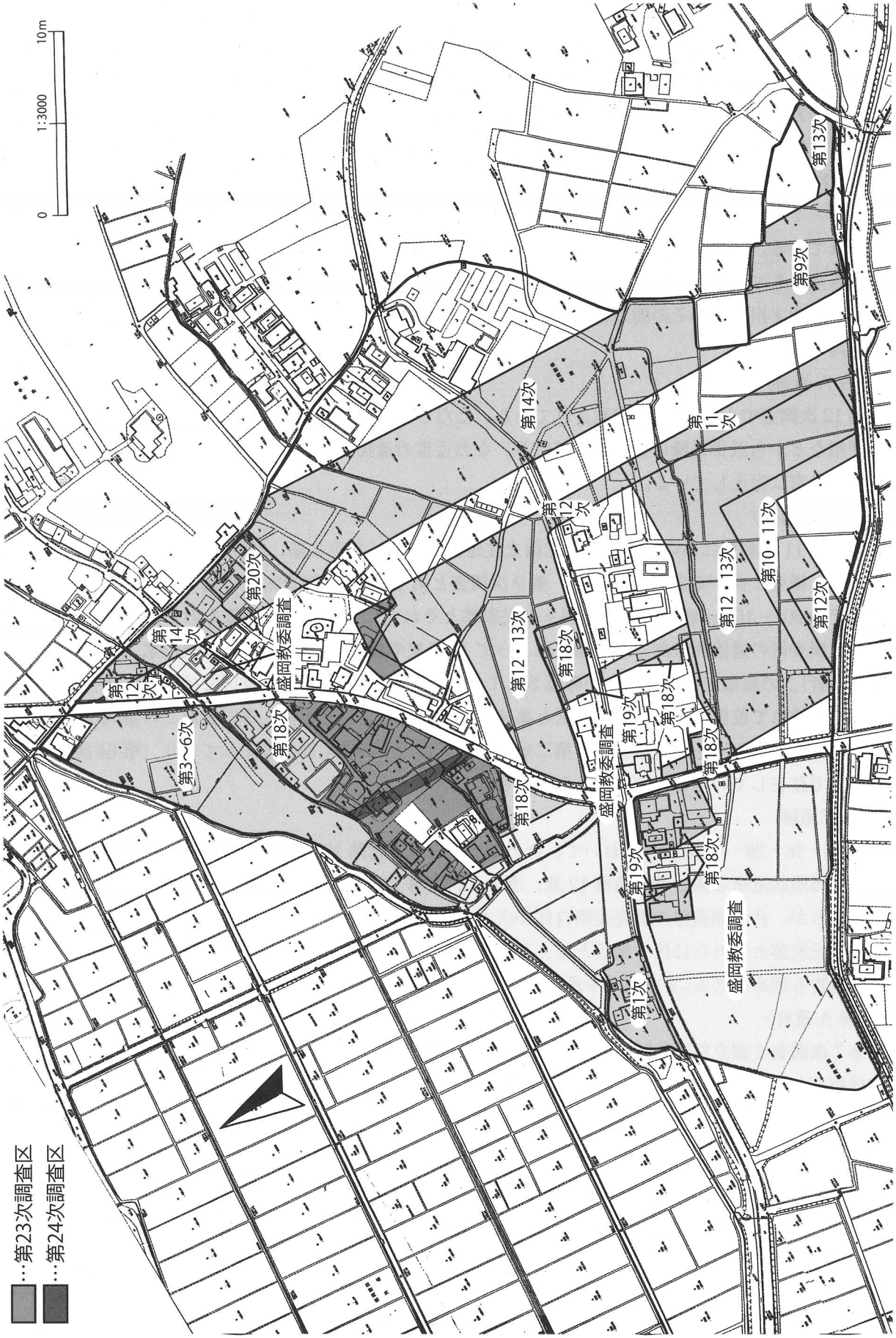
の北側には溝が、またさらにその北側には墓坑群が分布し、第23・24次調査区で見つかった遺構群の遺構配置と共通する。そうなれば、両調査区で見つかった遺構群は連続し、同性格を有するものであることが伺える。

以上、過去の調査で矢盛遺跡から見つかった近世遺構をまとめて概観してみた。

これまで矢盛遺跡といえば、縄文時代の狩猟場（陥し穴群）や16世紀代の居館跡としての性格が大きく注目されてきたが、こうしてみていくと、矢盛遺跡における近世遺構も決して少なくなく、近世、特に江戸時代後期の集落（民家跡群）を構成する遺構群であることが伺える。

第1表　矢盛遺跡の調査履歴

調査次数	委託者	調査面積(㎡)	調査機関	調査期間	調査成果・検出遺構（時期不明遺構省く）	出土遺物	文献
1	岩手県商工労働部	1,300	当埋蔵文化財センター	1992.4.9 ～ 8.8	平安竪穴住居3棟ほか	9世紀後半～10世紀土師器、10世紀後半土師器・鉄斧、鉄鏃、鉄釘	岩文振205集
2	個人	131	盛岡市教育委員会	1999.08.26 ～ 09.02			
3	地域整備公団	1,560	当埋蔵文化財センター	2002.6.3 ～ 8.6	縄文陥し穴13基／近世掘立柱建物3棟、井戸1基	15 ～ 16世紀の擂鉢	岩文振451集
4	盛岡市	1,440	〃	2002.6.3 ～ 8.6	縄文陥し穴14基／近世井戸1基	井戸木枠	岩文振423集
5	都市機構	180	〃	2004.5.6 ～ 5.18	縄文陥し穴3基	土師器片	岩文振469集
6	盛岡市	3,288	〃	2004.4.12 ～ 6.4	縄文陥し穴26基ほか	縄文土器(大洞C2式土器)	岩文振488集
7	盛岡市	不明	盛岡市教育委員会	不明	試掘	－	
8	盛岡市	不明	盛岡市教育委員会	不明	試掘	－	
9	国土交通省	3,055	当埋蔵文化財センター	2006.4.10 ～ 5.31	古代溝2条／近世掘立柱建物2棟	土師器片・須恵器片	岩文振508集
10	盛岡市	147	〃	2006.6.5 ～ 6.15	16世紀代の居館、集落跡、堀3条、掘立柱建物11棟、竪穴建物6棟、井戸13、カマド状遺構1基、土坑6基、道路1条、土橋1基	16世紀陶磁器片（中国産染付・瀬戸美濃産）・曲物・鉄碗・鉄鎌・土師器・須恵器	岩文振516集
11	都市機構	3,891	〃	2006.4.11 ～ 6.15			岩文振516集
12	盛岡市	18,343	〃	2007.5.1 ～ 11.29	縄文陥し穴1基、袋状土坑3基／平安溝1条／16世紀代の掘立柱建物25棟、竪穴建物14棟、井戸38基、カマド状遺構5基ほか	土師器片、須恵器片、中世陶器片、石鏃、陽物形木製品、曲物、鉄刀、鉄鋌？、鉄鎌、鉄刀子、銭貨（洪武通宝）	岩文振534集
13	都市機構	1,211	〃	2007.7.2 ～ 11.1			岩文振534集
14	国土交通省	7,147	〃	2007.7.17 ～ 10.5	縄文陥し穴2基／中世井戸1基	土師器、銭貨（寛永通宝）	岩文振524集
15	盛岡市　都市機構	5,704	盛岡市教育委員会	2007.10.22 ～ 12.14	第10 ～ 13次調査区の遺構群の続き	不明	
16	盛岡市	160	〃	2007.11.1 ～ 11.3 11.21 ～ 11.22			
17	盛岡市	1,114	〃	2007.11.9 ～ 11.27			
18	盛岡市	5,709	当埋蔵文化財センター	2008.5.16 ～ 11.5	縄文陥し穴1基、袋状土坑1基／平安竪穴住居2棟、土坑6基／中世カマド状遺構4基、土坑1基、井戸2基、中近世掘立柱建物1棟、溝7条、墓坑19基ほか	石鏃、円盤状石製品、土師器、須恵器、カマド羽口、砥石、鉄鏃、キセル、鉄鍋、銭貨（寛永通宝）	岩文振555集
19	都市機構	476	〃	2008.4.16 ～ 10.30			岩文振555集
20	国土交通省	1,404	〃	2008.4.11 ～ 4.25	なし	土師器片	岩文振546集
21	盛岡市	160	盛岡市教育委員会	2008.6.16 ～ 6.20			
22	盛岡市	1,720	〃	2008.7.28 ～ 8.1			
23	盛岡市		当埋蔵文化財センター	2009.7.1 ～ 11.26	本報告参照		本報告
24	都市機構		〃	2009.7.1 ～ 11.26	本報告参照		本報告
25	盛岡市		〃				岩文振571集
26	都市機構		〃				岩文振571集



第２図　これまでと今回の調査範囲

（3）周辺の遺跡～近世～

周辺の遺跡に関する記載は、過去に刊行された本遺跡発掘調査報告書および、盛南開発事業関連の発掘調査報告書において詳細に記されてきた。そこでここではそれらに追随せず、今回の調査で主に見つかった近世遺構を伴う遺跡のみを概観し、本遺跡との比較をはかる。本遺跡を除き、10遺跡が該当し（第３図・第２表）、焼野遺跡以外は、全て本遺跡の北側に位置する。

〈飯岡才川遺跡〉

第３・７・13次調査において、合わせて掘立柱建物跡５棟、井戸２基、墓坑３基、土坑９基が確認されている。掘立柱建物の配置はそれぞれが分散して位置し、その機能・用途は不明である。注目すべき点としては第13次調査区で「赤間関大森」の銘が彫り込まれた赤間硯が１点出土したことである。飯岡才川遺跡かその周辺に飯岡新田や向中野村村内における肝入級の身分が居住していた可能性が高い。

〈野古Ａ遺跡〉

第12次調査で土坑30基が確認されている。ただし、どの土坑からも遺物は出土しておらず、埋土の様相などから近世以降に推定されている。なお近世の遺物は溝跡（RG013）をきる撹乱内から陶磁器類が豊富に出土している。

〈向中野館遺跡〉

第９～11次調査において、合わせて掘立柱建物跡７棟、井戸２基、墓坑10基、土坑９基、焼土遺構５基、柵列１条が確認されている。第９次調査と第10・11次調査区とで見つかった近世遺構群はそれぞれ80～100ｍ離れており、別々の民家跡とそれらに伴う施設であるものと推定できる。なお第９次調査区の遺構群は聞き取り調査によって17世紀半ば～18世紀後半の「浅沼家（元の地権者ゆかりの者）」の屋敷であったことが確認されている。また第10・11次調査区では掘立柱建物と墓坑群とがやや離れて位置しており、居住区と墓域が分かれていたことが伺える。またこの墓域は明治初期に作成された「飯岡新田地割絵図　第二地割」の第百三十四番宅地に描かれており（第64図）、明治初期まで存在していたことが確認されている。

〈台太郎遺跡〉

第16・18・26・44次調査において、合わせて掘立柱建物跡12棟、井戸３基、土坑137基、便所跡１基、馬屋状遺構２基、焼土遺構12基、カマド状遺構13基が確認されている。みつかった遺構は豊富であるが、台太郎遺跡の調査範囲自体が広く、それぞれの遺構は点在するので、全体でみれば複数世帯の民家跡とそれらに伴う施設と考えざるをえない。掘立柱建物跡は形状から「南部曲家」と思われる建物も認められる。また便所や馬屋ではないかと推定される方形の竪穴状遺構も見つかっている。

〈鬼柳Ａ遺跡〉

第７次調査で掘立柱建物跡１棟が確認されている。ただし柱穴からは遺物は出土しておらず、埋土の様相などから近世以降に推定されている。また検出面からも陶磁器が出土しているようだが、報告書中には掲載されておらず。詳細は不明である。

〈小幅遺跡〉

第２・４・７・16次調査において、合わせて掘立柱建物跡７棟、竪穴状遺構４基、井戸４基、土坑48基、焼土遺構１基が確認された。掘立柱建物は民家跡およびそれらに伴う倉庫のような建物群と推定される。ただし各掘立柱建物は、やや離れて位置しており、数世帯の民家跡か一世帯とそれらに伴う倉庫と考えられる。他に掘立柱建物に伴う井戸や便所ではないかと思われる施設が見つかっている。出土遺物では特に陶磁器が豊富である。

〈焼野遺跡〉

第１・２次調査において、合わせて掘立柱建物跡15棟、井戸３基、墓坑４基、土坑11基が確認されている。出土遺物から遺構の時期は18～19世紀頃に帰属するものと思われる。掘立柱建物跡は４箇所に分かれて位置するので、従って複数世帯の民家跡とそれらに伴う倉庫群と考えられる。掘立柱建物跡に伴う施設として、井戸、墓坑がみつかっている。ただし、墓坑群は一部の掘立柱建物跡と重複しており、全ての掘立柱建物跡群に伴われるものではないものと推測される。出土遺物は少ないながら、陶磁器、煙管などが見つかっている。

〈稲荷遺跡〉

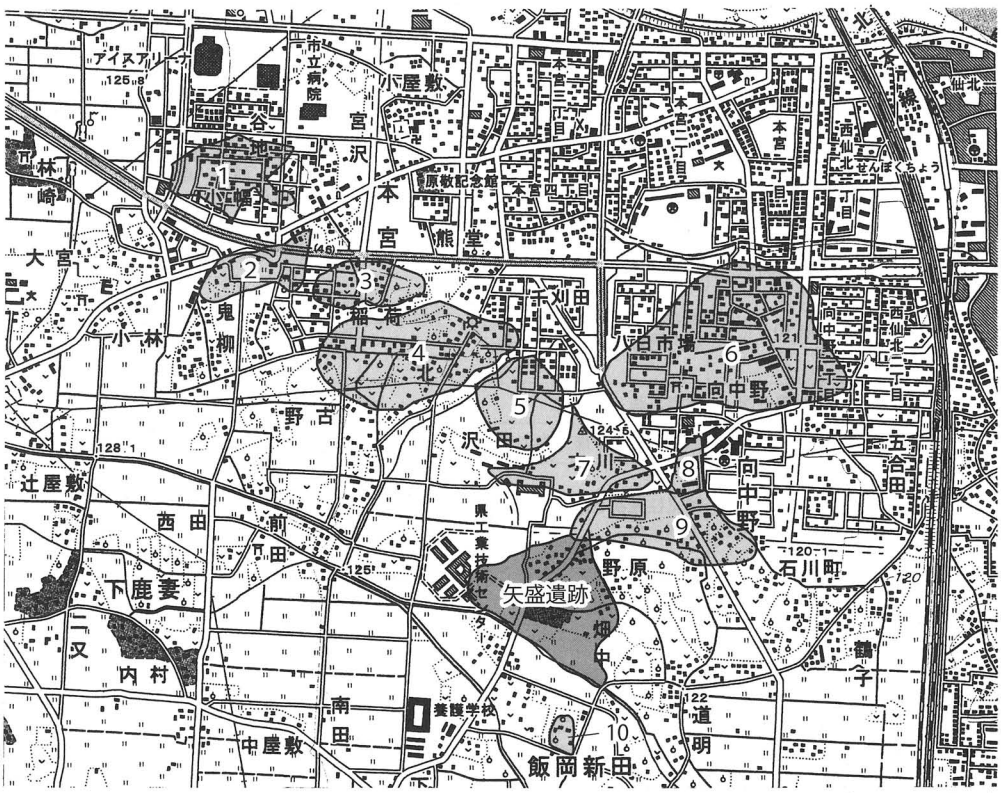
第５・７次調査において、合わせて掘立柱建物跡３棟、墓坑２基、土坑１基が確認されている。掘立柱建物跡の柱穴からは出土遺物がみつからず、また遺構外から出土した陶磁器も在地系と思われ、時期が不明、従って遺構の帰属時期についても詳細は不明である。

〈飯岡沢田遺跡〉

第５・９・10次調査において、合わせて掘立柱建物跡８棟、柵列３条が確認されている。掘立柱建物跡は民家跡とそれらに伴う倉庫と推定される。民家跡に推定できる建物が２棟あるが、隣接しており、建物の軸方向もほぼ同じなので、一世帯の民家が立て直しを行ったものかもしれない。その他の掘立柱建物跡はやや離れており、関連が見いだせない。

〈細谷地遺跡〉

第６・９・10・12・13・14次調査において、合わせて掘立柱建物跡10棟、井戸２基、墓坑20基、土坑７基が確認された。第12次調査区は、本報告の矢盛遺跡第23次調査区から北東へ約100ｍに位置する。18～19世紀前半の集落遺跡であり、民家跡と墓域、またそれらを区画する溝が見つかっている。掘立柱建物跡群は２時期以上の建て替えが認められる。墓坑群からは豊富な副葬品類が良好な状態で出土している。なお、掘立柱建物跡群については明治時代初期に作成された「飯岡新田地割絵図　第二地割」のなかの六十八番宅地に記載があるので（第64図）、明治初期までは存在していたことが確認されている。



（1:25,000 盛岡）

第３図　周辺の遺跡

第２表　周辺の遺跡一覧～近世～

番号	遺跡名	次数	検出遺構	出土遺物	時期	報告書次数
1	小幅遺跡	第２次	掘立柱建物１棟、便所跡２基、竪穴状遺構２基	陶磁器（大堀相馬・肥前・瀬戸美濃系）、銭貨（朝鮮通宝・永楽通宝・古寛永・新寛永）、井戸木枠	18世紀後半～19世紀	244
		第４次	掘立柱建物４棟、井戸２基、土坑32基	曲物、井戸木枠	近世	265
		第７次	掘立柱建物２棟、竪穴状遺構２基、土坑４基	陶磁器（古瀬戸・大堀相馬・肥前・瀬戸美濃・京焼・会津本郷）、銭貨（古寛永・新寛永）、金属製品（煙管）	17～19世紀	267
		第16次	井戸２基、土坑12基、焼土遺構１基	陶磁器（肥前・瀬戸・美濃）	18～19世紀	370
2	鬼柳Ａ遺跡	第７次	掘立柱建物１棟	陶磁器	17～18世紀	370
3	稲荷遺跡	第５次	掘立柱建物１棟、土坑１基	陶磁器（在地）	近世	469
		第９次	掘立柱建物２棟、墓坑２基	なし	近世	469
4	野古Ａ遺跡	第12次	土坑30基	陶磁器（唐津・肥前・大堀相馬・在地系）、瓦器（焜炉）、瓦、金属製品（不明）	17～19世紀	420
5	飯岡沢田遺跡	第５次	掘立柱建物２棟、柵列３条	陶磁器（肥前）	18世紀後半	419
		第９・10次	掘立柱建物６棟	陶磁器（肥前・大堀相馬）、青磁、銭貨（寛永通宝）	18世紀代	489
6	台太郎遺跡	第16次	土坑16基	なし	近世～現代	293
		第18次	掘立柱建物７棟、井戸２基、土坑27基、馬屋状遺構２基、焼土遺構12基、カマド状遺構13基	陶磁器（肥前・大堀相馬・波佐見・伊万里・瀬戸・美濃・平清水）、金属製品（釘・刀子・蹄鉄・煙管）、銭貨（永楽通宝・古寛永・新寛永）	17～19世紀	369
		第26次	掘立柱建物２棟、井戸１基、便所跡１基、土坑68基	陶磁器（肥前・瀬戸・美濃・大堀相馬・唐津・在地系・中国産）、金属製品（煙管）、銭貨（永楽通宝・古寛永・新寛永）	17～19世紀	416
		第44次	掘立柱建物３棟（南部曲家１棟）、土坑26基	陶磁器（肥前）、蹄鉄	18～19世紀	422
7	飯岡才川遺跡	第３次	墓坑３基	陶磁器、銭貨（古寛永・新寛永）、金属製品（鏡）、木製品（櫛）	17～18世紀	393
		第７・13次	掘立柱建物５棟、井戸２基、土坑９基	陶磁器（肥前・瀬戸・大堀相馬）、銭貨（古寛永・新寛永・白銅銭）、鉄製品（煙管、鎌、小刀）、鉄滓、赤間硯	18～19世紀	508
8	向中野館遺跡	第９次	掘立柱建物６棟、井戸２基	陶磁器（瀬戸・肥前・大堀相馬・在地系）、金属製品（鏡）	17世紀中頃～18世紀後半	516
		第10・11次	掘立柱建物１棟、墓坑10基、土坑９基、焼土遺構５基、柵列１条	陶磁器（肥前・白岩・堤？・在地系）、金属製品（鏡・煙管）、銭貨（洪武通宝・永楽通宝・古寛永・新寛永）、	18世紀後半～19世紀	557
9	細谷地遺跡	第６次	井戸１基	丸木杭	近世か	397
		第９・10次	掘立柱建物１棟、墓坑２基	寛永通宝	18世紀代	500
		第12次	掘立柱建物９棟、墓坑18基、井戸１基、土坑２基	陶磁器（肥前・瀬戸・大堀相馬）、金属製品（煙管・鏡）、火打石、銭貨（古寛永・新寛永）、木製品（杓状木製品、漆器蓋）	18～19世紀前半	508
		第13・14次	墓坑８基、土坑５基	陶磁器（瀬戸・美濃・肥前）、銭貨（古寛永・新寛永）、金属製品（煙管）	18～19世紀	513
		第19・20次	土坑６基	陶磁器（瀬戸・美濃・肥前・在地系）	18世紀	556
10	焼野遺跡	第１次	掘立柱建物７棟、井戸１基、土坑２基	陶磁器（瀬戸・肥前）、銭貨（新寛永）、木製品（井戸枠）	18～19世紀	546
		第２次	掘立柱建物８棟、墓坑４基、井戸２基、土坑９基	陶磁器（瀬戸・肥前）、銭貨（寛永通宝）、金属製品（煙管）	18～19世紀	546

Ⅲ　調査の経過と方法

1　第23次調査について

第23次調査は平成21年7月1日～11月26日まで、5,720㎡を対象として実施した。調査面積は開始当初、10,113㎡を予定されていたが、その後、縮小と追加があり、最終的に5,720㎡へと変更された。なお調査は8月1日から10月15日の期間に一時中断した。また担当調査員は調査開始段階には北田勲・小林弘卓であったが、中断期間後、高木晃・須原拓に変更となった。

調査開始に際し、調査区内に任意のトレンチを設定し、表土下の地層状況を確認した上で、重機を使用して表土除去を行った。表土除去後、人力による遺構検出作業を行っている。

調査区にはあらかじめ、グリッドを設定している。グリッドは平面直角座標第Ｘ系（日本測地系）にあわせており、まず一辺50×50ｍの大区画に区割りを行い（第４図参照）、北から南にアラビア数字（１～）、西から東にアルファベットの大文字（Ａ～）、さらに大区画を２×２ｍの小区画に細分し、東西方向に西からアルファベット小文字でａ～ｙ、南北方向に北からアラビア数字１～25に分割している。各グリッドの名称については、大区画と小区画の組み合わせで、例えば「４Ｎ１ａグリッド」のように呼称することとした。

なお今回のグリッド設定は過去の矢盛遺跡（当埋蔵文化財センターにより調査された分）において設定されたグリッドに準じ、アルファベット、数字が連続するように設定した。

検出された遺構は、規模や性格により、適宜に４分法と２分法を選択し精査を行った。各遺構について、平面、断面、遺物出土状況の実測および、写真撮影を行った。ただし柱穴状土坑については基本的には個別の断面・完掘写真は撮影していない。

写真撮影は主に、デジタルカメラ（キャノンEOS50D）１台と中判（６×９判）カメラを使用した。

平成21年7月30日に岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と盛岡市都市整備部盛岡南整備課の立ち会いの下、調査区南側3,536㎡分について部分終了確認を受けた。また同年11月9日には残りの2,184㎡について終了確認を受けている。

啓蒙活動の一環として、平成21年11月14日午前10時半～午後３時まで現地公開を行い、調査成果を公表した（参加者約20名）。

また、委託業務として平成21年11月24日に東邦航空へ調査区の航空撮影を委託、実施させている。これらを踏まえ平成21年11月25日に全ての調査を終了し、撤収した。

室内整理は平成22年２月１日から平成22年３月31日まで実施した。遺物は野外作業の段階に水洗の一部を終えており、室内整理は残りの遺物水洗より行った。主に作業員は遺物の接合復元、実測、トレース、図版作成を行った。調査員は遺構図の修正、トレース、図版作成、遺物観察表作成、原稿執筆を分担している。

室内の委託業務として、平成21年12月17日に樹種同定を古代の森研究舎に、また12月26日に石器・石製品の石質鑑定を花崗岩研究会に委託、実施した。

2　第24次調査について

第24次調査は平成21年7月1日～11月26日まで、425㎡を対象として実施した。調査面積は開始当初、598㎡を予定されていたが、その後、425㎡へと変更された。なお第24次調査も8月1日から10月15日までの期間、一時中断し、その後、担当調査員も北田勲・小林弘卓から高木晃・須原拓に変更となっている。

第24次調査区は第23次調査区の範囲内に挟まれる形をなしており、また調査開始日や担当調査員が第23次調査と同じであったため、第23次調査と第24次調査とは同時に進められることとなった。従って調査方法、啓蒙活動、委託業務については第23次調査と同じである。

平成21年7月30日に岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と独立行政法人都市再生機構岩手土地開発事務所の立ち会いの下、調査区南側258㎡分について部分終了確認を受けた。また同年11月9日には残りの167㎡について終了確認を受けている。

平成21年11月25日に全ての調査を終了、撤収した。

室内整理は平成21年12月1日から平成22年1月29日まで実施した。遺物は野外作業の段階に水洗の一部を終えており、室内整理は残りの遺物水洗より行った。作業内容については第23次調査と同様である。なお室内の委託業務として、平成21年3月に鉄製品や木製品の保存処理を岩手県立博物館に委託、実施した。

ここで、今回の調査で見つかった墓坑出土の人骨について簡単に述べておく。事前に委託者から調査区内に元の地権者ゆかりの墓地がまだ残存している可能性があり、見つかった場合、委託者を通し、元の地権者に人骨などを返却するように連絡があった。しかし、今回調査で検出した墓坑群は元の地権者とはゆかりのない墓であることが判明し、従って見つかった人骨や副葬品については返却先のないものとなった。そこで協議の上、人骨については委託者の方で引き取り、寺院に埋納することとなり、平成22年1月13日に人骨を委託者へと引き渡した。また、墓坑から出土した副葬品類は「文化財」扱いとなり、その多くは本報告において掲載し、岩手県立埋蔵文化財センターに保管されることとなった。

3　凡　　例

縮尺

掘立柱建物跡：1/100・1/120　井戸：1/60　墓坑・土坑・焼成遺構：1/50　溝：1/300

土師器・須恵器・陶磁器類1/3（墓坑副葬品は1/2）　剥片石器：2/3　礫石器：1/3・1/4

を基本とした。　ただし、一部異なるものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。

スクリーントーンの使用

凡例図（第5図）参照。また断面図中において石器・礫は「s」と表記した。

写真図版

縮尺不定とした。

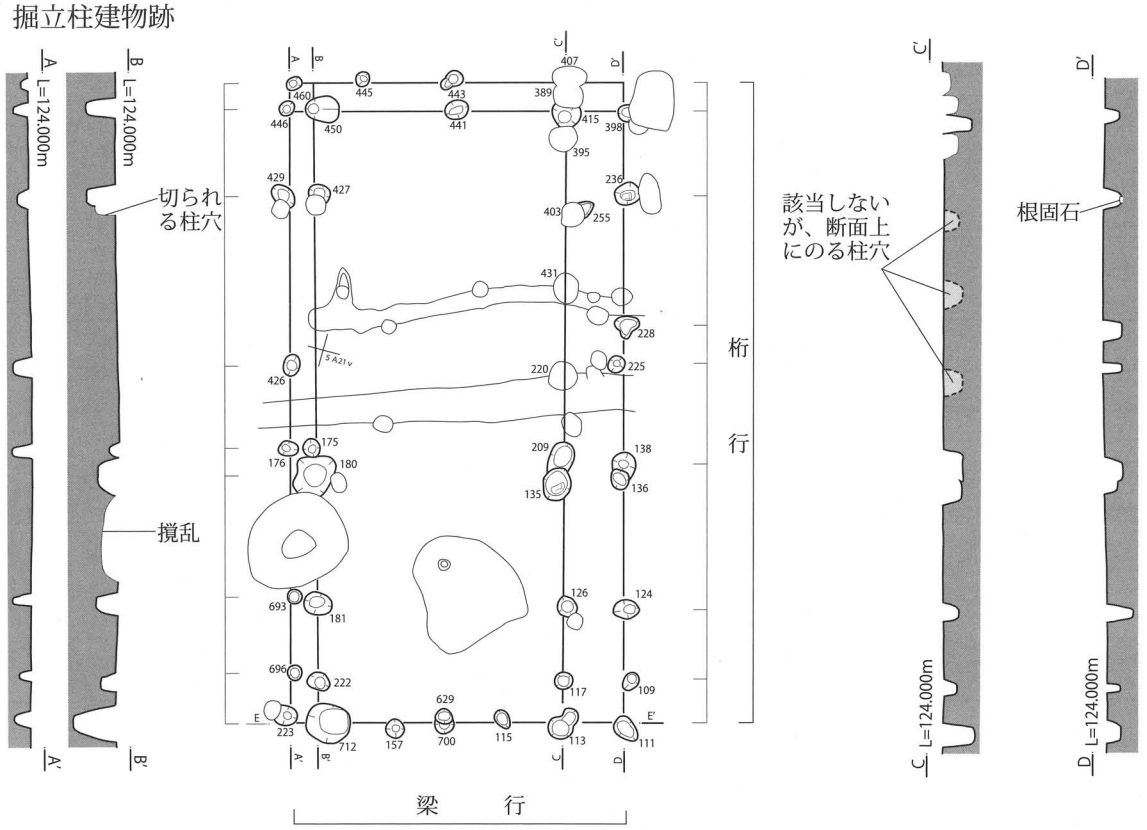
各遺構の計測値表記

掘立柱建物跡については、図中に記載している。また土坑類は長軸×短軸、深さは最長部を計測し、第11表中に記載した。

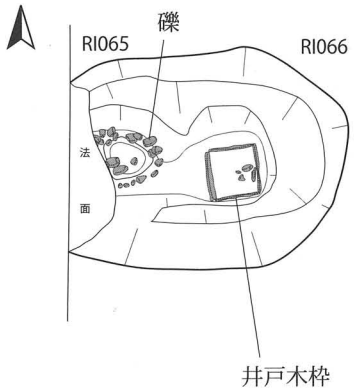
第４図　大グリッド配置図

遺構

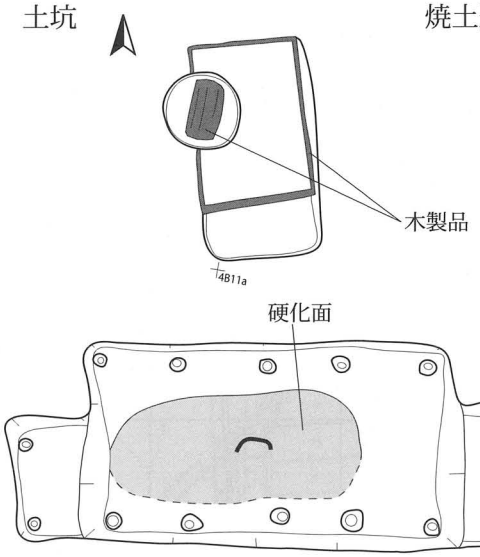
掘立柱建物跡



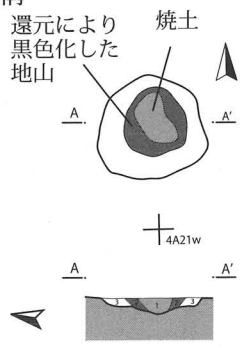
井戸



土坑

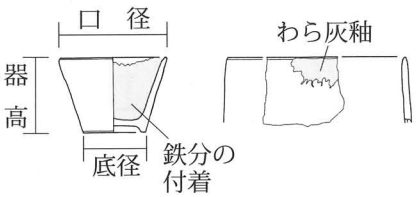


焼土遺構

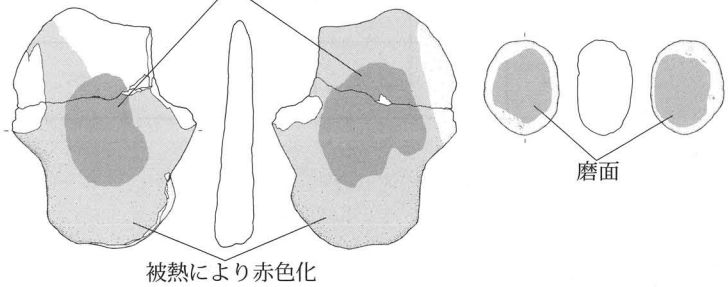


遺物

陶磁器



石器・石製品



第５図　凡例

第３表　遺構名変更表

遺構種別	新遺構名	旧遺構名
陥し穴（４基）	ＲＤ 185	01 号陥し穴
	ＲＤ 186	09 号土坑
	ＲＤ 187	10 号土坑
	ＲＤ 188	11 号土坑
土坑（１基）	ＲＤ 189	12 号土坑
墓坑（21 基）	ＲＤ 190	11 号墓
	ＲＤ 191	01 号墓
	ＲＤ 192	18 号墓
	ＲＤ 193	19 号墓
	ＲＤ 194	08 号墓
	ＲＤ 195	15 号墓
	ＲＤ 196	17 号墓
	ＲＤ 197	14 号墓
	ＲＤ 198	12 号墓
	ＲＤ 199	20 号墓
	ＲＤ 200	21 号墓
	ＲＤ 201	07 号墓
	ＲＤ 202	13 号墓
	ＲＤ 203	16 号墓
	ＲＤ 204	22 号墓
	ＲＤ 205	06 号墓
	ＲＤ 236	03 号墓
	ＲＤ 237	09 号墓
	ＲＤ 238	04 号墓
	ＲＤ 239	02 号墓
	ＲＤ 240	05 号墓
土坑（34 基）	ＲＤ 206	38 号土坑
	ＲＤ 207	39 号土坑
	ＲＤ 208	35 号土坑
	ＲＤ 209	36 号土坑
	ＲＤ 210	37 号土坑
	ＲＤ 211	33 号土坑
	ＲＤ 212	34 号土坑
	ＲＤ 213	31 号土坑
	ＲＤ 214	32 号土坑
	ＲＤ 215	27 号土坑
	ＲＤ 216	30 号土坑
	ＲＤ 217	24 号土坑
	ＲＤ 218	22 号土坑
	ＲＤ 219	26 号土坑
	ＲＤ 220	17 号土坑
	ＲＤ 221	14 号土坑
	ＲＤ 222	06 号土坑
	ＲＤ 223	23 号土坑
	ＲＤ 224	16 号土坑
	ＲＤ 225	15 号土坑
土坑（34 基）	ＲＤ 226	18 号土坑
	ＲＤ 227	20 号土坑
	ＲＤ 228	19 号土坑
	ＲＤ 229	21 号土坑
	ＲＤ 230	07 号土坑
	ＲＤ 231	05 号土坑
	ＲＤ 232	13 号土坑
	ＲＤ 233	04 号土坑
	ＲＤ 234	03 号土坑
	ＲＤ 235	02 号土坑
	ＲＤ 241	新 01 号土坑
	ＲＤ 242	28 号土坑
	ＲＤ 243	29 号土坑
	ＲＤ 244	25 号土坑
井戸（５基）	ＲＩ 065	04 号井戸
	ＲＩ 066	02 号井戸
	ＲＩ 067	01 号井戸
	ＲＩ 068	03 号井戸
	ＲＩ 069	08 号土坑
焼土遺構（２基）	ＲＦ 012	02 号焼土
	ＲＦ 013	01 号焼土
性格不明遺構（２基）	ＲＺ 001	02 号性格不明遺構
	ＲＺ 002	01 号性格不明遺構
掘立柱建物跡（15 棟）	ＲＢ 048	なし
	ＲＢ 049	なし
	ＲＢ 050	なし
	ＲＢ 051	なし
	ＲＢ 052	なし
	ＲＢ 053	なし
	ＲＢ 054	なし
	ＲＢ 055	なし
	ＲＢ 056	なし
	ＲＢ 057	なし
	ＲＢ 058	なし
	ＲＢ 059	なし
	ＲＢ 060	なし
	ＲＢ 061	なし
	ＲＢ 062	なし
溝（８条）	RG068	02 号溝
	RG069	01 号溝
	RG070	03 号溝
	RG071	07 号溝
	RG072	08 号溝
	RG073	09 号溝
	RG074	05 号溝

□…23次調査分　■…24次調査分

Ⅳ 基 本 層 序

矢盛遺跡第23・24次調査区における土層の堆積様相については、調査区のほぼ全域で同じような様相を確認した。基本層序の記録については4A18mグリッド付近で行っている（第6図、写真図版1）。

なお土層の堆積様相については、隣接する矢盛遺跡第18･19次調査区の様相ともほぼ類似している。

以下、層位ごとに概観する。

第Ⅰ層は表土（耕作土）である。褐色粘質土を主体とし、粘性弱く、しまりやや密。土壌粒子は粗い。10cm大の礫や黄褐色砂質シルトのブロックなどが混入する。黄褐色砂質シルトはⅣ層土を構成するものであり、耕作による天地返しの際に混入したものと思われる。

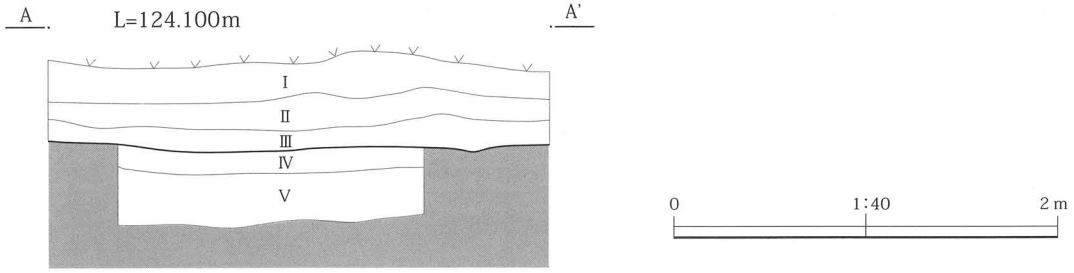
第Ⅱ層は黒色粘質シルト土を主体とし、粘性強く、しまり密、土壌粒子は細かい。第18・19次調査のⅡ層（黒ボク土層）に相当する。第18･19次調査ではこの層下位面が、「本来の古代遺構検出面」となっていた。従って、Ⅱ層は古代以降に堆積した土層と考えられる。加えてⅡ層土は今回検出した遺構群の埋土と類似しており、検出遺構群が古代以降であることを裏付けている。

第Ⅲ層はⅡ層とⅣ層との漸移層であり、暗褐色粘質シルトを主体とし、粘性やや強く、しまり密、土壌粒子は細かい。見た目は第Ⅱ層と類似しており、平面的には第Ⅲ層上面においての遺構検出は難しく、実際第Ⅲ層上面での遺構検出は行っていない。なお第18・19次調査のⅢ層に相当する。また遺物の混入も認められない。

第Ⅳ層は黄褐色砂質シルトを主体とし、粘性やや弱く、しまり密、土壌粒子は細かい。層の厚さは10～20cm程度で、凹凸が激しく、また第Ⅲ層土がブロックで混入する所も見受けられた。今回の調査での実質的な遺構検出面である。色調で比較すると、「地山（検出面）が黄褐色（第Ⅳ層）であるのに対し、埋土（遺構プラン）は黒色（第Ⅱ～Ⅲ層）」であり、遺構検出が容易であった。なお第18・19次調査のⅣ層に相当する。

第Ⅴ層は黄褐色細砂を主体とし、粘性弱く、しまり粗、土壌粒子は粗い。上面には第Ⅳ層土がブロックや5～10cm大の礫が混入する。上にのる第Ⅳ層が10～20cm程度の堆積のため、遺構の底面付近で露出することが多い。また調査区の南側では第Ⅲ層下ですでに第Ⅴ層が露出している場所も認められた。なお第18・19次調査のⅤ層に相当する。

そしてⅤ層下からはやや粗い砂礫層を確認しており、遺構・遺物ともに認められそうにないので、それ以下は掘削していない。



第6図　基本土層

V　検出された遺構と遺物

1　調査の概要

(1) 第23次調査

調査区は遺構が集中した大きい調査区（以下、第23次北側調査区）とそこから約20ｍ南東方向に離れた小さい調査区（以下、第23次南側調査区）の２つに分かれる。第23次北側調査区は北東から南西方向にかけて長く、全長約150ｍを測る。調査区範囲の形はいびつで、また調査区の中央から西側にかけては調査対象外になっている。遺構は、ほとんどこの調査区の北側半分で検出した。第23次南側調査区の形は一辺30ｍ弱になるクランク状を呈している。検出した遺構は少ないが、主に縄文時代に推定される遺構がみつかっている。

見つかった遺構・遺物の所属時期は縄文時代・古代・近世の３つに分けられる。縄文時代は土坑が５基見つかっており、そのうち４基は陥し穴と思われる。また出土遺物では土器が見つからなかったものの、石器が17点見つかっている。古代については、明確に時期判断できる遺構がみつからなかったが、RG069の埋土中や遺構外から土師器・須恵器片が４点見つかっている。第14図に出土した全ての遺物を図示したが、小片で、詳細な時期は不明である。そして近世に比定される遺構は最も多く、掘立柱建物跡15棟、井戸５基、墓坑21基、土坑34基、溝７条、性格不明遺構２基を数え、また他に当時のものと思われる旧河道も見つかっている。近世遺構に伴われる遺物は豊富で、陶磁器類（肥前産・瀬戸・美濃産・大堀相馬産・その他在地系。17世紀後半～18世紀の所産）、銭貨（古寛永通宝・新寛永通宝・洪武通宝）・石製品（砥石など）・銅製品（キセル吸い口・柄鏡・簪）・ガラス製品（鏡・簪）・有機質遺物（布か皮製。袋の類か）などがあり、他にRI066の底面からは井戸の木枠が出土している。また遺構外からは近世遺物の他に近代以降（大正～昭和初期）の陶磁器類も多く出土している。

(2) 第24次調査

調査区は第23次調査の第23次北側調査区のほぼ真ん中を南北方向に縦断する。南北約80ｍ、東西約６ｍの細長い長方形である。

見つかった遺構・遺物の時代は近世である。検出した遺構は掘立柱建物跡６棟、墓坑８基、土坑７基、溝３条、性格不明遺構１基と旧河道である。隣接する第23次調査区をまたいでいる遺構も多く、従って、上述の第23次調査分の遺構と一部かぶっている。遺物は遺構内外から出土しているが、その内容は第23次調査から出土した遺物とほぼ同じであり、ここでは割愛する。

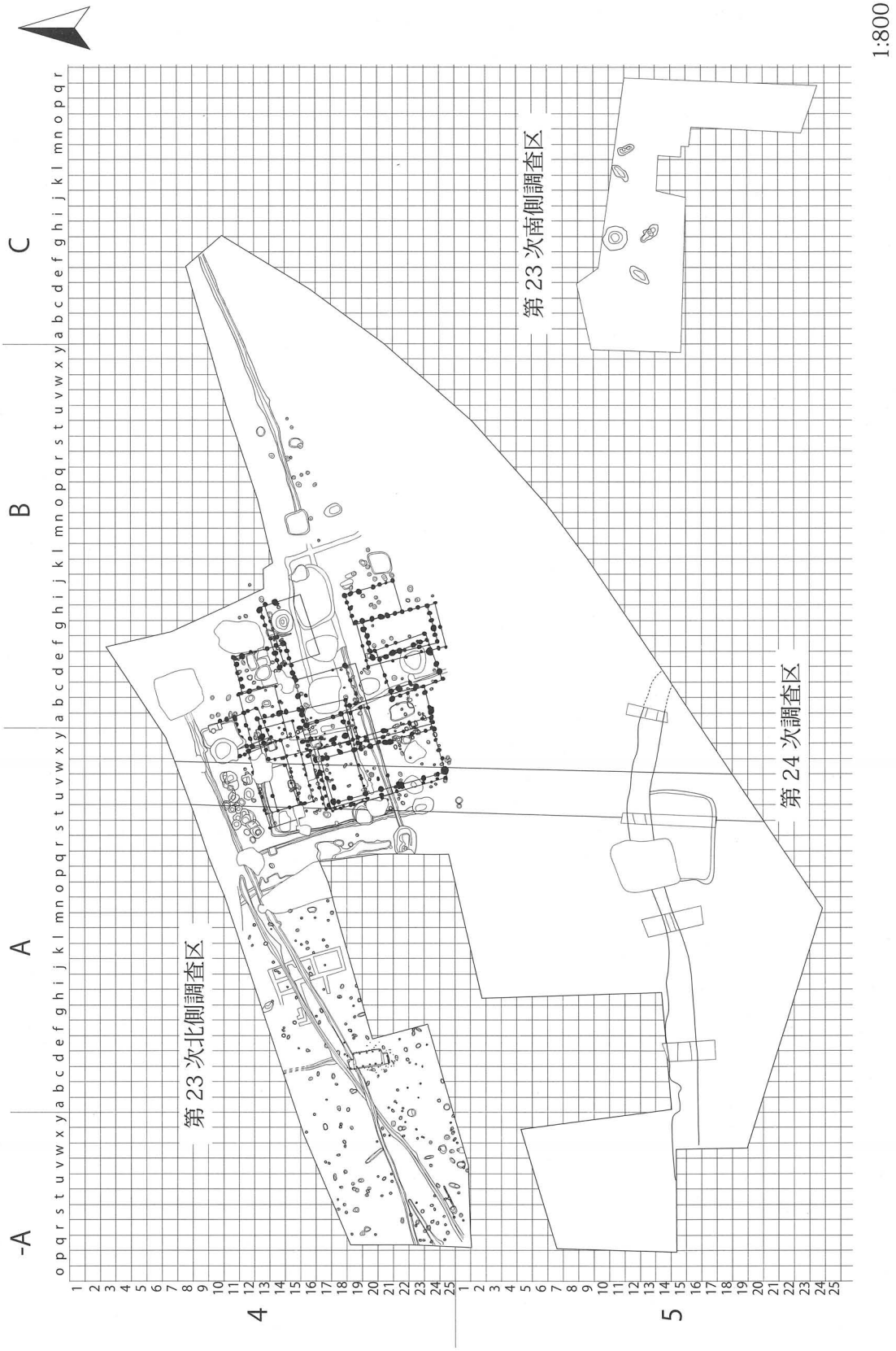
第４表　遺構別出土遺物一覧

調査次数	時代	器種	遺構名	旧遺構名	古代以前土器	近世磁器	近世陶器	近代陶磁器	石製品	銭貨	金属製品	ガラス製品	木製品	その他	備考
第23次	縄文時代	土坑	RD185	１号陥し穴											
			RD186	９号土坑											
			RD187	10号土坑											
			RD188	11号土坑											
			RD189	12号土坑											
		遺構外	－	なし											
	古代	遺構外	－	なし	2										
	近世	掘立柱建物跡	RB048	なし		5				3					
			RB049	なし											
			RB050	なし											
			RB051	なし											
			RB052	なし											
			RB053	なし			2			1					
			RB054	なし											
			RB055	なし		1									
			RB056	なし		1									
			RB057	なし											
			RB058	なし											
			RB059	なし			1								
			RB060	なし			1								
			RB061	なし											
			RB062	なし		1	1								
		井戸	RI065	４号井戸											
			RI066	２号井戸					1				4		
			RI067	１号井戸		1	1	3	5		1				
			RI068	３号井戸		3	1								
			RI069	８号井戸											
		墓壙	RD190	11号墓											
			RD191	１号墓						2					
			RD192	18号墓					1			2			
			RD193	19号墓								1			
			RD194	８号墓		2					1				
			RD195	15号墓							1	1			
			RD196	17号墓			1			6					
			RD197	14号墓						3	1				
			RD198	12号墓											
			RD199	20号墓		2					1	1			
			RD200	21号墓	1		1								
			RD201	７号墓		2	1				1				
			RD202	13号墓						3	1		1		
			RD203	16号墓						6					
			RD204	22号墓						9					
			RD205	６号墓											
		土坑	RD206	38号土坑											
			RD207	39号土坑											
			RD208	35号土坑											
			RD209	36号土坑											
			RD210	37号土坑											
			RD211	33号土坑											
			RD212	34号土坑											
			RD213	31号土坑											
			RD214	32号土坑											
			RD215	27号土坑											
			RD216	30号土坑											

調査次数	時代	器種	遺構名	旧遺構名	古代以前土器	近世磁器	近世陶器	近代陶磁器	石製品	銭貨	銅製品	ガラス製品	木製品	その他	備考
			RD217	24号土坑											
			RD218	22号土坑											
			RD219	26号土坑		1	3							1	瓦
			RD220	17号土坑											
			RD221	14号土坑		4		3	5						
			RD222	6号土坑											
			RD223	23号土坑									1		底板
			RD224	16号土坑											
			RD225	15号土坑											
			RD226	18号土坑											
			RD227	20号土坑											
			RD228	19号土坑											
			RD229	21号土坑											
			RD230	7号土坑											
			RD231	5号土坑		2									
			RD232	13号土坑			1								
			RD233	4号土坑		2	1								
			RD234	3号土坑											
			RD235	2号土坑		1	1								
		性格不明	RZ001	2号性格不明		1			2						
			RZ002	1号性格不明											
		溝	RG068	2号溝	1										
			RG069	1号溝											
			RG070	3号溝											
			RG071	7号溝											
			RG072	8号溝											
			RG073	9号溝											
			RG074	5号溝		1									
		遺構外	－	なし		45									
第24次	近世	墓壙	RD236	3号墓											
			RD237	9号墓			1								
			RD238	4号墓						7		1			
			RD239	2号墓						6					
			RD240	5号墓		1	1			6	1				
		土坑	RD241	1号土坑											
			RD242	28号土坑											
			RD243	29号土坑											
			RD244	25号土坑											
		焼土遺構	RF012	2号焼土											
			RF013	1号焼土											
		遺構外	－	なし											

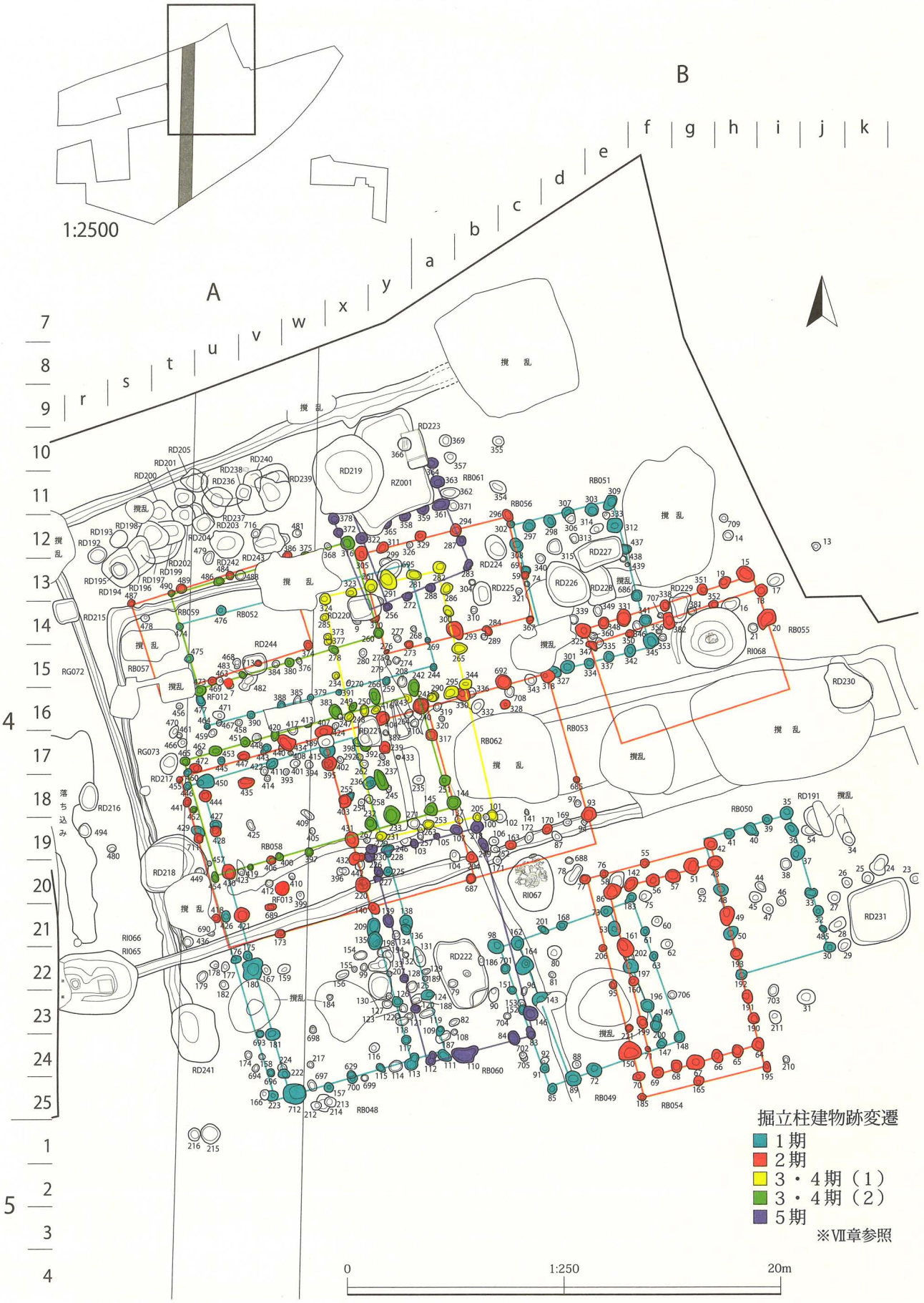
第23・24次調査で出土した遺物の内訳は第4表の通りである。また、発掘調査段階で付した遺構名は室内整理の段階で変更して本稿でもそちらを採用しているので、合わせて記した。

なお、見つかった遺構・遺物については、本来であれば第23次調査分と第24次調査分とに分けて報告すべきであるが、前述の通り、両者にまたがる遺構が多く厳密には分けることができなかった。従って本報告では、両者をあえて分けず、個々の遺構が主にどちらの次数の調査区範囲に含まれるかで、帰属する調査次数を決め、第4表に記すだけにとどめることとした。

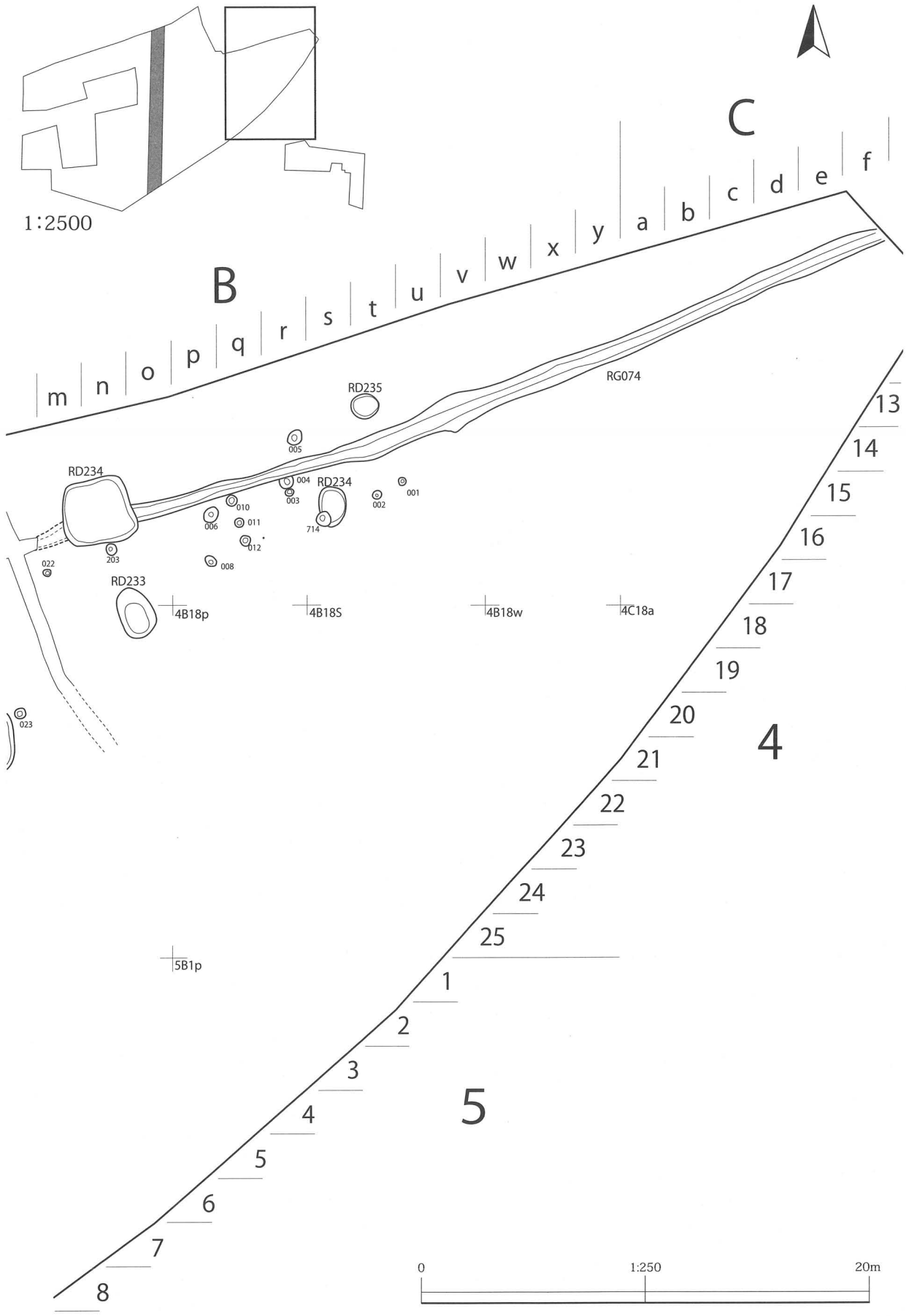


第７図　調査区全体図

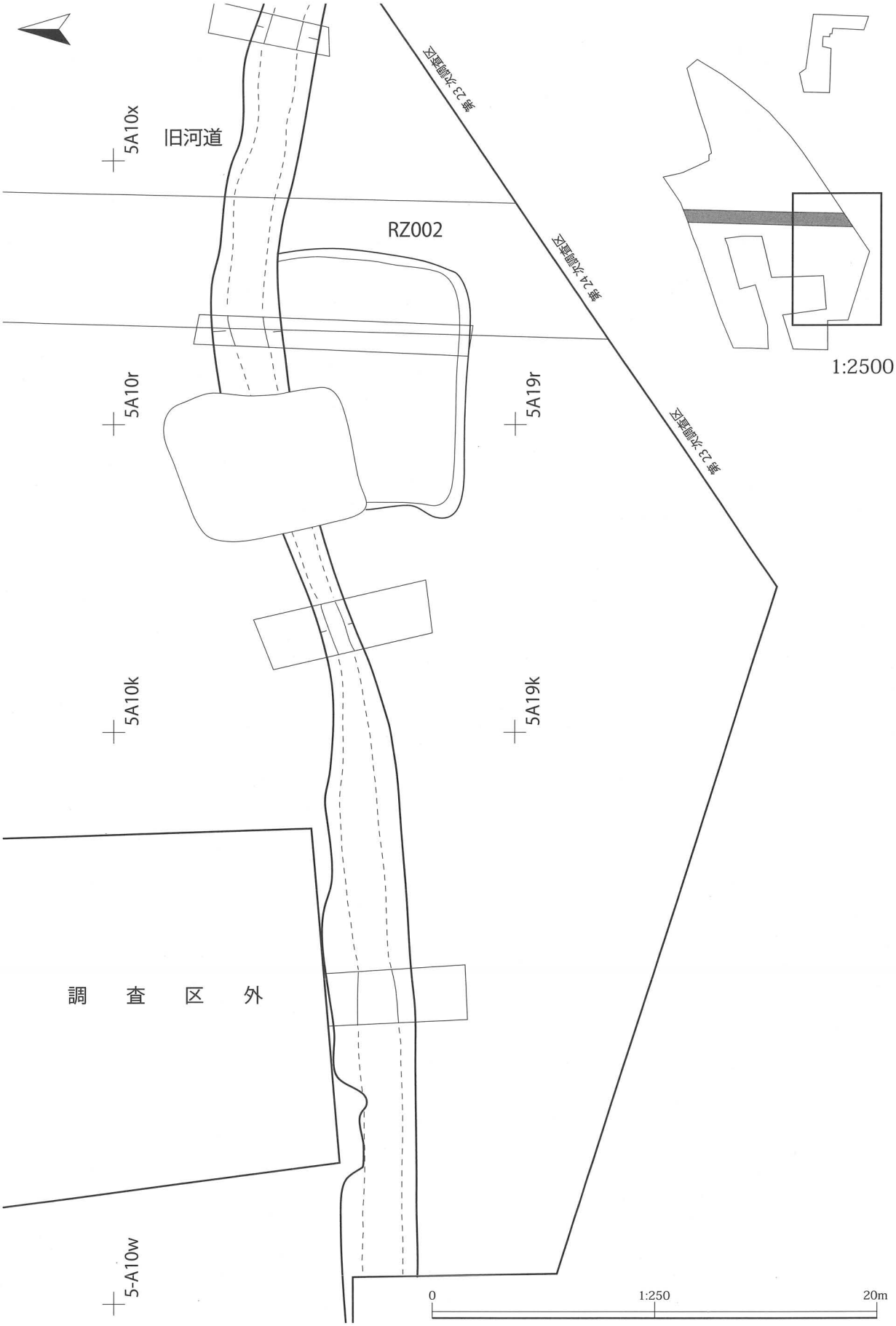
第８図　遺構配置図（１）



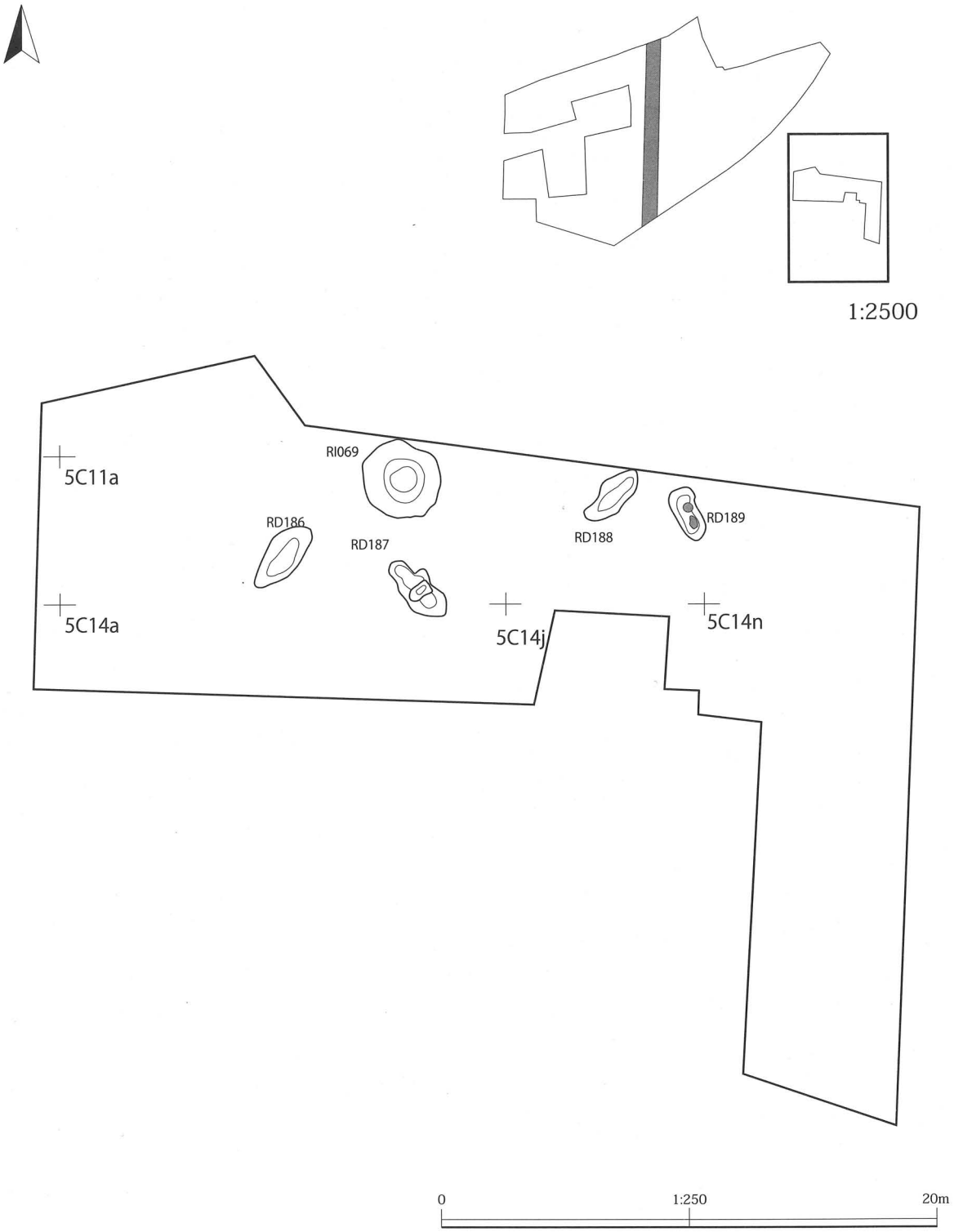
第9図　遺構配置図（2）


1:2500
C
B
m
n
o
p
q
r
s
t
u
v
w
x
y
a
b
c
d
e
f
RD235
RG074
RD234
RD234
RD233
005
004
003
001
002
010
006
011
012
008
714
022
203
023
4B18p
4B18S
4B18w
4C18a
5B1p
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
1
2
3
4
5
6
7
8
4
5
0
1:250
20m

第10図　遺構配置図（3）


旧河道
RZ002
5A10x
5A10r
5A10k
5-A10w
5A19r
5A19k
第23次調査区
第24次調査区
第23次調査区
調　査　区　外
1:2500
0
1:250
20m

第11図　遺構配置図（4）


1:2500
5C11a
RI069
RD186
RD187
RD188
RD189
5C14a
5C14j
5C14n
0
1:250
20m

第12図　遺構配置図（5）

2　検出遺構と出土遺物

（1）縄　文　時　代

縄文時代に帰属するものと推定される土坑５基（うち４基は陥し穴と思われる）を検出し、また第23次北側調査区の遺構外から剥片石器４点、礫石器13点が出土している。

土坑

RD185土坑（第13図、写真図版16）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４A20 wグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉時代は異なるがRG069と重複する。本遺構の方が古い。

〈平面形・規模〉溝状を呈し、規模は2.87 × 0.55 m、深さは最深40cmを測る。軸方向はN － 40° －Wである。

〈埋土〉４層に分けられる。黒色粘質シルト（１・４層）が主体で、褐色砂質シルトが混入する。

〈底面・壁〉基本層序Ⅳ層面を底面とした。底面形状はやや丸みを帯びるがほぼ平坦である。壁は全周する。外へと緩やかに広がりながら直線的に立ち上がる。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉出土遺物がないが、他の調査次数で見つかった土坑と類似しており、縄文時代の遺構と判断した。またその形状から陥し穴と考えられる。

RD186土坑（第13図、写真図版16）

〈位置・検出状況〉第23次南側調査区５C 12eグリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉なし。

〈平面形・規模〉長楕円形を呈し、規模は3.22×1.46m、深さは最深62 cmを測る。軸方向はN－40°－Eである。

〈埋土〉４層に分けられる。黒色粘質シルト（１・４層）を主体とし、暗褐色～褐色砂質シルトが混入する。

〈底面・壁〉基本層序Ⅳ層を底面とした。底面形状は丸い。壁は全周する。外へと緩やかに内湾しながら立ち上がる。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉出土遺物がないが、他の調査次数で見つかった土坑と類似しており、縄文時代の遺構と判断した。またその形状から陥し穴と考えられる。

RD187土坑（第13図、写真図版16）

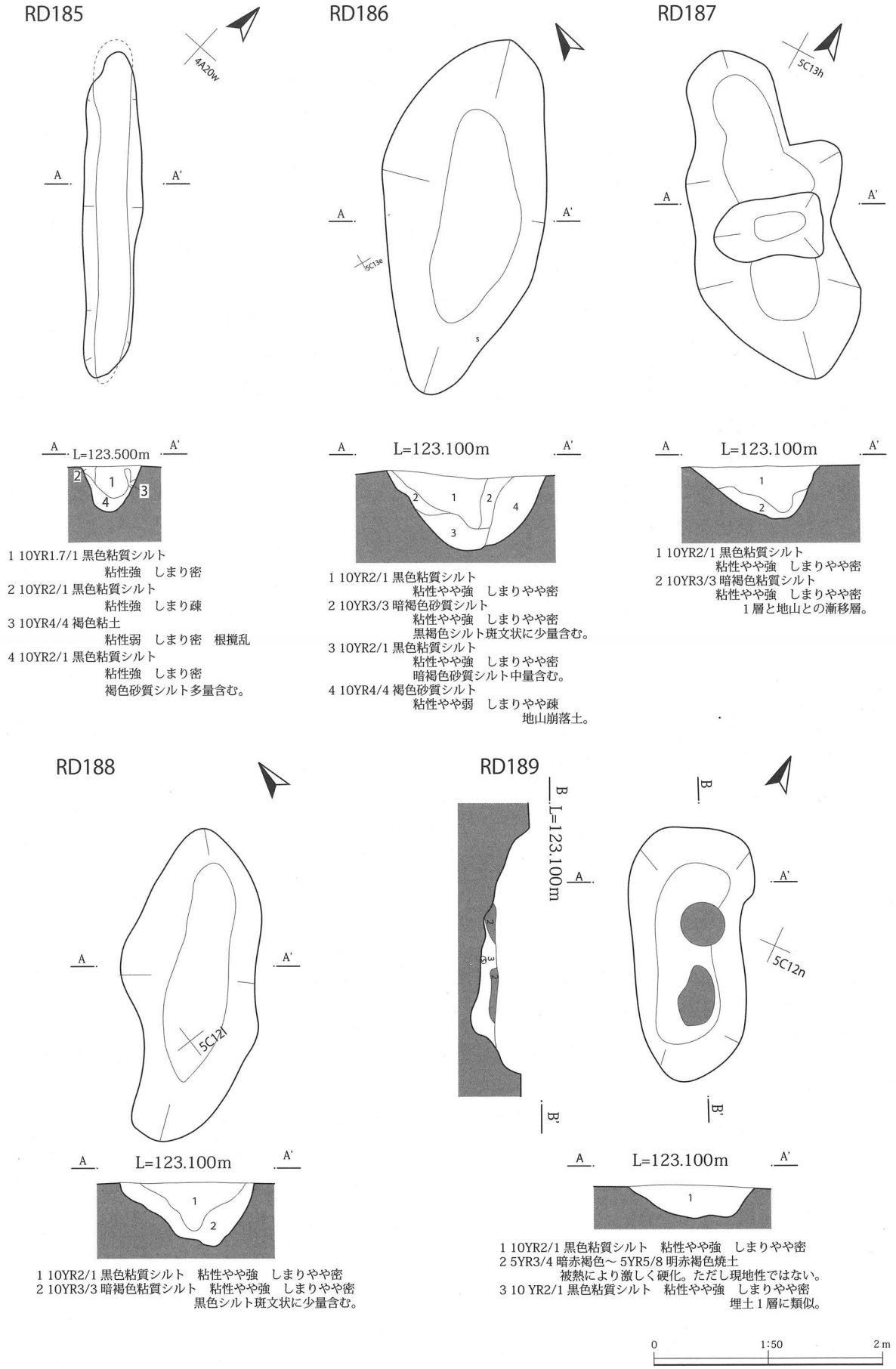
〈位置・検出状況〉第23次南側調査区５C 13 gグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉なし。

〈平面形・規模〉長楕円形を基調とするが、ややいびつである。規模は3.00 × 1.40 m、深さは最深46 cmを測る。軸方向はN － 45° － Wである。

〈埋土〉２層に分けられる。黒色粘質シルトを主体とし（１層）、混入物がほとんど認められない。

〈底面・壁〉基本層序Ⅳ層を底面とした。底面形状は丸く、中央部付近がさらに窪んでいる。壁は全周する。外へと大きく広がりながら直線的に立ち上がる。



第13図　RD185 ～ 189土坑

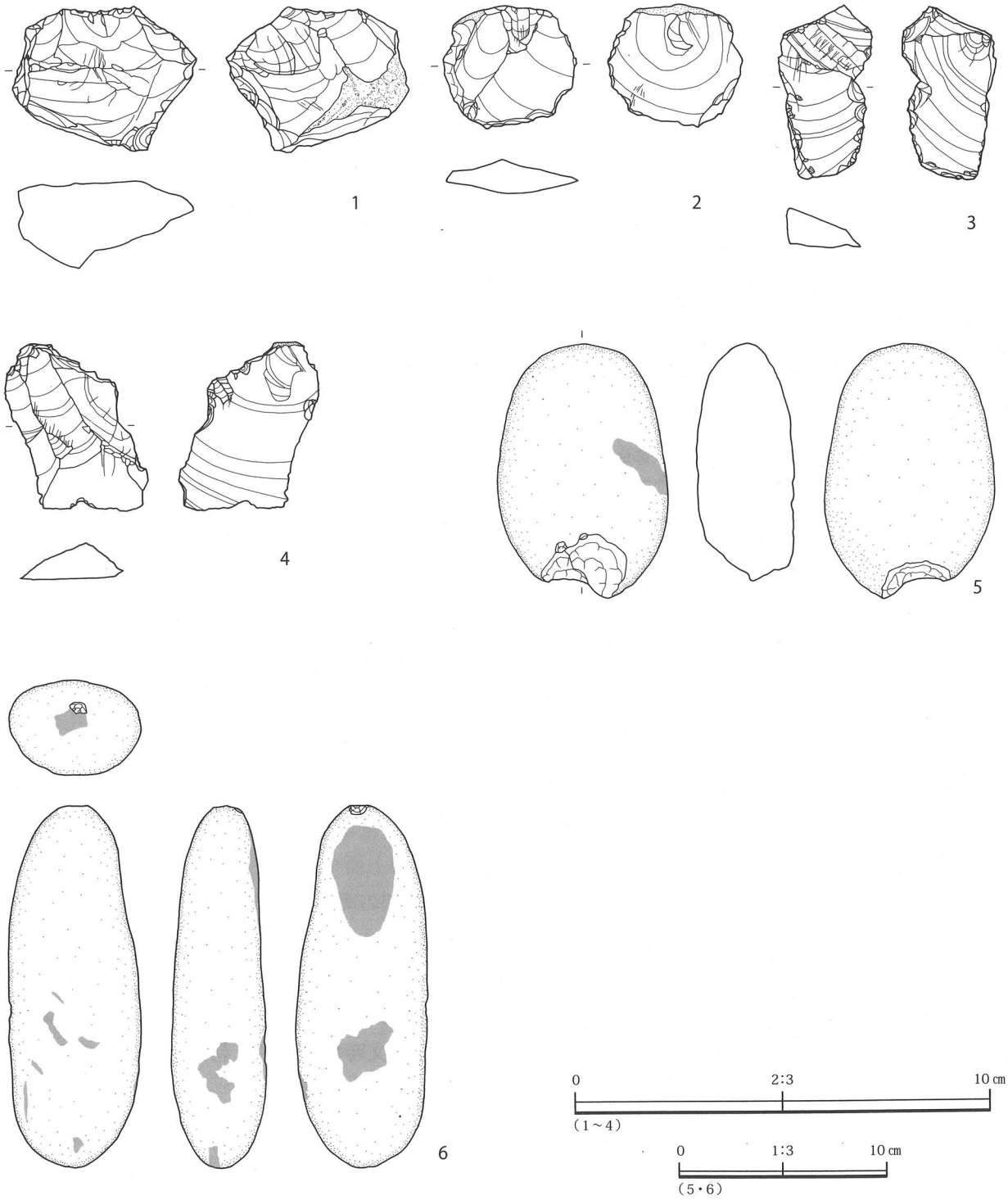
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉出土遺物がないが、他の調査次数で見つかった土坑と類似しており、縄文時代の遺構と判断した。またその形状から陥し穴と考えられる。

RD188土坑（第13図、写真図版16）
〈位置・検出状況〉第23次南側調査区５Ｃ11 1グリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉長楕円形を基調とするが、ややいびつである。規模は2.77 × 1.22 m、深さは最深55 cmを測る。軸方向はＮ－45°－Ｗである。
〈埋土〉２層に分けられる。埋土上位は黒色粘質シルトを（１層）、埋土下位は暗褐色粘質シルトを（２層）主体とする。
〈底面・壁〉基本層序Ⅳ層を底面とした。底面形状は丸みをもつがいびつである。壁は全周する。外へと大きく広がりながら内湾気味に立ち上がる。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉出土遺物がないが、他の調査次数で見つかった土坑と類似しており、縄文時代の遺構と判断した。またその形状から陥し穴と考えられる。

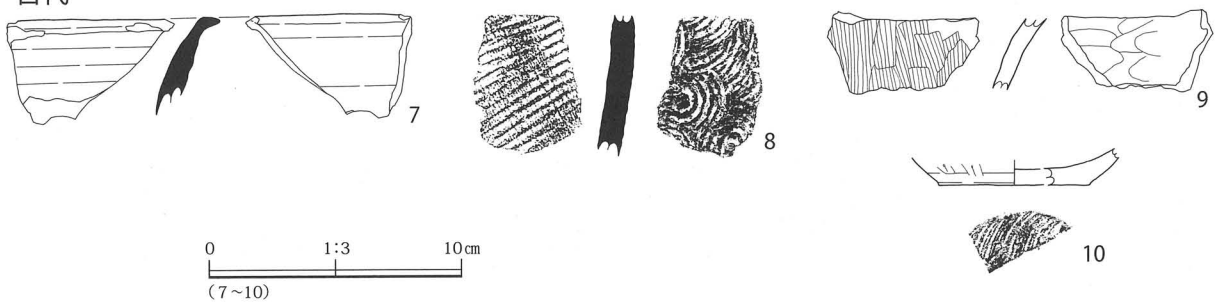
RD189土坑（第13図、写真図版16・17）
〈位置・検出状況〉第23次南側調査区５Ｃ11 1グリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉長楕円形を基調とするが、ややいびつである。規模は2.20 × 1.10 m、深さは最深44 cmを測る。
〈埋土〉３層に分けられる。黒色粘質シルトを主体とし、層半ばに焼土の堆積が認められる（２層）。焼土は被熱により硬化しているものの、周辺に還元した痕跡はなく、この場で火を使用した結果として堆積したものかどうかは不明である。
〈底面・壁〉基本層序Ⅳ層を底面とした。底面形状はほぼ平坦で、さらに中央部分がやや窪む。壁は全周する。外へと大きく広がりながら内湾気味に立ち上がる。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉出土遺物がないが、周辺に分布する遺構の時期から縄文時代の遺構と判断した。形状はＲＤ185～188と類似するが、本遺構は比較的浅く、埋土上位において焼土の堆積が認められる点で、他とは様相が違う。従って、性格は不明と言わざるを得ない。

遺構外から出土した石器（第14図、写真図版29）
第23次北側調査区の北側を中心に剥片石器４点、礫石器13点が出土している。ただし流れ込みによって近世遺構の埋土中から出土するものが多い。一方、縄文時代の遺構が集中する第23次南側調査区から遺物は出土していない。特に縄文土器はいずれの調査区からも出土していない。そのため出土した石器の詳細な時期は不明である。ただし北側に隣接する第６次調査区からは縄文時代後晩期と推定される縄文土器小片が出土しており、今回の調査で出土した石器も推定で後晩期に比定される可能性が高い。
剥片石器４点、礫石器２点図示した。１・２・４は近世の柱穴状土坑の埋土中から出土している。

縄文



古代



第14図　縄文時代・古代の遺物

第５表　縄文時代・古代出土遺物観察表

縄文時代の石器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	石質	年代	産地	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量(g)
1	29	両極	P160 埋土中	頁岩	新生代新第三紀	奥羽山脈	34.42	42.48	22.22	30.00
2	29	削器	P421 埋土下位	頁岩	新生代新第三紀	奥羽山脈	30.53	32.00	9.64	9.00
3	29	リタッチドフレイク	4A18k Ⅳ層	頁岩	新生代新第三紀	奥羽山脈	43.28	23.09	9.83	9.00
4	29	剥片	P364 埋土中	赤色頁岩	古生代	北上山地	40.88	35.15	9.45	9.30
5	29	礫器	調査区北木根中	安山岩	新生代	北上山地	120.92	80.45	44.67	554.30
6	29	敲石	P144 埋土中	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	170.50	62.96	45.74	566.60

古代の土器

番号	写真図版	種別・器種	出土位置・層位	部位	内面調整	外面調整	底面	焼成	外面色調 内面色調	備考
7	29	須恵器　坏	４Ａ11ｖ Ⅳ層上面	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	－	良好	灰白 灰	
8	29	須恵器　甕	４Ａ11ｗ Ⅳ層上面	胴部	タタキ	タタキ	－	良好	灰 灰白	
9	29	土師器　甕	ＲＤ200 底面	胴部	ナデ	ハケメ	－	やや不良	にぶい褐 にぶい褐	内面にコゲ
10	29	土師器　坏	ＲＧ068 埋土中	底部	－	回転ナデ→ ヘラナデ	回転糸切り	良好	橙 橙	

前述の通り流れ込みと考えられる。１はスクレイパーである。頁岩製で、縁辺にやや幅の狭い二次加工が施される。２は頁岩製のスクレイパーで、摩滅しており、全体的に丸みを帯びる。縁辺部の片面のみに二次加工が施されている。３は４A18ｋグリッドⅣ層上面で、近世遺構を検出するためのクリーニング中に見つかった。縦型の剥片を素材とし、片側縁辺の両面から二次加工を施したスクレイパーある。４は縦型のフレイクで、打点とは反対の縁辺部に小さい二次加工の痕跡が認められるので、リタッチドフレイクとした。５は礫器である。４A10ｗグリッド付近にあった木の根を動かした際に見つかった。楕円形の偏平礫の端部に両面から二次加工を施し、刃部を作出している。６は敲石である。近世の柱穴（P144）から出土しているが、形状から縄文時代のものと判断した。やや細長い楕円形の偏平礫を素材とし、先端に敲打痕が、平坦面に磨痕が認められる。

（２）古　　代（第14図、写真図版29）

遺構はみつからなかったが、土師器坏（10）がRG068の埋土中から出土しており、しかもRG068の埋土中には十和田ａテフラと考えられる灰白色の火山灰が混入するので、古代に比定される可能性がある。古代の遺物が４点出土している。撹乱や近世墓壙群の周辺から出土するものが多い。

４点とも図示した。７は須恵器坏の口縁部片である。全体の形状は定かではないが、口縁端部が大きく外反する。８は須恵器甕の胴部片である。外内両面にタタキメが残る。９は土師器甕の胴部片で全体の形状は分からない。外面にハケメ調整が、裏面にナデ調整痕が認められる。10は土師器坏の底部片である。摩滅しているので、全体の調整痕が明瞭ではない。底面は回転糸切り痕が残り、また外面にはヘラで調整した痕跡が認められる。

（3）近　　世

検出した掘立柱建物跡・柱穴状土坑群について（写真図版２）

第23・24次調査において、柱穴状土坑が716個見つかった。その内290個は推定される掘立柱建物跡15棟を構成する柱穴と判断した。これは検出した柱穴状土坑全体の４割強に相当する。残り６割弱の柱穴状土坑も今回推定出来なかった掘立柱建物跡の柱穴か、また建物に関連する何らかの施設を構成する柱穴であるものと思われる。柱穴状土坑は概ね北側調査区の中央から北寄りに集中的に分布している。したがって建物群は立地する場所にある程度規制があったことが伺える。

以下、推定できた掘立柱建物跡とその他の柱穴状土坑についてみていく。

RB048掘立柱建物跡（第15・24図、写真図版３・36・42）

〈位置・検出状況〉第23次・第24次調査区５Ａ17ｔ～５Ｂ24ａグリッドに位置する。

〈重複関係〉柱穴以外の遺構でＲＢ053・058・060・062、ＲＧ074と重複する。重複する掘立柱建物跡群の中では本遺構が最も古い。またＲＧ074とは本遺構を構成する柱穴が重複していないので、新旧関係は定かではない。

〈規模〉桁行き15.64m、梁間8.00ｍを測り、面積は125.12㎡である。使用した柱穴は38個である。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－15°－Ｗである。

〈出土遺物〉柱穴埋土から陶磁器５点（12～15、23）、銭貨３点（24～26）が出土している。12～15はP180の埋土中から一括で出土した磁器の小片である。12は碗の口縁部片で瀬戸産、19世紀半ばの所産である。13は皿の口緑部片で、肥前産である。1690～1780年の所産。15は皿で、内面に絵付が施される。呉須産か。18世紀後半～19世紀初頭の所産である。23はP714の埋土中から出土した大皿の底部片である。高台の内側には圏線が認められる。肥前産で1690～1780年の所産である。24～25は銭貨で、それぞれ別の柱穴から１点ずつ出土している。地鎮の役割で埋められたものか。古寛永２点（24、26）、新寛永１点（25）である。

〈時期〉出土遺物の時期には大きな幅があるが、13や23、また銭貨の年代から17世紀後半～18世紀初頭に帰属するものと推定される。

RB049掘立柱建物跡（第16図、写真図版３）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ21ｇ～24ｌグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。南側の一部が撹乱によって壊されている。

〈重複関係〉ＲＢ054～060と重複する。新旧関係は構成する柱穴の重複から本遺構が最も古いものと推定する。

〈規模〉桁行き6.82ｍ、梁間6.52ｍを測り、面積は44.47㎡である。使用した柱穴は24個である。また撹乱により壊された柱穴が他にもあった可能性が高い。柱間間隔は102～110cm前後が多く、すなわち3.4～3.6尺が基準となっていた可能性がある。

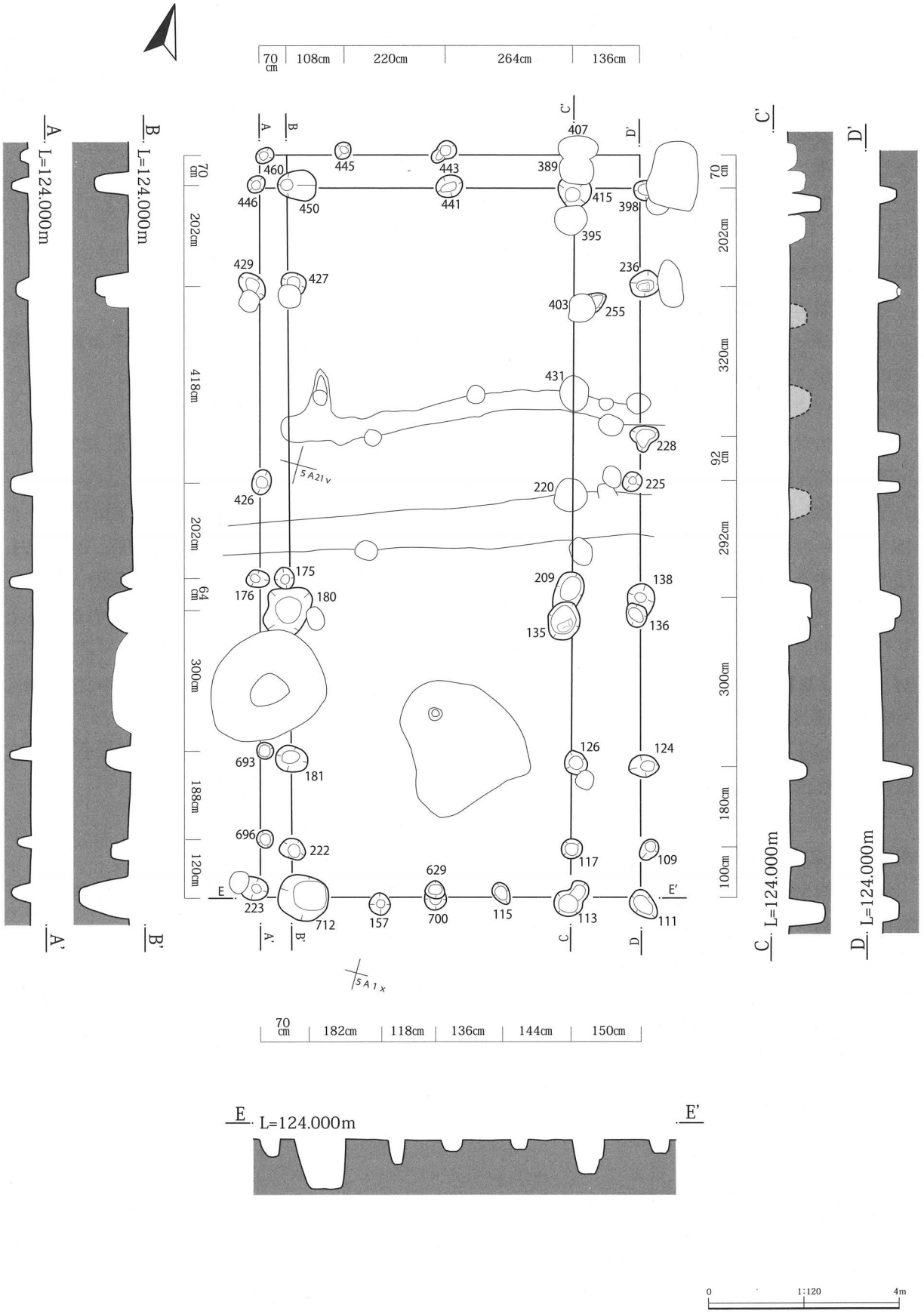
〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－21°－Ｗである。

〈出土遺物〉なし。

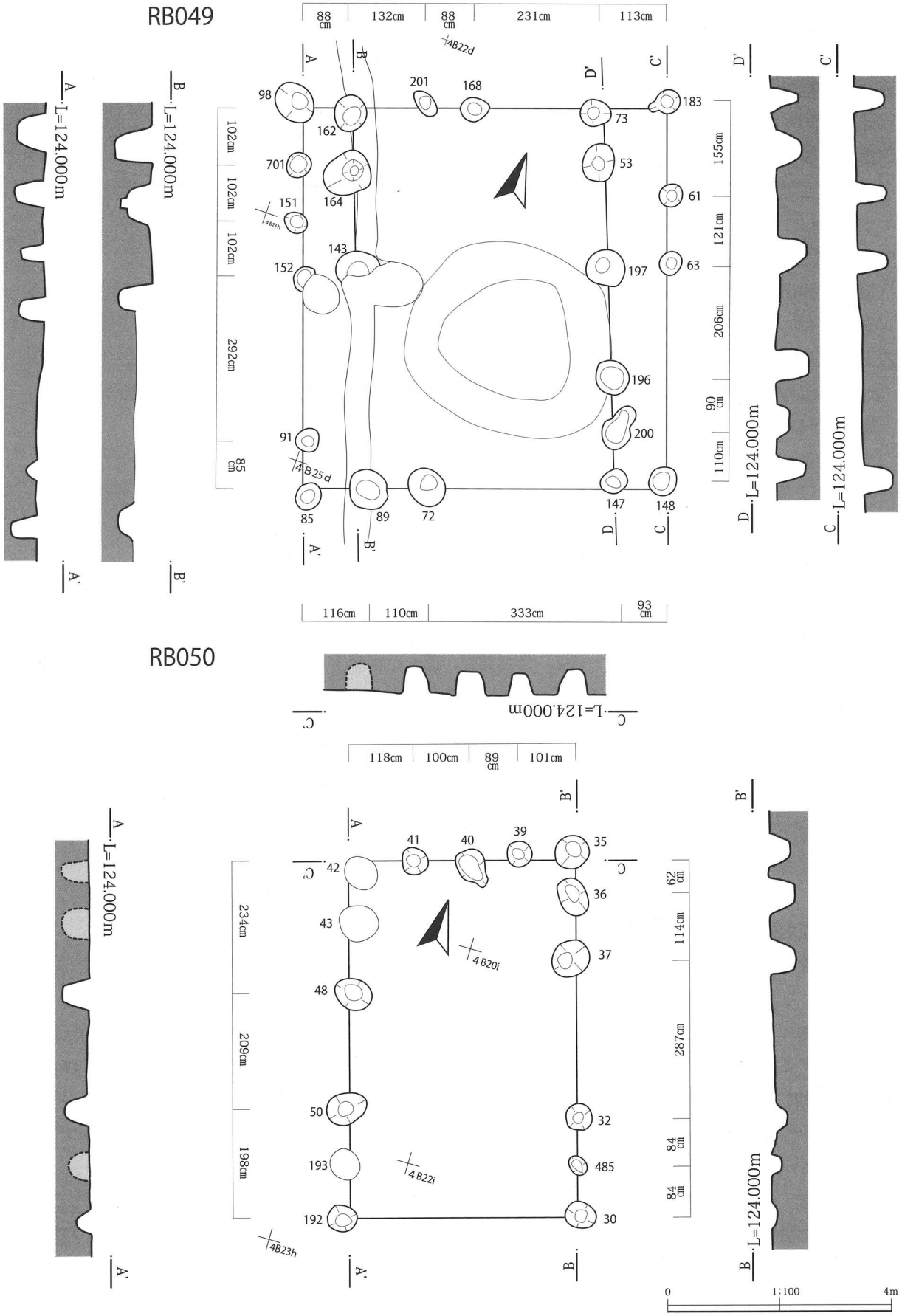
〈時期〉17世紀～19世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB050掘立柱建物跡（第16図、写真図版３）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ19ｇ～22ｊグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。



第15図　RB048掘立柱建物跡



第16図　RB049・050掘立柱建物跡

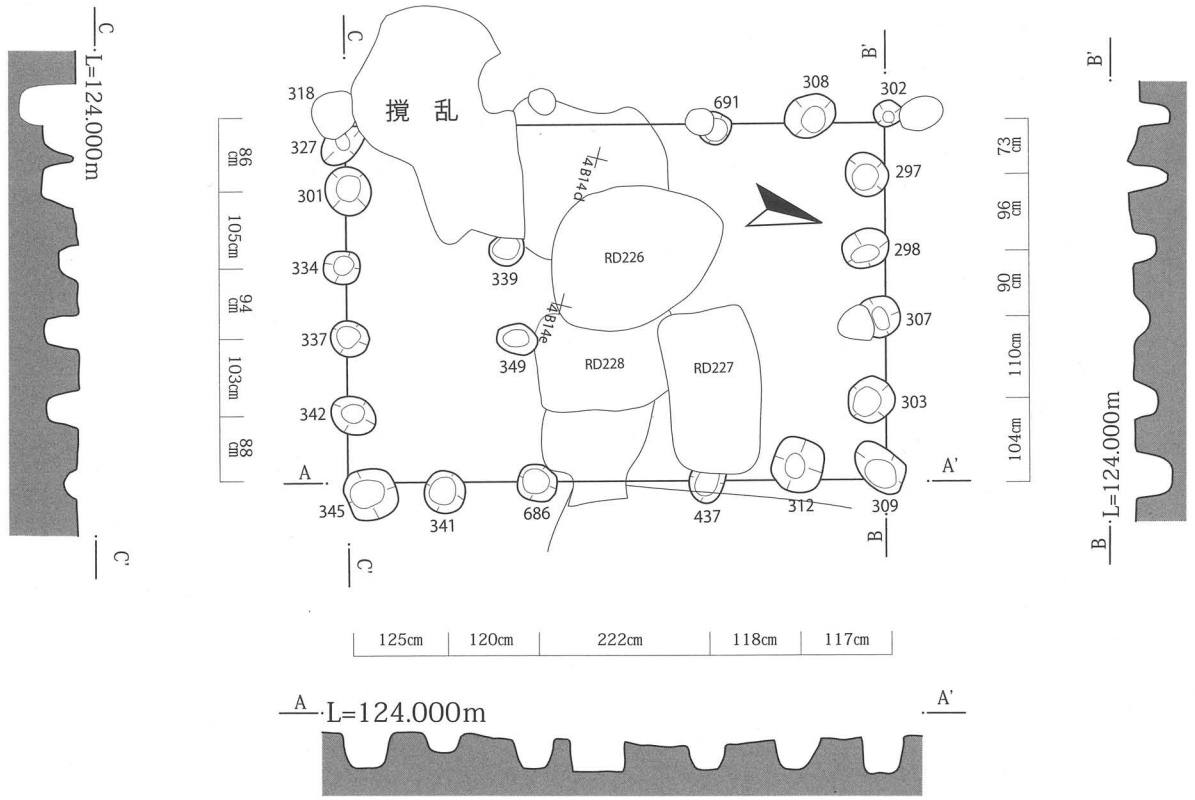
〈重複関係〉ＲＢ 054 と重複する。新旧関係は構成する柱穴どうしの重複がないので不明である。
〈規模〉桁行き 6.41 m、梁間 4.08 mを測り、面積は 26.15 ㎡である。使用した柱穴は 12 個である。北西側に並ぶＰ 42・43・193 は、本建物の桁行き軸線上にのっているが、それらの柱穴は重複するＲＢ 054 の桁行き軸線上の方により直線的に並んでおり、本遺構からは外した。
〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 16°－Ｗである。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB051掘立柱建物跡（第 17 図、写真図版４）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ｂ 13 ｃ～ 15 ｆグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉ＲＢ 055・056、ＲＤ 226 ～ 228 と重複する。新旧関係については本遺構を構成する柱穴との重複により、ＲＢ 056・ＲＤ 223 よりは本遺構の方が古い。他は不明である。
〈規模〉桁行き 7.02 m、梁間 4.76 mを測り、面積は 33.42 ㎡である。使用した柱穴は 20 個である。
〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 16°－Ｗである。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

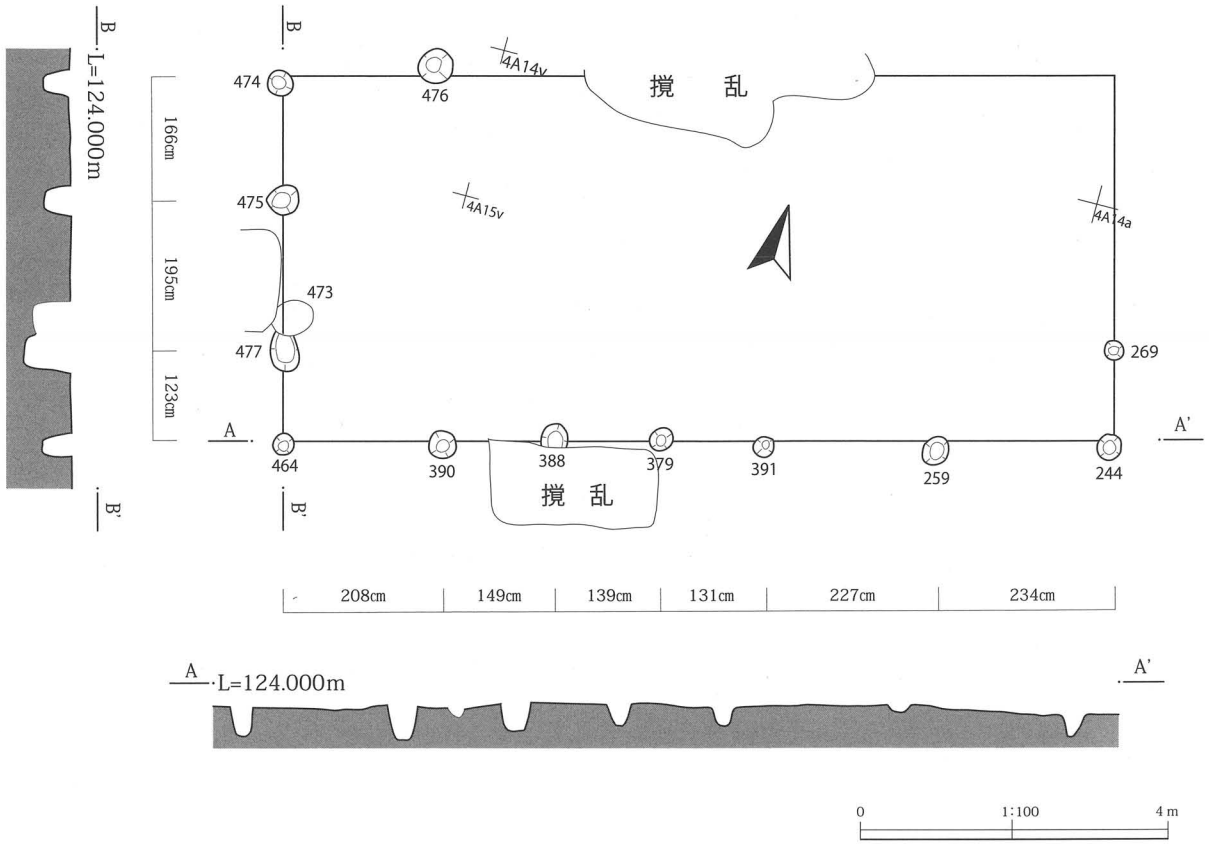
RB052掘立柱建物跡（第 17 図、写真図版４）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側・第 24 次調査区４Ａ 14 ｔ～４Ｂ 15 ａグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉ＲＢ 056・057・061・062、ＲＤ 220、224 と重複する。新旧関係については本遺構を構成する柱穴との重複により、ＲＢ 059 よりは本遺構の方が古い。他は不明である。
〈規模〉桁行き 10.85 m、梁間 4.80 mを測り、面積は 52.08 ㎡である。使用した柱穴は 12 個であるが、北東側の柱穴は見つからなかったが、もう少し柱穴があった可能性が高い。
〈柱穴〉桁行きの軸方向はＮ－ 74°－Ｗである。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB053掘立柱建物跡（第 18・24 図、写真図版４・31・42）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側・第 24 次調査区４Ａ 17 ｔ～４Ａ 19 ｅグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉ＲＢ 048・051・058・060・062、ＲＤ 218・221 と重複する。新旧関係については本遺構を構成する柱穴との重複により、ＲＢ 048・051 より新しく、その他の掘立柱建物跡よりは古い。またＲＤ 221 よりは新しい。ＲＤ 218 との新旧関係は不明である。
〈規模〉桁行き 17.69 m、梁間 8.44 mを測り、面積は 123.98 ㎡である。使用した柱穴は 36 個である。
〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 74°－Ｅである。
〈出土遺物〉柱穴から陶器２点（16・22）、銭貨１点（27）が出土している。16 は碗の底部片で、18 世紀代の大堀相馬産である。22 は徳利の胴部片で美濃産。19 世紀前半の所産である。銭貨（27）は古寛永である。
〈時期〉16・22 の年代から 18 世紀～ 19 世紀代に帰属するものと推定される。

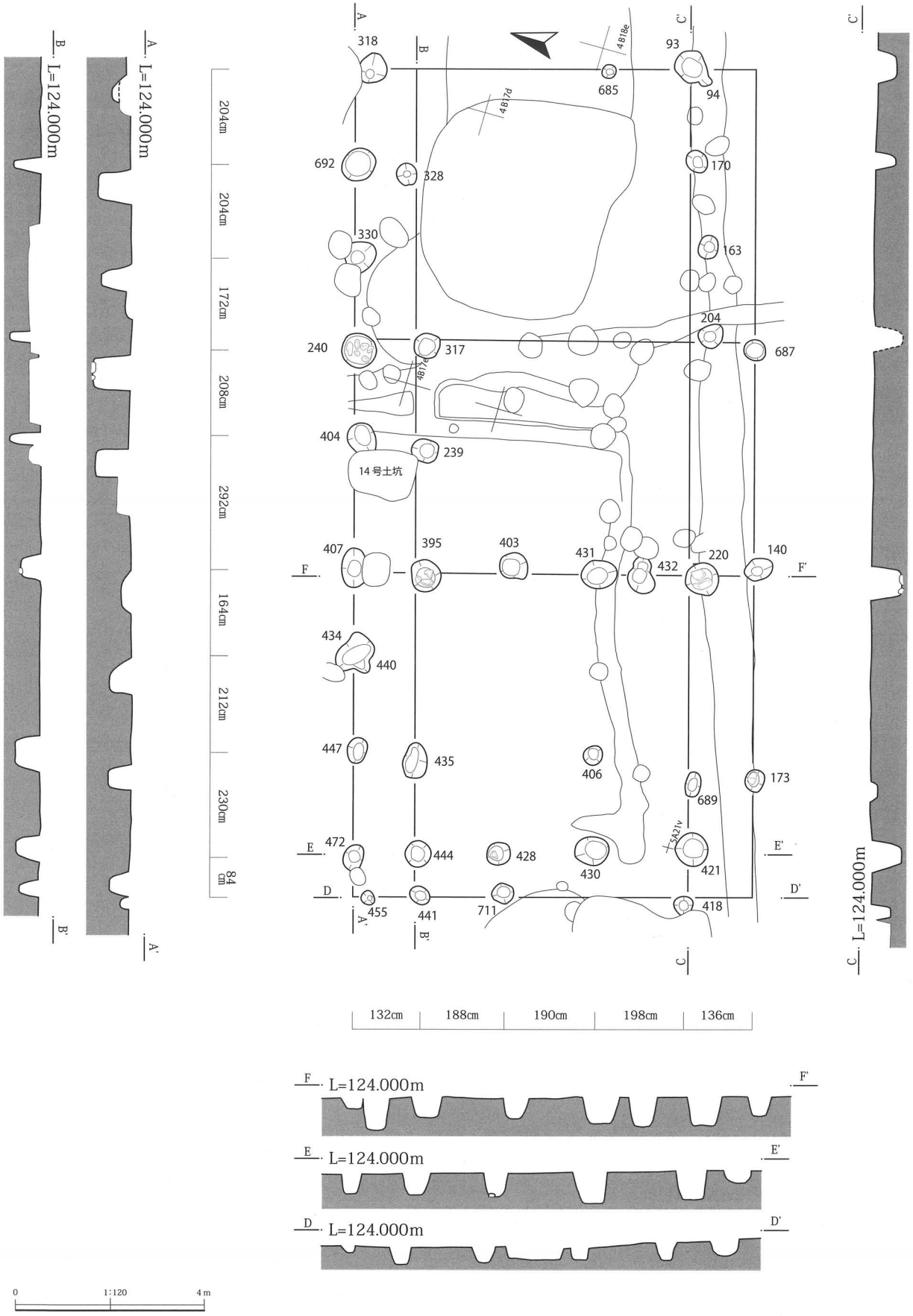
RB051



RB052



第17図　RB051・052掘立柱建物跡



第18図　RB053掘立柱建物跡

RB054掘立柱建物跡（第19図、写真図版５）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ19ｄ～４Ｂ24ｉグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ049・050と重複する。新旧関係については本遺構を構成する柱穴と重複するものがないので、定かではない。

〈規模〉桁行き10.51ｍ、梁間5.98ｍを測り、面積は62.85㎡である。使用した柱穴は32個である。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－15°－Ｗである。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉17世紀～19世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB055掘立柱建物跡（第19・24図、写真図版５・36）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ14ｄ～４Ｂ14ｉグリッドに位置する。南側半分は撹乱により壊されている。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＩ068・ＲＤ229と重複する。新旧関係については本遺構はＲＤ229より新しく、ＲＩ068より古い。またＲＢ051と重複するが新旧関係は不明である。

〈規模〉桁行き8.17ｍ、梁間は推定で4.60ｍを測り、面積は37.58㎡である。使用した柱穴は13個であるが、南側は撹乱により壊されており、柱穴が存在していたものと思われる。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－72°－Ｅである。

〈出土遺物〉磁器１点（20）が出土している。20は碗の口縁部片で、外面に絵付が施される。18世紀後半～19世紀初頭の肥前産である。

〈時期〉20の年代から18世紀後半～19世紀初頭に帰属するものと推定される。

RB056掘立柱建物跡（第20・24図、写真図版５・33）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｘ～４Ｂ14ｃグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ051・052・059・061・062、ＲＤ220・224・225と重複する。新旧関係については本遺構はＲＢ051より新しく、ＲＤ210より古い。他の遺構については不明である。

〈規模〉桁行き6.95ｍ、梁間は4.86ｍを測り、面積は33.78㎡である。使用した柱穴は12個である。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－79°－Ｅである。

〈出土遺物〉磁器１点(17)が出土している。17は紅猪口の破片である。全体の器形が復元できている。外側には絵付が施されている。肥前産で18世紀後半～19世紀初頭の所産である。

〈時期〉17の年代から18世紀後半～19世紀初頭に帰属するものと推定される。

RB057掘立柱建物跡（第20図、写真図版６）

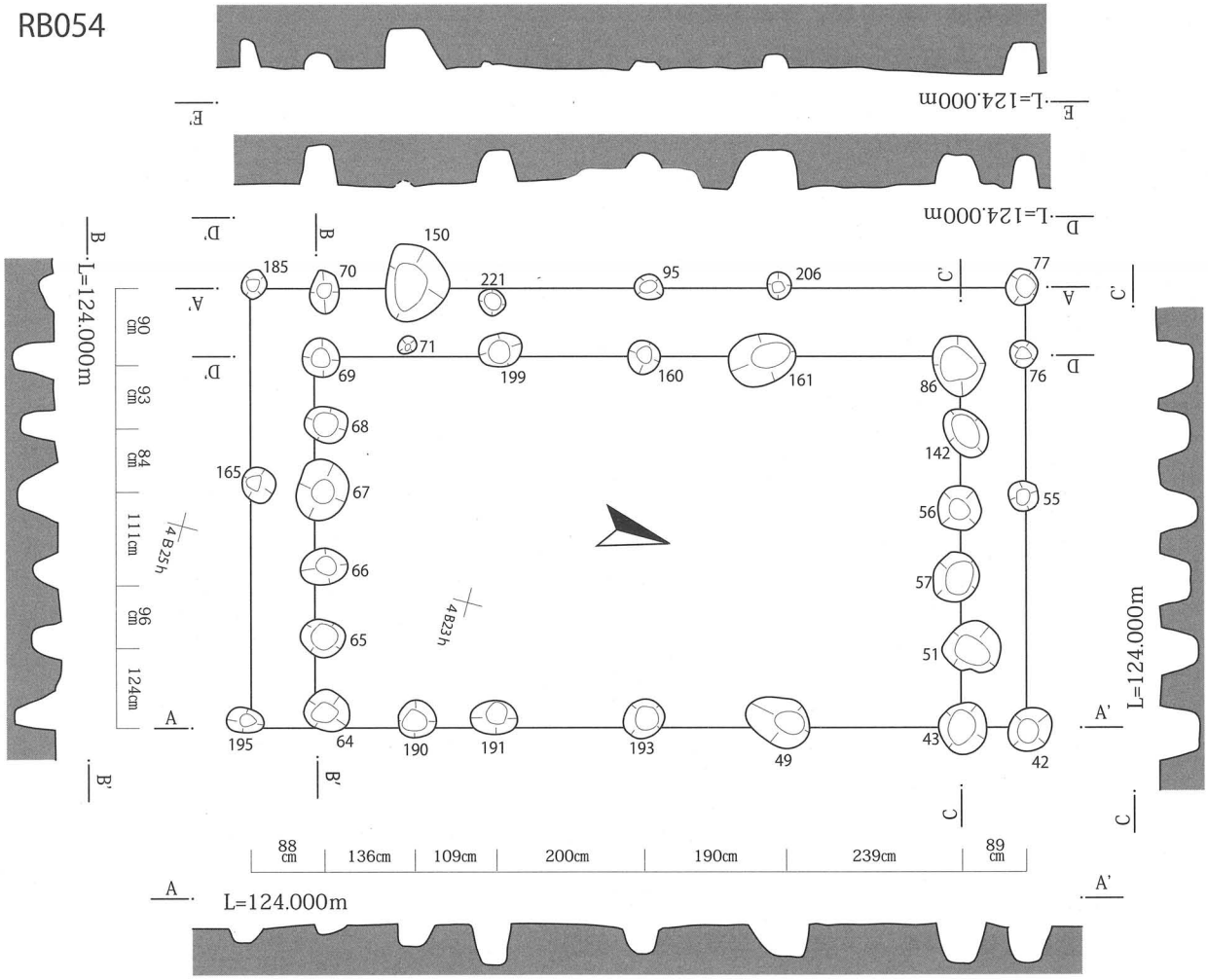
〈位置・検出状況〉第23次北側・第24次調査区４Ａ13ｓ～４Ａ15ｗグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

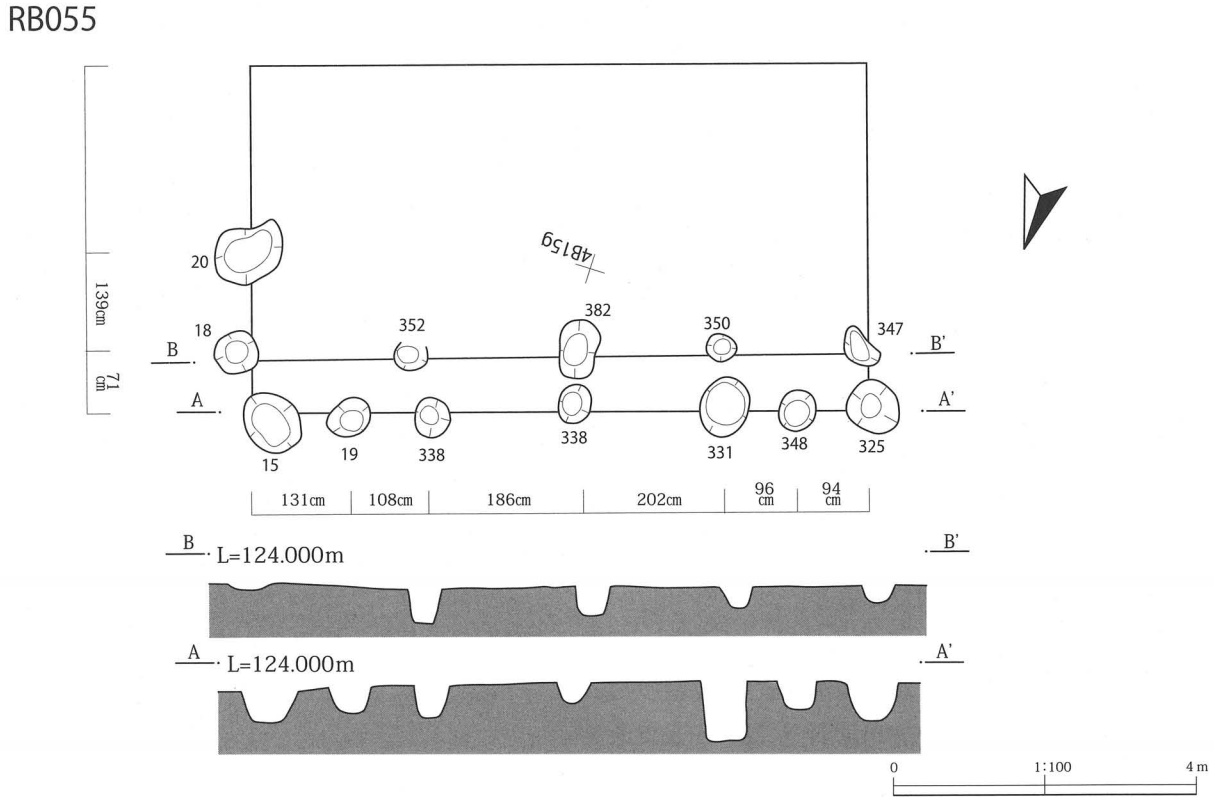
〈重複関係〉ＲＢ052・059、ＲＤ244と重複する。新旧関係については本遺構はＲＤ244より古い。他の遺構については不明である。

〈規模〉桁行き7.16ｍ、梁間は4.38ｍを測り、面積は11.54㎡である。使用した柱穴は６個である。他にも撹乱により壊された柱穴があった可能性が高い。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－73°－Ｅである。

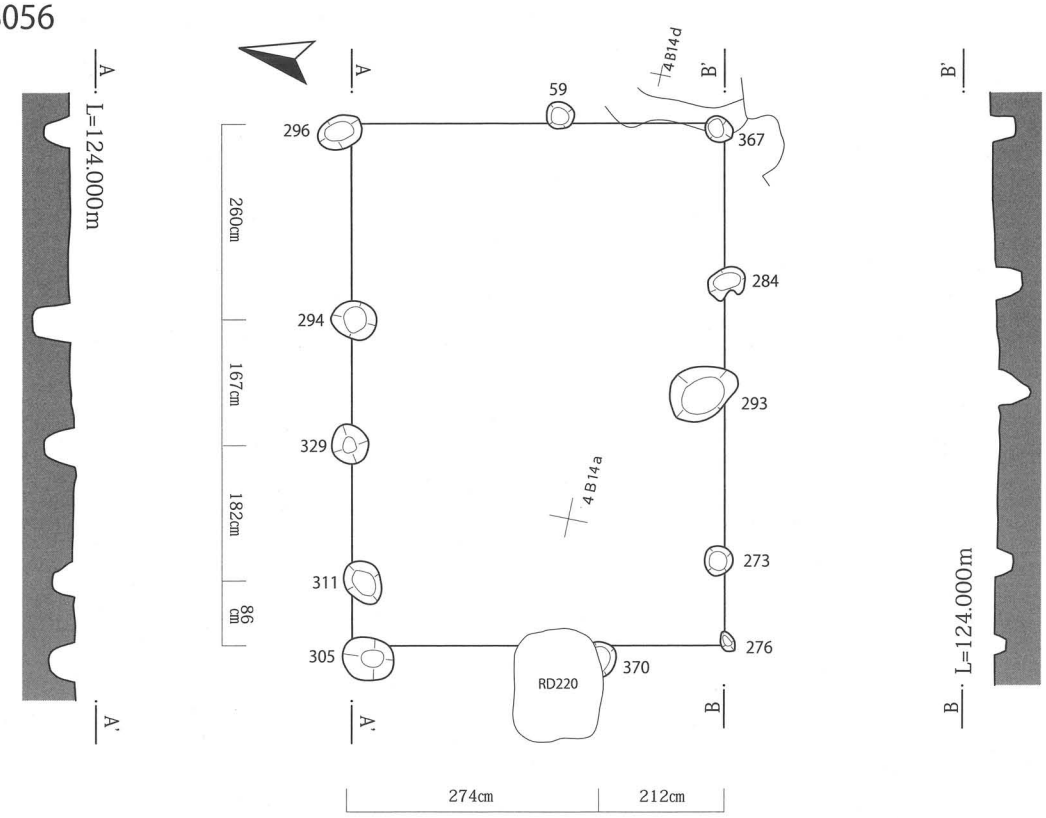
〈出土遺物〉なし。



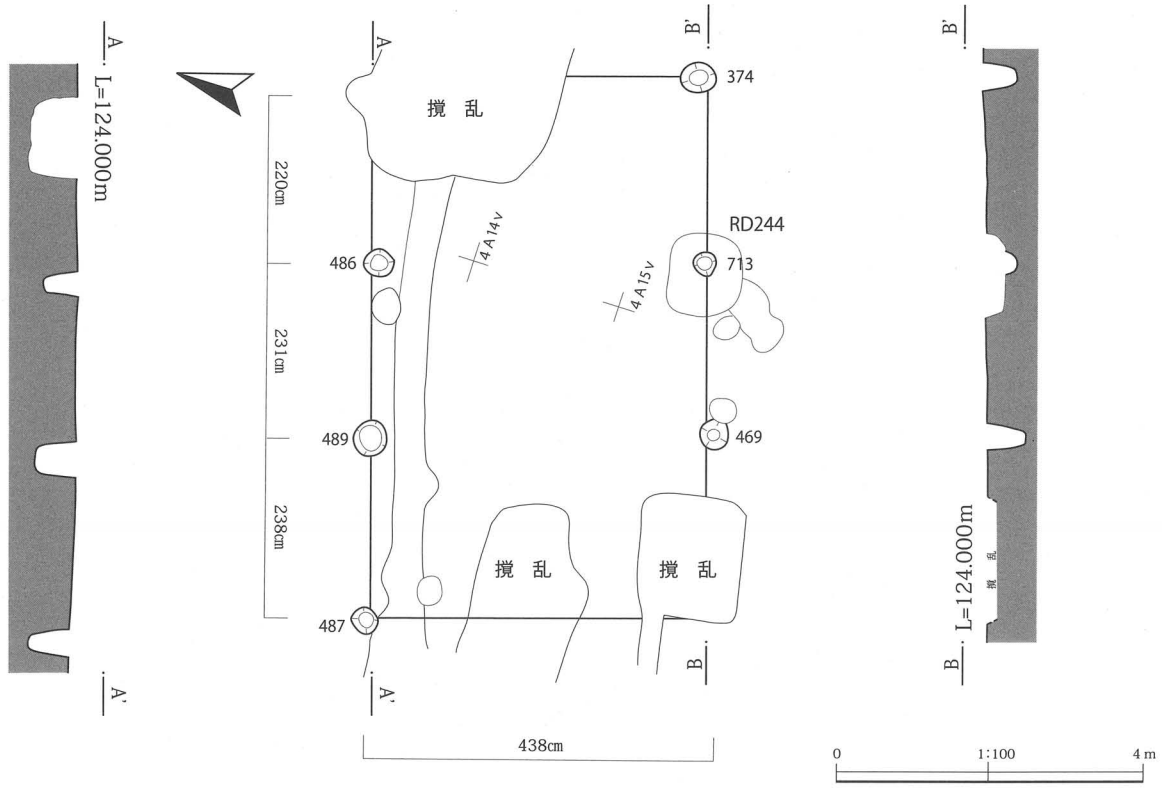


第19図　RB054・055掘立柱建物跡

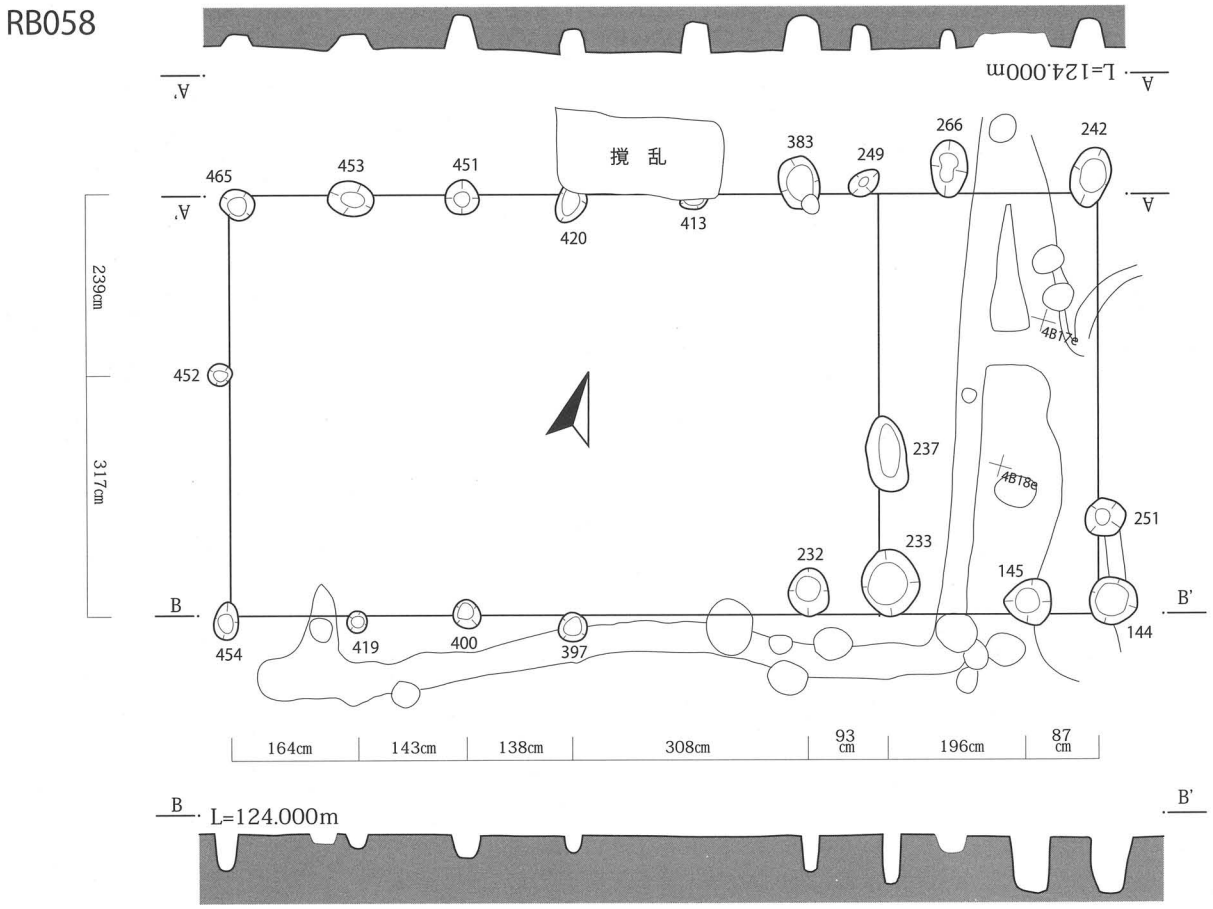
RB056

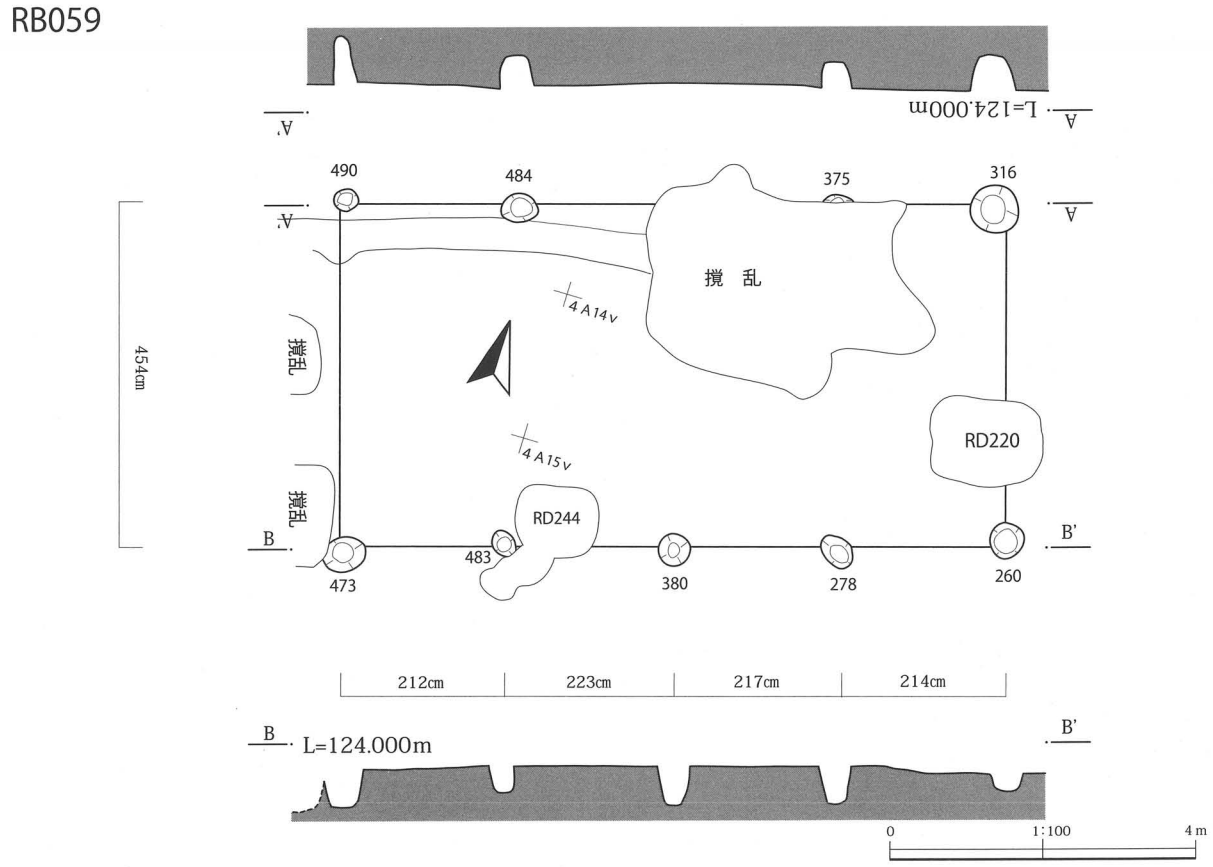


RB057



第20図　RB056・057掘立柱建物跡





第21図　RB058・059掘立柱建物跡

〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB058掘立柱建物跡（第 21・25 図、写真図版６・44）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ａ17ｘ～４Ｂ18ｆグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ 048・053・062、ＲＤ 221 と重複する。新旧関係については本遺構を構成する柱穴と重複する遺構がなく、不明である。

〈規模〉桁行き 11.29 m、梁間は 5.56 mを測り、面積は 62.77 ㎡である。使用した柱穴は 20 個である。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 74°　－Ｗである。

〈出土遺物〉P454 の埋土上位から砥石１点（30）が出土している。細長い立方体状で、四面に研磨の痕跡が認められる。

〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB059掘立柱建物跡（第 21・24 図、写真図版６・30）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ａ13ｔ～４Ｂ14ｙグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ 052・056・057・059・061・062、ＲＤ 220・244、ＲＦ 012 と重複する。新旧関係については柱穴の重複関係からＲＢ 052 より本遺構の方が新しい。他の遺構は不明である。

〈規模〉桁行き 8.68 m、梁間は 4.54 mを測り、面積は 39.41 ㎡である。使用した柱穴は９個である。他にも撹乱により壊された柱穴が該当する可能性が高い。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 73°　－Ｗである。

〈出土遺物〉陶器１点（19）出土している。碗の底部片である。肥前産で 17 世紀後半～ 18 世紀前半の所産である。

〈時期〉19 の年代から 17 世紀後半～ 18 世紀前半に帰属するものと推定される。（後述する、掘立柱建物群の変遷とは矛盾する）

RB060掘立柱建物跡（第 22・24 図、写真図版７）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ａ13ｔ～４Ｂ14ｙグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ 052・056・057・059・061・062、ＲＤ 220・244、ＲＦ 012 と重複する。新旧関係については柱穴の重複関係からＲＢ 052 より本遺構の方が新しい。他の遺構は不明である。

〈規模〉桁行き 9.94 m、梁間は 5.00 mを測り、面積は 49.70 ㎡である。使用した柱穴は 17 個である。他にも撹乱により壊された柱穴があった可能性が高い。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 14°　－Ｗである。

〈出土遺物〉陶器片１点（11）出土している。碗の口縁部片である。大堀相馬産で 18 世紀代の所産である。

〈時期〉11 の年代から 18 世紀代に帰属するものと推定される。

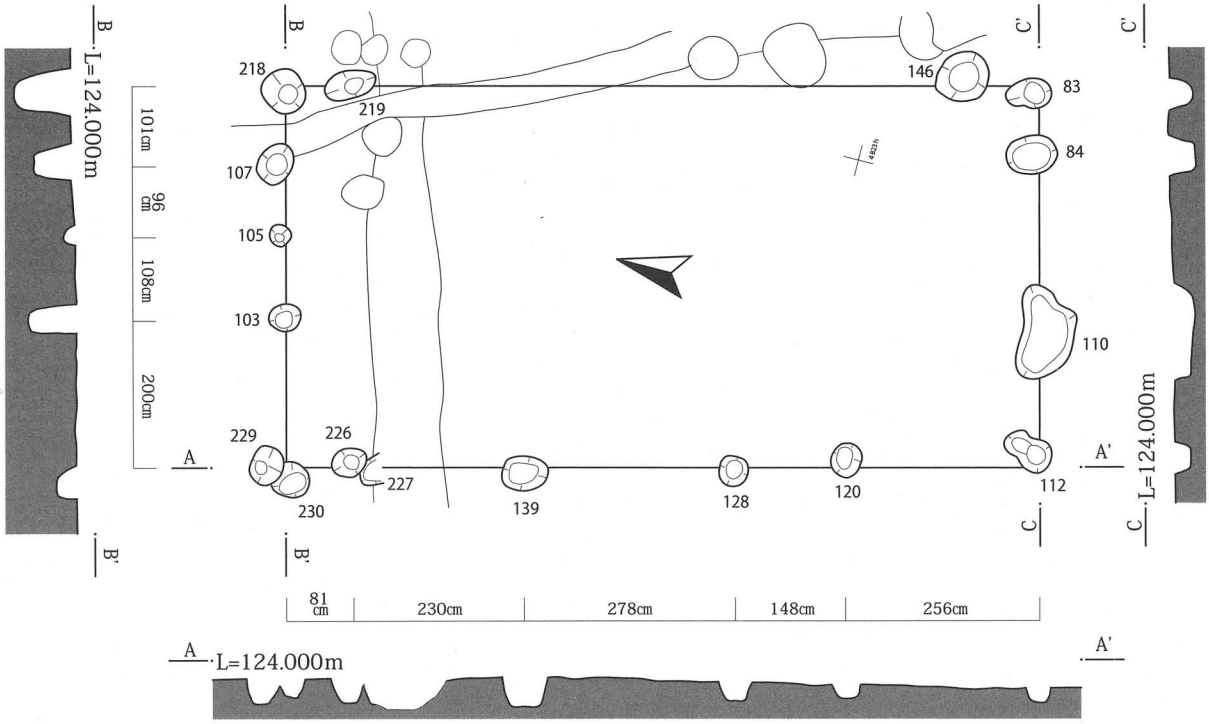
RB061掘立柱建物跡（第 22 図、写真図版７）

〈位置･検出状況〉第23次北側調査区４Ａ13ｘ～４Ｂ13ｂグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

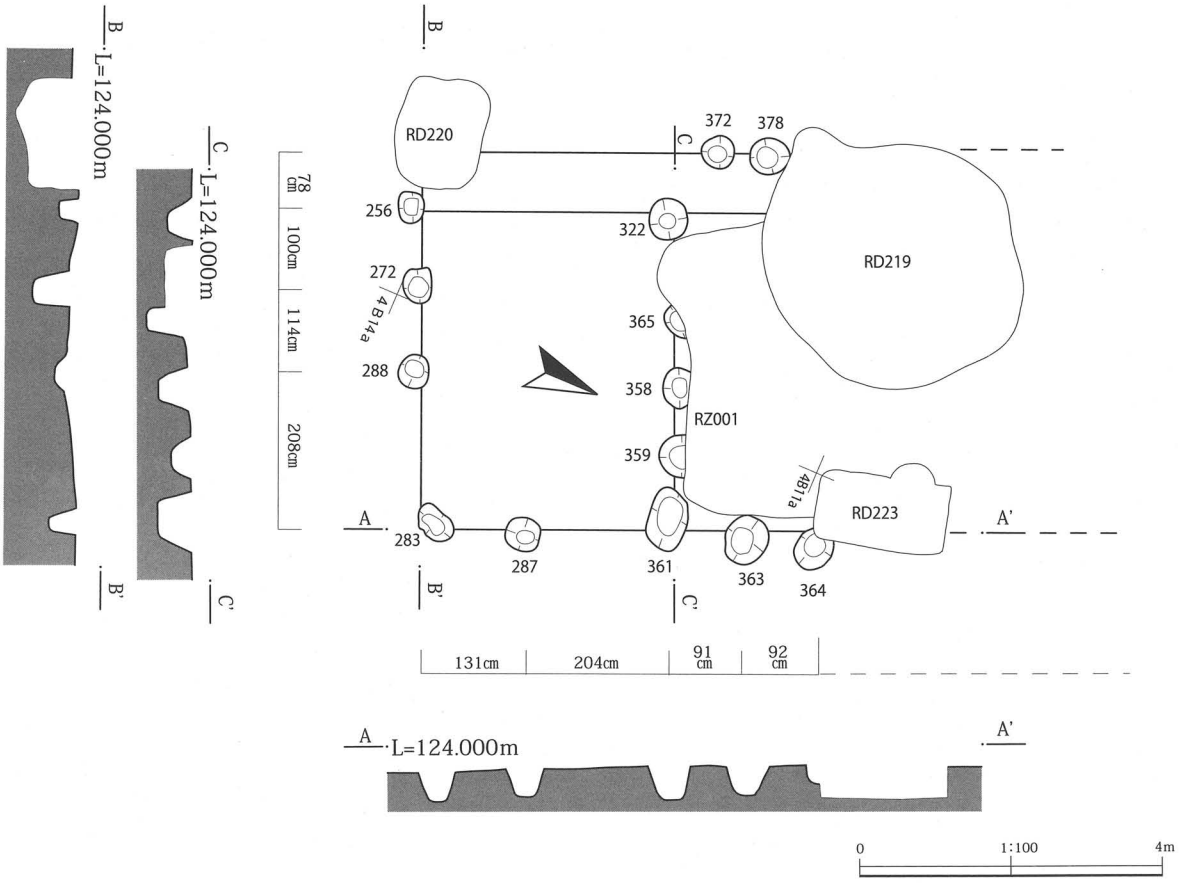
〈重複関係〉ＲＢ 052・056・059・062、ＲＤ 219・220・223、ＲＺ 001 と重複する。新旧関係については土坑やＲＺ 001 より本遺構の方が古い。他の掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

〈規模〉本遺構は北側をＲＤ 219・ＲＺ 001 により壊されている。残存する桁行き 5.18 m、梁間 5.00

RB060

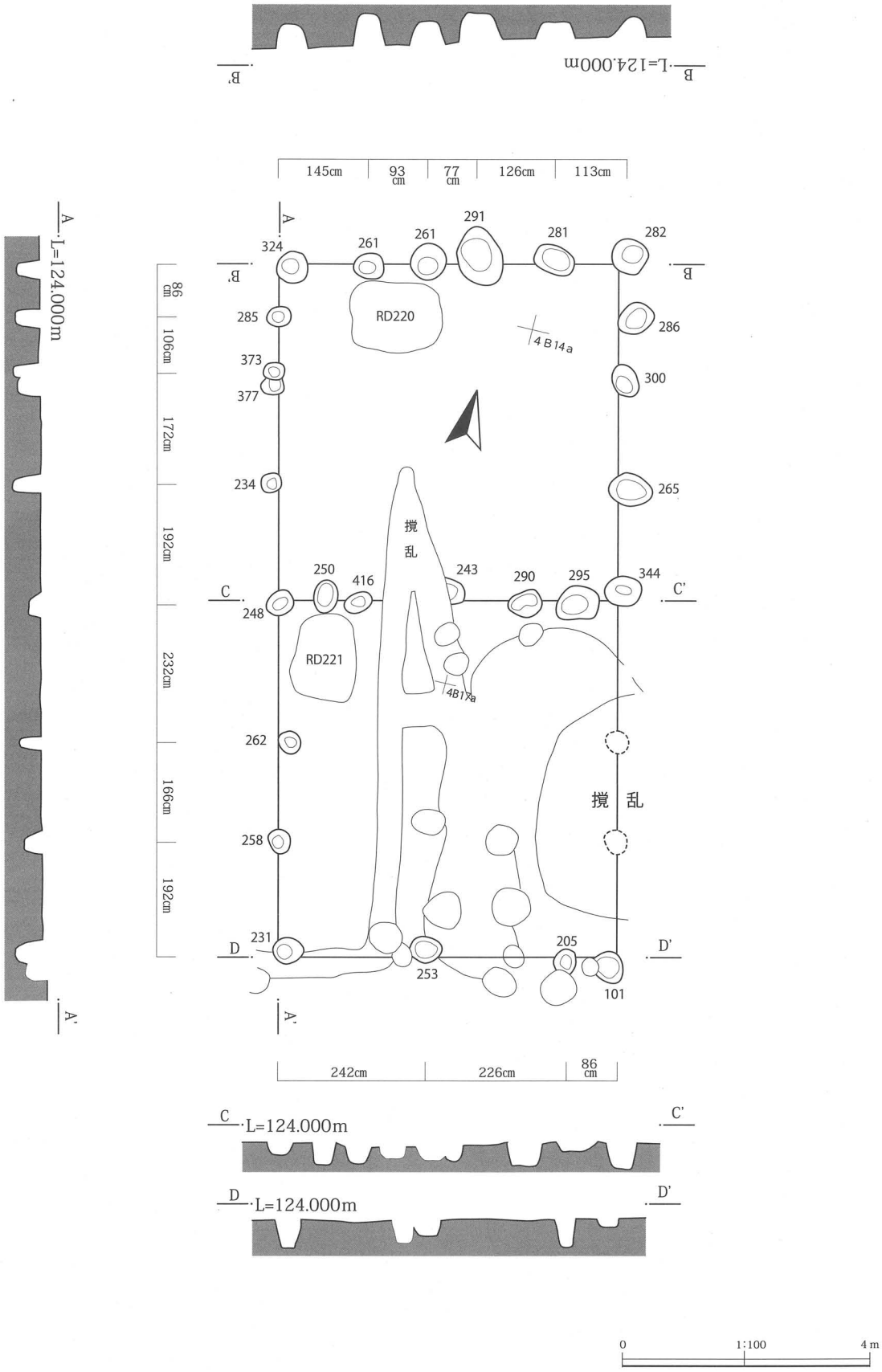


RB061

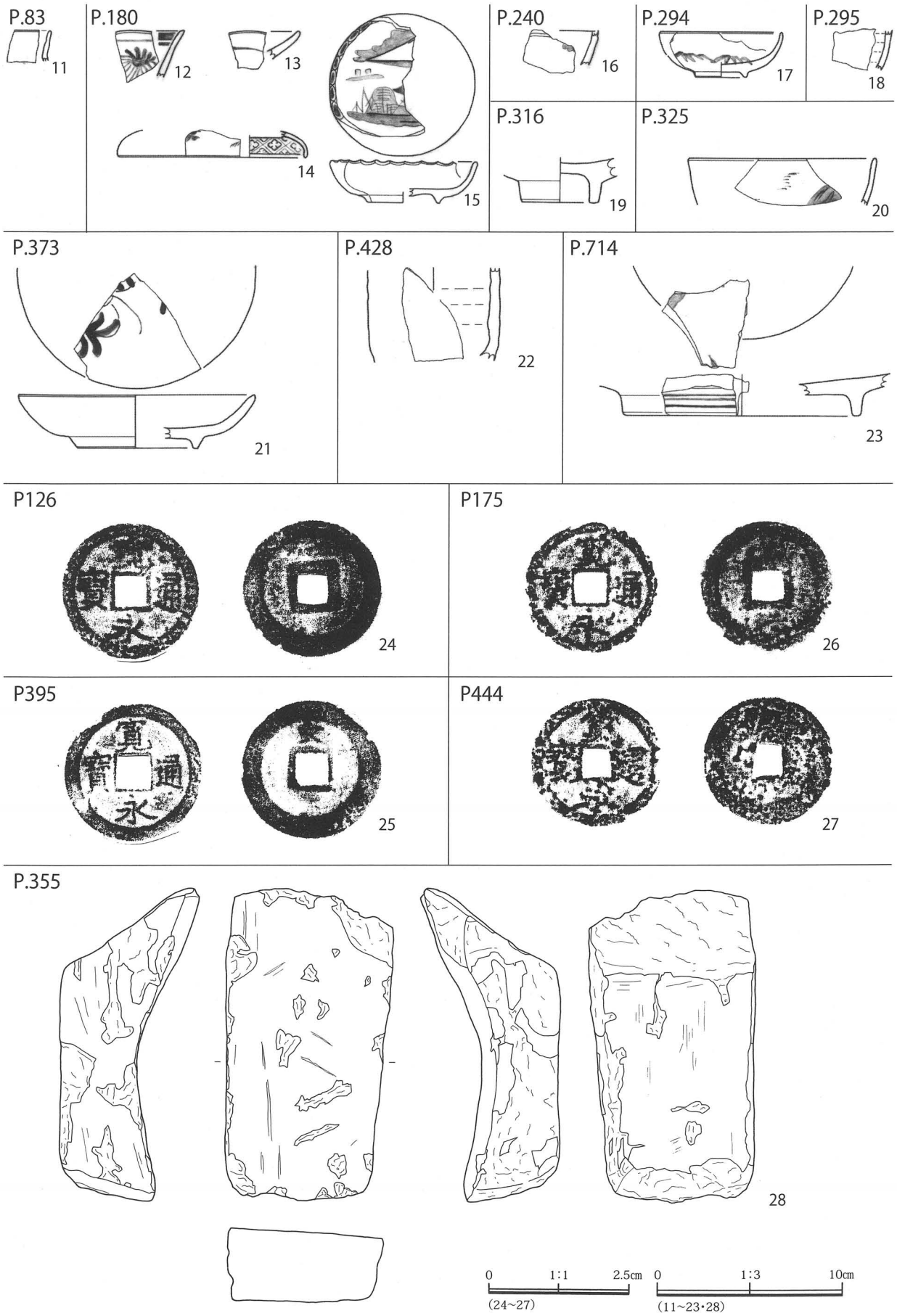


第22図　RB060・061掘立柱建物跡

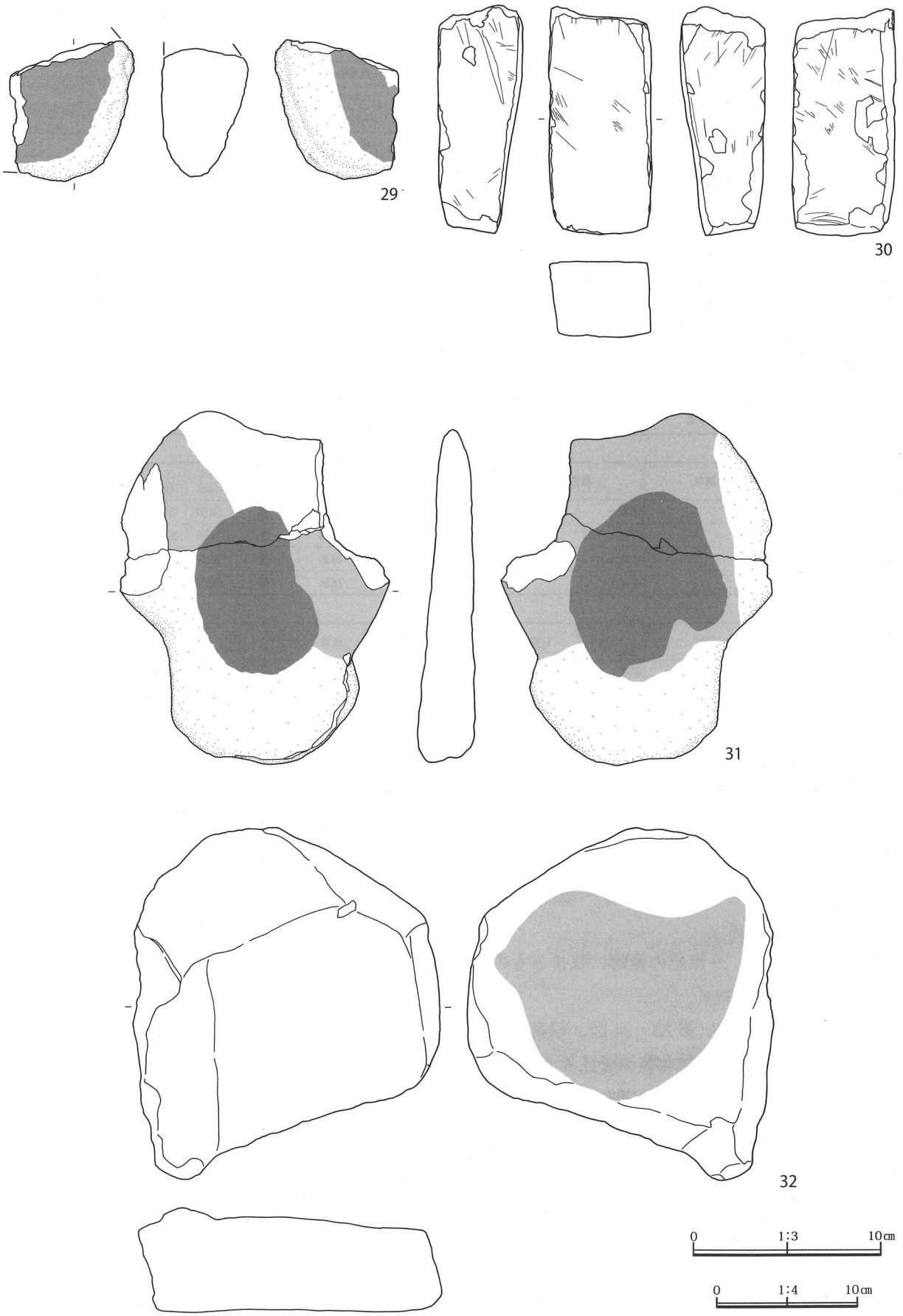
RB062



第23図　RB062掘立柱建物跡



第24図　柱穴群出土遺物（1）



第25図　柱穴群出土遺物（2）

第６表　掘立柱建物跡・柱穴出土遺物観察表

近世陶器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
11	31	碗	P 083　埋土中	－	－	(1.6)	灰白色		大堀相馬	18 世紀	RB060 出土
16	31	碗	P 240　底面	－	－	(1.4)	灰白色		大堀相馬	18 世紀	RB053 出土
18	31	土瓶	P 295　埋土中	－	－	(2.2)	浅黄橙	銅緑釉	大堀相馬	19 世紀以降	RB062 出土
19	30	碗	P 316　埋土中	－	(4.1)	(2.4)	灰白色		肥前	17 世紀後半～ 18 世紀前半	RB059 出土
22	31	徳利	P 428　埋土中	－	－	(5.2)	灰白色		美濃	19 世紀前半	RB053 出土

近世磁器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
12	36	碗	P 180　埋土中	－	－	(2.6)	白色	瀬戸	19 世紀前半～半ば	RB048 出土
13	36	皿	P 180　埋土中	－	－	(1.5)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	RB048 出土
14	36	碗　蓋	P 180　埋土中	(5.2)	－	(1.5)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	RB048 出土
15	33	皿	P 180　埋土中	(7.9)	(3.8)	2.3	白色	不明（呉須？）	19 世紀前半～半ば	切込皿？ RB048 出土
17	33	紅猪口	P 294　埋土中	(6.6)	(2.8)	2.5	灰白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	RB056 出土
20	36	碗	P 325　埋土中	(10.2)	－	(2.6)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	RB055 出土
21	33	皿	P 373　底面上	(10.0)	(3.6)	2.9	灰白色	肥前	1650 ～ 1690 年	RB062 出土
23	36	大皿	P 714　埋土中	－	(12.8)	(2.3)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	高台内に「圏線」あり　RB048 出土

銭貨

番号	写真図版	出土位置・層位	銭貨名	備考	初鋳年（鋳造年）	材質	たて（mm）	よこ（mm）	厚さ（mm）	穿径（mm）	重量（g）
24	42	P126　埋土中	古寛永	RB048 出土	1636	銅	24.94	24.93	1.45	5.57	3.3
25	42	P175　埋土中	新寛永文銭	RB048 出土	1668	銅	25.22	25.42	1.35	5.99	2.9
26	42	P395　埋土中	古寛永	RB048 出土	1636	銅	24.12	24.23	1.18	5.7	2.1
27	42	P444　底面上	古寛永	RB053 出土	1636	銅	23.64	23.67	1.21	5.08	2.5

石製品

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	石質	年代	産地	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
28	44	P335　埋土中	砥石	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	171.00	87.49	17.70	1157.00	
29	46	P247　埋土上位	磨石	安山岩	新生代	北上山地	69.43	64.58	44.61	196.40	
30	44	P454　埋土上位	砥石	頁岩	新生代新第三紀	奥羽山脈	117.97	51.52	38.17	50.02	RB058 出土
31	44	P697　底面	石製品	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	255.00	193.00	40.00	2100.00	根固石？
32	44	P699　底面	石製品	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	255.00	218.00	75.00	5800.00	根固石？

mを測り、面積は確認できる部分で 25.90 ㎡である。使用した柱穴は 14 個である。他にも遺構や撹乱により壊された柱穴があった可能性が高い。

〈建物方向〉桁行きの軸方向はＮ－ 24°　－Ｗである。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉17 世紀～ 19 世紀の範疇に収まるものと推定される。

RB062掘立柱建物跡（第 23・24 図、写真図版７・31・33）

〈位置･検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 13 ｗ～４Ｂ 19 ｂグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〈重複関係〉ＲＢ 048・052・053・056・058・059・060・061、ＲＤ 220・221 と重複する。新旧関係については柱穴の重複関係からＲＢ 060 より本遺構の方が新しい。他の遺構は不明である。

〈規模〉桁行き 11.38 m、梁間 5.50 mを測り、面積は確認できる部分で 62.59 ㎡である。使用した柱穴は 26 個である。他にも遺構や撹乱により壊された柱穴があった可能性が高い。

〈柱穴〉桁行きの軸方向はＮ－ 14°　－Ｗである。

〈出土遺物〉陶器１点（18）、磁器１点（21）出土している。18 は土瓶の胴部片である。釉薬には銅緑釉が施される。19 世紀以降の大堀相馬産である。21 は P373 の底面付近から出土した皿で、器形

第７表　柱穴一覧表

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
1	－	23	４Ｂ１５ｕ	123.777	123.567	0.210	黒色土		
2	－	23	４Ｂ１５ｔ	123.728	123.482	0.246	黒色土		
3	－	23	４Ｂ１５ｒ	123.734	123.595	0.139	黒色土		
4	－	23	４Ｂ１５ｒ	123.650	123.147	0.503	黒褐色土	均整	
5	－	23	４Ｂ１４ｒ	123.761	123.210	0.551	黒色土	礫混シルト	斜めに掘られる
6	－	23	４Ｂ１５ｐ	123.738	123.199	0.539	黒色土	均整	
7	－	24	４Ａ１５ｕ	123.712	123.193	0.519	黒色土		
8	－	23	４Ｂ１７ｐ	123.760	123.387	0.373	黒色土	礫混シルト	
9	－	23	４Ａ１４ｘ	123.557	123.386	0.171	黒色土		
10	－	23	４Ｂ１５ｑ	123.717	123.489	0.228	黒色土	均整	
11	－	23	４Ｂ１６ｑ	123.724	123.567	0.157	黒色土	均整	
12	－	23	４Ｂ１６ｑ	123.759	123.560	0.199	黒色土	均整	
13	－	23	４Ｂ１２ｊ	123.520	123.370	0.150	黒色土	均整	
14	－	23	４Ｂ１２ｈ	123.665	123.335	0.330	暗褐色	砂質シルト	柱痕跡あり径15cm黒褐色土
15	55	23	４Ｂ１３ｈ	123.620	123.225	0.395	黒色土		記録なし
16	－	23	４Ｂ１４ｈ	123.640	123.235	0.405	黒褐色土	礫少	柱痕跡あり黒色土
17	－	23	４Ｂ１３ｉ	123.620	123.345	0.275	黒色土	礫混シルト	
18	55	23	４Ｂ１３ｉ	123.605	123.505	0.100	黒色土	礫混シルト	
19	55	23	４Ｂ１３ｈ	123.675	123.350	0.325	黒色土	均整	上部礫混シルト
20	55	23	４Ｂ１４ｉ	123.565	123.210	0.355	黒色土	礫混シルト	
21	－	23	４Ｂ１４ｈ	123.717	123.420	0.297	黒色土	礫少	
22	－	23	４Ｂ１７ｍ	123.651	123.482	0.169	黒色土	礫少	
23	－	23	４Ｂ２０ｌ	123.706	123.330	0.376	黒色土	均整	
24	－	23	４Ｂ２０ｋ	123.680	123.120	0.560	黒色土	均整	
25	－	23	４Ｂ２０ｋ	123.689	123.405	0.284	黒色土	均整	
26	－	23	４Ｂ２０ｋ	123.692	123.536	0.156	黒色土	均整	
27	－	23	４Ｂ２０ｊ	123.640	123.282	0.358	黒色土	均整	
28	－	23	４Ｂ２１ｊ	123.647	123.386	0.261	黒色土	均整	
29	－	23	４Ｂ２１ｊ	123.614	123.428	0.186	黒色土	礫混	
30	50	23	４Ｂ２１ｊ	123.648	123.492	0.156	黒色土	礫混	
31	－	23	４Ｂ２３ｊ	123.655	123.360	0.295	黒色土	砂質シルト礫混	
32	50	23	４Ｂ２１ｊ	123.565	123.395	0.170	黒色土	均整	
33	－	23	４Ｂ２０ｊ	123.714	123.332	0.382	黒色土	均整	
34	－	23	４Ｂ１９ｋ	123.678	123.215	0.463	黒色土	均整	
35	50	23	４Ｂ１８ｉ	123.685	123.326	0.359	黒色土	均整	
36	50	23	４Ｂ１９ｉ	123.672	123.262	0.410	黒色土	均整	
37	50	23	４Ｂ１９ｉ	123.664	123.241	0.423	黒色土	均整	
38	－	23	４Ｂ２０ｉ	123.665	123.487	0.178	黒色土	均整	
39	50	23	４Ｂ１９ｉ	123.692	123.312	0.380	黒色土	均整	
40	50	23	４Ｂ１９ｈ	123.693	123.305	0.388	黒色土	均整	
41	50	23	４Ｂ１９ｈ	123.648	123.190	0.458	褐色土	砂質シルト	柱痕跡あり径23cm黒褐色土
42	54	23	４Ｂ１９ｇ	123.605	123.135	0.470	黒色土	礫混	
43	54	23	４Ｂ２０ｈ	123.653	123.142	0.511	黒色土	均整	
44	－	23	４Ｂ２０ｉ	123.648	123.535	0.113	黒色土	礫混	
45	－	23	４Ｂ２０ｈ	123.655	123.525	0.130	黒色土	均整	
46	－	23	４Ｂ２０ｉ	123.668	123.479	0.189	黒色土	均整	
47	－	23	４Ｂ２１ｉ	123.670	123.296	0.374	黒色土	均整	
48	50	23	４Ｂ２０ｈ	123.615	123.160	0.455	黒色土	均整	
49	54	23	４Ｂ２１ｈ	123.632	123.205	0.427	黒色土	礫混	
50	50	23	４Ｂ２１ｈ	123.577	123.185	0.392	黒色土	均整	
51	54	23	４Ｂ２０ｇ	123.632	123.165	0.467	黒色土	砂質シルト混	
52	－	23	４Ｂ２０ｇ	123.651	123.432	0.219	黒色土	礫混	
53	49	23	４Ｂ２１ｅ	123.648	123.121	0.527	黒色土	砂質シルト礫混	
54	－	23	４Ｂ１９ｊ	123.667	123.506	0.161	黒色土	均整	
55	54	23	４Ｂ２０ｆ	123.678	123.297	0.381	黒色土	均整	
56	54	23	４Ｂ２０ｆ	123.631	123.170	0.461	黒色土	均整	
57	54	23	４Ｂ２０ｇ	123.655	123.245	0.410	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
58	－	23	４Ｂ２０ｅ	123.647	123.464	0.183	黒色土	黄褐色砂質シルト混	
59	56	23	４Ｂ１３ｃ	123.645	123.330	0.315	黒色土	均整	
60	－	23	４Ｂ２１ｆ	123.638	123.246	0.392	黒色土	褐色砂質シルト混	
61	49	23	４Ｂ２１ｆ	123.618	123.121	0.497	黒色土	砂質シルト礫混	
62	－	23	４Ｂ２１ｆ	123.622	123.137	0.485	黒色土	礫混	
63	49	23	４Ｂ２２ｆ	123.625	123.133	0.492	黒色土	砂質シルト礫混	
64	54	23	４Ｂ２４ｉ	123.643	123.024	0.619	黒色土	均整	
65	54	23	４Ｂ２４ｈ	123.605	123.265	0.340	黒色土	均整	
66	54	23	４Ｂ２４ｈ	123.603	123.245	0.358	黒色土	礫混	
67	54	23	４Ｂ２４ｇ	123.603	123.086	0.517	黒色土	褐色砂質シルト混	
68	54	23	４Ｂ２４ｇ	123.557	123.138	0.419	黒色土	砂質シルト礫混	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
69	54	23	４Ｂ２４ｆ	123.555	123.032	0.523	黒色土	均整	
70	54	23	４Ｂ２４ｆ	123.546	123.328	0.218	黒色土	礫混	
71	54	23	４Ｂ２４ｆ	123.568	123.321	0.247	黒色土	均整	
72	49	23	４Ｂ２４ｅ	123.550	123.156	0.394	黒色土	礫混	
73	49	23	４Ｂ２１ｅ	123.675	123.151	0.524	黒色土	礫混	
74	－								欠番
75	－	23	４Ｂ２０ｆ	123.643	123.318	0.325	暗褐色土礫混	礫混	柱痕跡あり径15㎝褐色砂質シルト
76	54	23	４Ｂ２０ｅ	123.621	123.414	0.207	黒褐色土	礫混	
77	54	23	４Ｂ２０ｂ	123.625	123.189	0.436	黒色土	礫混	
78	－	23	４Ｂ２０ｄ	123.684	123.221	0.463	黒褐色土	礫混	
79	－	23	４Ｂ２３ａ	123.510	123.255	0.255	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
80	－	23	４Ｂ２２ｄ	123.707	123.494	0.213	暗褐色土	均整	
81	－	23	４Ｂ２３ｄ	123.682	123.344	0.338	暗褐色土	礫混	
82	－	23	４Ｂ２４ａ	123.665	123.536	0.129	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
83	60	23	４Ｂ２５ｃ	123.670	123.371	0.299	黒色土	礫混	
84	60	23	４Ｂ２５ｃ	123.689	123.346	0.343	黒色土	砂質シルト混	
85	49	23	５Ｂ１ｄ	123.546	123.079	0.467	黒色土	均整	
86	54	23	４Ｂ２０ｅ	123.650	123.200	0.450	黒色土	砂質シルト混	
87	－	23	４Ｂ１９ｄ	123.660	123.291	0.369	黒色土	均整	
88	－	23	４Ｂ２４ｄ	123.555	123.330	0.225	黒色土	礫混	
89	49	23	４Ｂ２５ｄ	123.551	123.013	0.538	黒色土	礫混	
90	－	23	４Ｂ２４ｂ	123.680	123.117	0.563	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
91	49	23	４Ｂ２５ｄ	123.526	123.366	0.160	黒色土	均整	
92	－	23	４Ｂ２５ｄ	123.550	123.222	0.328	黒色土	礫混	
93	53	23	４Ｂ１８ｅ	123.645	123.259	0.386	黒色土	礫混	
94	53	23	４Ｂ１９ｄ	123.489	123.256	0.233	黒色土	礫混	
95	54	23	４Ｂ２２ｅ	123.570	123.460	0.110	黒色土	均整	
96	－	23	４Ｂ２３ｃ	123.688	123.468	0.220	黒褐色土	黄褐色砂質シルト混	
97	－	23	４Ｂ１８ｅ	123.638	123.474	0.164	黒褐色土	均整	
98	49	23	４Ｂ２２ｂ	123.698	123.206	0.492	黒色土	均整	
99	－	23	４Ａ２３ｘ	123.725	123.622	0.103	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
100	－	23	４Ｂ１８ｂ	123.700	123.475	0.225	黒色土	褐色砂質シルト混	
101	62	23	４Ｂ１８ｂ	123.714	123.610	0.104	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
102	－	23	４Ｂ１８ｂ	123.713	123.160	0.553	黒色土	褐色砂質シルト混	
103	60	23	４Ｂ１９ａ	123.745	123.152	0.593	黒褐色土	均整	
104	－	23	４Ｂ１９ａ	123.449	123.318	0.131	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
105	60	23	４Ｂ１９ａ	123.739	123.615	0.124	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
106	－	23	４Ｂ１９ｂ	123.686	123.159	0.527	黒色土	褐色砂質シルト混	
107	60	23	４Ｂ１９ｂ	123.693	123.206	0.487	黒色土	褐色砂質シルト混	
108	－	23	４Ｂ２４ａ	123.665	123.380	0.285	黒色土	褐色砂質シルト混	
109	48	23	４Ｂ２４ａ	123.644	123.337	0.307	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
110	60	23	４Ｂ２５ｂ	123.633	123.403	0.230	黒色土	黄褐色砂質シルト混	
111	48	23	４Ｂ２５ａ	123.656	123.369	0.287	黒色土	褐色砂質シルト混	
112	60	23	４Ｂ２５ａ	123.604	123.416	0.188	黒色土	褐色砂質シルト混	
113	48	23	４Ｂ２５ａ	123.660	122.957	0.703	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
114	－	23	４Ａ２５ｙ	123.627	123.548	0.079	黒色土	褐色砂質シルト混	
115	48	23	４Ａ２５ｙ	123.644	123.448	0.196	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
116	－	23	４Ａ２５ｙ	123.616	123.481	0.135	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
117	48	23	４Ａ２５ｙ	123.607	123.352	0.255	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
118	－	23	４Ａ２４ｙ	123.638	123.247	0.391	黒色土	褐色砂質シルト混	
119	－	23	４Ｂ２４ａ	123.654	123.540	0.114	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
120	60	23	４Ｂ２４ａ	123.661	123.467	0.194	黒色土	褐色砂質シルト混	
121	－	23	４Ａ２４ｙ	123.654	123.380	0.274	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
122	－	23	４Ａ２４ｙ	123.644	123.489	0.155	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
123	－	23	４Ａ２４ｙ	123.657	123.200	0.457	黒色土	褐色砂質シルト混	
124	48	23	４Ｂ２４ａ	123.650	123.019	0.631	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
125	－	23	４Ｂ２３ａ	123.685	123.420	0.265	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
126	48	23	４Ａ２４ｙ	123.642	123.292	0.350	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
127	－	23	４Ａ２４ｙ	123.692	123.429	0.263	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
128	60	23	４Ａ２３ｙ	123.691	123.452	0.239	黒色土	褐色砂質シルト混	
129	－	23	４Ｂ２３ａ	123.669	123.348	0.321	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
130	－	23	４Ａ２４ｙ	123.649	123.442	0.207	黒色土	均整	
131	－	23	４Ｂ２３ａ	123.694	123.110	0.584	黒色土	褐色砂質シルト混	
132	－	23	４Ａ２３ｙ	123.694	123.382	0.312	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
133	－	23	４Ａ２３ｙ	123.693	123.242	0.451	黒褐色土	褐色砂質シルト礫混	
134	－	23	４Ａ２２ｙ	123.745	123.440	0.305	黒色土	褐色砂質シルト混	
135	48	23	４Ｂ２１ｊ	123.750	123.237	0.513	黒色土	褐色砂質シルト混	
136	48	23	４Ａ２２ｙ	123.740	123.394	0.346	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
137	－	23	４Ｂ１９ｂ	123.453	123.271	0.182	黒色土	均整	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
138	48	23	４Ａ２２ｙ	123.737	123.292	0.445	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
139	60	23	４Ａ２２ｙ	123.757	123.382	0.375	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
140	53	23	４Ａ２２ｙ	123.784	123.348	0.436	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径14㎝黒色土均整
141	－	23	４Ｂ１８ｃ	123.708	123.581	0.127	暗褐色土	黄褐色砂質シルト混	
142	54	23	４Ｂ２０ｆ	123.665	123.255	0.410	黒褐色土	礫混	
143	49	23	４Ｂ２４ｃ	123.425	123.105	0.320	黒色土	黄褐色砂質シルト・礫混	
144	58	23	４Ｂ１８ａ	123.429	122.960	0.469	黒褐色土	均整	
145	58	23	４Ｂ１８ａ	123.458	122.992	0.466	黒色土	均整	
146	60	23	４Ｂ２４ｃ	123.680	122.928	0.752	黒色土	黄褐色砂質シルト混	
147	49	23	４Ｂ２４ｆ	123.564	123.055	0.509	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
148	49	23	４Ｂ２４ｇ	123.544	123.063	0.481	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
149	－	23	４Ｂ２３ｆ	123.570	123.273	0.297	黒色土	礫混	
150	54	23	４Ｂ２４ｅ	123.525	123.049	0.476	黒色土	礫混	
151	49	23	４Ｂ２３ｃ	123.680	123.295	0.385	黒色土	礫混	
152	49	23	４Ｂ２４ｃ	123.704	123.252	0.452	黒色土	褐色砂質シルト混	
153	－	23	４Ｂ２４ｃ	123.567	123.448	0.119	黒色土	褐色砂質シルト混	
154	－	23	４Ａ２３ｘ	123.740	123.630	0.110	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
155	－	23	４Ａ２３ｘ	123.750	123.455	0.295	黒色土	褐色砂質シルト混	
156	－	23	４Ａ２３ｘ	123.742	123.551	0.191	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
157	48	23	５Ａ１ｘ	123.646	123.145	0.501	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
158	－	24	４Ａ２５ｖ	123.674	123.530	0.144	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
159	－	24	４Ａ２３ｗ	123.775	123.500	0.275	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
160	54	23	４Ｂ２２ｆ	123.339	123.135	0.204	黒色土	均整	
161	54	23	４Ｂ２１ｅ	123.632	123.124	0.508	黒色土	均整	
162	49	23	４Ｂ２２ｃ	123.665	123.029	0.636	黒色土	均整	
163	53	23	４Ｂ１９ｃ	123.607	123.239	0.368	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
164	49	23	４Ｂ２３ｃ	123.638	123.137	0.501	黒褐色土	均整	
165	54	23	４Ｂ２５ｇ	123.581	123.245	0.336	黒色土	均整	
166	－	24	５Ａ１ｖ	123.671	123.223	0.448	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
167	－	24	４Ａ２３ｖ	123.745	123.528	0.217	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
168	49	23	４Ｂ２１ｄ	123.674	123.229	0.445	黒色土	礫混	
169	－	23	４Ｂ１９ｄ	123.665	123.395	0.270	黒色土	均整	
170	－	23	４Ｂ１９ｄ	123.687	123.265	0.422	黒色土	均整	
171	53	23	４Ｂ１９ｂ	123.640	123.277	0.363	黒色土	褐色砂質シルト混	
172	－	23	４Ｂ１９ｃ	123.687	123.287	0.400	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
173	53	24	４Ａ２２ｙ	123.776	123.527	0.249	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
174	－	24	４Ａ２５ｖ	123.697	123.523	0.174	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
175	48	24	４Ａ２３ｖ	123.773	123.527	0.246	黒色土	褐色砂質シルト混	
176	48	24	４Ａ２３ｖ	123.749	123.247	0.502	黒色土	礫混	
177	－	24	４Ａ２３ｕ	123.741	123.492	0.249	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
178	－	24	４Ａ２３ｕ	123.737	123.275	0.462	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
179	－	24	４Ａ２３ｕ	123.724	123.598	0.126	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
180	48	24	４Ａ２３ｖ	123.716	123.260	0.456	黒褐色土	礫混	
181	48	24	４Ａ２４ｖ	123.713	123.234	0.479	黒褐色土	礫混	
182	－	24	４Ａ２３ｕ	123.706	123.495	0.211	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
183	49	23	４Ｂ２０ｆ	123.687	123.162	0.525	黒色土	礫混	
184	－	23	４Ａ２４ｘ	123.507	123.345	0.162	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
185	54	23	４Ｂ２５ｅ	123.529	123.157	0.372	黒色土	均整	
186	－	23	４Ｂ２３ｂ	123.527	123.065	0.462	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
187	－	23	４Ｂ２５ａ	123.645	123.252	0.393	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
188	－	23	４Ｂ２４ａ	123.665	123.342	0.323	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
189	－	23	４Ｂ２３ａ	123.665	123.470	0.195	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
190	54	23	４Ｂ２３ｈ	123.665	123.379	0.286	黒色土	均整	
191	54	23	４Ｂ２３ｈ	123.659	123.112	0.547	黒色土	均整	
192	50	23	４Ｂ２２ｈ	123.607	123.379	0.228	黒色土	均整	
193	54	23	４Ｂ２２ｈ	123.605	123.254	0.351	黒色土	均整	
194	－	23	４Ａ２３ｙ	123.715	123.370	0.345	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
195	54	23	４Ｂ２４ｉ	123.608	123.420	0.188	黒色土	礫混	
196	49	23	４Ｂ２３ｆ	123.577	123.107	0.470	黒色土	均整	
197	49	23	４Ｂ２２ｆ	123.475	123.026	0.449	黒色土	礫混	柱痕跡あり褐色砂質シルト
198	－	23	４Ａ２３ｙ	123.715	123.583	0.132	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
199	54	23	４Ｂ２３ｆ	123.513	123.087	0.426	黒色土	均整	
200	49	23	４Ｂ２３ｆ	123.542	123.352	0.190	黒色土	均整	
201	49	23	４Ｂ２２ｃ	123.685	123.134	0.551	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
202	－	23	４Ｂ２２ｆ	123.632	123.307	0.325	黒色土	礫混	
203	－	23	４Ｂ１６ｎ	123.633	123.328	0.305	黒褐色土	礫混	
204	53	23	４Ｂ１９ｂ	123.702	123.128	0.574	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
205	62	23	４Ｂ１８ｂ	123.725	123.307	0.418	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
206	54	23	４Ｂ２１ｅ	123.539	123.380	0.159	黒色土	均整	

番号	RB	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
207	－	23	４Ａ２３ｙ	123.696	123.507	0.189	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
208	－	23	４Ａ１５ｙ	123.670	123.530	0.140	黒色土	褐色砂質シルト混	
209	48	23	４Ａ２２ｙ	123.750	123.235	0.515	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
210	－	23	４Ｂ２４ｉ	123.607	123.355	0.252	黒色土	礫混	
211	－	23	４Ｂ２３ｉ	123.665	123.195	0.470	黒色土	礫混	
212	－	23	５Ａ１ｗ	123.630	123.369	0.261	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
213	－	23	５Ａ１ｘ	123.646	123.362	0.284	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
214	－	23	５Ａ１ｗ	123.611	123.376	0.235	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
215	－	24	５Ａ２ｕ	123.683	123.524	0.159	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
216	－	24	５Ａ２ｕ	123.666	123.450	0.216	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
217	－	23	４Ａ２５ｗ	123.648	123.489	0.159	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
218	60	23	４Ｂ１９ｂ	123.695	122.986	0.709	黒褐色土	礫混	
219	60	23	４Ｂ１９ｂ	123.670	123.200	0.470	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
220	53	23	４Ａ２０ｘ	123.160	123.246	-0.086	黒褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径18㎝黒褐色土均整
221	54	23	４Ｂ２３ｆ	123.470	123.190	0.280	黒色土	均整	
222	48	24	４Ａ２５ｗ	123.625	123.287	0.338	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
223	48	24	５Ａ１ｖ	123.646	123.280	0.366	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
224	－	24	４Ａ２５ｗ	123.653	123.363	0.290	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
225	48	23	４Ａ２０ｙ	123.750	123.294	0.456	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径10㎝黒褐色土均整
226	60	23	４Ａ２０ｙ	123.752	123.442	0.310	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
227	60	23	４Ａ２０ｙ	123.751	123.420	0.331	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
228	48	23	４Ａ１９ｙ	123.735	123.295	0.440	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
229	60	23	４Ａ１９ｙ	123.759	123.435	0.324	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
230	60	23	４Ａ１９ｙ	123.752	123.495	0.257	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
231	62	23	４Ａ１９ｙ	123.737	123.281	0.456	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
232	58	23	４Ａ１９ｙ	123.735	123.215	0.520	黒色土	褐色砂質シルト混	
233	58	23	４Ａ１８ｙ	123.735	122.965	0.770	黒褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径30㎝黒褐色土均整
234	62	23	４Ａ１５ｘ	123.710	123.285	0.425	黒色土	均整	
235	－	23	４Ｂ１８ａ	123.699	123.142	0.557	黒褐色土	礫混	
236	48	23	４Ａ１８ｙ	123.735	123.292	0.443	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
237	58	23	４Ａ１８ｙ	123.728	123.472	0.256	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
238	－	23	４Ａ１７ｙ	123.733	123.590	0.143	黒褐色土	均整	
239	53	23	４Ａ１７ｙ	123.716	123.087	0.629	黒色土	褐色砂質シルト混	
240	53	23	４Ｂ１６ａ	123.696	123.042	0.654	黒色土	褐色砂質シルト礫混	柱痕跡あり径20㎝黒色土均整
241	－	23	４Ｂ１６ａ	123.675	123.521	0.154	黒色土	褐色砂質シルト混	
242	58	23	４Ｂ１６ｂ	123.675	123.312	0.363	黒色土	褐色砂質シルト混	
243	62	23	４Ａ１６ｙ	123.671	123.420	0.251	黒色土	褐色砂質シルト混	
244	52	23	４Ｂ１５ａ	123.582	123.317	0.265	黒色土	褐色砂質シルト混	
245	－	23	４Ａ１８ｙ	123.732	123.585	0.147	黒色土	褐色砂質シルト混	
246	－	23	４Ａ１９ｙ	123.745	123.630	0.115	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
247	－	23	４Ａ１６ｘ	123.716	123.540	0.176	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
248	62	23	４Ａ１６ｘ	123.707	123.519	0.188	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
249	58	23	４Ａ１６ｘ	123.695	123.357	0.338	黒色土	褐色砂質シルト混	
250	62	23	４Ａ１６ｘ	123.684	123.325	0.359	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
251	58	23	４Ｂ１８ａ	123.385	123.210	0.175	黒褐色土	礫混	
252	－	23	４Ｂ１９ｂ	123.686	123.335	0.351	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
253	62	23	４Ｂ１９ａ	123.734	123.578	0.156	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
254	－	23	４Ａ１８ｘ	123.719	123.565	0.154	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
255	48	23	４Ａ１８ｘ	123.701	123.315	0.386	黒色土	褐色砂質シルト混	
256	61	23	４Ａ１４ｙ	123.570	123.410	0.160	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
257	－	23	４Ｂ１９ａ	123.744	123.341	0.403	黒色土	褐色砂質シルト混	
258	62	23	４Ａ１８ｙ	123.730	123.429	0.301	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
259	52	23	４Ａ１５ｙ	123.461	123.278	0.183	黒色土	均整	
260	59	23	４Ａ１４ｙ	123.572	123.345	0.227	黒色土	褐色砂質シルト混	
261	62	23	４Ａ１３ｙ	123.670	123.280	0.390	黒色土	褐色砂質シルト混	
262	62	23	４Ａ１７ｘ	123.717	123.309	0.408	黒色土	褐色砂質シルト混	
263	－	23	４Ｂ１９ａ	123.725	123.345	0.380	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
264	－	23	４Ａ１６ｙ	123.691	123.255	0.436	黒色土	褐色砂質シルト混	
265	－	23	４Ｂ１５ｂ	123.572	123.318	0.254	黒色土	褐色砂質シルト混	
266	58	23	４Ａ１６ｙ	123.660	123.315	0.345	黒色土	褐色砂質シルト混	
267	－	23	４Ａ１９ｘ	123.734	123.428	0.306	黒色土	褐色砂質シルト混	
268	－	23	４Ｂ１４ａ	123.575	123.042	0.533	暗褐色土	礫混	
269	52	23	４Ｂ１４ａ	123.606	123.394	0.212	黒色土	褐色砂質シルト混	
270	－	23	４Ａ１５ｘ	123.687	123.540	0.147	黒色土	褐色砂質シルト混	
271	－	23	４Ｂ１９ａ	123.455	123.022	0.433	黒色土	褐色砂質シルト混	
272	61	23	４Ａ１３ｙ	123.561	123.083	0.478	暗褐色土	礫混	
273	56	23	４Ａ１４ｙ	123.555	123.337	0.218	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
274	－	23	４Ａ１５ｙ	123.562	123.476	0.086	暗褐色土	均整	
275	－	23	４Ａ１５ｙ	123.580	123.361	0.219	暗褐色土	褐色砂質シルト混	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
276	56	23	４Ａ１５ｙ	123.580	123.429	0.151	黒色土	褐色砂質シルト混	
277	－	23	４Ａ１４ｙ	123.540	123.202	0.338	暗褐色土	礫混	
278	59	23	４Ａ１５ｘ	123.673	123.200	0.473	黒色土	褐色砂質シルト混	
279	－	23	４Ａ１５ｙ	123.600	123.507	0.093	黒色土	褐色砂質シルト混	
280	－	23	４Ａ１５ｘ	123.649	123.318	0.331	黒色土	均整	
281	62	23	４Ｂ１３ａ	123.555	123.288	0.267	黒色土	褐色砂質シルト混	
282	62	23	４Ｂ１３ａ	123.523	123.200	0.323	黒色土	褐色砂質シルト混	
283	61	23	４Ｂ１３ｂ	123.630	123.304	0.326	黒色土	褐色砂質シルト混	
284	56	23	４Ｂ１４ｂ	123.563	123.235	0.328	黒色土	褐色砂質シルト礫混	
285	62	23	４Ａ１４ｗ	123.693	123.331	0.362	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
286	62	23	４Ａ１３ａ	123.507	123.283	0.224	黒色土	礫混	
287	61	23	４Ｂ１２ｂ	123.689	123.355	0.334	黒色土	礫混	
288	61	23	４Ｂ１３ａ	123.497	123.365	0.132	黒色土	褐色砂質シルト混	
289	－	23	４Ｂ１４ｂ	123.564	123.377	0.187	黒色土	褐色砂質シルト混	
290	62	23	４Ｂ１６ａ	123.678	123.350	0.328	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
291	62	23	４Ａ１３ｙ	123.547	123.152	0.395	黒色土	褐色砂質シルト混	
292	－	23	４Ａ１７ｘ	123.697	123.395	0.302	黒色土	褐色砂質シルト混	
293	56	23	４Ｂ１４ａ	123.521	123.128	0.393	黒色土	褐色砂質シルト混	
294	56	23	４Ｂ１２ｂ	123.677	123.221	0.456	黒褐色土	均整	
295	62	23	４Ｂ１６ａ	123.725	123.570	0.155	黒色土	褐色砂質シルト混	
296	56	23	４Ｂ１２ｃ	123.669	123.350	0.319	黒褐色土	礫混	
297	51	23	４Ｂ１２ｃ	123.723	123.225	0.498	黒色土	均整	
298	51	23	４Ｂ１２ｄ	123.685	123.338	0.347	黒色土	均整	
299	－	23	４Ａ１３ｙ	123.715	123.546	0.169	黒褐色土	均整	
300	62	23	４Ｂ１４ａ	123.512	123.255	0.257	黒色土	褐色砂質シルト混	
301	51	23	４Ｂ１５ｃ	123.715	123.343	0.372	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径23㎝黒色土均整
302	51	23	４Ｂ１２ｃ	123.638	123.240	0.398	黒褐色土	礫混	
303	51	23	４Ｂ１１ｅ	123.698	123.450	0.248	黒色土	褐色砂質シルト混	
304	－	23	４Ｂ１３ｂ	123.570	123.080	0.490	暗褐色土	礫混	
305	56	23	４Ａ１２ｘ	123.735	123.306	0.429	黒色土	褐色砂質シルト混	
306	－	23	４Ｂ１２ｄ	123.672	123.442	0.230	黒色土	褐色砂質シルト混	
307	51	23	４Ｂ１１ｄ	123.686	123.520	0.166	黒色土	均整	
308	51	23	４Ｂ１２ｃ	123.727	123.198	0.529	黒色土	褐色砂質シルト混	
309	51	23	４Ｂ１１ｅ	123.692	123.222	0.470	黒色土	褐色砂質シルト混	
310	－	23	４Ｂ１４ｂ	123.580	123.399	0.181	黒色土	褐色砂質シルト混	
311	56	23	４Ａ１２ｙ	123.697	123.450	0.247	黒色土	礫混	
312	51	23	４Ｂ１２ｅ	123.646	123.266	0.380	黒色土	褐色砂質シルト混	
313	－	23	４Ｂ１２ｄ	123.666	123.305	0.361	黒色土	褐色砂質シルト混	
314	－	23	４Ｂ１２ｅ	123.660	123.200	0.460	黒色土	褐色砂質シルト混	
315	－	23	４Ｂ１２ｄ	123.626	123.465	0.161	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径25㎝黒色土均整
316	59	23	４Ａ１２ｘ	123.746	123.290	0.456	黒色土	均整	
317	53	23	４Ｂ１７ａ	123.467	123.097	0.370	黒色土	褐色砂質シルト混	
318	53	23	４Ｂ１５ｄ	123.748	123.262	0.486	黒色土	均整	
319	－	23	４Ｂ１６ａ	123.678	123.435	0.243	黒色土	均整	
320	－	23	４Ｂ１６ａ	123.434	123.362	0.072	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
321	－	23	４Ｂ１３ｃ	123.685	123.395	0.290	黒色土	褐色砂質シルト混	
322	61	23	４Ａ１２ｘ	123.707	123.496	0.211	黒色土	褐色砂質シルト混	
323	62	23	４Ａ１３ｘ	123.665	123.196	0.469	黒色土	褐色砂質シルト混	
324	62	23	４Ａ１３ｗ	123.706	123.336	0.370	黒色土	褐色砂質シルト混	
325	55	23	４Ｂ１４ｄ	123.732	123.231	0.501	黒色土	褐色砂質シルト混	
326	－	23	４Ａ１２ｙ	123.730	123.560	0.170	黒色土	褐色砂質シルト混	
327	51	23	４Ｂ１５ｄ	123.721	123.335	0.386	黒色土	褐色砂質シルト混	
328	53	23	４Ｂ１６ｃ	123.735	123.191	0.544	黒色土	褐色砂質シルト混	
329	56	23	４Ｂ１２ａ	123.728	123.325	0.403	黒色土	礫混	
330	53	23	４Ｂ１６ｂ	123.726	123.075	0.651	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径25㎝黒色土
331	55	23	４Ｂ１４ｅ	123.761	122.990	0.771	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径20㎝黒色土均整
332	－	23	４Ｂ１６ｂ	123.722	123.236	0.486	黒色土	褐色砂質シルト混	
333	－	23	４Ｂ１２ｅ	123.669	123.496	0.173	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
334	51	23	４Ｂ１５ｅ	123.762	123.523	0.239	黒色土	褐色砂質シルト混	
335	－	23	４Ｂ１４ｅ	123.766	123.429	0.337	黒褐色土	均整	
336	－	23	４Ｂ１６ｂ	123.712	123.166	0.546	黒褐色土	均整	
337	51	23	４Ｂ１５ｅ	123.777	123.335	0.442	黒褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径27㎝黒色土均整
338	55	23	４Ｂ１４ｆ	123.727	123.475	0.252	黒色土	均整	
339	51	23	４Ｂ１４ｄ	123.652	123.418	0.234	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
340	－	23	４Ｂ１３ｃ	123.706	123.327	0.379	黒色土	褐色砂質シルト混	
341	51	23	４Ｂ１４ｆ	123.748	123.496	0.252	黒色土	褐色砂質シルト混	
342	51	23	４Ｂ１５ｆ	123.777	123.386	0.391	黒色土	褐色砂質シルト混	
343	－	23	４Ｂ１５ｃ	123.741	123.249	0.492	黒色土	均整	
344	62	23	４Ｂ１５ｂ	123.715	123.284	0.431	黒褐色土	褐色砂質シルト混	

番号	RB	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
345	51	23	４Ｂ１５ｅ	123.786	123.310	0.476	黒色土	褐色砂質シルト混	
346	－	23	４Ｂ１４ｆ	123.769	123.428	0.341	黒色土	均整	
347	55	23	４Ｂ１４ｅ	123.758	123.552	0.206	黒色土	均整	
348	55	23	４Ｂ１４ｅ	123.760	123.403	0.357	黒色土	均整	
349	51	23	４Ｂ１４ｅ	123.724	123.452	0.272	黒色土	褐色砂質シルト混	
350	55	23	４Ｂ１４ｆ	123.769	123.474	0.295	黒色土	均整	
351	55	23	４Ｂ１３ｇ	123.735	123.288	0.447	黒色土	礫混	
352	55	23	４Ｂ１４ｇ	123.741	123.452	0.289	黒色土	均整	
353	－	23	４Ｂ１４ｆ	123.785	123.386	0.399	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
354	－	23	４Ｂ１１ｃ	123.727	123.276	0.451	黒色土	均整	
355	－	23	４Ｂ１０ｃ	123.656	123.358	0.298	黒色土	均整	
356	－	23	４Ｂ１４ｆ	123.764	123.536	0.228	黒色土	褐色砂質シルト混	
357	－	23	４Ｂ１０ａ	123.722	123.240	0.482	黒褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径20cm黒色土均整
358	61	23	４Ａ１２ｙ	123.695	123.324	0.371	黒色土	均整	
359	61	23	４Ｂ１１ａ	123.720	123.465	0.255	黒色土	礫混	
360	－	23	４Ｂ１４ｅ	123.761	123.530	0.231	黒褐色土	均整	
361	61	23	４Ｂ１１ａ	123.724	123.281	0.443	黒色土	礫混	
362	－	23	４Ｂ１１ａ	123.720	123.472	0.248	黒色土	均整	
363	61	23	４Ｂ１１ａ	123.705	123.326	0.379	黒色土	礫混	
364	61	23	４Ａ１０ａ	123.724	123.472	0.252	黒色土	礫混	
365	61	23	４Ａ１２ｙ	123.653	123.172	0.481	黒色土	礫混	
366	－	23	４Ａ１０ｙ	123.701	123.550	0.151	黒色土	褐色砂質シルト混	
367	56	23	４Ｂ１４ｃ	123.631	123.332	0.299	黒色土	褐色砂質シルト混	
368	－	23	４Ａ１２ｘ	123.741	123.584	0.157	黒色土	均整	
369	－	23	４Ｂ１０ａ	123.706	123.407	0.299	黒褐色土	礫混	
370	56	23	４Ａ１４ｙ	123.540	123.402	0.138	黒色土	褐色砂質シルト混	
371	－	23	４Ｂ１１ａ	123.707	123.305	0.402	黒色土	礫混	
372	61	23	４Ａ１２ｘ	123.733	123.191	0.542	黒色土	礫混	
373	62	23	４Ａ１４ｘ	123.673	123.274	0.399	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
374	57	24	４Ａ１５ｗ	123.735	123.407	0.328	黒色土	褐色砂質シルト混	
375	59	24	４Ａ１２ｗ	123.710	123.377	0.333	黒色土	礫混	
376	－	24	４Ａ１５ｗ	123.668	123.470	0.198	黒色土	褐色砂質シルト混	
377	62	23	４Ａ１４ｘ	123.715	123.376	0.339	黒色土	褐色砂質シルト混	
378	61	23	４Ａ１２ｘ	123.708	123.409	0.299	黒色土	礫混	
379	52	23	４Ａ１６ｗ	123.740	123.454	0.286	黒色土	均整	
380	59	24	４Ａ１５ｗ	123.710	123.222	0.488	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径20cm黒色土
381	－	23	４Ｂ１４ｇ	123.764	123.417	0.347	黒色土	褐色砂質シルト混	
382	55	23	４Ｂ１４ｆ	123.760	123.395	0.365	黒色土	均整	
383	58	23	４Ａ１６ｘ	123.703	123.295	0.408	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
384	－	24	４Ａ１５ｖ	123.711	123.285	0.426	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径15cm黒色土
385	－	24	４Ａ１６ｗ	123.729	123.365	0.364	黒色土	褐色砂質シルト混	
386	－	24	４Ａ１２ｗ	123.668	123.340	0.328	黒色土	褐色砂質シルト混	
387	－	23	４Ａ１７ｙ	123.585	123.378	0.207	黒色土	褐色砂質シルト混	
388	52	24	４Ａ１６ｖ	123.745	123.397	0.348	黒色土	褐色砂質シルト混	
389	－	23	４Ａ１７ｗ	123.720	123.058	0.662	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径13cm黒色土
390	52	24	４Ａ１６ｖ	123.694	123.248	0.446	黒色土	均整	
391	52	23	４Ａ１６ｘ	123.692	123.436	0.256	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
392	－	23	４Ａ１７ｘ	123.683	123.323	0.360	黒色土	褐色砂質シルト混	
393	－	24	４Ａ１７ｗ	123.710	123.305	0.405	黒色土	均整	
394	－	23	４Ａ１７ｗ	123.729	123.320	0.409	黒色土	褐色砂質シルト混	
395	48	23	４Ａ１７ｘ	123.735	123.322	0.413	黒褐色土	礫混	柱痕跡あり径20cm黒色土
396	－	23	４Ａ２０ｘ	123.710	123.505	0.205	黒褐色土	均整	
397	58	23	４Ａ１９ｗ	123.742	123.390	0.352	黒色土	均整	
398	48	23	４Ａ１７ｘ	123.683	123.378	0.305	黒色土	礫混	
399	－	24	５Ａ２０ｗ	123.792	123.570	0.222	黒褐色土	均整	
400	58	24	４Ａ１９ｖ	123.733	123.440	0.293	黒色土	褐色砂質シルト混	
401	－	24	４Ａ１７ｗ	123.710	123.435	0.275	黒色土	褐色砂質シルト混	
402	－	23	４Ａ１７ｘ	123.734	123.483	0.251	黒色土	均整	
403	53	23	４Ａ１８ｘ	123.716	123.314	0.402	黒色土	褐色砂質シルト混	
404	53	23	４Ａ１６ｙ	123.515	122.970	0.545	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり黒色土礫混
405	－	3	４Ａ１９ｗ	123.733	123.499	0.234	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
406	53	24	４Ａ１９ｖ	123.753	123.485	0.268	黒色土	褐色砂質シルト混	
407	53	23	４Ａ１７ｗ	123.713	123.510	0.203	黒色土	褐色砂質シルト混	
408	－	24	４Ａ１７ｗ	123.692	123.557	0.135	黒色土	褐色砂質シルト混	
409	－	24	４Ａ１８ｗ	123.693	123.523	0.170	黒色土	均整	
410	－	24	５Ａ２０ｗ	123.768	123.658	0.110	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径15cm黒色土均整
411	48	24	４Ａ１７ｖ	123.696	123.321	0.375	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径15cm黒色土均整
412	－	24	５Ａ２０ｖ	123.772	123.397	0.375	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径16cm黒色土均整
413	58	24	４Ａ１６ｗ	123.751	123.364	0.387	暗褐色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径12cm黒色土均整

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
414	－	24	４Ａ１８ｖ	123.713	123.415	0.298	黒色土	褐色砂質シルト混	
415	48	23	４Ａ１７ｘ	123.717	123.020	0.697	黒色土	褐色砂質シルト混	
416	62	23	４Ａ１６ｙ	123.643	123.391	0.252	黒色土	褐色砂質シルト混	
417	－	24	４Ａ１６ｗ	123.692	123.561	0.131	黒色土	褐色砂質シルト混	
418	53	24	５Ａ２１ｕ	123.742	123.635	0.107	黒色土	礫混	
419	58	24	５Ａ２０ｖ	123.756	123.560	0.196	黒色土	褐色砂質シルト混	
420	58	24	４Ａ１７ｖ	123.668	123.355	0.313	黒色土	褐色砂質シルト混	
421	53	24	５Ａ２１ｖ	123.740	123.112	0.628	黒色土	礫混	
422	－	24	４Ａ１７ｖ	123.697	123.270	0.427	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径12cm黒色土均整
423	－	24	５Ａ２０ｖ	123.644	123.524	0.120	黒色土	均整	
424	－	23	４Ａ１６ｘ	123.712	123.564	0.148	黒色土	均整	
425	－	24	４Ａ１９ｖ	123.691	123.312	0.379	黒色土	褐色砂質シルト混	
426	48	24	５Ａ２１ｕ	123.750	123.284	0.466	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径12cm黒色土均整
427	48	24	４Ａ１９ｕ	123.689	123.050	0.639	黒色土	均整	
428	53	24	４Ａ１９ｕ	123.704	123.200	0.504	黒色土	礫混	
429	48	24	４Ａ１９ｕ	123.691	123.416	0.275	黒色土	褐色砂質シルト混	
430	53	24	５Ａ２０ｕ	123.694	123.045	0.649	黒色土	礫混	
431	53	23	４Ａ１９ｘ	123.755	123.219	0.536	黒色土	均整	
432	53	23	４Ａ１９ｘ	123.752	123.145	0.607	黒色土	褐色砂質シルト混	
433	－	23	４Ａ１７ｙ	123.711	123.291	0.420	黒色土	均整	
434	53	24	４Ａ１７ｗ	123.700	123.250	0.450	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
435	53	24	４Ａ１８ｖ	123.694	123.200	0.494	黒色土	均整	
436	－	24	５Ａ２１ｔ	123.565	123.376	0.189	黒色土	褐色砂質シルト混	
437	51	23	４Ｂ１２ｅ	123.598	123.283	0.315	黒色土	均整	
438	－	23	４Ｂ１３ｅ	123.572	123.338	0.234	黒色土	均整	
439	－	23	４Ｂ１３ｅ	123.570	123.436	0.134	黒色土	均整	
440	53	24	４Ａ１７ｖ	123.692	123.249	0.443	黒色土	均整	
441	53	24	４Ａ１８ｔ	123.670	123.276	0.394	黒色土	褐色砂質シルト混	
442	－	23	４Ａ２０ｘ	123.750	123.473	0.277	黒褐色土	均整	
443	48	24	４Ａ１７ｖ	123.696	123.547	0.149	黒色土	褐色砂質シルト混	
444	53	24	４Ａ１８ｕ	123.680	123.229	0.451	黒色土	褐色砂質シルト混	柱痕跡あり径23cm暗褐色土褐色砂質シルト混
445	48	24	４Ａ１７ｕ	123.691	123.545	0.146	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
446	48	24	４Ａ１８ｔ	123.665	123.344	0.321	黒色土	均整	
447	53	24	４Ａ１７ｖ	123.702	123.255	0.447	黒色土	均整	
448	－	24	４Ａ１７ｖ	123.684	123.518	0.166	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
449	－	24	５Ａ２０ｕ	123.494	123.249	0.245	黒褐色土	均整	
450	48	24	４Ａ１８ｕ	123.680	123.013	0.667	黒色土	褐色砂質シルト混	
451	58	24	４Ａ１７ｖ	123.696	123.245	0.451	黒色土	褐色砂質シルト混	
452	58	24	４Ａ１８ｔ	123.687	123.507	0.180	黒色土	褐色砂質シルト混	
453	58	24	４Ａ１７ｕ	123.693	123.475	0.218	黒色土	褐色砂質シルト混	
454	58	24	５Ａ２０ｕ	123.755	123.271	0.484	黒色土	褐色砂質シルト混	
455	53	23	４Ａ１８ｔ	123.670	123.522	0.148	黒色土	褐色砂質シルト混	
456	－	23	４Ａ１６ｔ	123.660	123.278	0.382	黒色土	褐色砂質シルト混	
457	－	24	４Ａ２０ｕ	123.703	123.535	0.168	黒色土	褐色砂質シルト混	
458	－	24	４Ａ１６ｕ	123.690	123.370	0.320	黒色土	褐色砂質シルト混	
459	－	24	４Ａ１７ｕ	123.687	123.335	0.352	黒色土	褐色砂質シルト混	
460	48	24	４Ａ１７ｔ	123.656	123.482	0.174	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
461	－	23	４Ａ１７ｔ	123.674	123.268	0.406	黒色土	褐色砂質シルト混	
462	－	24	４Ａ１７ｕ	123.674	123.503	0.171	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
463	－	24	４Ａ１５ｕ	123.714	123.460	0.254	黒色土	褐色砂質シルト混	
464	52	24	４Ａ１６ｕ	123.684	123.322	0.362	黒色土	褐色砂質シルト混	
465	58	23	４Ａ１７ｔ	123.630	123.489	0.141	黒色土	褐色砂質シルト混	
466	－	23	４Ａ１７ｔ	123.676	123.280	0.396	黒色土	褐色砂質シルト混	
467	－	24	４Ａ１６ｕ	123.674	123.457	0.217	黒色土	均整	
468	－	24	４Ａ１５ｕ	123.730	123.358	0.372	黒色土	均整	
469	57	24	４Ａ１５ｕ	123.687	123.192	0.495	黒色土	褐色砂質シルト混	
470	－	23	４Ａ１７ｔ	123.675	123.496	0.179	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
471	－	24	４Ａ１６ｕ	123.685	123.427	0.258	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
472	53	24	４Ａ１７ｔ	123.670	123.256	0.414	黒色土	均整	
473	59	24	４Ａ１６ｕ	123.684	123.168	0.516	黒色土	褐色砂質シルト混	
474	52	23	４Ａ１４ｔ	123.662	123.324	0.338	黒色土	均整	
475	52	24	４Ａ１５ｔ	123.667	123.347	0.320	黒色土	均整	
476	52	24	４Ａ１４ｕ	123.661	123.215	0.446	黒色土	礫混	
477	52	24	４Ａ１６ｕ	123.665	123.577	0.088	黒褐色土	均整	
478	－	23	４Ａ１４ｓ	123.615	123.200	0.415	黒色土	均整	
479	－	24	４Ａ１３ｕ	123.630	123.097	0.533	黒色土	均整	
480	－	23	４Ａ１９ｓ	123.850	123.584	0.266	黒色土	褐色砂質シルト混	
481	－	24	４Ａ１２ｗ	123.730	123.332	0.398	黒色土	均整	
482	－	24	４Ａ１５ｖ	123.730	123.285	0.445	黒褐色土	均整	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
483	59	24	４Ａ１５ｖ	123.730	123.375	0.355	黒色土	褐色砂質シルト混	
484	59	24	４Ａ１３ｕ	123.655	123.255	0.400	黒色土	礫混	
485	50	23	４Ｂ２１ｊ	123.647	123.522	0.125	黒色土	褐色砂質シルト混	
486	57	24	４Ａ１３ｕ	123.660	123.215	0.445	黒色土	均整	
487	57	23	４Ａ１４ｓ	123.520	123.015	0.505	黒色土	均整	
488	－	24	４Ａ１３ｖ	123.635	123.355	0.280	黒色土	均整	
489	57	23	４Ａ１３ｔ	123.630	123.125	0.505	黒色土	礫混	
490	59	23	４Ａ１３ｔ	123.605	123.090	0.515	黒色土	礫混	
491	－	23	４Ａ１７ｎ	123.518	123.108	0.410	黒色土	均整	
492	－	23	４Ａ１４ｑ	123.515	123.190	0.325	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
493	－	23	４Ａ１８ｍ	123.530	123.344	0.186	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
494	－	23	４Ａ１９ｒ	123.544	123.274	0.270	黒色土	褐色砂質シルト混	
495	－	23	４Ａ１７ｍ	123.520	123.054	0.466	黒色土	礫混	
496	－	23	４Ａ１６ｍ	123.506	123.256	0.250	黒色土	均整	
497	－	23	４Ａ１６ｍ	123.536	123.178	0.358	黒色土	均整	
498	－	23	４Ａ１５ｌ	123.548	123.276	0.272	暗褐色土	礫混	
499	－	23	４Ａ１５ｎ	123.536	123.234	0.302	暗褐色土	均整	
500	－	23	４Ａ１７ｌ	123.528	123.326	0.202	黒色土	均整	
501	－	23	４Ａ１７ｋ	123.510	123.092	0.418	黒色土	均整	
502	－	23	４Ａ１６ｋ	123.506	123.326	0.180	暗褐色土	礫混	
503	－	23	４Ａ１６ｋ	123.544	123.360	0.184	黒色土	均整	
504	－	23	４Ａ１７ｊ	123.506	123.126	0.380	黒色土	均整	
505	－	23	４Ａ１６ｌ	123.524	123.398	0.126	黒色土	均整	
506	－	23	４Ａ１６ｊ	123.516	123.364	0.152	黒色土	褐色砂質シルト混	
507	－	23	４Ａ１４ｍ	123.544	123.352	0.192	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
508	－	23	４Ａ１５ｌ	123.546	123.266	0.280	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
509	－	23	４Ａ１６ｋ	123.546	123.104	0.442	黒色土	均整	
510	－	23	４Ａ１３ｍ	123.456	123.282	0.174	暗褐色土	均整	
511	－	23	４Ａ１４ｌ	123.542	123.364	0.178	暗褐色土	均整	
512	－	23	４Ａ１６ｊ	123.506	123.254	0.252	黒色土	均整	
513	－	23	４Ａ１２ｌ	123.426	123.098	0.328	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
514	－	23	４Ａ１３ｋ	123.426	123.154	0.272	暗褐色土	均整	
515	－	23	４Ａ１２ｋ	123.414	122.994	0.420	暗褐色土	均整	
516	－	23	４Ａ１５ｉ	123.494	123.294	0.200	黒色土	褐色砂質シルト混	
517	－	23	４Ａ１２ｋ	123.468	123.034	0.434	黒色土	均整	
518	－	23	４Ａ１４ｊ	123.512	123.234	0.278	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
519	－	23	４Ａ１８ｄ	123.470	123.355	0.115	黒色土	褐色砂質シルト混	
520	－	23	４Ａ１９ｆ	123.502	123.370	0.132	黒色土	褐色砂質シルト混	
521	－	23	４Ａ１９ｈ	123.498	122.944	0.554	黒色土	均整	
522	－	23	４Ａ１４ｊ	123.506	123.350	0.156	黒色土	褐色砂質シルト混	
523	－	23	４Ａ１９ｉ	123.492	123.058	0.434	黒色土	均整	
524	－	23	４Ａ１９ｅ	123.545	123.330	0.215	黒色土	均整	
525	－	23	４Ａ１９ｇ	123.500	123.365	0.135	黒色土	均整	
526	－	23	４Ａ１９ｇ	123.515	123.350	0.165	黒色土	均整	
527	－	23	４Ａ２０ｅ	123.545	123.415	0.130	黒色土	褐色砂質シルト混	
528	－	23	４Ａ１９ｇ	123.515	123.330	0.185	黒色土	褐色砂質シルト混	
529	－	23	４Ａ１９ｈ	123.496	123.218	0.278	黒色土	褐色砂質シルト混	
530	－	23	４Ａ１８ｆ	123.525	123.130	0.395	黒色土	褐色砂質シルト混	
531	－	23	４Ａ１９ｆ	123.545	123.370	0.175	黒色土	均整	
532	－	23	４Ａ１８ｅ	123.300	123.190	0.110	黒色土	均整	
533	－	23	４Ａ１７ｆ	123.465	123.395	0.070	黒色土	均整	
534	－	23	４Ａ１８ｉ	123.494	123.286	0.208	黒褐色土	均整	
535	－	23	４Ａ１８ｄ	123.505	123.384	0.121	黒色土	褐色砂質シルト混	
536	－	23	５Ａ２ｖ	123.475	123.460	0.015	黒色土	均整	
537	－	23	４Ａ１８ｈ	123.446	123.284	0.162	黒褐色土	均整	
538	－	23	４Ａ１７ｇ	123.475	123.225	0.250	黒色土	均整	
539	－	23	４Ａ１７ｇ	123.485	123.320	0.165	黒色土	均整	
540	－	23	４Ａ１５ｈ	123.502	123.346	0.156	黒色土	褐色砂質シルト混	
541	－	23	４Ａ１４ｈ	123.220	123.445	-0.225	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
542	－	23	４Ａ１７ｉ	123.492	123.302	0.190	暗褐色土	均整	
543	－	23	４Ａ１５ｆ	123.490	123.295	0.195	暗褐色土	均整	
544	－	23	４Ａ１４ｆ	123.435	123.115	0.320	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
545	－	23	４Ａ１４ｅ	123.440	123.300	0.140	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
546	－	23	４Ａ１５ｅ	123.410	123.230	0.180	暗褐色土	均整	
547	－	23	４Ａ１４ｆ	123.440	123.285	0.155	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
548	－	23	４Ａ１７ｅ	123.505	123.340	0.165	黒色土	均整	
549	－	23	４Ａ１６ｅ	123.440	123.190	0.250	黒色土	均整	
550	－	23	４Ａ２２ｅ	123.515	123.290	0.225	黒色土	均整	
551	－	23	４Ａ１５ｅ	123.455	123.355	0.100	暗褐色土	均整	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
552	－	23	４Ａ２１ｆ	123.545	123.330	0.215	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
553	－	23	４Ａ２３ｇ	123.560	123.335	0.225	黒色土	均整	
554	－	23	４Ａ１８ｄ	123.453	123.115	0.338	黒色土	褐色砂質シルト混	
555	－	23	４Ａ２４ｆ	123.505	123.165	0.340	黒色土	均整	
556	－	23	４Ａ２３ｆ	123.545	123.415	0.130	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
557	－	23	４Ａ２３ｇ	123.560	123.280	0.280	黒色土	均整	
558	－	23	４Ａ２３ｅ	123.530	123.280	0.250	黒色土	均整	
559	－	23	４Ａ２２ｆ	123.540	123.395	0.145	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
560	－	23	４Ａ２２ｆ	123.565	123.185	0.380	黒色土	均整	
561	－	23	４Ａ２３ｄ	123.515	123.280	0.235	黒褐色土	均整	
562	－	23	４Ａ２２ｅ	123.545	123.410	0.135	黒色土	均整	
563	－	23	４Ａ２３ｅ	123.530	123.295	0.235	黒色土	均整	
564	－	23	４Ａ２３ｃ	123.495	123.210	0.285	黒色土	均整	
565	－	23	４Ａ２５ｄ	123.455	123.310	0.145	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
566	－	23	４Ａ２３ｇ	123.540	123.280	0.260	黒色土	褐色砂質シルト混	
567	－	23	４Ａ２４ｂ	123.470	123.180	0.290	黒色土	均整	
568	－	23	４Ａ２２ｃ	123.490	123.395	0.095	黒色土	褐色砂質シルト混	
569	－	23	４Ａ２３ｂ	123.375	123.210	0.165	黒色土	均整	
570	－	23	４Ａ２２ｃ	123.520	123.350	0.170	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
571	－	23	４Ａ２５ａ	123.465	123.400	0.065	黒色土	均整	
572	－	23	４Ａ２２ｂ	123.490	123.235	0.255	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
573	－	23	５Ａ２ｙ	123.465	123.220	0.245	黒色土	褐色砂質シルト混	
574	－	23	４Ａ２２ｂ	123.490	123.360	0.130	黒色土	褐色砂質シルト混	
575	－	23	４Ａ２２ｂ	123.440	123.270	0.170	黒色土	褐色砂質シルト混	
576	－	23	４Ａ２１ｂ	123.465	123.285	0.180	黒色土	褐色砂質シルト混	
577	－	23	４Ｙ２３ｙ	123.340	123.115	0.225	黒色土	均整	
578	－	23	５Ａ１ｘ	123.460	123.190	0.270	黒色土	均整	
579	－	23	４Ａ２２ａ	123.390	123.045	0.345	黒色土	均整	
580	－	23	４Ａ２２ｂ	123.445	123.195	0.250	黒色土	褐色砂質シルト混	
581	－	23	５Ａ１ｘ	123.405	123.065	0.340	黒色土	褐色砂質シルト混	
582	－	23	４Ａ２２ｂ	123.440	123.160	0.280	黒色土	褐色砂質シルト混	
583	－	23	４Ｙ２２ｙ	123.390	123.090	0.300	黒色土	褐色砂質シルト混	
584	－	23	５Ａ２ｘ	123.450	123.320	0.130	暗褐色土	均整	
585	－	23	４Ａ２２ａ	123.405	123.140	0.265	黒色土	褐色砂質シルト混	
586	－	23	４Ｙ２５ｙ	123.450	123.080	0.370	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
587	－	23	４Ｙ２３ｙ	123.350	123.185	0.165	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
588	－	23	５Ａ１ｘ	123.450	123.240	0.210	黒色土	均整	
589	－	23	４Ａ２２ａ	123.450	123.160	0.290	黒褐色土	均整	
590	－	23	４Ｙ２３ｙ	123.370	123.197	0.173	黒色土	均整	
591	－	23	４Ｙ２５ｘ	123.435	123.195	0.240	黒色土	均整	
592	－	23	４Ｙ２３ｙ	123.370	123.145	0.225	黒色土	均整	
593	－	23	５Ａ２ｖ	123.475	123.250	0.225	黒色土	褐色砂質シルト混	
594	－	23	４Ｙ２２ｙ	123.430	123.215	0.215	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
595	－	23	４Ａ２５ｖ	123.455	123.275	0.180	黒色土	均整	
596	－	23	４Ｙ２４ｙ	123.430	123.170	0.260	暗褐色土	均整	
597	－	23	４Ａ２５ｕ	123.465	123.270	0.195	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
598	－	23	５Ａ２ｖ	123.465	123.350	0.115	黒色土	褐色砂質シルト混	
599	－	23	４Ａ２２ｘ	123.410	123.260	0.150	黒色土	褐色砂質シルト混	
600	－	23	４Ａ２２ｘ	123.420	123.230	0.190	黒色土	褐色砂質シルト混	
601	－	23	５Ａ１ｔ	123.490	123.285	0.205	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
602	－	23	４Ａ２２ｘ	123.395	123.160	0.235	黒色土	均整	
603	－	23	５Ａ１ｓ	123.460	123.280	0.180	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
604	－	23	５Ａ２ｓ	123.425	123.165	0.260	黒色土	均整	
605	－	23	５Ａ１ｑ	123.485	123.270	0.215	黒色土	均整	
606	－	23	５Ａ１ｒ	123.485	123.230	0.255	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
607	－	23	５Ａ２ｓ	123.425	123.210	0.215	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
608	－	23	５Ａ１ｒ	123.445	123.205	0.240	黒色土	褐色砂質シルト混	
609	－	23	４Ａ２５ｒ	123.450	123.145	0.305	暗褐色土	均整	
610	－	23	５Ａ１ｔ	123.475	123.255	0.220	黒色土	均整	
611	－	23	４Ｙ２５ｘ	123.450	123.080	0.370	黒色土	褐色砂質シルト混	
612	－	23	４Ａ２５ｑ	123.485	123.260	0.225	黒色土	均整	
613	－	23	４Ａ２５ｒ	123.450	123.240	0.210	黒色土	褐色砂質シルト混	
614	－	23	５Ａ２ｔ	123.500	123.385	0.115	黒色土	褐色砂質シルト混	
615	－	23	４Ａ２５ｒ	123.440	123.305	0.135	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
616	－	23	４Ａ２５ｒ	123.405	123.255	0.150	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
617	－	23	４Ａ２５ｓ	123.435	123.305	0.130	黒色土	褐色砂質シルト混	
618	－	23	４Ａ２５ｑ	123.460	123.240	0.220	黒色土	褐色砂質シルト混	
619	－	23	４Ａ２５ｓ	123.455	123.320	0.135	黒色土	褐色砂質シルト混	
620	－	23	４Ａ２４ｒ	123.410	123.305	0.105	黒色土	均整	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
621	－	23	４Ａ２４ｓ	123.445	123.270	0.175	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
622	－	23	４Ａ２４ｑ	123.430	123.175	0.255	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
623	－	23	４Ａ２４ｒ	123.430	123.225	0.205	黒褐色土	均整	
624	－	23	４Ａ２５ｔ	123.460	123.290	0.170	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
625	－	23	５Ａ１ｓ	123.460	123.220	0.240	黒色土	均整	
626	－	23	４Ａ２４ｔ	123.420	123.295	0.125	黒色土	均整	
627	－	23	４Ａ２５ｗ	123.450	123.270	0.180	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
628	－	23	４Ａ２４ｓ	123.365	123.150	0.215	黒色土	褐色砂質シルト混	
629	48	23	４Ａ２４ｘ	123.615	123.230	0.385	黒色土	褐色砂質シルト混	
630	－	23	４Ａ１８ｈ	123.285	123.105	0.180	黒色土	均整	
631	－	23	４Ａ２３ｓ	123.385	123.130	0.255	黒褐色土	均整	
632	－	23	４Ａ２１ｒ	123.240	123.000	0.240	黒色土	均整	
633	－	23	４Ａ２２ｕ	123.330	123.205	0.125	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
634	－	23	４Ａ２２ｔ	123.290	123.150	0.140	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
635	－	23	４Ａ２２ｖ	123.360	123.250	0.110	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
636	－	23	４Ａ２２ｔ	123.310	123.190	0.120	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
637	－	23	４Ａ２１ｒ	123.270	123.040	0.230	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
638	－	23	４Ａ２１ｒ	123.250	123.131	0.119	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
639	－	23	４Ａ２０ｒ	123.300	123.175	0.125	暗褐色土	均整	
640	－	23	４Ａ２２ｕ	123.360	123.250	0.110	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
641	－	23	４Ａ２１ｔ	123.320	123.125	0.195	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
642	－	23	４Ａ２０ｓ	123.330	123.160	0.170	黒褐色土	均整	
643	－	23	４Ａ２０ｓ	123.370	123.225	0.145	黒褐色土	均整	
644	－	23	４Ａ１９ｔ	123.415	123.290	0.125	黒色土	褐色砂質シルト混	
645	－	23	４Ａ２１ｔ	123.350	123.110	0.240	黒色土	褐色砂質シルト混	
646	－	23	４Ａ２１ｔ	123.320	122.885	0.435	黒色土	均整	
647	－	23	４Ａ２０ｕ	123.335	123.035	0.300	黒色土	褐色砂質シルト混	
648	－	23	４Ａ１９ｓ	123.320	123.140	0.180	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
649	－	23	４Ａ２０ｄ	123.530	123.375	0.155	黒色土	褐色砂質シルト混	
650	－	23	４Ａ２０ｔ	123.350	123.100	0.250	黒色土	褐色砂質シルト混	
651	－	23	４Ａ１９ｔ	123.320	123.215	0.105	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
652	－	23	４Ａ１９ｖ	123.425	123.225	0.200	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
653	－	23	４Ａ１９ｕ	123.360	123.130	0.230	黒色土	均整	
654	－	23	４Ａ２０ｕ	123.360	123.140	0.220	黒色土	均整	
655	－	23	４Ａ２１ｕ	123.310	123.135	0.175	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
656	－	23	５Ａ１ｖ	123.445	123.310	0.135	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
657	－	23	４Ａ１９ｕ	123.275	123.140	0.135	黒色土	均整	
658	－	23	４Ａ２１ｘ	123.390	123.270	0.120	黒色土	褐色砂質シルト混	
659	－	23	４Ａ２２ｖ	123.330	123.195	0.135	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
660	－	23	４Ｙ１７ｖ	123.490	123.315	0.175	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
661	－	23	４Ｙ１８ｘ	123.455	123.185	0.270	黒褐色土	均整	
662	－	23	４Ｙ１８ｗ	123.485	123.255	0.230	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
663	－	23	４Ａ１９ａ	123.480	123.390	0.090	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
664	－	23	４Ａ２０ｘ	123.340	123.255	0.085	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
665	－	23	４Ａ１７ｖ	123.495	123.370	0.125	黒褐色土	均整	
666	－	23	４Ｙ１８ｗ	123.470	123.265	0.205	黒色土	均整	
667	－	23	４Ｙ１８ｙ	123.490	123.335	0.155	黒色土	均整	
668	－	23	４Ｙ１７ｙ	123.480	123.375	0.105	黒色土	均整	
669	－	23	４Ａ１８ａ	123.485	123.145	0.340	黒色土	均整	
670	－	23	４Ａ１７ａ	123.460	123.310	0.150	暗褐色土	均整	
671	－	23	４Ｙ１８ｙ	123.480	123.380	0.100	黒色土	褐色砂質シルト混	
672	－	23	４Ａ１８ｂ	123.460	123.095	0.365	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
673	－	23	４Ａ１８ｃ	123.465	123.290	0.175	黒色土	褐色砂質シルト混	
674	－	23	５Ａ２ｘ	123.450	123.238	0.212	黒色土	均整	
675	－	23	４Ａ１６ｃ	123.430	123.175	0.255	暗褐色土	褐色砂質シルト混	
676	－	23	４Ａ２１ｄ	123.535	123.405	0.130	黒色土	褐色砂質シルト混	
677	－	23	４Ａ２１ｄ	123.535	123.385	0.150	黒色土	褐色砂質シルト混	
678	－	23	４Ａ１７ｃ	123.460	123.315	0.145	黒色土	褐色砂質シルト混	
679	－	23	４Ａ２０ｃ	123.495	123.330	0.165	黒色土	均整	
680	－	23	４Ｙ１６ｙ	123.460	123.130	0.330	暗褐色土	均整	
681	－	23	４Ａ１９ｂ	123.450	123.190	0.260	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
682	－	23	４Ａ１９ｂ	123.450	123.135	0.315	黒色土	均整	
683	－	23	４Ｙ２２ｙ	123.395	123.170	0.225	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
684	－	23	４Ｙ１６ｘ	123.495	123.110	0.385	黒褐色土	褐色砂質シルト混	
685	53	23	４Ｂ１８ｄ	123.420	123.270	0.150	黒色土	礫混	
686	51	23	４Ｂ１３ｆ	123.655	123.320	0.335	黒色土	礫混	
687	53	23	４Ｂ２０ｂ	123.700	123.450	0.250	黒色土	褐色砂質シルト混	
688	－	23	４Ｂ２０ｄ	123.670	123.430	0.240	黒色土	礫混	
689	53	24	４Ａ２１ｖ	123.795	123.615	0.180	黒色土	均整	

番号	ＲＢ	23・24次	グリッド位置	上端標高(m)	底面標高(m)	深さ(m)	埋土	土質	その他
690	－	24	４Ａ２１ｕ	123.715	123.515	0.200	黒色土	褐色砂質シルト混	
691	51	23	４Ｂ１３ｃ	123.645	123.230	0.415	黒色土	褐色砂質シルト混	
692	53	23	４Ｂ１５ｃ	123.705	123.005	0.700	黒色土	礫混	
693	48	24	４Ａ２４ｖ	123.675	123.265	0.410	黒色土	褐色砂質シルト混	
694	－	24	４Ａ２４ｖ	123.660	123.455	0.205	黒色土	褐色砂質シルト混	
695	－	23	４Ａ１３ｙ	123.692	123.410	0.282	黒色土	礫混	
696	48	24	４Ａ２４ｖ	123.672	123.437	0.235	黒色土	褐色砂質シルト混	
697	－	23	４Ａ２５ｗ	123.640	123.417	0.223	黒色土	均整	
698	－	23	４Ａ２３ｗ	123.685	123.380	0.305	黒色土	褐色砂質シルト混	
699	－	23	４Ａ２５ｘ	123.635	123.135	0.500	黒色土	褐色砂質シルト混	
700	48	23	４Ａ２５ｘ	123.615	123.495	0.120	黒色土	褐色砂質シルト混	
701	49	23	４Ｂ２２ｃ	123.670	123.185	0.485	黒色土	均整	
702	－	23	４Ｂ２４ｃ	123.615	123.155	0.460	黒色土	礫混	
703	－	23	４Ｂ２３ｈ	123.625	123.355	0.270	黒色土	褐色砂質シルト混	
704	－	23	４Ｂ２３ｃ	123.700	123.285	0.415	黒色土	均整	
705	－	23	４Ｂ２４ｃ	123.615	123.180	0.435	黒色土	均整	
706	－	23	４Ａ２３ｇ	123.590	123.160	0.430	黒色土	礫混	
707	－	23	４Ｂ１４ｆ	123.760	123.565	0.195	黒色土	褐色砂質シルト混	
708	－	23	４Ａ１５ｃ	123.750	123.225	0.525	黒色土	礫混	
709	－	23	４Ｂ１２ｈ	123.590	123.225	0.365	黒色土	均整	
710	－	23	４Ｂ１６ａ	123.715	123.340	0.375	黒色土		
711	53	24	４Ａ１９ｕ	123.691	123.317	0.374	黒色土		
712	48	24	４Ａ２５Ｗ	123.680	122.720	0.960	黒色土		
713	－	23	４Ａ１５Ｖ	123.711	123.275	0.436	黒色土		
715	－	23	４Ｂ１６ｓ	123.715	123.457	0.258	黒色土		
716	－	24	４Ａ１２ｖ	123.584	123.220	0.364	黒色土		

が復元できる大きさの破片資料である。内面には絵付が施される。17世紀後半の肥前産である。

〈時期〉遺物の年代からは、17世紀後半以降と19世紀以降との２通りが推定される。後述する重複関係などから推定される掘建柱建物跡群の変遷から考えると、19世紀以降に位置づけたい。

その他の柱穴状土坑について（第８～10・24・25、写真図版２・８・44・46）

〈位置・検出状況〉推定した掘立柱建物跡群の他にⅣ層上面で検出した柱穴状土坑が426個みつかっている。分布状況は掘立柱建物跡群が分布するエリアに限定されており、これらの柱穴状土坑は今回推定出来なかった掘立柱建物跡や、またそれらに付随する建物などを構成する柱穴群であった可能性が高い。

〈重複関係〉おおむね重複せず分布する。

〈規模〉平面の規模はおおむね掘立柱建物跡の柱穴と同じである。深さについては第７表に記した通りである。

〈出土遺物〉掘立柱建物跡の柱穴と判断できない柱穴状土坑のうち、遺物が出土したのは４個である。陶磁器類などは出土せず、砥石などの石製品が出土している。

28はP335から出土した砥石で、使用痕跡が４面に認められる。そのうち最も広い使用面は弓なりに窪んでおり、使用頻度が高かったことを伺わせる。29はP247から出土した石製品で外面に磨った痕跡が認められる。縄文時代の磨石かとも考えたが、後述する130～132などと類似しており、これらの石製品は近世遺物と共伴することから、近世の石瀬品と判断した。従って同様に29も近世の石製品と判断した。手持ちの砥石であろうか。31はP697の底面付近から出土している。被熱のため中央部が黒色化している。礎石のように柱を下から受ける役割であったのではないかと考える。32はP699の底面から出土した。ややいびつで傾斜があるが、31と同様に柱を受けるための石でないかと思われる。31や32の存在から考えても、P697やP699は本来、掘立柱建物跡を構成する柱穴であったことが伺える。

〈時期〉判断する根拠に乏しく、定かではないが、分布状況や埋土の様相から、掘立柱建物跡群と同時期に比定されるものと推定する。

井戸

5基検出した。内訳は第23次北側調査区に4基、第23次南側調査区に1基である。第23次北側調査区の4基の位置はそれぞれやや離れるが、掘立柱建物群とは隔たった場所に分布している。

RI065井戸（第26図、写真図版9・10）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区5A22rグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。遺構の西側の一部は調査区外に及んでいる。精査当初、1基の井戸と考え、南北方向から半裁し、土層の観察を行った。その後残り部分を掘り下げたところ、別の井戸と重複していることに気づき、東西方向に改めてセクションを設定しなおし、土層観察を行った。その結果、西側の後から見つかった井戸の方が新しいことが分かり、本遺構をRI065とし、古い方をRI066とした。

〈重複関係〉RI066と重複する。本遺構の方が新しい。

〈平面形・規模〉西側は調査区外におよび、東側は本遺構より古いRI066を先に掘ってしまったことで本遺構の全体像は分からなくなってしまったが、円形を呈していたと思われる。規模は残存する南北方向から開口部径2.70m、底面61×58cmを測り、深さはⅣ層上面から1.90mである。

〈埋土〉4層に分けられる。全体的に色調は黒味が強く、土質は砂質であり、礫を多量に含んでいる。また埋土上位になるにつれ、現代遺物が混じるようになり、掘り下げ当初、現代のゴミ穴かと勘違いしたほどである。3層のみ粘質シルトで砂質シルトに挟まった状態で堆積している。

〈底面・壁〉基本層序Ⅴ層下砂礫層が検出したところを底面と判断した。その上面には石がやや不連続に並んでおり、おそらく底面部に設置されていた石組みであったと思われる。壁は南北の一部のみ確認できた。外へと広がりながら内湾気味に立ち上がる。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉出土遺物がなく定かではないが、掘立柱建物跡群と同じ時期に帰属すると考えている。

RI066井戸（第26・28・29図、写真図版9・10・45・47）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区5A22r～22sグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。上述の通り、精査当初は1基の井戸と考えていたが、精査を進め、2基の井戸の重複であると気づいた。

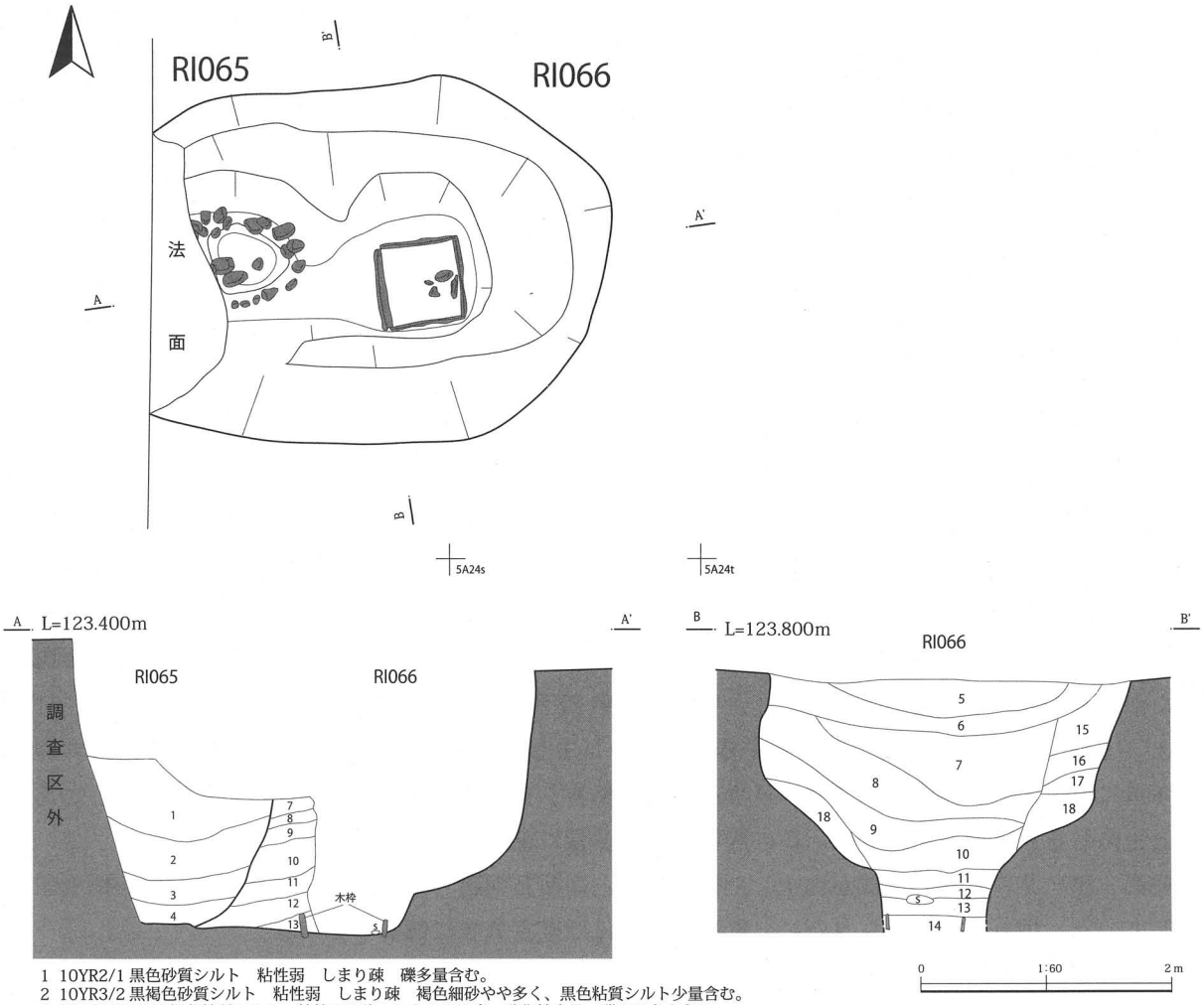
〈重複関係〉RI065と重複する。本遺構の方が古い。

〈平面形・規模〉重複するRI065と同時に掘り下げを行ったため、本遺構の西側は定かではないが、残存部分から不整な円形を呈していたと推定する。規模は南北方向から開口部径約2.90m、底面1.35×1.05mを測り、深さはⅣ層上面から2.00mである。

〈埋土〉14層に分けられる。埋土上位では黒味の強い粘質シルトが主体となり、砂質シルトや黄褐色細砂が混入する。埋土は下位になるにつれ、黄褐色細砂が主体となり、礫が多く混入していた。なお15～18層は井戸の掘り方で黒褐～暗褐色粘質シルトが主体となる。

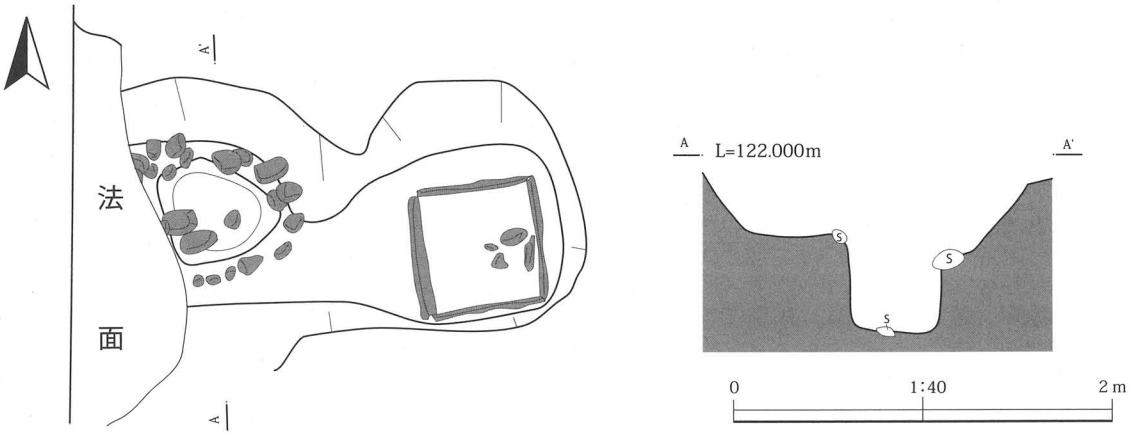
〈底面・壁〉井戸木枠の下部分が露出したところで、その直下からは遺物の混入がなかったので底面と判断した。一辺約70cmの正方形の木枠が設置され、その周囲は約20cmほどの掘り方が認められる。壁は西側を除き、全周する。木枠から上約40cmまではほぼ垂直気味に立ち上がり、その上は緩やかな段が形成され、また外へと直線的に大きく広がりながら立ち上がる。

〈出土遺物〉井戸木枠と石製品1点が出土した。井戸枠は四方4枚で構成されるが、井戸の東側（33）と西側（34）の木枠は両端が窪むように加工され、また南側（35）と北側（36）は、両端をほぼ平に切断し、4枚を組み合わすように加工されている。また東側木枠（33）の表面と南側木枠（35）の表



1 10YR2/1 黒色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　礫多量含む。
2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　褐色細砂やや多く、黒色粘質シルト少量含む。
3 12 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密　酸化鉄少量、礫やや多く含む。
4 10YR3/3 暗褐色細砂　粘性弱　しまりやや疎　礫多量含む。
5 10YR4/4 褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや密　礫多量含む。
6 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密　褐色砂質シルトブロック微量、礫少量含む。
7 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや疎　褐色砂質シルトブロック微量、礫少量含む。
8 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや疎　黄褐色細砂少量、礫少量含む。
9 10YR3/4 暗褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや疎　黄褐色細砂やや多く、礫微量含む。
10 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや密　黄褐色細砂多量、礫微量含む。
11 10YR5/6 黄褐色細砂　粘性弱　しまり疎　礫中量含む。
12 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘性弱　しまり疎　黒色シルト少量、礫少量含む。
13 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂　粘性弱　しまり疎　礫多量含む。
14 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや密　黄褐色細砂やや多く、礫少量含む。
15 10YR3/4 暗褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや密　黄褐色細砂少量、礫微量含む。
16 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり密　黄褐色細砂中量、礫微量含む。
17 10YR4/6 褐色砂質シルト　粘性弱　しまりやや密　黄褐色細砂少量、礫少量含む。
18 10YR4/6 褐色細砂　粘性弱　しまりやや密　褐色砂質シルト少量、黒色シルト少量含む。

RI065・066 底面付近



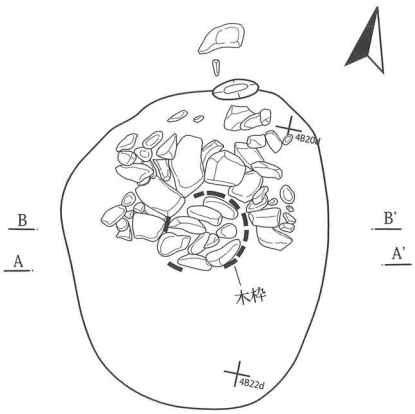
第26図　RI065・066井戸

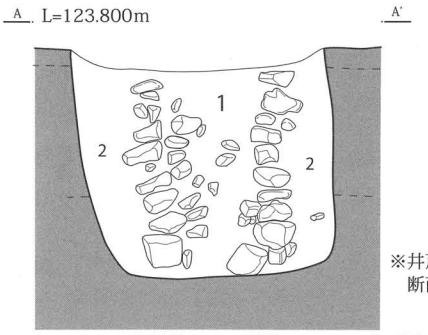
面には片方の先端に、約10㎝の細い円柱状の切り込みが認められる。切り込みは33と35の両者を比べると、位置が一致しており、木枠を組んだ際に固定具をはめるものだったと推定される。切り込みは西側、北側木枠には認められなかった。他にどの木枠にも表面には浅い工具痕が認められる。37は用途不明の石製品で、被熱により両面とも赤色化し、また端部全周が破砕している。
〈時期〉出土遺物からは時期は推定できないが、掘立柱建物跡群と同時期に帰属すると考えている。

RI067井戸（第27・29～31図、写真図版10・11・31・33・45）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ19ｃ～22ｄグリッドに位置する。Ⅳ層上面で黒色のプランと多量の礫の露出によって確認した。南側半分を掘り下げて、垂直に伸びる石組を検出し、井戸であると判断した。底面までの深さが２ｍを超え、また断面実測を行った後、石組が崩壊し始めたので、作業をするのに危険を伴うと判断し、本遺構は半裁状態で精査を終了している。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。開口部径約2.55×1.95ｍ、底面径0.55ｍを測り、深さはⅣ層上面から2.00ｍである。
〈埋土〉埋土と掘り方の２層に分けられる。なお、石組が途切れる所まで掘り下げ、一度底面と判断したが、その後さらに掘り下がることが判明し、第27図のように断面図が２段階となってしまった。埋土（１層）は黒褐色粘質シルトを主体とする。しまりがなく、柔らかい。また10～50cm大の礫が多量に混入する。掘り方（２層）は黒～暗褐色粘質シルトを主体としており、埋土（１層）と比べると土のしまりはやや密になる。この層にも礫は多量に混入されていた。
〈底面・壁〉井戸木枠の下部が出土した砂礫層を、底面と判断した。井戸枠は９枚の木枠を円形に設置していた。掘り方は認められない。壁は石組をほぼ直立気味に構築している。
〈出土遺物〉近世磁器（38）１点、近代陶磁器（39～41）３点、砥石（43）１点、性格不明の石製品（44～46）、石臼（47）１点が出土している。出土状況を比較してみると、18世紀後半～19世紀初頭の所産である近世磁器碗（38）と20世紀前半ごろの所産の近代磁器碗（40）とが同じ埋土上位から出土し、一方、底面付近からは20世紀前半ごろの所産の近代磁器碗（39）が出土した。このように時期の異なる陶磁器類が層序関係なく出土しているので、近世以降、流れ込みによる混入と思われる。41は近代陶器の植木鉢であるが、近代以降の所産と考えられる。石製品の42は砥石で、使用面が３面認められる。43・44は大きな礫で表面が被熱により赤色化している。用途は不明。42は不整な円形を呈し、上面には溝と突起部が認められ、さらに径４㎝程度の穴が穿たれている。石臼のようにもみえるが用途不明である。46は石臼で欠損が激しい。なお井戸木枠が出土しているが、取り上げ前に石組が崩壊し、遺構底面が埋まってしまった。かろうじて３片だけ井戸枠を引き上げたが、全体像も分からないので、図示していない。調査時に観察した限りでは縦長の井戸枠が組み合わされ、鉄製の金具で固定されていた。
〈時期〉前述の通り、出土した遺物の時期幅は広い上に、流れ込みの可能性が高いので、判断基準になり得ない。推定で、掘立柱建物跡群とほぼ同じ時期に構築され、近代以降まで埋没せずに利用されていたと考える。

RI068井戸（第27・31図、写真図版11・12・31・36）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ14ｇグリッドに位置する。Ⅳ層上面で黒色のプランで検出した。

RI067

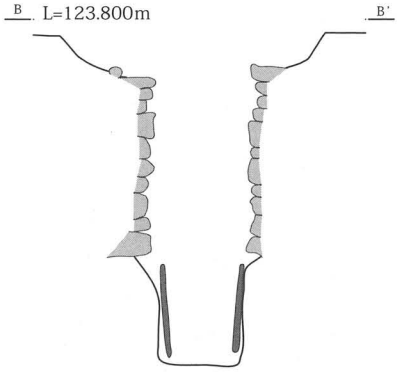




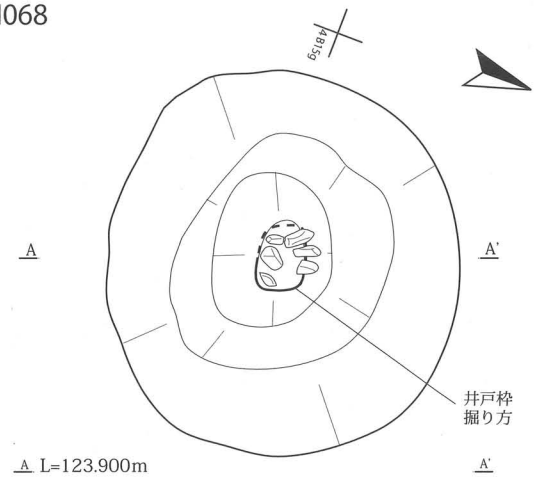
※井戸枠出土前に
断面作成している。

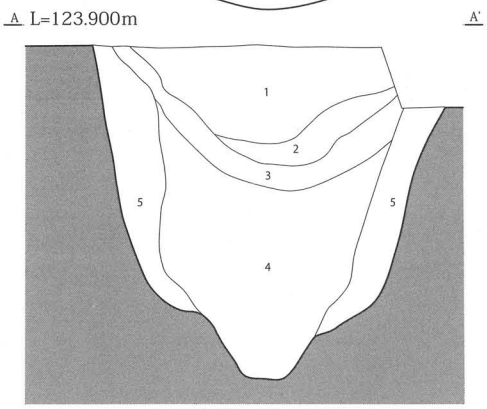
1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　礫多量含む。
2 10YR3/2 黒褐色～ 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性弱
しまりやや疎　礫やや多く含む。

RI067 完掘状態断面



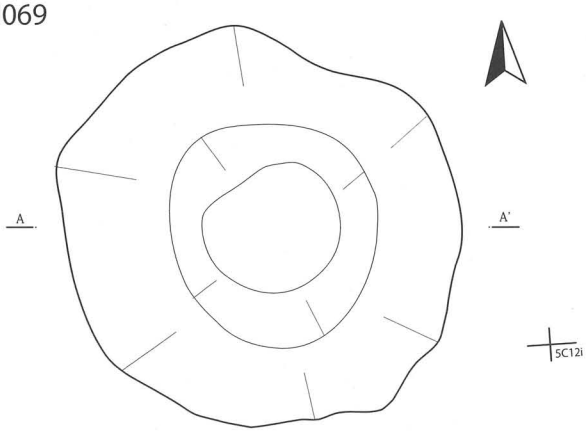
RI068

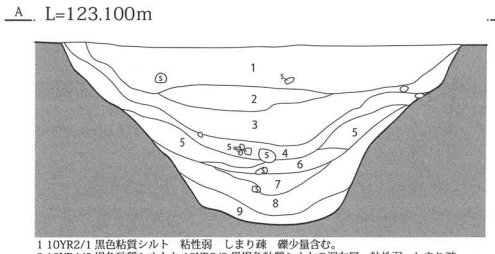




1 10YR4/6 ～ 4/4 褐色砂質シルト　人為的に埋め戻した層。
2 10YR4/6 褐色砂質シルト　黒色粘質シルト層的に少量偏在。
3 10YR2/1 黒色砂質シルト　礫少量含む。
4 10YR2/1 黒色砂質シルト　礫多量含む。
5 10YR2/3 黒褐色砂質シルト～黒褐色細砂　礫多量含む。

RI069



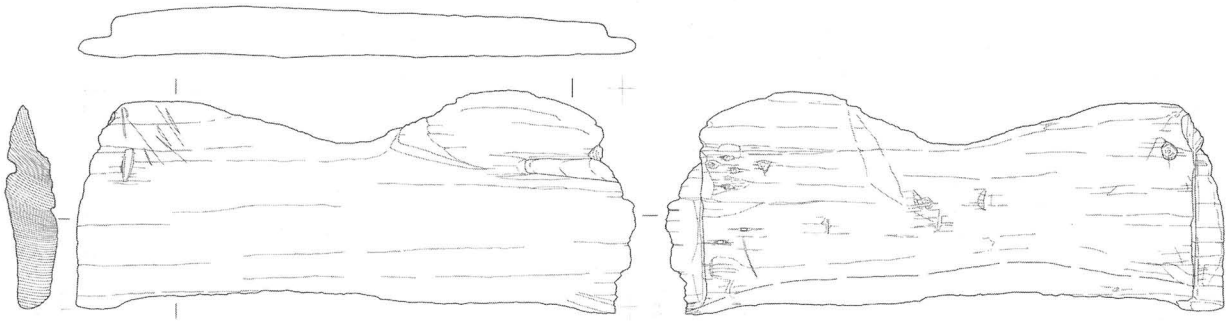


1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　礫少量含む。
2 10YR4/6 褐色砂質シルトと 10YR3/2 黒褐色粘質シルトの混在層　粘性弱　しまり疎
3 10YR2/2 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　黒色シルト少量、礫少量、酸化鉄斑文状に少量含む。
4 10YR2/2 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり疎　褐色砂質シルトブロック少量、中央に礫少量偏在。
5 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり疎
6 10YR4/6 褐色細砂　粘性弱　しまり疎　酸化鉄斑文状に少量含む。粘土がラミナ状に混入する。
7 10YR4/1 褐灰粘土　粘性やや強　しまり疎　砂質シルトがラミナ状に混入する。
8 10YR4/6 褐色細砂　粘性やや強　しまり疎　褐灰色粘土・黒色シルトがラミナ状に混在する。
9 10YR4/6 褐色細砂　粘性やや強　しまり疎　褐灰色粘土がラミナ状に混在する。

0　1:60　2m

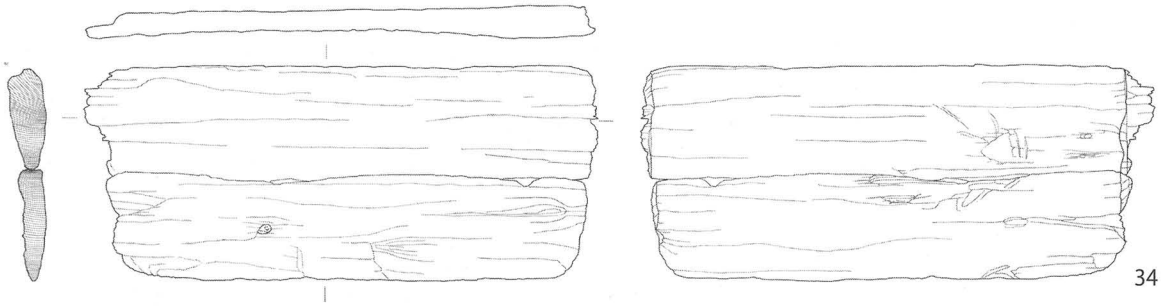
第27図　RI067 ～ 069井戸

東側木枠



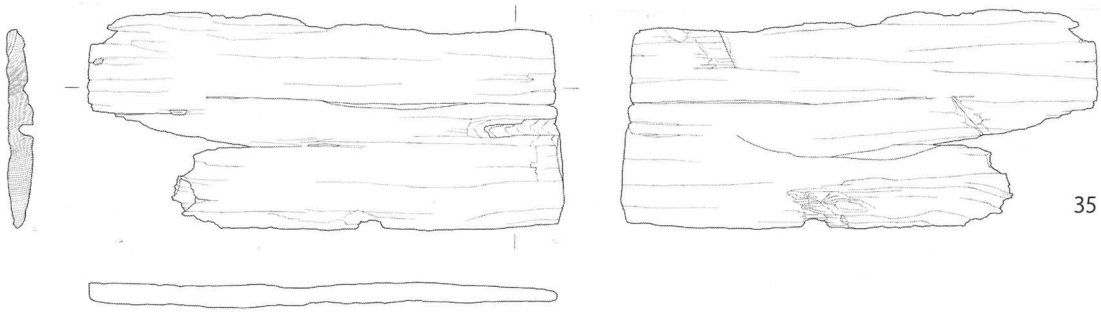
33

西側木枠



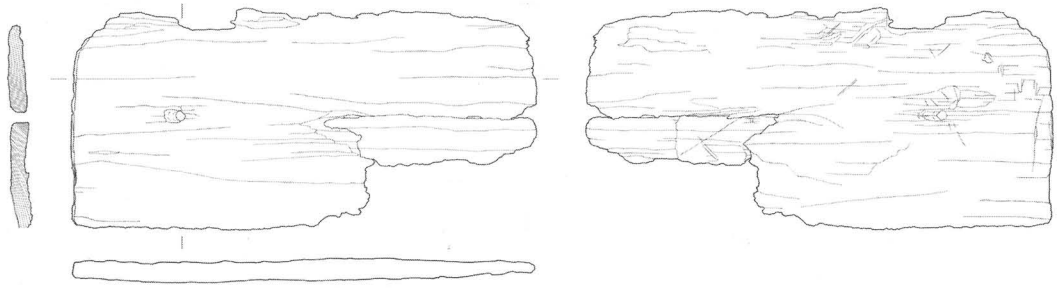
34

南側木枠



35

北側木枠

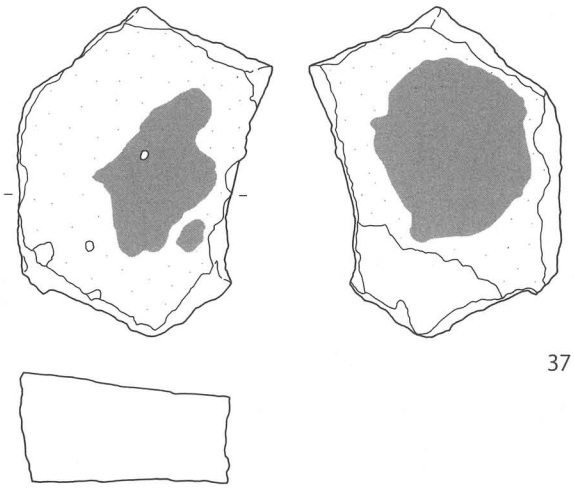


36

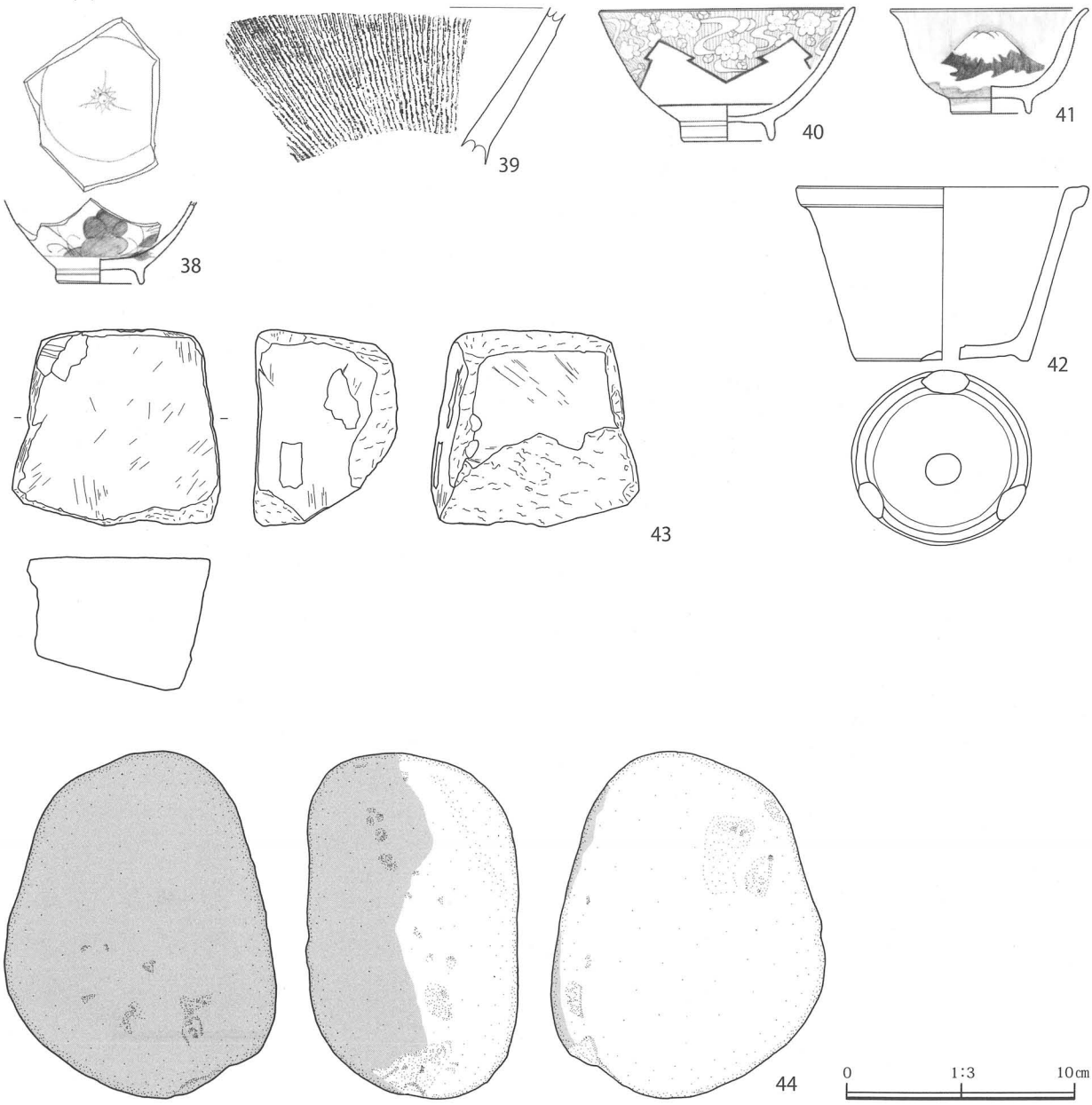
0　1：10　40cm

第28図　井戸出土遺物（1）

RI066出土

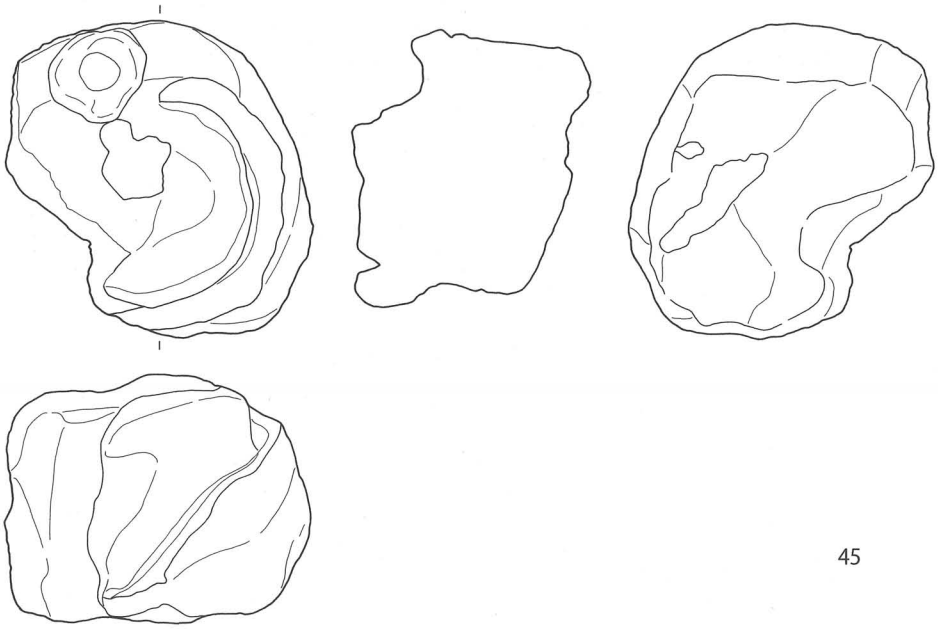


RI067出土

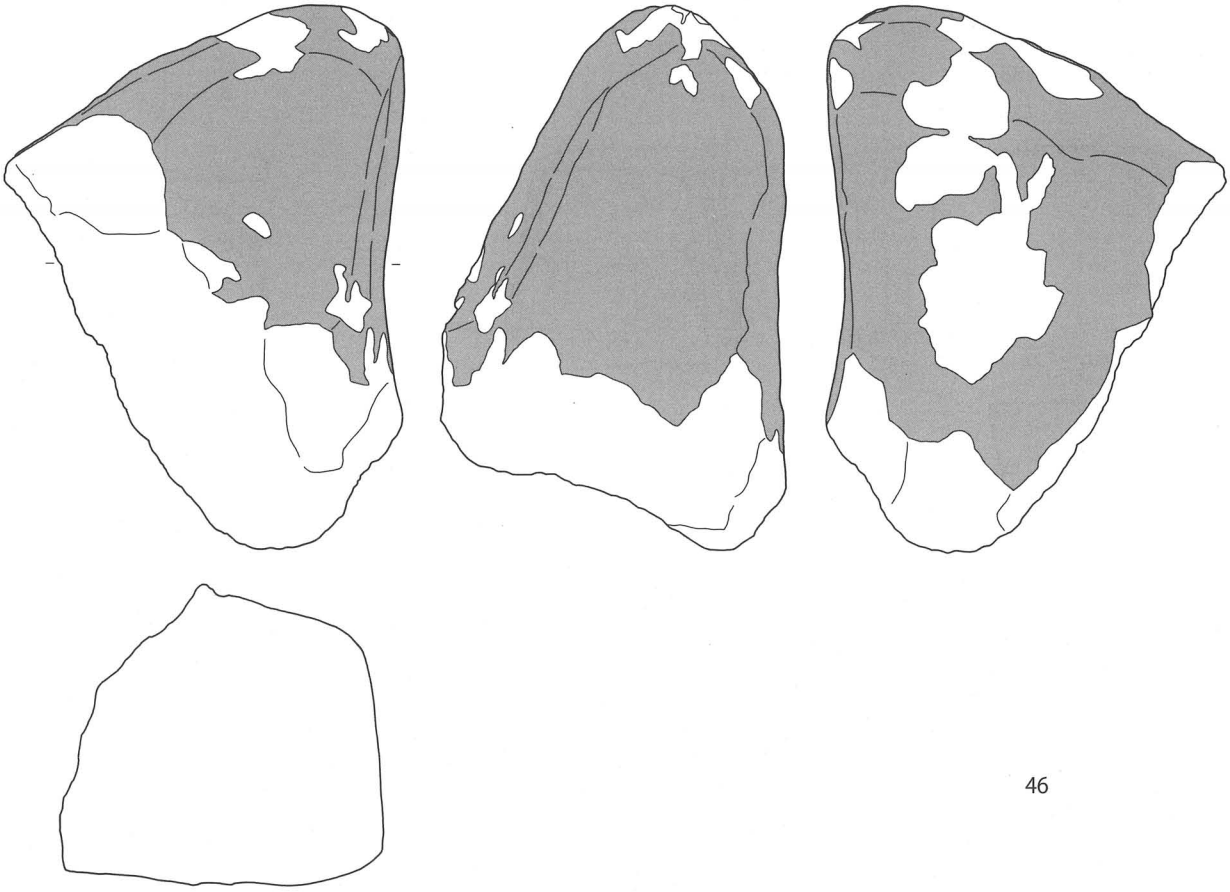


第29図　井戸出土遺物（2）

RI067出土



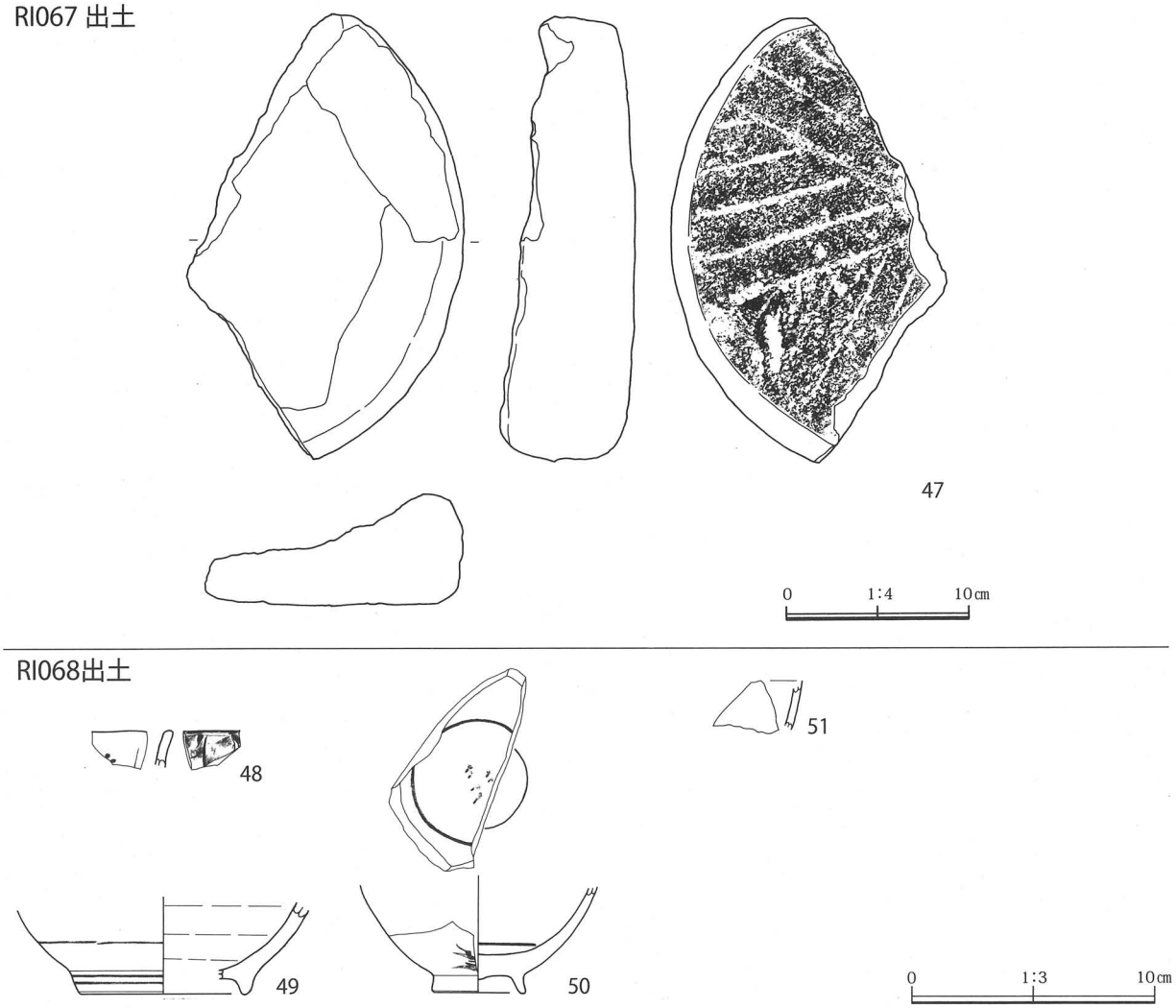
45



46

0　1:4　10cm

第30図　井戸出土遺物（3）



第31図　井戸出土遺物（4）

〈重複関係〉柱穴Ｐ 016・352、ＲＢ 055 と重複する。柱穴よりは本遺構の方が新しい。またＲＢ 055 とは構成する柱穴と重複していないので、新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。開口部 3.10 × 2.76 m、底面 0.55 × 0.45 mを測り、深さはⅣ層上面から 2.65 mである。

〈埋土〉５層に分けられる。１～４層が埋土、５層は掘り方である。埋土上位は褐色砂質シルトを主体とし、黒色粘質シルトや礫が層的に混入する。人為堆積と思われる。埋土下位は黒色砂質シルト主体である。様相からは人為堆積かは定かではない。掘り方も埋土下位層と類似する土質である。

〈底面・壁〉井戸枠の掘り方を検出し、その下の砂礫層からは遺物などの混入がなかったので、そこを底面と判断した。ただし井戸木枠は見つからなかった。壁は全周する。外へと緩やかに開きながら、直立気味に立ち上がる。

〈出土遺物〉近世磁器（48 ～ 50）３点、近世陶器（51）１点が出土している。いずれも小片であり、帰属時期をみていくと全体では時期幅が広い。また人為堆積層である１層中から出土しており、流れ込みの可能性が高い。

〈時期〉出土遺物から近世後半（18 世紀後半～ 19 世紀初頭）に帰属するものと推定される。

第８表　井戸出土遺物観察表

木製品

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	備考
33	47	ＲＩ066 底面	井戸木枠	上端欠損	コナラ属	27.0	72.5	6.0	東側に設置　固定具取付用の溝
34	47	ＲＩ066 底面	井戸木枠	左右端欠損	コナラ属	28.0	67.0	4.5	西側に設置
35	47	ＲＩ066 底面	井戸木枠	下側端部欠損	コナラ属	28.0	61.0	3.5	南側に設置　固定具取付用の溝
36	47	ＲＩ066 底面	井戸木枠	下側端部欠損	コナラ属	28.5	28.5	2.5	北側に設置

近世磁器

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
38	33	RI067　埋土上位	碗	－	－	3.7	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	漆継痕あり
40	33	RI067　木枠内	碗	10.2	3.8	5.9	白色	銅板転写	20 世紀前半か	
41	33	RI067　埋土上位	湯のみ	8.8	3.4	4.7	白色		20 世紀前半か	
48	36	RI068　１層	鉢	－	－	(1.6)	白色	肥前	19 世紀前半～半ば	
49	36	RI068　１層	瓶	－	(6.8)	(3.5)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	内面無釉
50	36	RI068　１層	碗	－	(3.8)	(4.4)	灰白色	不明	19 世紀前半～半ば	

近世陶器

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	残存部位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代
					口径	底径	器高				
39	31	RI067　埋土下位	擂鉢	胴部片	－	－	(6.7)	褐灰色		在地	19 世紀
42	30	RI067　埋土中	植木鉢	完形	13.0	7.6	7.8	明赤褐色	素焼き	在地？	20 世紀前半か
51	31	RI068　埋土中	碗	胴部片	－	－	(2.1)	灰黄褐色	灰釉	大堀相馬	18 世紀

石製品

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	残存部位	石質	年代	産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
37	45	RI066　埋土上位	石製品	完形か	安山岩	新生代	北上山地	174.00	117.43	60.97	1645.6
43	44	RI067　埋土中	砥石	完形	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	87.03	89.71	60.98	633.4
44	45	RI067　埋土中	石製品	完形	安山岩	新生代	北上山地	151.64	119.79	88.02	1490
45	45	RI067　埋土中	石臼？	一部欠損	安山岩	新生代	北上山地	168.00	159.00	113.00	2100
46	45	RI067　埋土中	石製品	一部欠損	安山岩	新生代	北上山地	289.00	208.00	179.00	6300
47	45	RI067　埋土下位	石臼	2/3 欠損	安山岩	新生代	北上山地	245.00	150.12	66.58	2300

鉄製品

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	備考
307	41	蹄鉄	RI067 埋土中	完形	11.8	12.4	1.3	

RI069井戸（第 27 図、写真図版 12）

〈位置・検出状況〉第 23 次南側調査区５Ｃ 10 ｇ～５Ｃ 12 ｈグリッドに位置する。Ⅳ層上面で黒色のプランで検出した。

〈重複関係〉なし。

〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。開口部 3.35 × 3.21 m、底面 1.08 × 0.93 mを測り、深さはⅣ層上面から 1.42 mである。

〈埋土〉９層に分けられる。埋土上位は黒色～黒褐色砂質シルトを主体とし、褐色砂質シルトや礫が混入する。埋土下位は褐色細砂が主体となり、粘土がラミナを形成しながら層状に堆積している。

〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。井戸枠は見つかっていない。壁は全周する。底面付近は直線的に外へと開きながら立ち上がり、中位で段を形成し、さらに大きく外へと広がりながら立ち上がる。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉出土遺物が無く、時期は不明であるが、第 23 次北側調査区の井戸とほぼ同じ頃に構築されたのではないかと推定する。

墓壙

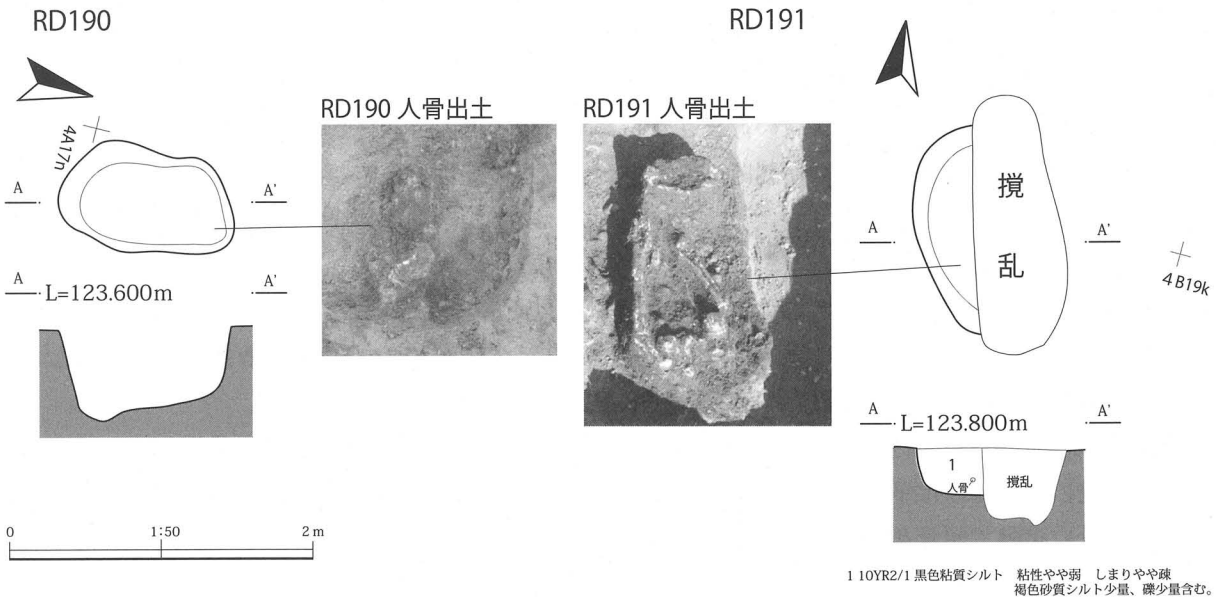
第23次北側調査区で21基検出した。分布はＲＤ190・191がそれぞれ離れた場所に位置し、その他は掘立柱建物跡群が位置するエリアの北側に激しく重複しながら密集する。各遺構の新旧関係については、検出状況や埋土の観察から検討したが、定かではなく、推定の域をでないものもある。各墓坑からは人骨が出土している。人骨の遺存状態は比較的良好であり、部位の判別できたものも多い。分かっただけで22体分になる（詳細は第９表参照）。

RD190墓壙（第32・34図、写真図版13・51）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ16ｎグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。開口部1.12×0.69ｍ、深さは最深61㎝である。
〈底面･壁〉底面はほぼ平坦で、南側がやや窪む。壁はやや外へと広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉北東隅で確認した。ただし小片（写真図版51）で、部位については不明である。
〈副葬品〉なし。
〈時期〉副葬品から時期判断できないが､周辺の遺構の時期とほぼ同じ頃に帰属するものと思われる。

RD191墓壙（第32・34図、写真図版13・42・51）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ｂ18ｊグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。東側半分を撹乱により壊されている。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈するものと推定される。規模は残存部で0.85×0.39ｍ、深さはⅣ層上面から最深39㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦ある。壁は全周する。やや外へと広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉ほぼ中央で頭骨と下肢骨数点を確認した（写真図版51）。遺存状態は、頭骨は非常に悪いが、下肢骨は比較的良好である。下肢骨は大腿骨と脛骨である。
〈副葬品〉銅銭２点が出土した。銭種は新寛永背文１（52）と古寛永（53）である。



第32図　RD190・191墓壙

〈性格・時期〉土葬墓である。人骨の出土状況から遺体を頭部を北にして、横臥姿勢で埋葬されたものと推定する。副葬品の銅銭から埋葬時期は18世紀前半に比定される。

RD192墓壙（第33・34図、写真図版13・14・41・48・51～53）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｒグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。規模は0.88×0.72ｍ、深さは最深44㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は全周する。やや外へと広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉埋土上位と下位とで２体分確認した。埋土上位からは頭骨と四肢骨、脊柱・胸郭の骨、および手か足の骨が出土した（写真図版51・52）。遺存状態は全体的に比較的良好である。埋土下位からは頭骨と下肢骨、脊柱・胸郭の骨が出土した（写真図版52・53）。遺存状態は、頭骨・下肢骨が比較的良好である。
〈副葬品〉ガラス製品２点と石製品１点が出土した。ガラス製品（54・55）２点は同一個体の可能性もあるが接合点がなく、別物として掲載した。ストロー状に中が空洞で、先端が曲がる。ガラス製の簪か。石製品（56）は直径約0.5cmの円柱状で、外面に筋のような痕跡が認められる。用途は不明。また他に赤～赤褐色の漆器皮膜（写真図版48－312）が埋土上位～下位で少量見つかった。断片的で、大きいものでも１㎝程度である。
〈性格・時期〉土葬墓で、２体埋葬されている。人骨の大きさから被葬者はどちらも幼児か小児と思われ、また遺構の規模と頭骨の出土位置からどちらの遺体も座った状態で埋葬されたと考えられる。副葬品から時期判断は難しいが、周辺の墓坑と同時期の近世後半に比定されるものと思われる。

RD193墓壙（第33・34図、写真図版13・14・41・53）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｓグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉なし。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。規模は0.89×0.70ｍ、深さはⅣ層上面から最深31cmである。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は全周し、やや外へと広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉中央よりやや東側で頭骨と下肢骨、脊柱・胸郭の骨数点を確認した（写真図版53）。遺存状態は、頭骨は比較的良好だが、下肢骨、脊柱・胸郭はやや悪い。
〈副葬品〉ガラス製品（57）１点が出土した。方形の鏡である。非常に小さく、鬢鏡かと思われる。
〈性格・時期〉土葬墓である。人骨の大きさから被葬者は幼児の可能性がある。遺体の埋葬姿勢については不明である。副葬品から時期判断は難しいが、周辺の墓坑と同時期の近世後半に比定されるものと思われる。

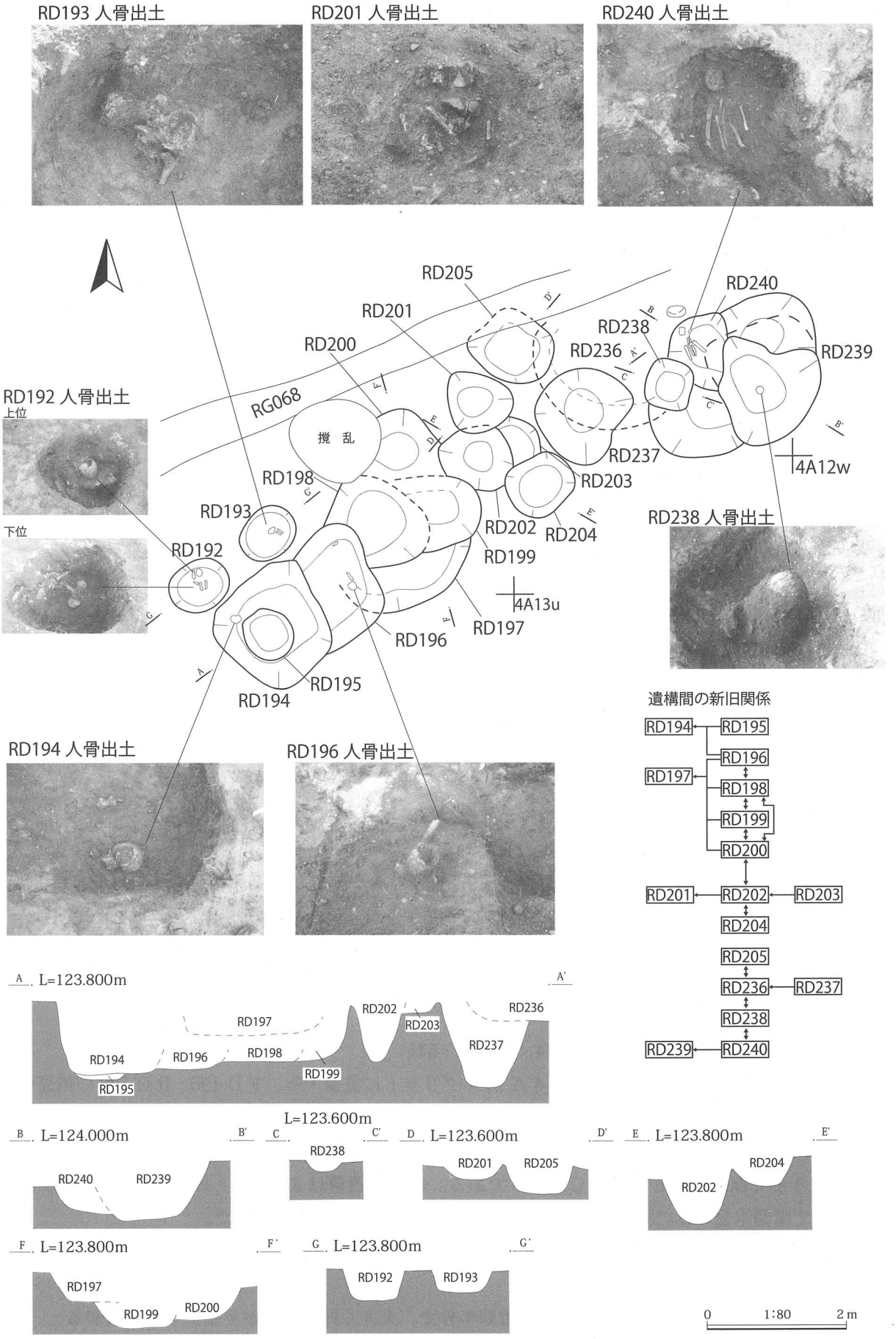
RD194墓壙（第33・34図、写真図版14・33・41・53・54）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ13ｒ～４Ａ13ｓグリッドに位置する。Ⅳ層上面で検出した。
〈重複関係〉ＲＤ195・196と重複する。本遺構が最も新しいものと推定される。
〈平面形・規模〉不整な方形を呈する。規模は1.60×1.58ｍ、深さはⅣ層上面から最深104㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は全周する。やや外へと広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉東隅で頭骨を確認し、また四肢骨、脊柱・胸郭の骨数点も確認した。遺存状態は、いずれも比較的良好である。

〈副葬品〉近世磁器２点（58・59）、煙管１点（60）である。58は猪口、59は紅皿である。いずれも1780～1860年所産の肥前産と思われる。60は煙管の吸口で柄の方に繊維が付着している。
〈性格・時期〉土葬墓である。頭骨の出土位置から遺体は頭部を北にして、横臥姿勢で埋葬されたものと推定する。副葬品から埋葬時期は18世紀後半以降に比定される。

RD195墓壙（第33・34図、写真図版14・41）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ13ｓグリッドに位置する。ＲＤ194を精査中にその底面で別のプランを確認し、また遺物も出土したので、人骨はないが、墓坑と判断した。
〈重複関係〉ＲＤ194と重複する。本遺構の方が古い。
〈平面形・規模〉不整な楕円形で規模0.73×0.69ｍ、深さはＲＤ194底面から最深９㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は全周するが、重複するＲＤ194に上部は削平されている。残存する部分ではやや外へと広がりながら立ち上がるものと推定される。
〈出土人骨〉なし。
〈副葬品〉ガラス製鏡（61）、煙管１点（62）である。61は一部欠損するが方形で小さく、鬢鏡ではないかと考える。62は煙管の吸口である。
〈性格･時期〉本遺構はＲＤ194構築の際に人骨ごと削平され、副葬品のみが残ったものと推定する。副葬品から時期判断できないが、周辺墓坑と同時期の近世後半に比定されるものと思われる。

RD196墓壙（第33・34図、写真図版14・30・42・54）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｓ～13ｓグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ194・197・198と重複する。本遺構はＲＤ194・197より古い。ＲＤ198との新旧関係は推定が難しい。
〈平面形・規模〉残存部から不整な楕円形を呈するものと思われる。規模は1.54×0.94ｍ、深さはⅣ層上面から最深94㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は南北壁のみ確認できた。直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉歯冠破片と部位不明の小片のみである。
〈副葬品〉近世陶器（63）１点、銅銭（64～69）６点である。63は大堀相馬産の鉄漿坏で、18世紀代の所産である。銅銭はいずれも新寛永無背文である。
〈性格・時期〉土葬墓である。人骨の遺存状態が悪く埋葬姿勢は不明である。埋葬時期は副葬品から18世紀代に比定される。

RD197墓壙（第33・34図、写真図版14・41・42・54）
〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｔグリッドに位置する。ＲＤ196・ＲＤ198の精査中、その壁面より別の墓坑があることを確認し、本遺構とした。
〈重複関係〉ＲＤ196・198・199と重複し、本遺構が最も新しいと推定される。重複する他の墓坑が中位あたりまで埋没してから構築したようである。なお本遺構はＲＤ196・198を先に掘っており、したがって南側半分のみの検出で、第33図でも検出できた部分のみ図示した。
〈平面形・規模〉残存部から不整な楕円形を呈するものと思われる。規模は残存部1.94×0.63ｍ、深さはⅣ層上面から最深42㎝である。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は南側半分で、大きく外へと広がりながら立ち上がる。



第33図　RD192～205・236～240墓壙

〈出土人骨〉東隅の壁近くで頭骨と下肢骨を確認した。遺存状態については、頭骨は非常に悪く、小片のみであるが、下肢骨は比較的良好で大腿骨と脛骨が確認できた。
〈副葬品〉銅製の柄鏡（70）１点、銅銭（71 ～ 73）３点である。70 は柄の部分が欠損している。裏面に「南天樹図」が描かれている。17 ～ 18 世紀頃の所産であろうか。銅銭の銭種は 71 が寛永通宝であることが確認できたが、他は錆の付着が激しく。不明である。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。横臥姿勢であろうか。埋葬時期は副葬品から 17 ～ 18 世紀代と思われる。

RD198墓壙（第 33 図、写真図版 14・55）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 12 ｓ～ 12 ｔグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 196・197・199・200 と重複する。本遺構はＲＤ 196・197 より古い。またＲＤ 199・200 との新旧関係は不明である。
〈平面形・規模〉残存部から不整な楕円形を呈するものと思われる。規模は残存部 1.48 × 1.20 m、深さはⅣ層上面から最深 81 cmである。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は西側・南側の一部で確認した。ほぼ直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉部位不明の小片のみである。
〈副葬品〉なし。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。埋葬時期は副葬品がなく不明。重複する墓坑群とほぼ同じ頃に帰属するものと思われる。

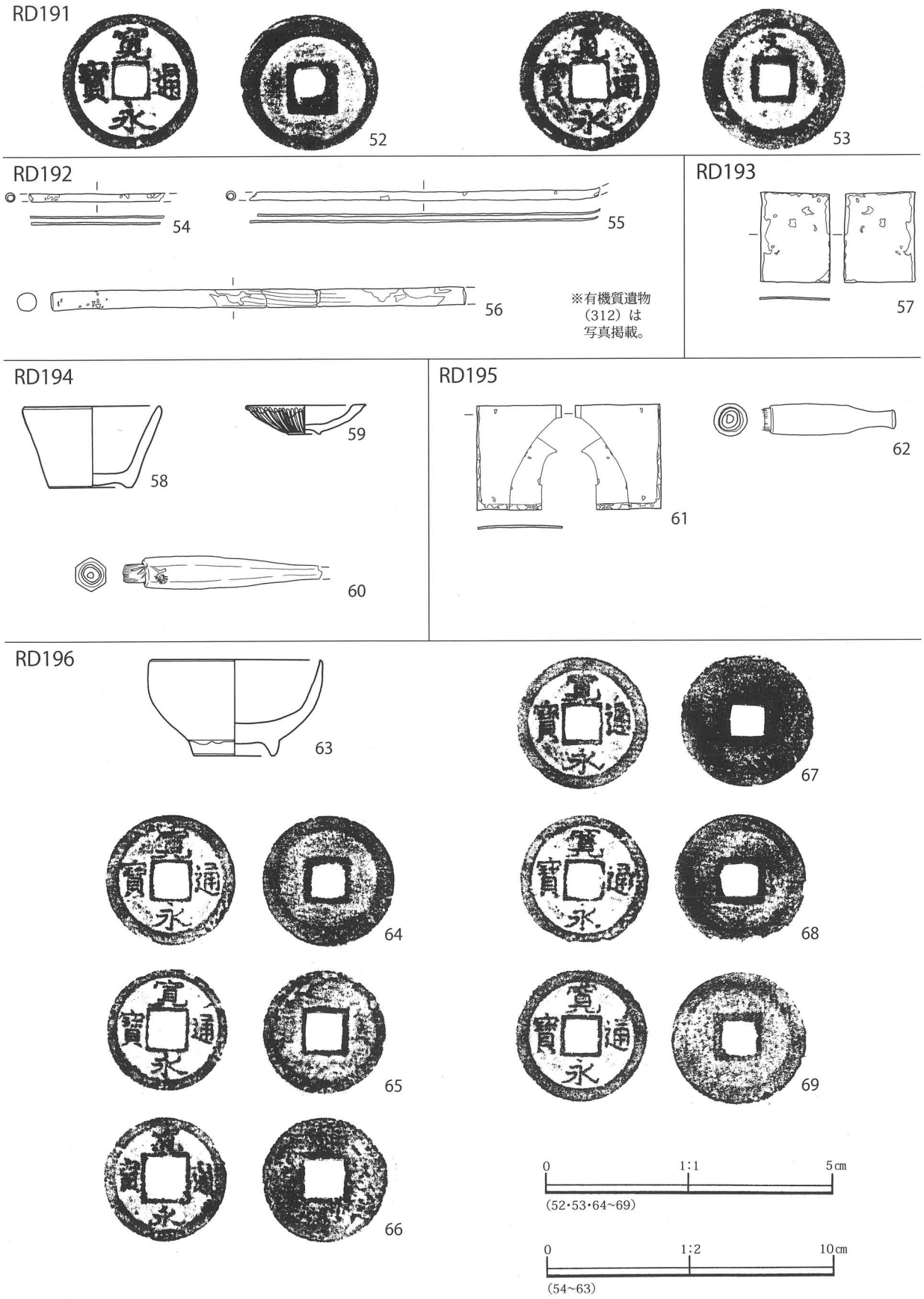
RD199墓壙（第 33・35 図、写真図版 14・33・41・48・55）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 12 ｔグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 197・198・200・202 と重複する。本遺構はＲＤ 197 より古い。またＲＤ 198・200・202 との新旧関係は不明であるが、ＲＤ 202 よりは新しいものと思われる。
〈平面形・規模〉残存部から不整な楕円形を呈するものと思われる。規模は残存部 1.36 × 1.09 m、深さはⅣ層上面から最深 80 cmである。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は南～西側で確認した。ほぼ直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉歯冠破片数点と部位不明の小片のみである。
〈副葬品〉近世磁器（74・75）２点、ガラス鏡（76）１点、銅製品（77）１点、有機質遺物（写真図版 48、313・314）２点である。74 は猪口、75 は紅皿で、どちらも 1780 ～ 1860 年の所産の肥前産と思われる。76 は一部欠損する。大きさから鬢鏡と思われる。77 は簪で、両方の先端部分が欠損している。313 はガラス鏡に密着して出土した。皮製か布製でガラス鏡を入れる巾着袋の可能性がある。頭骨と毛髪が付着しているので、遺体の頭部付近に置かれていたものと思われる。314 も同様の袋で、313 とは同一のものの可能性がある。縦横方向に筋がみえる。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。埋葬時期は副葬品から 18 世紀後半～ 19 世紀に帰属するものと思われる。

RD200墓壙（第 33・35 図、写真図版 14・30・55）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 11 ｔグリッドに位置する。一部、撹乱により壊されている。
〈重複関係〉ＲＤ 198・199・202 と重複する。新旧関係の推定は難しいが、ＲＤ 202 よりは新しい可

能性が高い。
〈平面形・規模〉残存部から不整な楕円形を呈するものと思われる。規模は残存部 1.20 × 1.09 m、深さはⅣ層上面から最深 45 cmである。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は北～西側で確認した。外へと広がり、緩やかに立ち上がる。
〈出土人骨〉頭骨と部位不明の小片のみである。遺存状態は悪く、確認できた部位は頭骨の下顎骨と乳歯である。
〈副葬品〉近世陶器（78）１点である。78 は在地産の小碗で、19 世紀前半の所産と推定される。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。乳歯が出土しているので、遺体は幼児か小児の可能性が高い。埋葬時期は副葬品から 19 世紀前半に帰属するものと思われる。

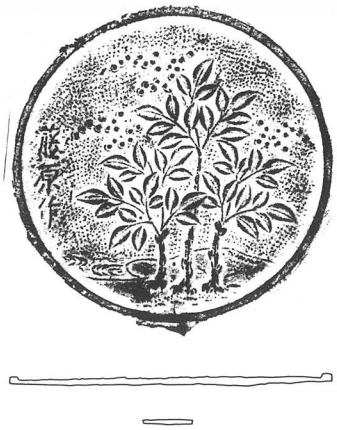
RD201墓壙（第 33・35 図、写真図版 15）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 11 ｔグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 202・203 と重複する。本遺構が最も新しいものと思われる。
〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。規模は 0.98 × 0.90 m、深さはⅣ層上面から最深 18 cmである。
〈底面・壁〉底面はほぼ平坦である。壁は全周する。ほぼ直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉中央から頭骨、脊柱・胸郭の骨、四肢骨と手（足）の骨などを確認した。遺存状態については、頭骨は比較的良好で前頭骨・頭頂骨とその周辺を確認した。その他では下肢骨の大腿骨は比較的良好に残存するが、その他はあまり良くない。
〈副葬品〉近世磁器（79・80）２点、近世陶器（81）１点、銅製品（82）である。79 は猪口、80 は紅皿で、どちらも肥前産。1780 ～ 1860 年の所産と思われる。81 は大堀相馬産の碗で 19 世紀前半の所産である。82 は簪で先端に耳かきがつく。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は頭骨の位置が明瞭ではないが、横臥姿勢で埋葬されたもの推定する。埋葬時期は副葬品から 19 世紀前半に帰属するものと思われる。

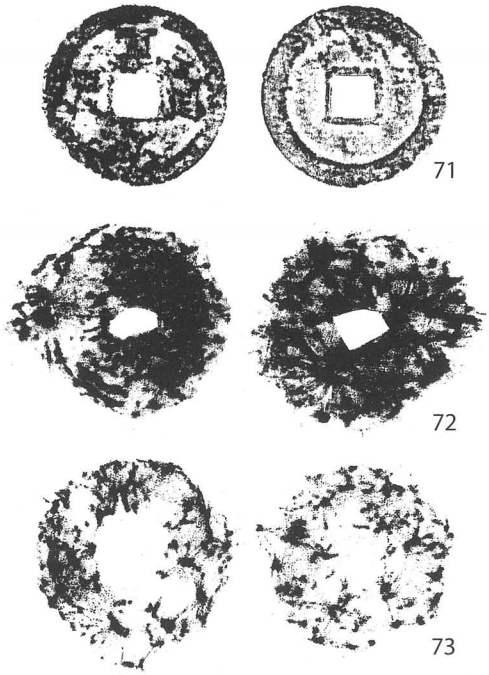
RD202墓壙（第 33・35 図、写真図版 15）
〈位置・検出状況〉第 23 次北側調査区４Ａ 11 ｔ～ 12 ｔグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 199・200・201・202・203 と重複する。本遺構はＲＤ 201 よりは新しく、ＲＤ 203 よりは古いものと思われる。ＲＤ 199・200 との新旧関係は推定が難しい。
〈平面形・規模〉不整な円形を呈する。規模は径 1.00 m、深さはⅣ層上面から最深 70 cmである。
〈底面・壁〉底面は丸い。壁は全周する。ほぼ直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉歯（臼歯）１点のみである。
〈副葬品〉銅製柄鏡（83）１点、木製櫛（84）１点、銅銭（85 ～ 87）３点、有機質遺物（写真図版 48－315・316）２点である。83 は柄が欠損している。裏面に「勝山正歳」とある。「勝山藤原正歳」のことであろうか。「勝山藤原正歳」銘の柄鏡は一関市河崎の柵擬定地Ｄ区 SZ57 墓坑からみつかっている。この墓坑は 18 世紀後半に比定され、鏡自体もそれ以降となる。したがって 83 も 18 世紀後半以降に比定される。84 は櫛の歯のみであろうか。銅銭の銭種は新寛永背文１（86）、新寛永無背文２（85・87）である。315 は銭貨に密着していた繊維で銭貨を入れる巾着袋であったと思われる。残りは悪く小片のみで、布製ではないかと思われる。316 は銅鏡柄鏡に付着していた。柄鏡を入れる袋であったと思われる。径 6.0cm の円形部分が残存しており、表面には黒漆が塗布されている。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。埋葬時期は副葬品から



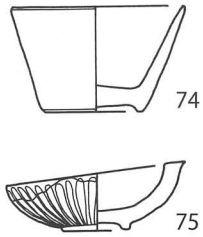
第34図　墓壙出土遺物（1）

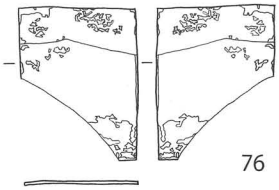
RD197出土

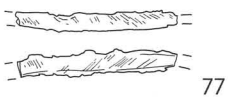




RD199出土

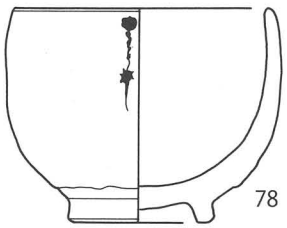




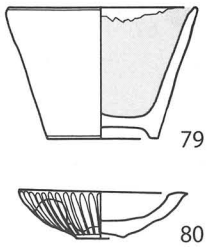


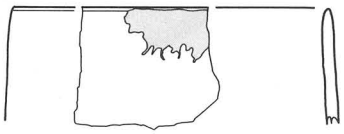
※有機質遺物（313・314）は
写真掲載。

RD200出土

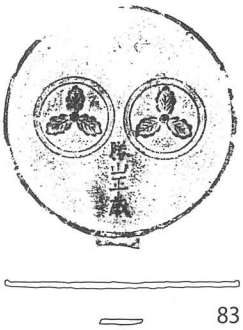


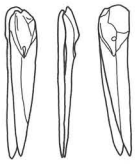
RD201出土

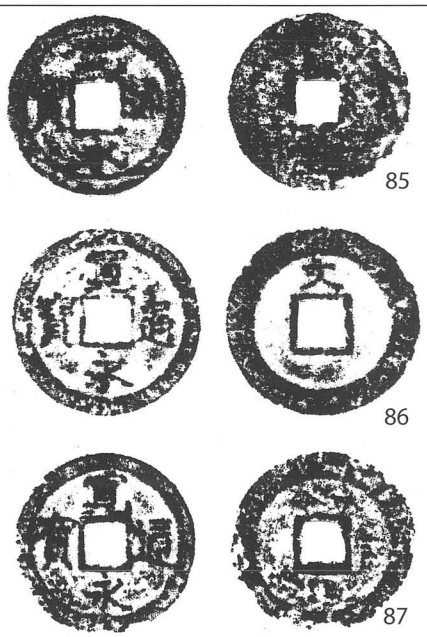




RD202出土







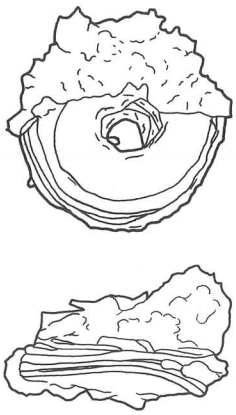
※有機質遺物（315・316）は
写真掲載。

0　1:2　10cm
（70・74～84）

0　1:1　2.5cm
（その他）

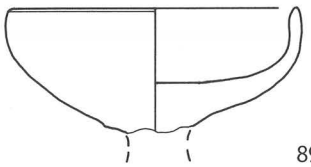
第35図　墓壙出土遺物（2）

RD203出土



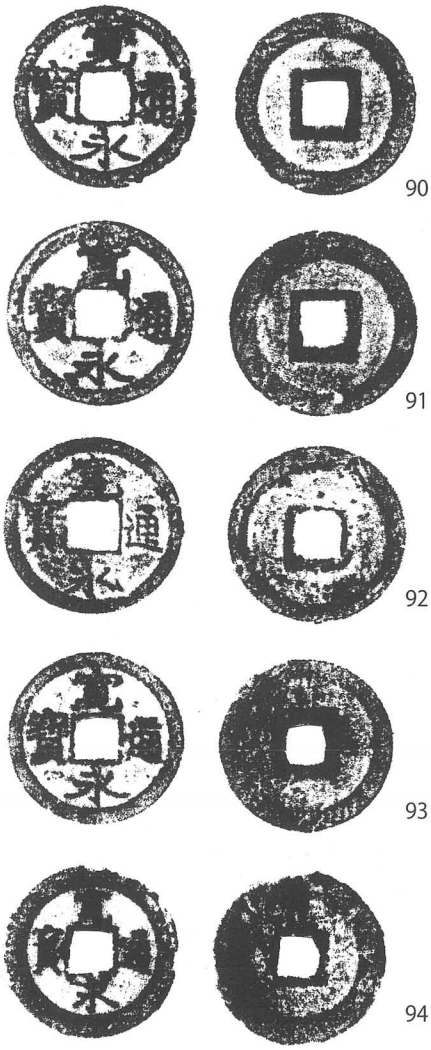
88

RD237出土

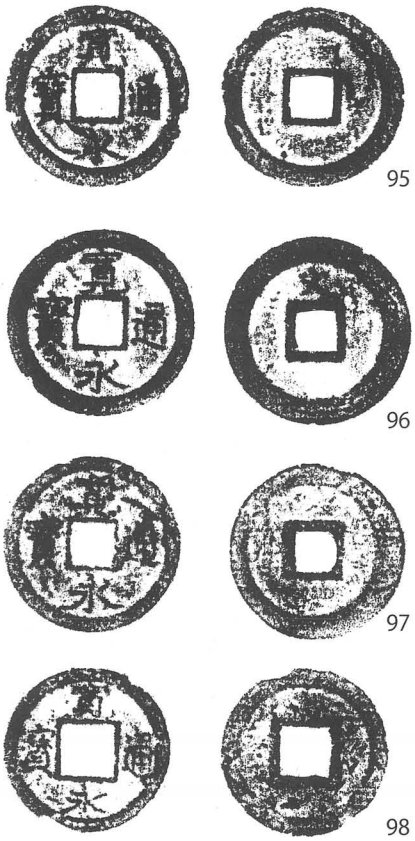


89

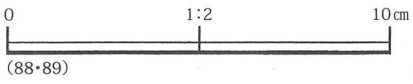
RD204出土

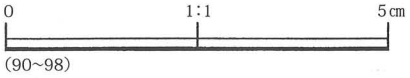


90 91 92 93 94



95 96 97 98

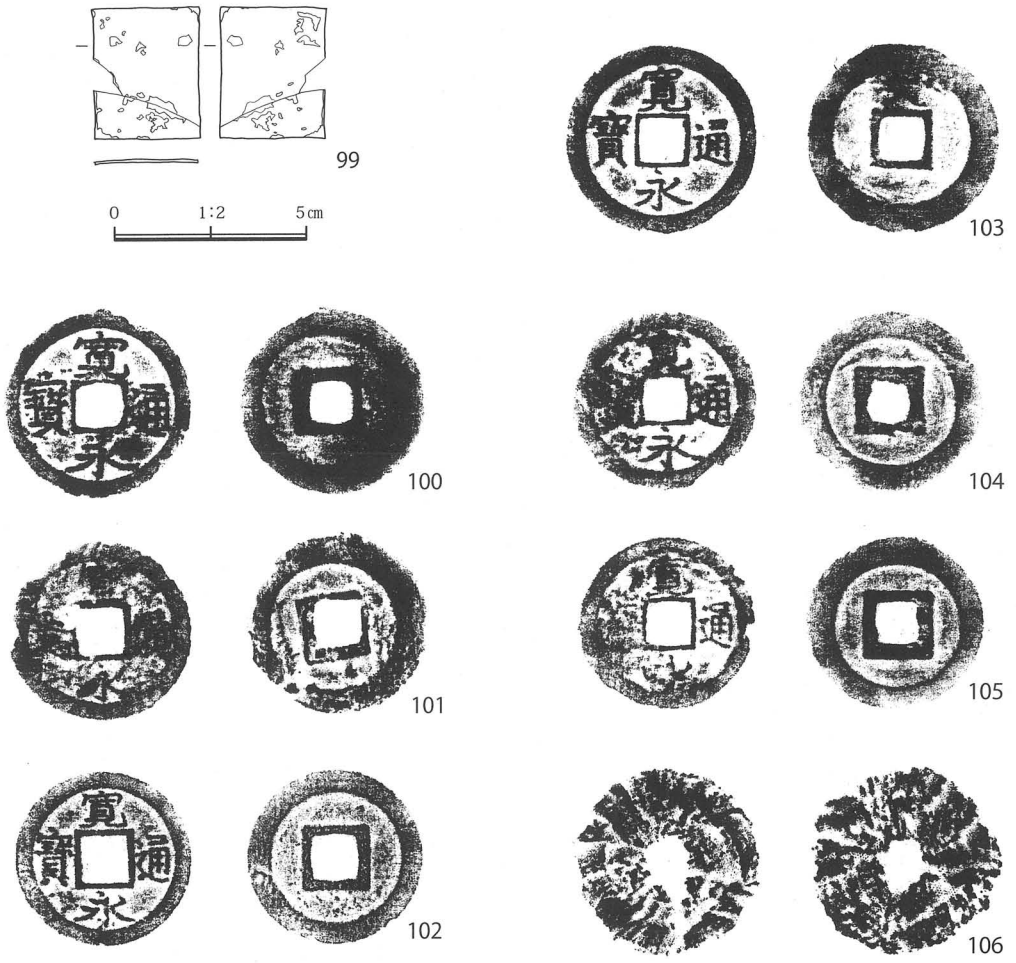




※有機質遺物（317）は
写真掲載。

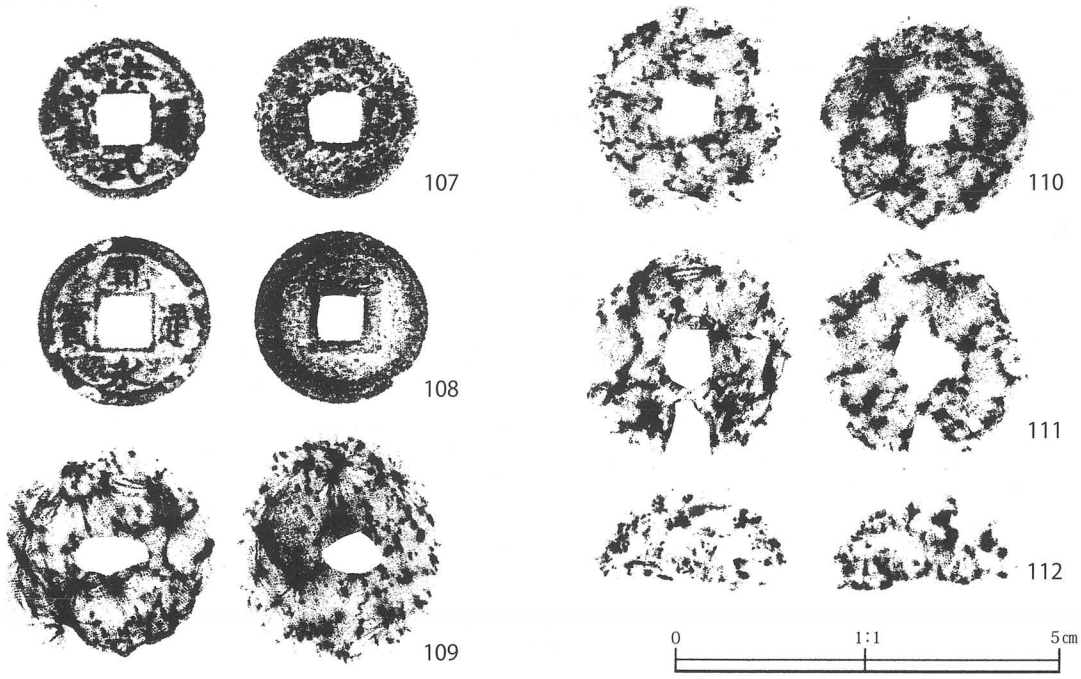
第36図　墓壙出土遺物（3）

RD238出土

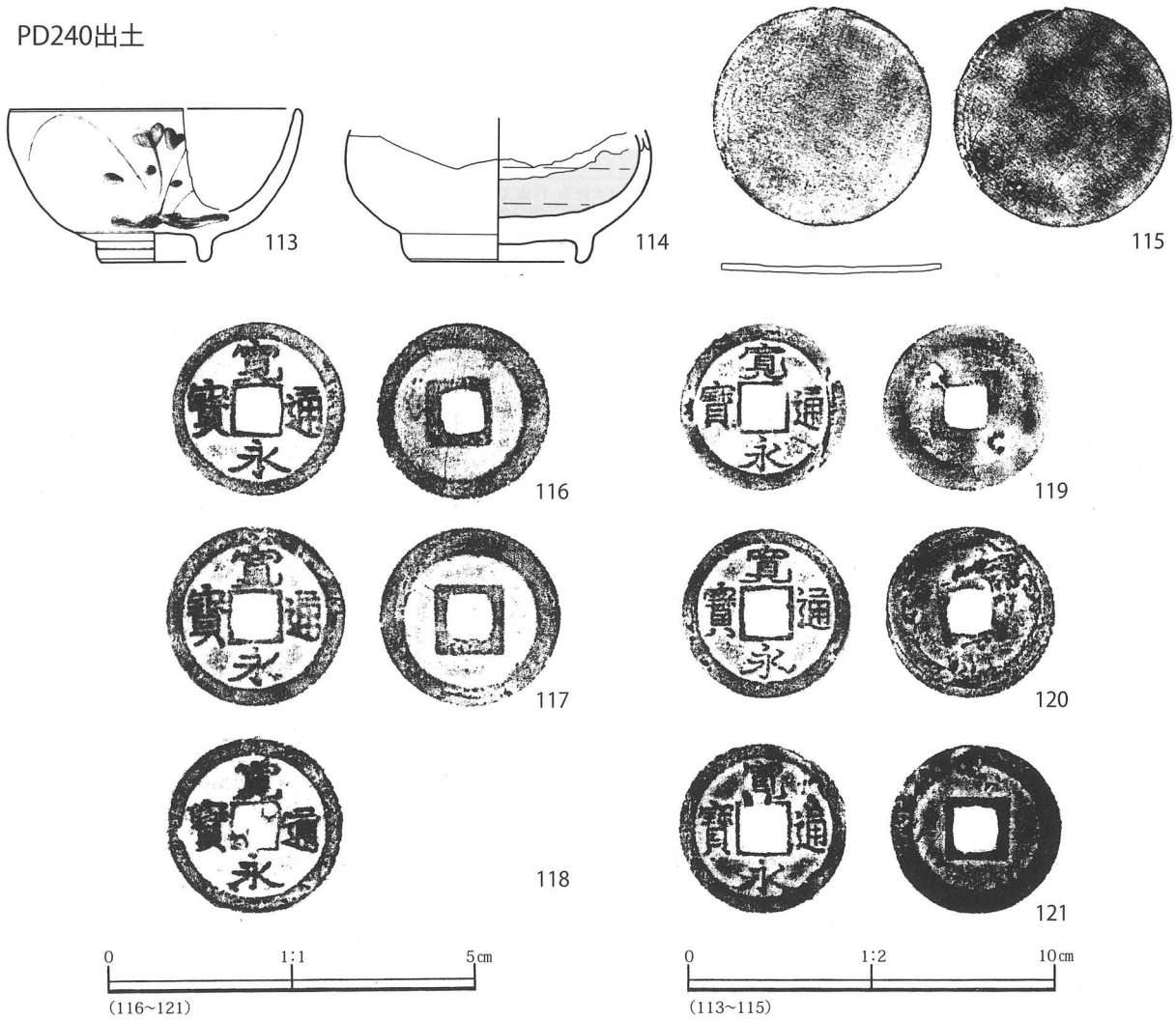


※有機質遺物（318）は写真掲載。

RD239出土



第37図　墓壙出土遺物（4）



第38図　墓壙出土遺物（5）

18世紀後半に帰属するものと思われる。

RD203墓壙（第33・36図、写真図版15・43・56）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区4Ａ11ｕグリッドに位置する。

〈重複関係〉ＲＤ201・202・204と重複する。本遺構が最も古いものと思われる。

〈平面形・規模〉重複する遺構によりほとんど壊されており、平面形は不明である。規模は残存部0.64×0.44ｍ、深さはⅣ層上面から最深15㎝である。

〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は東壁のみ確認した。外へと緩やかに広がりながら立ち上がる。

〈出土人骨〉部位不明の小片が多量に出土した。全て焼骨であった。

〈副葬品〉銅銭（88）６点である。錆により６枚ともくっついた状態で出土し、ひきはがせない。また錆がひどく銭種は不明である。

〈性格・時期〉人骨が焼骨であり、火葬墓の可能性がある。埋葬時期は副葬品から近世後半に帰属するものと思われる。

第９表　墓壙出土人骨一覧表

遺構名	確認できた残存部位（歯）						
	切歯	犬歯	小臼歯	大臼歯	備考	頭蓋骨	脊柱 胸郭
RD190	0	0	0	0	歯なし		
RD191	1	0	5	5	永久歯のみ	破片少量	
RD192（上位）	7	4	8	11	左記のほか乳歯（切歯または犬歯5、臼歯3）あり　歯の一部が歯槽内に埋没（萌出前の永久歯？）	ほぼ全体（上顎骨・側頭骨は接合不可）	頸椎、胸椎、肋骨
RD192（下位）	8	6		11	歯の一部が歯槽内に埋没（萌出前の永久歯？）	頭頂骨周辺、上・下顎骨	胸椎、肋骨
RD193	7	4	－	8	乳歯のみ	前頭骨～上顎骨、下顎骨	頸椎、胸椎、肋骨
RD194	7	1	4	10	永久歯のみ　第３大臼歯あり	左側頭骨・上顎骨を除く全体	頸椎
RD195	－	－	－	－	－	－	－
RD196	?	?	?	?	歯冠破片数点		
RD197	0	0	0	0	歯なし	破片少量	
RD198	0	0	0	0	歯なし		
RD199	?	?	?	?	歯冠破片数点		
RD200	0	0	0	6	乳歯含む	下顎骨の一部のみ	
RD201	1	0	0	0	永久歯のみ	前頭骨・頭頂骨周辺のみ	胸椎、肋骨
RD202	0	0	0	1	臼歯１点のみ		
RD203	0	0	0	0	歯なし		
RD204	6	2	0	6	乳歯含む	下顎骨の一部のみ	
RD205	?	?	?	?	歯冠破片数点		
RD236	0	0	0	0	歯なし		
RD237	－	－	－	－	－	－	－
RD238	0	1	0	3	乳歯のみ	下顎骨の一部のみ	
RD239	5	1	5	1	永久歯含む	破片、下顎骨	頸椎
RD240	4	3	5	2	永久歯のみ　大臼歯に咬耗みられる	上顎骨・後頭骨を除く全体	

RD204墓壙（第33・36図、写真図版15・43・48・56）

〈位置・検出状況〉第23次北側調査区４Ａ12ｕグリッドに位置する。

〈重複関係〉ＲＤ202・203と重複する。本遺構はＲＤ203よりは新しいと思われるが、ＲＤ202との新旧関係は不明である。

〈平面形･規模〉不整な隅丸方形を呈する。規模0.97×0.85ｍ、深さはⅣ層上面から最深37㎝である。

〈底面・壁〉底面はやや丸い。壁は全周する。外へと緩やかに広がりながら内湾気味に立ち上がる。

〈出土人骨〉頭骨と部位不明の小片を確認した。遺存状態は悪く、頭骨は下顎骨の一部と乳歯である。

〈副葬品〉銅銭（90～98）９点、有機質遺物（写真図版48－317）１点である。銭種は古寛永６点（90～95）、新寛永背文１点（96）新寛永無背文２点（97・98）である。317は残存状態が悪く、ばらばらの状態であったが、銭貨と密着した状態で出土しており、銭貨を入れる巾着袋であったと思われる。大きい断片で３㎝大。皮製か繊維かは不明であるが、肉眼で観察する限り繊維ではないかと推定する。

〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。埋葬時期は副葬品から18世紀に帰属するものと思われる。

RD205墓壙（第33図、写真図版15・56）

〈位置・検出状況〉北側調査区４Ａ11ｔ～11ｕグリッドに位置する。

〈重複関係〉ＲＤ236と重複する。新旧関係は推定が難しいが、本遺構の方が新しい可能性が高い。またＲＧ068と重複する。本遺構の方が古いが、本遺構の上端壁を一部壊す程度である。

確認できた残存部位（歯以外の骨）				年齢
上肢骨	下肢骨	その他	備考	
			不明の小破片少量	不明
	大腿骨（左右）、脛骨			小児以上？
肩甲骨・鎖骨・上腕骨・尺骨（左右）	腸骨・坐骨・大腿骨・頸骨（左右）	手（または足）の骨	骨端未癒合 頸椎・胸椎は大小２体分　18号墓（下位）と混ざった可能性あり	小児？
	大腿骨、脛骨		骨端未癒合	幼児～小児？
	腸骨・大腿骨（左右）		骨端未癒合	幼児？
鎖骨、肩甲骨・上腕骨（左右）	大腿骨・脛骨（左右）		頭蓋骨は眉間の隆起・外後頭隆起が発達し、男性的	壮年以上？
－	－	－	人骨なし	－
			ほか不明の小破片少量	不明
	大腿骨、脛骨			不明
			不明の小破片少量	不明
			不明の小破片少量	不明
			他に不明の小破片少量	小児以下？
上腕骨	大腿骨（左右）、脛骨	手（または足）の骨		小児以上？
				不明
			すべて焼骨の小破片、部位不明	不明
			他に不明の小破片少量	小児以下？
			不明の小破片少量	不明
			すべて焼骨の小破片、部位不明	不明
－	－	－	人骨なし	－
			他に不明の小破片少量　焼骨混じる	小児以下？
	大腿骨			小児以上？
鎖骨、上腕骨	大腿骨、脛骨	手（または足）の骨		壮年以上？

※年齢について　乳児（１歳以下）・幼児（１～５歳）・小児（６～15歳）・成年（16～20歳）・壮年（20～39）・熟年（40～59歳）・老年（60歳以上）を想定する。ただしあくまで推定である。

〈平面形・規模〉不整な隅丸方形を呈する。規模は径1.11 × 1.00 mを測る。深さはⅣ層上面から最深41 cmである。

〈底面・壁〉底面は平坦である。壁はＲＧ068に一部壊されているがほぼ全周する。ほぼ直立気味に立ち上がる。

〈出土人骨〉歯冠破片数点と部位不明の小片のみである。

〈副葬品〉なし。

〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の遺存状態が悪く不明である。埋葬時期は副葬品がなく不明であるが重複するＲＤ236とほぼ同時期に帰属するものと思われる。

RD236墓壙（第33図、写真図版15・56）

〈位置・検出状況〉第24次調査区４Ａ11ｕ～11ｔグリッドに位置する。

〈重複関係〉ＲＤ205・237・238・240と重複する。いずれの遺構とも新旧関係の推定が難しいが、ＲＤ237の埋土上位を壊して本遺構が構築されたものと思われ、ＲＤ237よりは新しい可能性がある。

〈平面形・規模〉重複する他の遺構により壊され、平面形は不明であるが、不整な楕円形を呈すると思われる。規模は残存部2.11 × 0.84 m、深さはⅣ層上面から最深26 cmである。

〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は西壁と南壁の一部を確認した。外へと緩やかに広がりながら立ち上がる。

〈出土人骨〉部位不明の小片のみである。すべて焼骨である。

第10表　墓壙出土遺物観察表

近世磁器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
58	33	猪口	RD194　埋土中	4.8	2.9	2.9	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年頃	内面に鉄分の付着はなし
59	33	紅皿	RD194　埋土中	4.2	1.2	1.0	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年頃	
74	33	猪口	RD199　埋土中	4.5	2.5	2.8	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年頃	内面に鉄分の付着はなし
75	33	紅皿	RD199　埋土中	4.6	1.7	1.8	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	
79	33	猪口	RD201　底面付近	5.0	4.0	3.5	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年頃	鉄漿坏　内面に鉄分付着
80	33	紅皿	RD201　埋土中	4.4	1.2	1.3	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	
113	33	染付碗	RD240　埋土中	8.0	3.0	4.2	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	鉄漿坏か
114	33	油壺	RD240　埋土中	－	4.6	(3.6)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年頃	鉄漿坏に転用か　内面に鉄分付着

近世陶器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
63	30	小碗（鉄漿坏）	RD196　底面	6.1	2.9	3.4	にぶい黄橙	灰釉	大堀相馬	18 世紀代	
78	30	小碗（鉄漿坏か）	RD200　埋土中	6.8	3.5	5.7	にぶい黄橙	わら灰釉	在地か	19 世紀前半か	ひび割れにうるし充填 内面鉄分付着
81	31	碗	RD201　埋土上位	(9.0)	－	－	灰白色	わら灰釉に銅緑釉	大堀相馬	19 世紀前半	
89	30	仏飯器	RD237　底面	7.7	－	(3.3)	白色	灰釉	大堀相馬	18 世紀代	脚部欠損　欠損部を磨って転用

銭貨

番号	写真図版	出土位置・層位	銭貨名	備考	初鋳年（鋳造年）	材質	たて（mm）	よこ（mm）	厚さ（mm）	穿径（mm）	重量（g）
52	42	RD191　埋土中	古寛永		1636	銅	24.33	24.28	1.15	5.58	2.5
53	42	RD191　埋土中	新寛永文銭		1668	銅	25.43	25.21	1.3	5.89	3
64	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	23.25	23.2	1.16	6.05	2.4
65	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	21.88	21.77	0.95	6.42	1.6
66	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	22.02	22.08	1.02	7.07	1.9
67	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	23.6	23.56	0.96	6.1	2.4
68	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	23.1	23.37	1.07	6.46	2
69	42	RD196　底面上	新寛永		1697	銅	23.52	23.43	1.06	6.02	2.8
71	42	RD197　埋土下位	新寛永（鉄一文銭）		1738	鉄	24.31	24.57	1.29	5.8	3.6
72	42	RD197　埋土下位	不明	2 枚	－	鉄	24.69	25.63	4.51	3.63	5.2
73	42	RD197　埋土下位	不明		－	鉄	24.65	25.32	2.33	6.59	2.1
85	42	RD202　底部	新寛永文銭		1668	銅	23.79	23.59	1.1	60.6	1.6
86	42	RD202　底部	新寛永		1697	銅	25.3	25.28	1.41	5.92	3.2
87	42	RD202　底部	新寛永		1697	銅	23.48	23.9	1.13	5.59	2.9
88	43	RD203　埋土中	不明	6 枚	－	銅	26.51	26.09	5.6	6.13	14.3
90	43	RD204　埋土中	古寛永		1636	銅	24.36	24.27	1.1	6.19	2.5
91	43	RD204　埋土中	古寛永		1636	銅	24.73	24.69	1.19	5.87	2.9
92	43	RD204　埋土中	古寛永		1636	銅	23.69	23.73	1.01	6.5	2.2
93	43	RD204　埋土上位	古寛永		1636	銅	23.03	22.93	1.09	5.56	2.8
94	43	RD204　埋土中	古寛永		1636	銅	22.68	22.37	1.07	5.3	1.6
95	43	RD204　埋土中	古寛永		1636	銅	24.45	24.32	1.15	5.77	2.5
96	43	RD204　埋土中	新寛永		1697	銅	25.08	25.02	1.31	5.66	4.1
97	43	RD204　埋土上位	新寛永		1697	銅	23.47	23.55	1.18	5.47	3.2
98	43	RD204　埋土上位	新寛永		1697	銅	22.33	2195	0.95	6.92	2.1
100	43	RD238　埋土中	古寛永		1636	銅	25.11	24.43	0.96	5.96	2.7
101	43	RD238　埋土中	古寛永		1636	銅	24.21	23.51	1.05	6.26	1.9
102	43	RD238　埋土中	新寛永		1697	銅	23.3	23.2	1.02	6.19	2.6
103	43	RD238　埋土中	新寛永文銭		1668	銅	24.81	24.98	1.09	5.79	2.4
104	43	RD238　埋土中	古寛永		1636	銅	24.23	24.35	1.08	5.57	2.6
105	43	RD238　埋土中	寛永通宝	古新不明	－	銅	23.11	23.35	1.13	5.42	2.5
106	43	RD238　埋土中	不明		－	銅	24.68	24.11	1.68	5.21	1.9
107	43	RD239　埋土中	洪武通宝		1368	銅	22.02	21.94	0.89	6.89	1.4
108	43	RD239　埋土中	新寛永		1697	銅	23.07	23.06	1.09	6.17	2.7
109	43	RD239　埋土中	不明		－	鉄	26.51	27.35	3.69	4.77	4

番号	写真図版	出土位置・層位	銭貨名	備考	初鋳年（鋳造年）	材質	たて（mm）	よこ（mm）	厚さ（mm）	穿径（mm）	重量（g）
110	43	RD239　埋土中	不明		－	鉄	26.73	26.79	2.58	6.64	2.6
111	43	RD239　埋土中	不明		－	鉄	28.78	28.06	3.94	6.09	3
112	43	RD239　埋土中	不明	1／2欠損	－	鉄	10.52	24.07	2.28	－	0.9
116	43	RD240　埋土中	古寛永		1636	銅	24.39	24.47	1.3	5.9	3.9
117	44	RD240　埋土中	古寛永		1636	銅	25.04	25.07	1.15	5.99	2.6
118	44	RD240　埋土中	古寛永	裏に木	1636	銅	24.31	24.26	1.35	5.63	4.4
119	44	RD240　埋土中	新寛永		1697	銅	23.26	23.28	1.05	5.77	2.6
120	44	RD240　埋土中	新寛永		1697	銅	23.59	23.54	1.14	6.03	2.8
121	44	RD240　埋土中	新寛永		1697	銅	23.27	23.35	1.27	6.44	3.1

ガラス・金属製品

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	材質	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
54	41	簪	RD192　埋土中	ガラス	47.47	2.79	2.79	0.3	透明
55	41	簪	RD192　埋土中	ガラス	121.16	2.78	2.78	0.9	透明
60	41	煙管	RD194	銅	68.75	11.04	11.04	7.1	
62	41	煙管	RD195	銅	4602	10.89	10.89	7.3	
77	41	簪	RD199	銅	42.19	5.41	5.41	2	両端欠損
82	41	簪	RD201	銅	120.3	5.65	2.11	5.4	耳かき付

鏡

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	材質	長さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	銘	備考
57	41	鏡	ＲＤ193　埋土中	ガラス	31.45	24.11	0.42	1.1	－	鬢鏡か
61	41	鏡	ＲＤ195　埋土中	ガラス	36.49	29.44	0.31	1.2		鬢鏡か
70	41	鏡	ＲＤ197　埋土中	銅	85.66	34.38	1.69	46.8		柄鏡
76	41	鏡	ＲＤ199　埋土中	ガラス	40.4	30.57	0.61	1.9		鬢鏡か
83	41	鏡	ＲＤ202　埋土中	銅	64.47	61.48	1.15	18.3	勝山正蔵	柄鏡　18世紀後半
99	41	鏡	ＲＤ238　埋土中	ガラス	34.6	27.48	0.49	1.8		鬢鏡か
115	41	円形鏡	ＲＤ240　埋土中	銅	59.38	60.19	1.11	20.7	無文	

石製品

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	残存状態	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量	備考
56	41	不明	RD192埋土中	端部欠損	不明	14.5	0.5	0.5	7.46	年代不明

木製品

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	残存状態	材質	長さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	年代	備考
84	47	櫛	RD202埋土中	櫛歯２枚のみ	不明	39.53	7.84	5.35	18世紀後半以降	櫛歯を通す貫通孔あり

有機質遺物

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	残存状態	材質	大きさ（cm）	備考
312	48	漆器皮膜	RD192埋土上～下位	断片	－	1cm大	赤～赤褐色
313	48	袋	RD199埋土中	断片	皮か布	3.0×3.0	ガラス鏡に密着し、他に毛髪と頭骨が付着
314	48	袋	RD199埋土中	断片	皮か布	2.5×4.7	ガラス鏡に密着　313と同一個体か
315	48	袋	RD202埋土中	繊維片	布	2.5×1.5	銭貨に付着　銭入れか
316	48	袋	RD202埋土中	断片	皮か布	6.0×6.0	柄鏡に付着　表面に黒漆が塗布
317	48	袋	RD204埋土中	散々	皮か布	3.0×2.0	銭貨に付着　銭入れか
318	48	袋	RD238埋土中	断片	皮か布	4.0×3.5	銭貨に付着　また紐のような繊維残存

〈副葬品〉なし。

〈性格・時期〉火葬墓である。埋葬時期は副葬品がなく不明であるが、重複するＲＤ237とほぼ同じ時期に帰属するものと思われる。

RD237墓壙（第33・36図、写真図版15・30）

〈位置・検出状況〉第24次調査区４Ａ11ｕグリッドに位置する。

〈重複関係〉ＲＤ 236 と重複する。本遺構の方が新しいと思われる。
〈平面形・規模〉不整な隅丸方形を呈する。規模は 0.98 × 0.84 m、深さはⅣ層上面から最深 122 cm である。
〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は全周する。外へと緩やかに広がりながら直線的に立ち上がる。
〈出土人骨〉なし。
〈副葬品〉近世陶器（89）１点である。大堀相馬産の仏飯器で、18 世紀代の所産である。脚部を欠損するが、再利用のため欠損部は研磨されていた。
〈性格・時期〉人骨が出土しなかったので、不明であるが、土葬墓と思われる。埋葬時期は副葬品から 18 世紀代に帰属するものと思われる。

RD238墓壙（第 33・37 図、写真図版 15・41・43・48・56）
〈位置・検出状況〉第 24 次調査区４Ａ 11 ｖグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 236・240 と重複する。どちらも本遺構との重複関係を推定するのは難しい。
〈平面形･規模〉不整な隅丸方形を呈する。規模 0.71 × 0.66 m、深さはⅣ層上面から最深 13 cmである。
〈底面・壁〉底面はやや丸い。壁は全周する。外へと緩やかに広がりながら立ち上がる。
〈出土人骨〉頭骨と部位不明の小片である。遺存状態は悪く、頭骨は下顎骨の一部のみである。また乳歯が確認できた。他に部位不明の小片には焼骨が混ざっている。
〈副葬品〉ガラス鏡（99）１点、銅銭（100 ～ 106）７点、有機質遺物（写真図版 48－318）１点である。99 は割れて一部が欠損している。小さいので、鬢鏡かと思われる。銅銭の銭種は古寛永１点（100）、新寛永無背文２点（101・102）、新寛永背文１点（103）、古新不明の寛永通宝２点（104・105）、不明の銭貨１点（106）である。有機質遺物（318）は銭貨と密着した状態で出土した。皮製か繊維製かは定かではない。内面と思われる面に銭貨の錆が付着する。4.0 × 3.5 cm大で、紐のようなものが残存する。銭貨を入れる巾着袋と思われる。
〈性格・時期〉焼骨が確認されたので火葬墓であろう。また乳歯が見つかっていることから遺体は幼児か小児の可能性がある。埋葬時期は副葬品から近世後半に帰属するものと思われる。

RD239墓壙（第 33・37 図、写真図版 15・43・56）
〈位置・検出状況〉第 24 次調査区４Ａ 11 ｖグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 240 と重複する。本遺構の方が新しいものと思われる。
〈平面形･規模〉不整な楕円形を呈する。規模は 1.63 × 1.49 m、深さはⅣ層上面から最深 83 cmである。
〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は全周する。外へと直立気味に立ち上がる。
〈出土人骨〉墓坑ほぼ中央から頭骨、下肢骨、脊柱・胸郭の骨が出土した。遺存状態は悪い。
〈副葬品〉銅銭２点、鉄銭４点である。銅銭の銭種は洪武通宝１（107）、新寛永無背文１（108）である。鉄銭（109 ～ 112）は錆がひどく、銭種は不明である。
〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の出土状態から座った姿勢で埋葬されたものと推定される。埋葬時期は副葬品から近世後半に帰属するものと思われる。

RD240墓壙（第 33 図、写真図版 15・33・41・43・44・57）
〈位置・検出状況〉第 24 次調査区４Ａ 11 ｖグリッドに位置する。
〈重複関係〉ＲＤ 238・239 と重複する。ＲＤ 239 よりは本遺構の方が古いと思われる。ＲＤ 238 と

の新旧関係は推定するのが難しい。

〈平面形・規模〉不整な楕円形を呈する。規模は残存部 1.08 × 0.94 m、深さはⅣ層上面から最深 39 cmである。

〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は全周する。外へと開きながら直立気味に立ち上がる。

〈出土人骨〉墓坑北隅から頭骨、四肢骨、手（足）の骨が出土した。遺存状態は比較的良好で、頭骨はほぼ全体が残存する。上肢骨は鎖骨、上腕骨が、下肢骨は大腿骨、脛骨が確認できた。

〈副葬品〉近世磁器２点（113・114）、銅製鏡１点（115）、銅銭６点（116 ～ 121）である。113 は染付碗、114 は湯壺で、どちらも肥前産、1690 ～ 1780 年の所産である。115 は両面とも無文の鏡である。銅銭の銭種は古寛永３点（116 ～ 118）、新寛永無背文３点（119 ～ 121）である。

〈性格・時期〉土葬墓である。埋葬姿勢は人骨の出土状態から横臥姿勢で埋葬されたものと推定される。埋葬時期は副葬品から 17 世紀後半～ 18 世紀に帰属するものと思われる。

土坑

34基確認した。主に第23・24次調査区の北側に分布する。いずれもⅣ層上面で検出しており、掘立柱建物群などと同時期に帰属するものと推定する。

各土坑の属性については第11表の通りである。ここでは土坑全体を分布から大きく３つ（調査区西側、中央、東側それぞれに分布するもの）に分けて概観する。

調査区西側（第８・39・40、写真図版17～19・42）

〈分布する土坑〉ＲＤ206～214である。分布状況はまばらで、それぞれに関連性は見いだせない。

〈平面形・規模〉ＲＤ212以外は、規模が長辺２ｍを超えず、平面形は不整楕円形を呈する。ＲＤ212については後述する。

〈埋土様相〉ＲＤ206・212は深い割に単層に近い様相を呈する。また多量の褐色砂質シルトがブロック状に混入することから人為堆積と考える。その他の土坑の埋土にはそういった様相は認められず、自然堆積であろうと判断した。

〈出土遺物〉ＲＤ212で確認した鉄製品１点（写真図版42－309）のみである。309は口縁部が大きく外反する鍋かと思われるが、全体の半分が欠損する。時期判断するのは難しいが、近代以降の所産と思われる。

〈土坑群の性格〉不明である。周辺からは100個以上の柱穴状土坑や溝が見つかったが、掘立柱建物跡に認定出来たものがなく、ＲＤ206～214も所謂「建物」に関連する施設とは捉えきれない。

〈ＲＤ212について〉ＲＤ212は他の土坑とは様相を異にしており、ここで詳しく述べておく。ＲＤ212は隅丸長方形を呈し、南北両端には段を有する。規模は5.3×2.2ｍを測り、深さは52㎝である。埋土は黒色粘質シルト主体の１層が全体のほとんどを占めており、人為堆積であろうと判断した。底面には長辺方向２列に小柱穴が５個ずつ並んでおり、南北両方向の段上にも小柱穴が認められる。また南側の段上には東西方向にのみ壁溝が確認された。底面の中央から北側よりに貼床範囲が認められ、比較的硬化していた。中央の底面上には鍋かと思われる309が正位で置かれていた。出土遺物はこれのみであり、時期は近世以降としか分からない。形状や規模からは「竪穴建物」の可能性も考えたくなるが、そのように判断する根拠に乏しく、「土坑」の範疇に納めた。

調査区中央（第９・40～45、写真図版19～25・31・33・34・36・46・47）

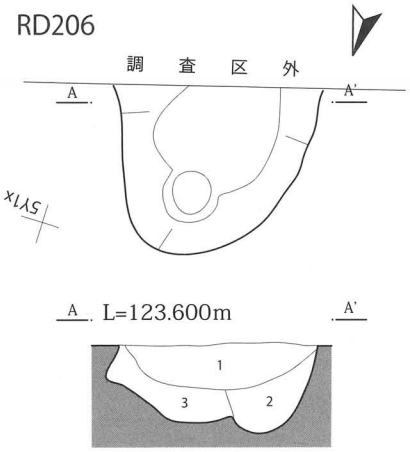
〈土坑の分布〉ＲＤ215～229・241～244である。掘立柱建物群の柱穴と重複するものも多い。

〈平面形・規模〉平面形は不整楕円形と隅丸方形とに二分される。規模も長辺が２～３ｍとそれ以下とに二分される。なお隅丸方形を呈する土坑は小規模なものが多い傾向が認められる。

〈埋土様相〉ＲＤ215・220・221・223はいずれも多量の褐色砂質シルトがブロック状に混入することや埋土の深さの割に単層であることから、人為堆積と判断した。なお、このエリアに分布する土坑のほとんどが埋土は単層であるが、混入物が少ないのでその差異で判断している。

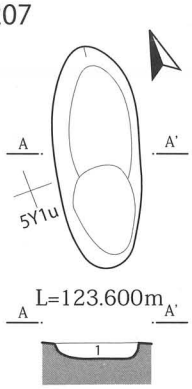
〈出土遺物〉ＲＤ219・221・223から出土遺物が認められる。古いものではRD231から1690～1780年頃の磁器碗・皿（140・141）が出土しているが、他はおおむね18世紀～19世紀前半ころの範疇に収まる。ただしRD221はやや様相が異なり、18世紀後半～19世紀初頭（129・130）、19世紀前半～半ば（127・128）、19世紀以降（132・133）にそれぞれ比定される磁器が一括して出土した。他に表面に磨った痕跡のある石器（磨石）が多数と砥石かと思われる立方体の石製品１点が見つかっている。磨石は縄文時代の磨石と類似しているが、上述の磁器類とほぼ同じ層位から出土しており、流れ込みとはとらえにくいので近世以降の石器類と判断した。また138は比較的大きいが表面を立方体状に整形し、そのうち５面が平らに面取りされている。他にRD219の埋土上位からは瓦の破片１点（126）が出土しているが、時期不明である。

RD206



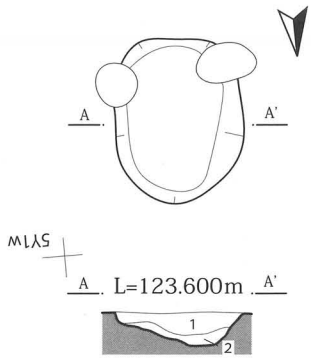
1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや疎
　褐色砂質シルトブロック少量、黄褐色細砂やや多く含む。
2 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密
　褐色砂質シルトブロック少量、黄褐色細砂少量含む。
3 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性強　しまりやや密
　褐色砂質シルト多量、黄褐色細砂微量含む。

RD207



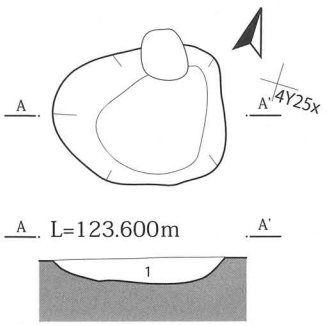
1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱
　しまりやや密　褐色砂質シルト少量含む。

RD208



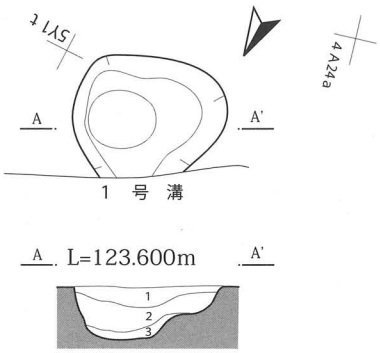
1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや強
　しまりやや密　褐色砂質シルト少量含む。
2 10YR4/6 褐色砂質シルト　粘性弱
　しまりやや疎　暗褐色シルトブロック中量含む。

RD209



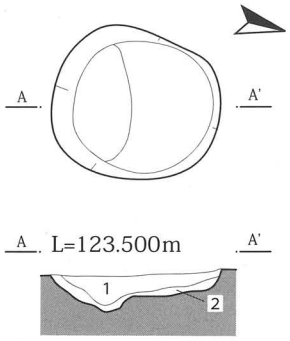
1 10YR3/3 暗褐色粘質シルト
　粘性強　しまりやや密
　褐色砂質シルト少量含む。

RD210



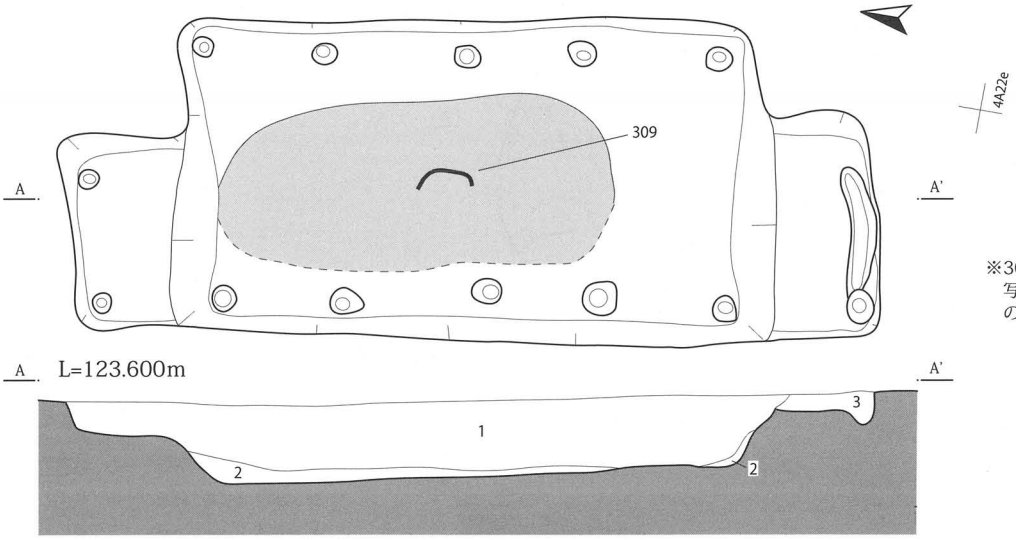
1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
　褐色砂質シルト少量含む。
2 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性弱　しまり密
　褐色砂質シルト中量含む。
3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや疎
　褐色砂質シルト多量含む。

RD211



1 10YR2/1 黒色粘質シルト
　粘性やや強　しまりやや密
　褐色砂質シルトブロック少量含む。
2 10YR3/4 暗褐色粘質シルト
　粘性強　しまりやや疎
　黒色シルトブロックやや多く含む。

RD212

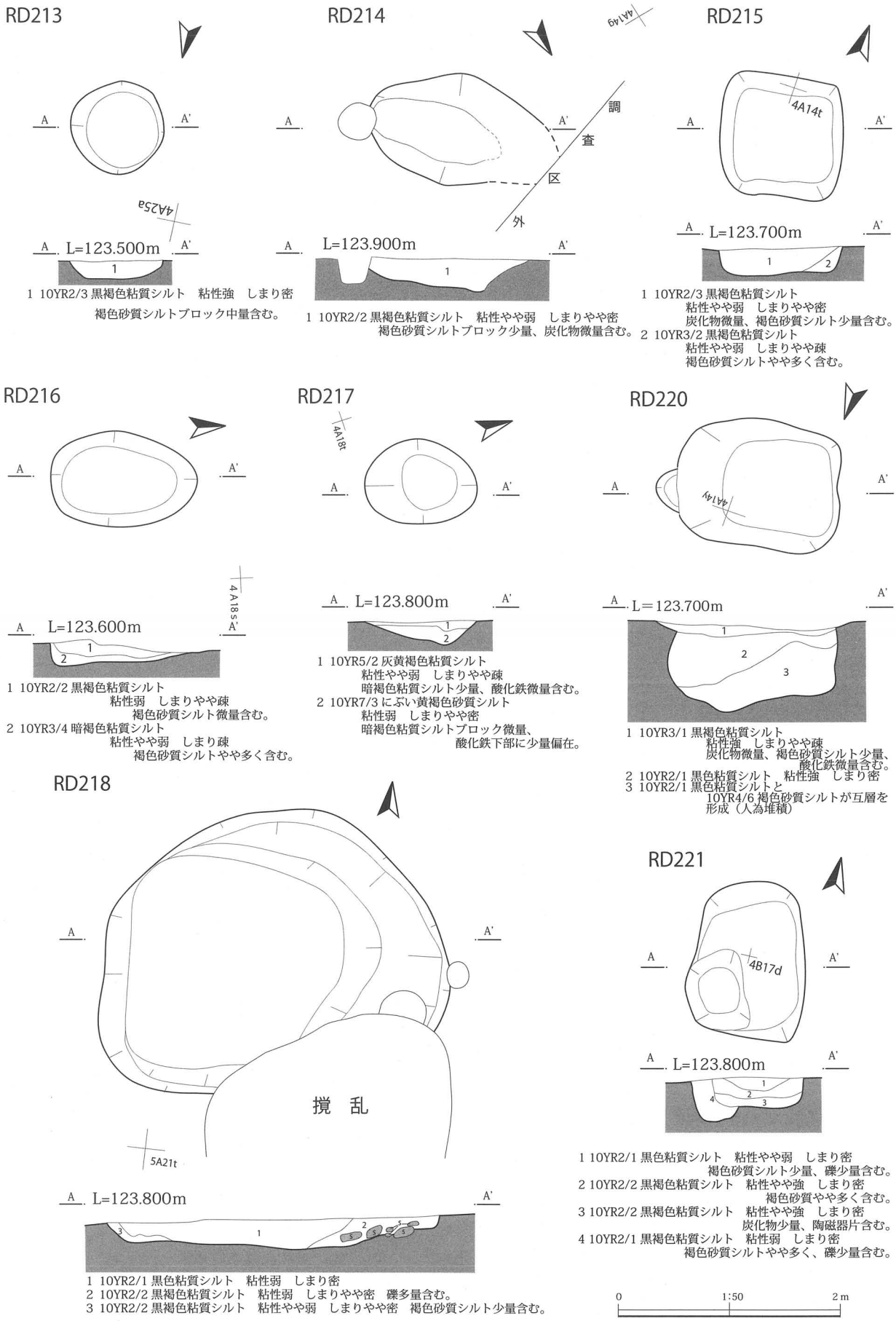


※309は
写真掲載
のみ。

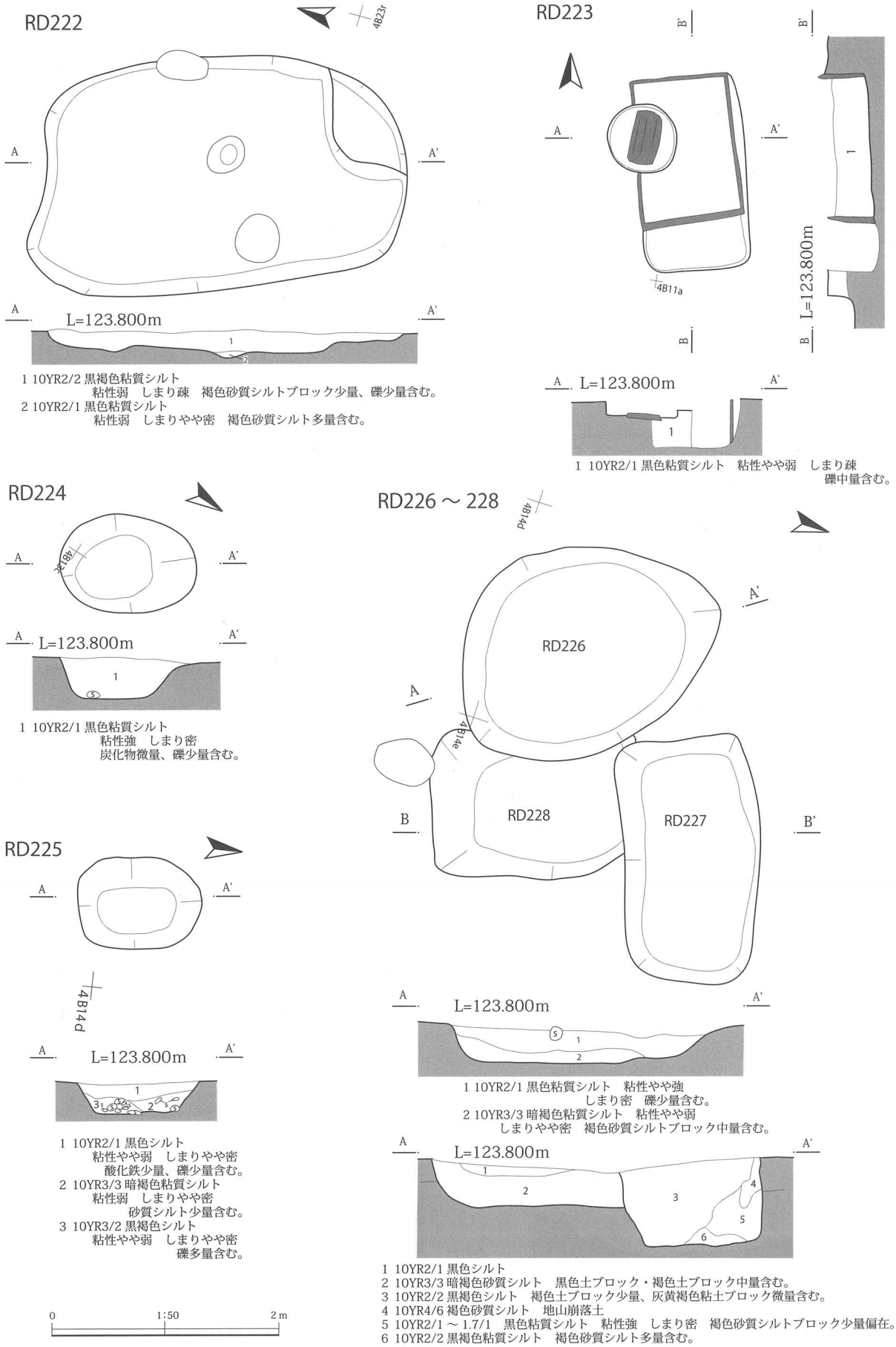
1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや疎　褐色砂質シルトブロック多量、礫含む。人為堆積の様相。
2 10YR4/4 褐色砂質シルト　粘性弱　しまりやや密　黒褐色粘質シルトブロックやや多く含む。
3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密　褐色砂質シルト多量含む。

0　1:50　2 m

第39図　RD206 ～ 212土坑

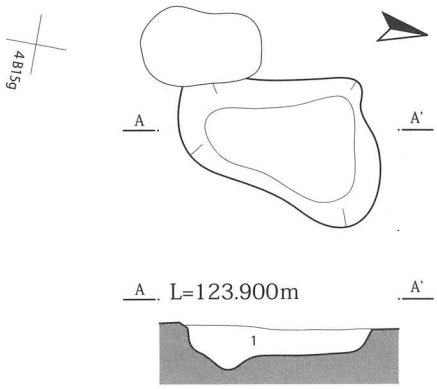


第40図　RD213 ～ 218・220・221土坑



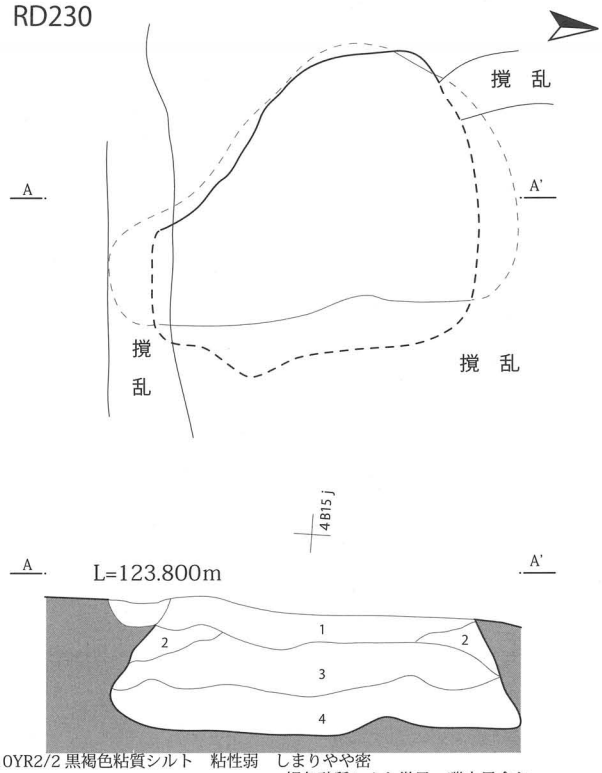
第41図　RD222 ～ 228土坑

RD229



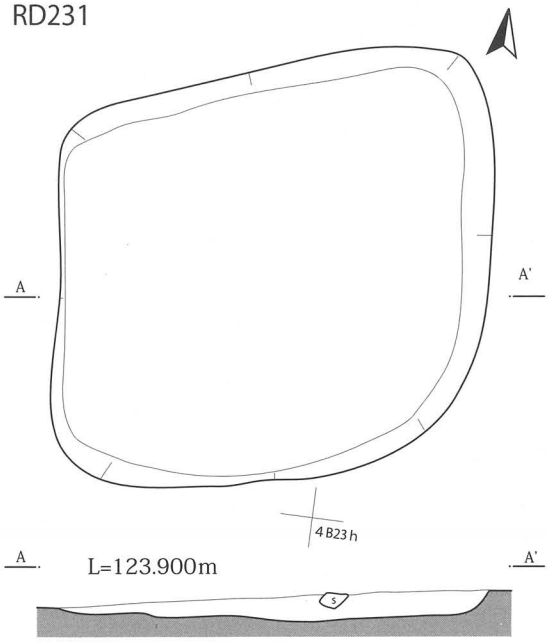
1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性強　しまり密

RD230



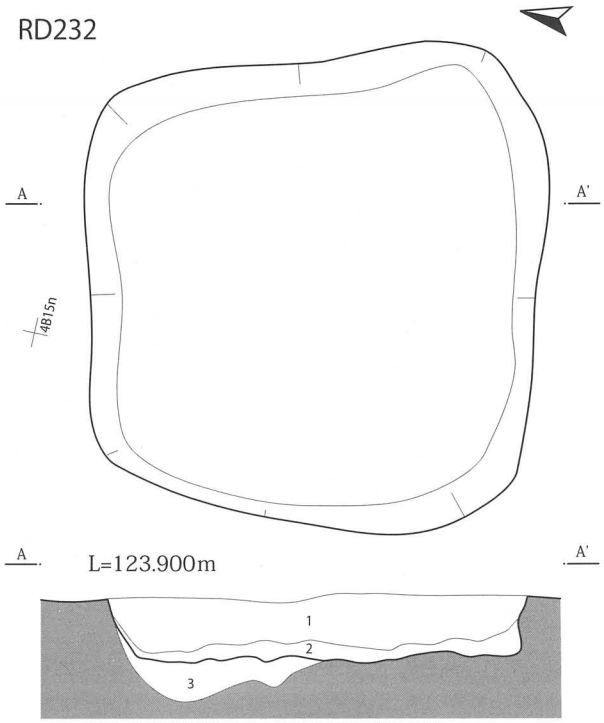
1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱　しまりやや密
褐色砂質シルト微量、礫少量含む。
2 10YR4/4 褐色砂質シルト　粘性やや弱　しまりやや密
黒色シルト少量、黄褐色細砂少量含む。
3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
褐色砂質シルト少量、礫微量含む。
4 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや強
しまりやや密　褐色砂質シルト少量、礫中量含む。

RD231



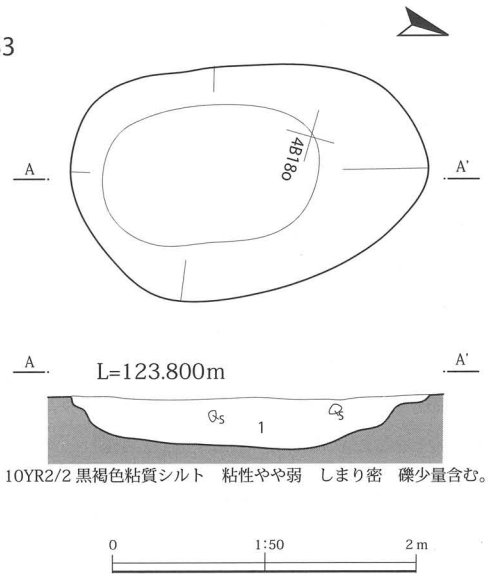
1 10YR2/1 黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　礫中量含む。

RD232



1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
炭化物微量、礫少量含む。
2 10YR5/6 黄褐色粘土　粘性強　しまり密
黒褐色シルト少量、礫少量含む。
3 10YR4/4 褐色砂質シルト　粘性強　しまりやや疎
酸化鉄中量、礫少量含む。

RD233

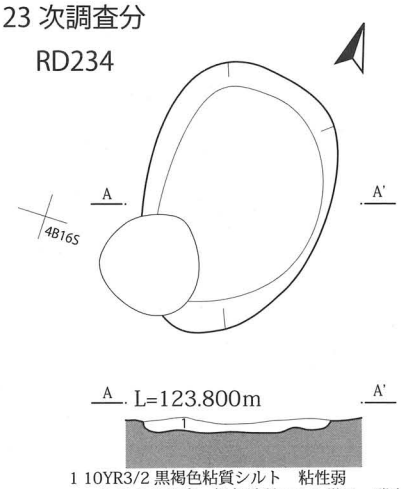


1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密　礫少量含む。

第42図　RD229 ～ 233土坑

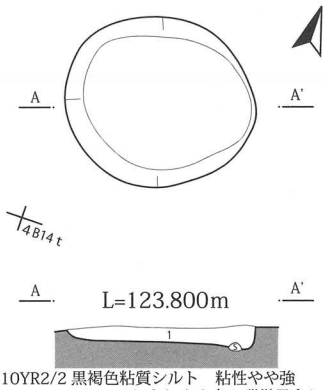
第 23 次調査分

RD234



1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱
しまりやや密　褐色砂質シルト微量、礫少量含む。

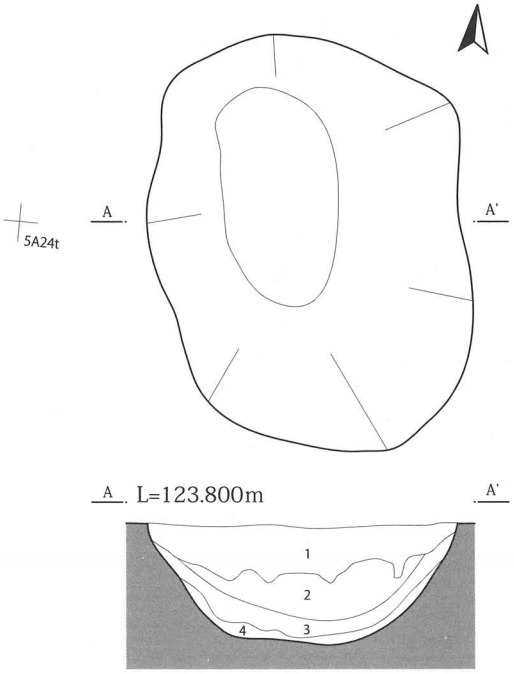
RD235



1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや強
しまりやや密　礫微量含む。

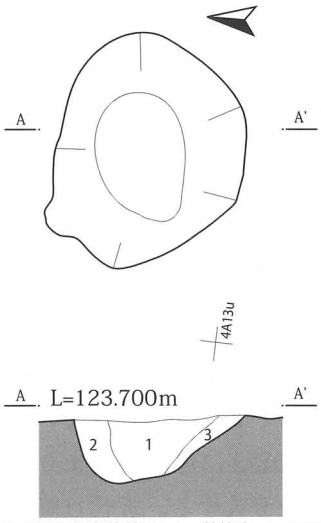
第 24 次調査分

RD241



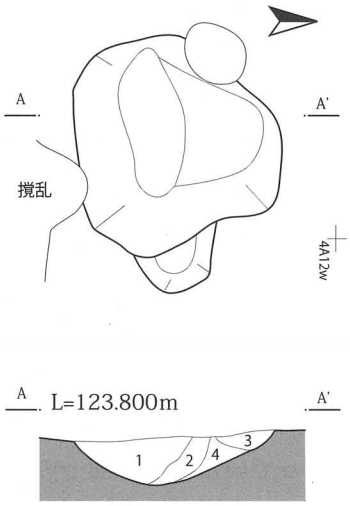
1 10YR2/2 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまりやや密
褐色砂質シルト少量、下部に礫少量偏在。
2 10YR2/2 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎
褐色砂質シルト多量、礫少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
黄褐色細砂多量含む。
4 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり密
黄褐色細砂ラミナ状に混入。

RD242



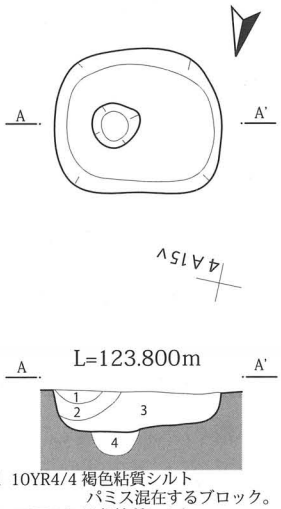
1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性強　しまりやや密
炭化物微量、礫少量含む。
2 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや疎
炭化物微量、礫微量含む。
3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり疎
礫多量含む。

RD243



1 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性強
しまりやや密　礫微量含む。
2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト　粘性強
しまりやや疎　礫少量含む。
3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性やや強
しまりやや密　礫少量含む。
4 10YR4/6 褐色砂質シルト　粘性弱
しまり密　黒褐色粘質シルトブロック
礫やや多く含む。

RD244



1 10YR4/4 褐色粘質シルト
パミス混在するブロック。
2 10YR2/1 黒色粘質シルト
灰色粘土下部に微量偏在。
3 10YR2/2 黒褐色粘質シルト
褐色砂質シルト少量、
灰色粘土ブロック微量含む。

0　1:50　2 m

第43図　RD234・235・241 ～ 244土坑

第11表　土坑一覧

遺構名	調査次数	位置	重複関係			平面形態	規模（m）	
			旧	新	不明		平面	深さ
R D 206	23	5－A1w				不整楕円形	11.1 × 1.36	0.58
R D 207	23	4－A25u				長楕円形	1.50 × 0.59	0.10
R D 208	23	5－A1 v		P 536・598		不整楕円形	1.10 × 0.84	0.22
R D 209	23	4－A25w		P611		不整楕円形	1.12 × 1.04	0.16
R D 210	23	4－A25s		RG069		不整楕円形	0.98 × 0.80	0.34
R D 211	23	4A23a				不整楕円形	1.10 × 1.00	0.13
R D 212	23	4A19d		RG069		隅丸長方形	5.34 × 2.22	0.52
R D 213	23	4A25a				不整円形	0.86 × 0.86	0.15
R D 214	23	4A13g		P541		不整楕円形	1.88 × 1.01	0.26
R D 215	23	4A14s	RG072			隅丸正方形	1.11 × 1.11	0.25
R D 216	23	4A18r				不整楕円形	1.33 × 0.85	0.20
R D 217	23	4A17t				不整楕円形	1.01 × 0.77	0.22
R D 218	23	5A19s	RG072・073			不整楕円形	3.03 × 2.45	0.27
R D 219	23	4 A 10 v	R Z 001			不整楕円形	3.54 × 3.27	1.08
R D 220	23	4 A 13 x	R B 052・056・059・061・062			不整隅丸方形	1.64 × 1.15	0.83
R D 221	23	4B16c	RB048・053・058・062　P 392・398			不整楕円形	1.45 × 1.06	0.39
R D 222	23	4B21 p	R B 060 P079・186		R B 060	不整楕円形	3.15 × 2.10	0.19
R D 223	23	4A10y	RZ001 P364			長方形	1.30 × 0.90	0.40
R D 224	23	4B12 b				不整楕円形	1.20 × 0.98	0.36
R D 225	23	4B13c				不整楕円形	1.10 × 0.82	0.25
R D 226	23	4B13d	RD228		RB051	不整楕円形	2.38 × 1.84	0.29
R D 227	23	4B13e	RD228		RB051	不整隅丸長方形	2.24 × 1.21	0.75
R D 228	23	4B13e		RD226・227	RB051	不整楕円形	1.80 × 1.31	0.39
R D 229	23	4B14g		RB055		不整楕円形	1.24 × 1.00	0.30
R D 230	23	4B14j				不整楕円形	2.17 × 1.95 2.70 × 1.66	0.89
R D 231	23	4B21g				不整隅丸方形	2.80 × 2.70	0.15
R D 232	23	4B15m				不整隅丸方形	3.25 × 3.04	0.45
R D 233	23	4B17n				不整楕円形	2.35 × 1.53	0.33
R D 234	23	4B15s		P715		不整楕円形	1.81 × 1.21	0.08
R D 235	23	4B13t				不整楕円形	1.26 × 1.14	0.09
R D 241	24	5A23t	RG072			不整楕円形	2.70 × 2.06	0.09
R D 242	24	5A12u				不整楕円形	1.54 × 1.22	0.39
R D 243	24	4A11v		P716		不整楕円形	1.72 × 1.32	0.31
R D 244	24	4A15v	RB057			不整隅丸方形	1.10 × 0.94	0.26

※重複する遺構の方が古い場合は「旧」に、新しい場合は「新」に記載した。

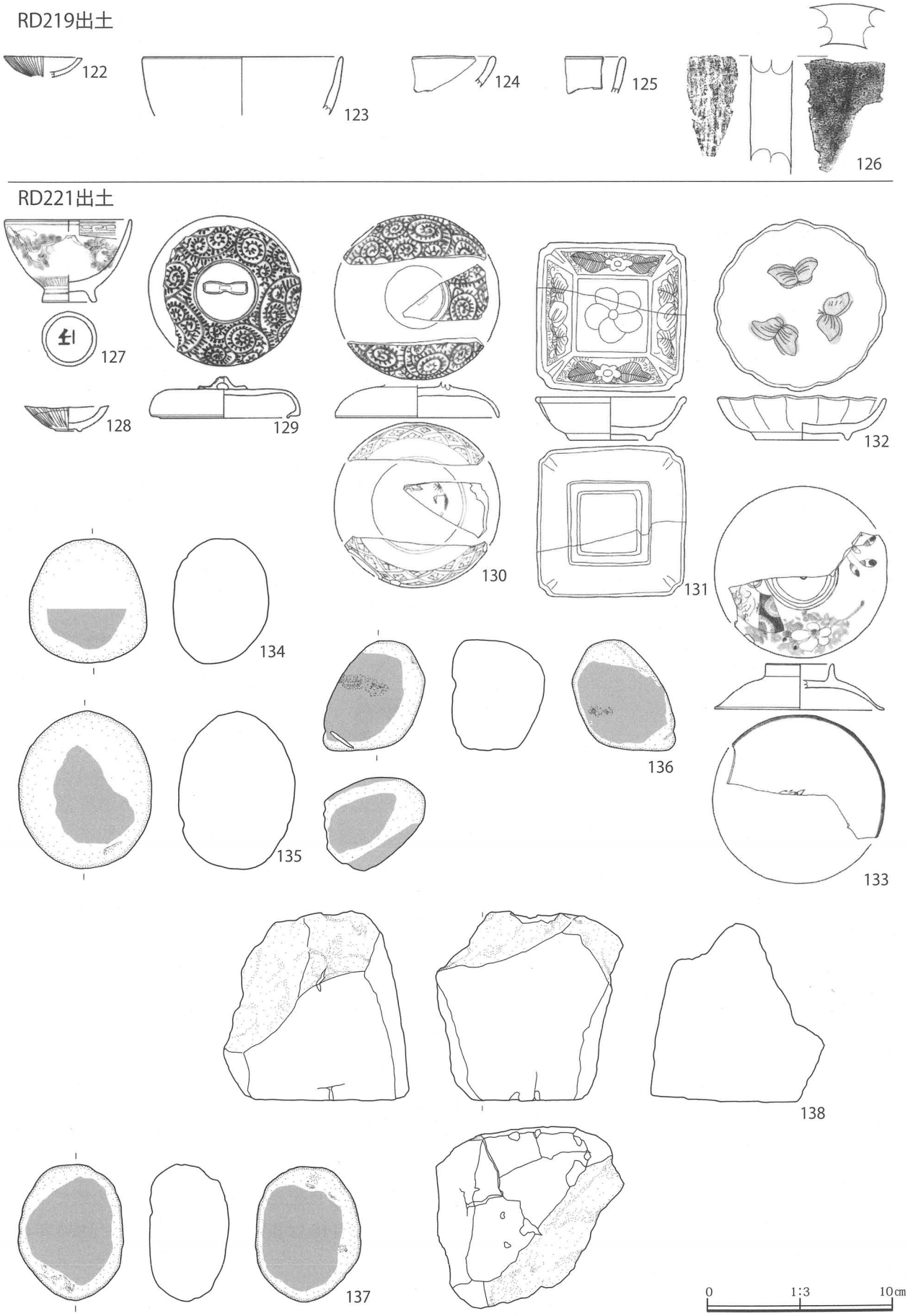
〈土坑群の性格〉掘立柱建物跡群に伴う施設と推定される。土坑群は掘立柱建物跡の柱穴とも重複するが、掘立柱建物跡群自体は４～５時期に区分できるの（第Ⅶ章２参照）で、土坑群も本来は数時期に区分され、それぞれが掘立柱建物に附属していたものと推定される。したがって土坑から出土した遺物類も掘立柱建物跡に関連がある遺物ととらえることが出来る。

〈RD219とRD223について〉RD219は開口部が3.5 × 3.2ｍの不整楕円形を呈し、深さも１ｍを超える。形状・規模からみれば、井戸に類似するが、埋土の様相、底面の規模・形態が他の井戸とは異なるので、土坑の範疇に納めることとした。

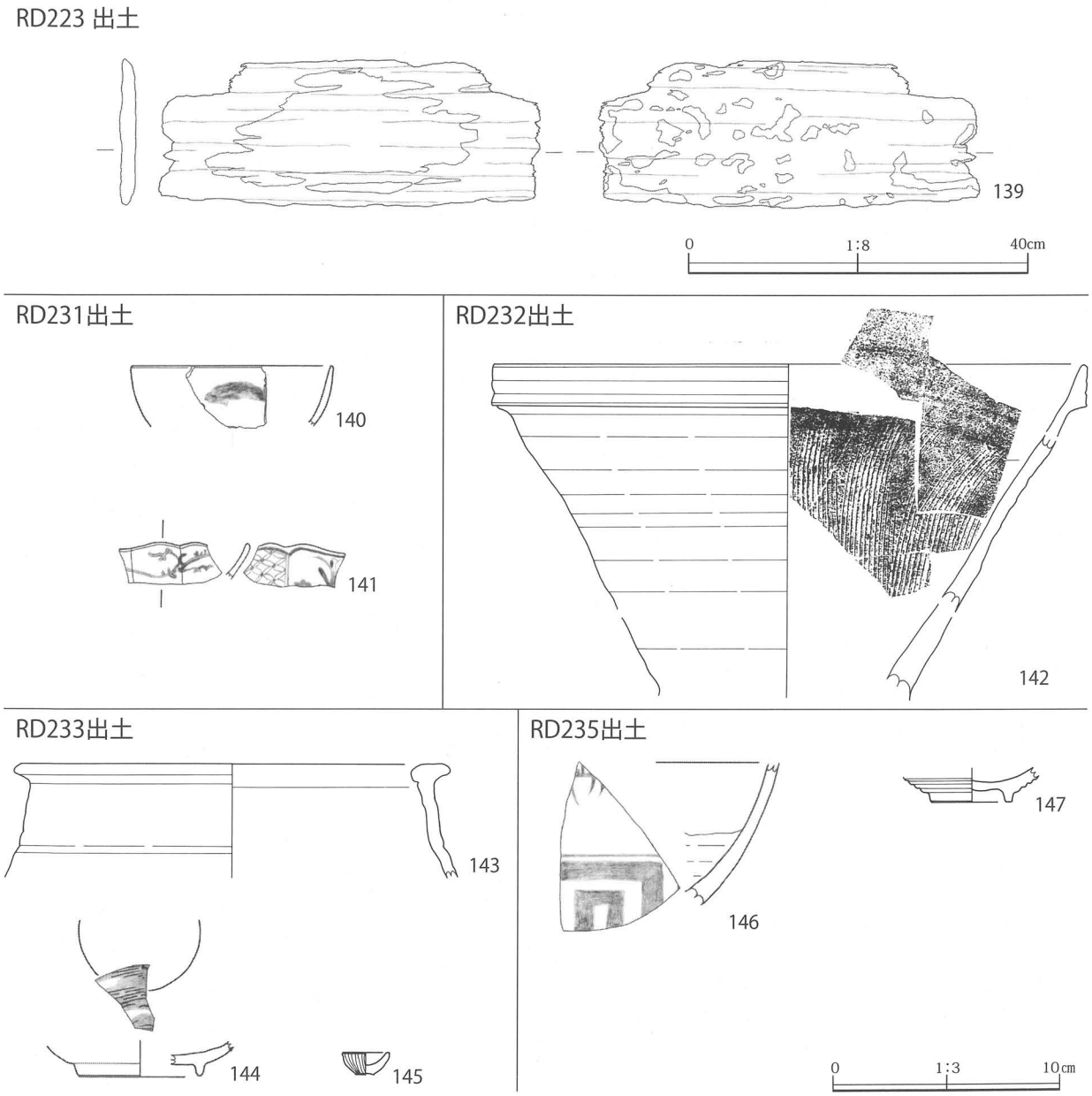
RD223は1.3 × 0.9ｍの長方形の木枠と径0.6ｍの大穴（桶がはまった跡）で構成される。大穴は長方形の木枠を壊しているので、本来は別々の遺構と捉えるべきかもしれないが、大穴は浅く、木枠と同じような木材が底面から見つかっているので、同一の遺構とした。RD223は埋土のしまりが粗である上に、礫やガラス片が混入する。また鋏（写真図版42－308）が多数混入する。近代以降のゴミ穴の可能性も考えられる。

調査区東側（第９・10・42・43・45、写真図版23・24・30・31・34・36）

〈土坑の分布〉RD230～235である。削平が激しく、壁などの残りが悪い土坑が多い。



第44図　土坑出土遺物（1）



第45図　土坑出土遺物（2）

〈平面形・規模〉規模は長辺２～３ｍの土坑とそれ以下のものとに二分できる。平面形は不整楕円形と隅丸長方形とに二分できるが隅丸長方形は比較的大きい。

〈埋土様相〉RD232 は黒色粘質シルトを主体とする１層が埋土のほとんどを占め、単層に近い様相を呈するので人為堆積と判断した。他は自然堆積と考えている。

〈出土遺物〉ＲＤ 231 ～ 233･235 から出土遺物が認められる。ＲＤ 231 からは磁器の小片２点（140･141）が出土している。1690 ～ 1780 年頃の肥前産である。ＲＤ 232 は擂鉢の破片が出土している。19 世紀の所産。ＲＤ 233 からは陶磁器３点が出土している。143 は甕の口縁部片で 18 世紀前半の肥前産と思われる。他の２点は 19 世紀代の所産で、144 は皿、145 は紅皿の模造品で、玩具の類ではないかと推測する。ＲＤ 235 からは陶磁器２点が出土している。146 は瓶の胴部片で 1780 ～ 1860 年の肥前産、147 は磁器碗の底部片で 18 世紀代の大堀相馬産である。

〈土坑群の性格〉不明である。周辺には別の遺構も少なく、関連性が見いだせない。

第12表　土坑出土遺物観察表

近世磁器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
122	36	紅皿	RD219　埋土上位	(4.2)	－	(1.1)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	型おこし
127	33	小碗	RD221　埋土中	6.9	3.0	4.6	白色　黒い粒	不明	19 世紀前半～半ば	
128	34	紅皿	RD221　埋土中	4.6	1.4	1.4	白色	肥前か	19 世紀前半～半ば	
129	34	鉢蓋	RD221　埋土中	(7.0)	－	2.3	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	
130	36	碗蓋	RD221　埋土中	(9.0)	－	(2.0)	白色　黒い粒	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	31 と同一個体
131	34	皿	RD221　埋土中	8.2	4.3	2.4	白色	白い釉	19 世紀後半以降	型おこし　漆継ぎ
132	36	皿	RD221　埋土中	9.3	5.0	2.4	白色	白い釉	19 世紀後半以降	型おこし
133	34	碗蓋	RD221　埋土中	3.6	9.3	2.5	白色	色絵	19 世紀後半以降	
140	36	小碗	RD231　埋土中	(9.0)	－	(2.8)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
141	36	皿	RD231　埋土中	－	－	(1.6)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	型おこし　高級品
144	37	皿	RD233　埋土中	－	(5.4)	(1.6)	白色　黒い粒	肥前	19 世紀前半～半ば	
145	34	紅皿模造品	RD233　埋土中	2.1	0.8	1.0	白色	肥前か	19 世紀前半～半ば	型おこし　玩具の類
146	37	瓶	RD235　埋土中	－	－	(6.3)	灰白色	肥前	1780 ～ 1860 年頃	

近世陶器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
123	31	碗	RD219　埋土上位	(10.8)	－	(3.2)	灰白色	灰釉	大堀相馬	18 世紀	
124	31	皿	RD219　埋土上位	－	－	(1.7)	灰白色	灰釉	大堀相馬	18 世紀	
125	31	碗	RD219　埋土中位	－	－	(2.0)	灰色	灰釉	大堀相馬	18 世紀	
142	31	擂鉢	RD232　埋土中	(26.2)	－	(15.2)	褐灰色		在地	19 世紀	
143	31	甕	RD233　埋土中	(19.0)	－	(5.1)	にぶい赤褐色		肥前？	18 世紀前半？	
147	30	碗	RD235　埋土中	(6.0)	3.6	(1.5)	灰色	外面に鉄釉　内面に灰釉	大堀相馬	18 世紀	

瓦

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			焼成	色調	備考
				長さ	幅	厚さ			
126	47	瓦	RD219　埋土上位	6.4	4.6	2.3	良好	灰	

石製品

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	残存部位	石質	年代	産地	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
134	46	RD221　埋土中	磨石	完形	安山岩	新生代	北上山地	67.47	63.40	49.71	242.90	
135	46	RD221　埋土中	磨石	完形	安山岩	新生代	北上山地	85.60	71.48	62.55	307.60	
136	46	RD221　埋土中	磨石	完形	安山岩	新生代	北上山地	62.52	55.35	40.08	124.30	
137	46	RD221　埋土中	磨石	完形	安山岩	新生代	北上山地	72.82	56.14	41.39	201.90	
138	46	RD221　埋土中	石製品	一部欠損	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	150.65	149.15	124.13	2500.00	

木製品

番号	写真図版	器種	出土位置　層位	残存状態	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	備考
139	47	底板材	RD223　大穴底面	周辺欠損	スギ	17.6	44.2	1.6	

鉄製品

番号	写真図版	器種	出土位置　層位	残存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	備考
308	42	鋏	RD223 埋土中	完形	13.1	5.7	3.5	
309	42	鍋	RD212 底面	1/2 欠損	－	－	－	口径 25.0 cm、器高 5.2 cm、19 世紀以降
310	41	釘？	RD204 埋土中	先端欠損	5.2	1.5	1.1	木片付着
311	41	釘？	RD201 埋土中	先端欠損	4.9	1.6	1.1	

〈RD230、RD231・232〉RD230は開口部2.2 × 2.0 m、底面2.7 × 1.7 mのフラスコ状を呈する。形態は縄文時代の貯蔵穴に類似するが出土遺物が無く、また埋土様相は他の近世遺構と類似しており、近世に帰属すると判断した。

RD231とRD232とは約10 mの距離に位置する。平面形・規模はほぼ類似する。具体的な機能・用途は定かではないが、同一の性格を有しているものと思われる。

焼土遺構

RF012焼土遺構（第46図、写真図版25）

〈位置・検出状況〉第24次調査4 A 15 uグリッドに位置する。

〈重複関係〉R B 059と重複する。新旧関係は不明である。また、堀り方の下から柱穴状土坑1個を検出した。本遺構の方が新しい。

〈平面形・規模〉不整な円形を呈する。規模は径0.40 mを測り、焼土の堆積は2 cmである。

〈焼土〉現地性が強く、この場で火を焚いたものと思われる。被熱が激しく、灰色粘土が混入する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉遺物がなく、不明であるが、同一検出面で見つかっている近世遺構と同時期ではないかと考える。用途は不明。周辺の建物群に係わる施設か。

RF013焼土遺構（第46図、写真図版26）

〈位置・検出状況〉第24次調査4 A 20 vグリッドに位置する。

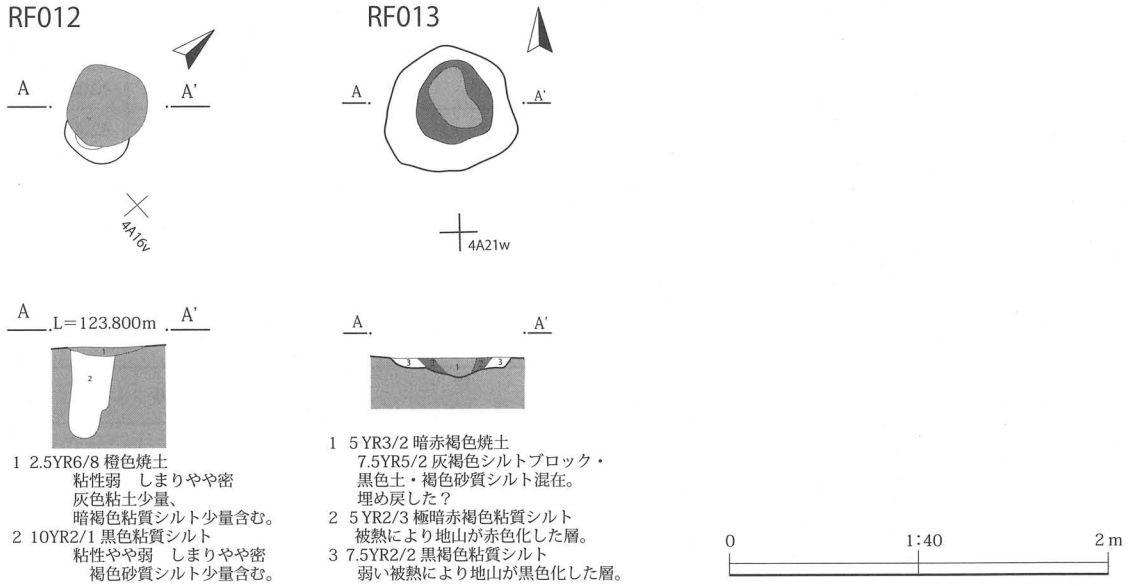
〈重複関係〉なし。

〈平面形・規模〉焼土範囲は不整な円形を呈し、規模径0.40 mを測る。焼土の堆積は10cmである。

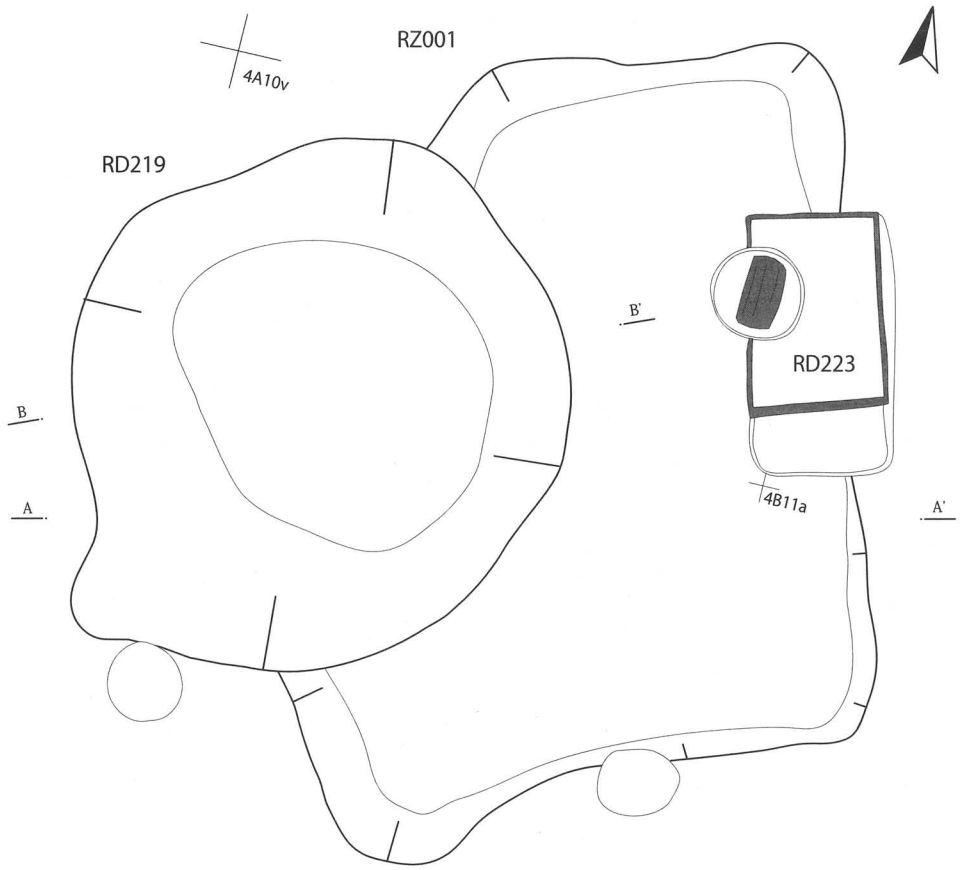
〈焼土〉現地性が強い。この場で火を焚いたものと思われる。被熱が激しく、地山が変色している（2層）。径60cmの掘り方が認められる。深さは焼土の堆積と同じである。

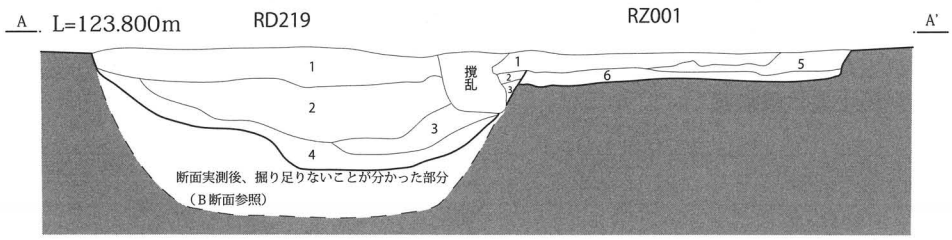
〈出土遺物〉なし。

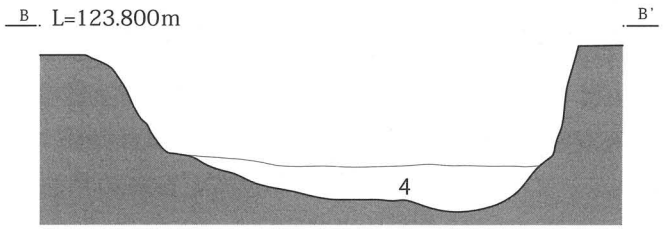
〈時期〉遺物がなく、不明であるが、同一検出面で見つかっている近世遺構と同時期ではないかと考える。用途は不明。周辺の建物群に係わる施設か。



第46図　RF012・013





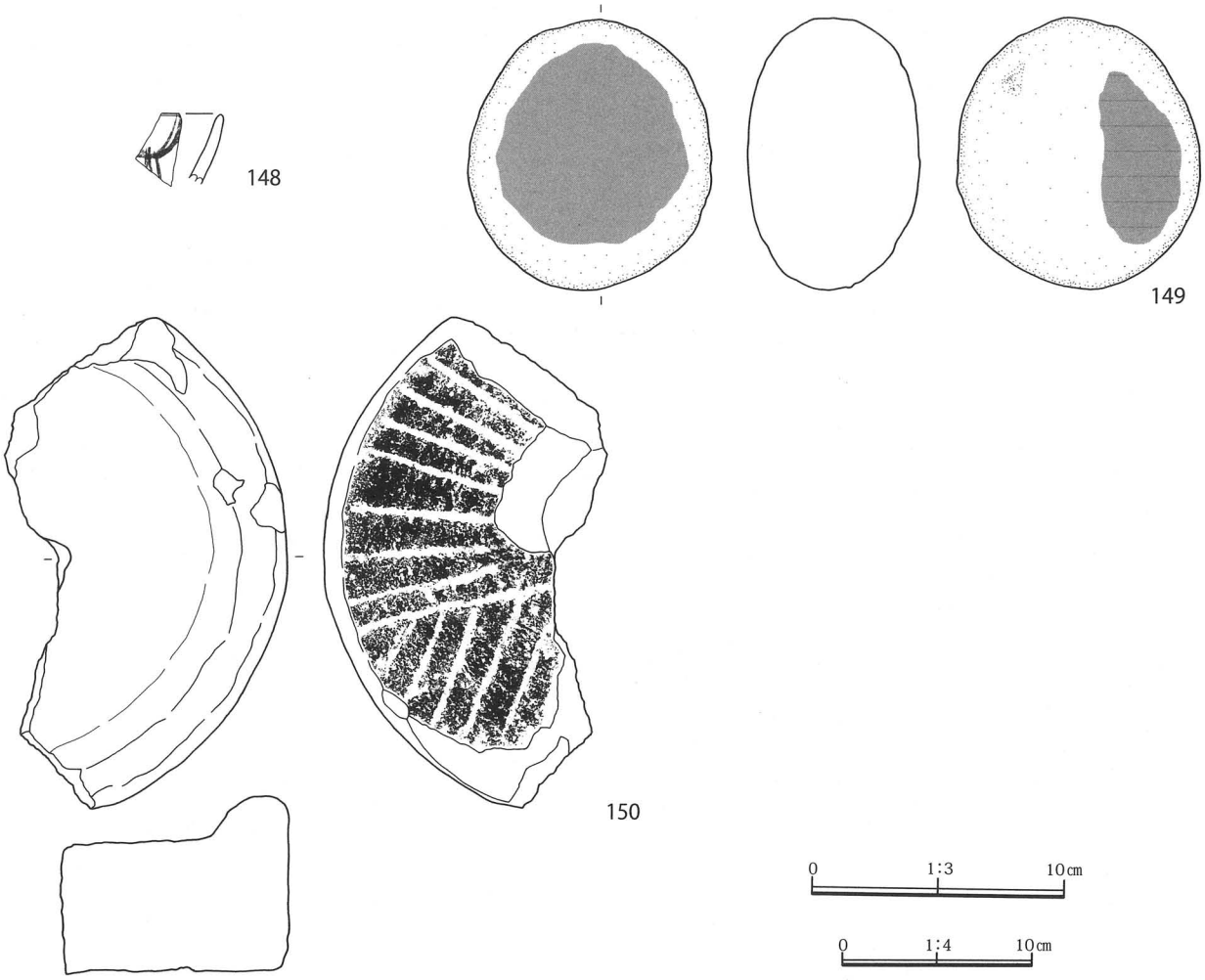


1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや疎　炭化物微量、礫少量、褐色砂質シルトブロック少量含む。
2 10YR4/3 暗褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物微量、礫少量含む。
3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密　礫少量含む。
4 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや密　褐色粘土少量、礫少量含む。

5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密　炭化物微量、礫少量含む。
6 10YR1.7/1 黒色粘質シルト　粘性強　しまり密　褐色粘土やや多く含む。

0　1:50　2m

第47図　RD219土坑・ＲＺ001性格不明遺構



第48図　RZ001出土遺物

第13表　ＲＺ001出土遺物観察表

近世磁器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代
				口径	底径	器高			
148	37	碗	RZ001　埋土中	－	－	(2.9)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年

石製品

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	石質	年代	産地	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
149	46	磨石	RZ001　埋土中	安山岩	新生代	北上山地	109.03	96.38	67.67	506	
150	45	石臼	RZ001　埋土中	安山岩	新生代	北上山地	265	150	95.28	3800	

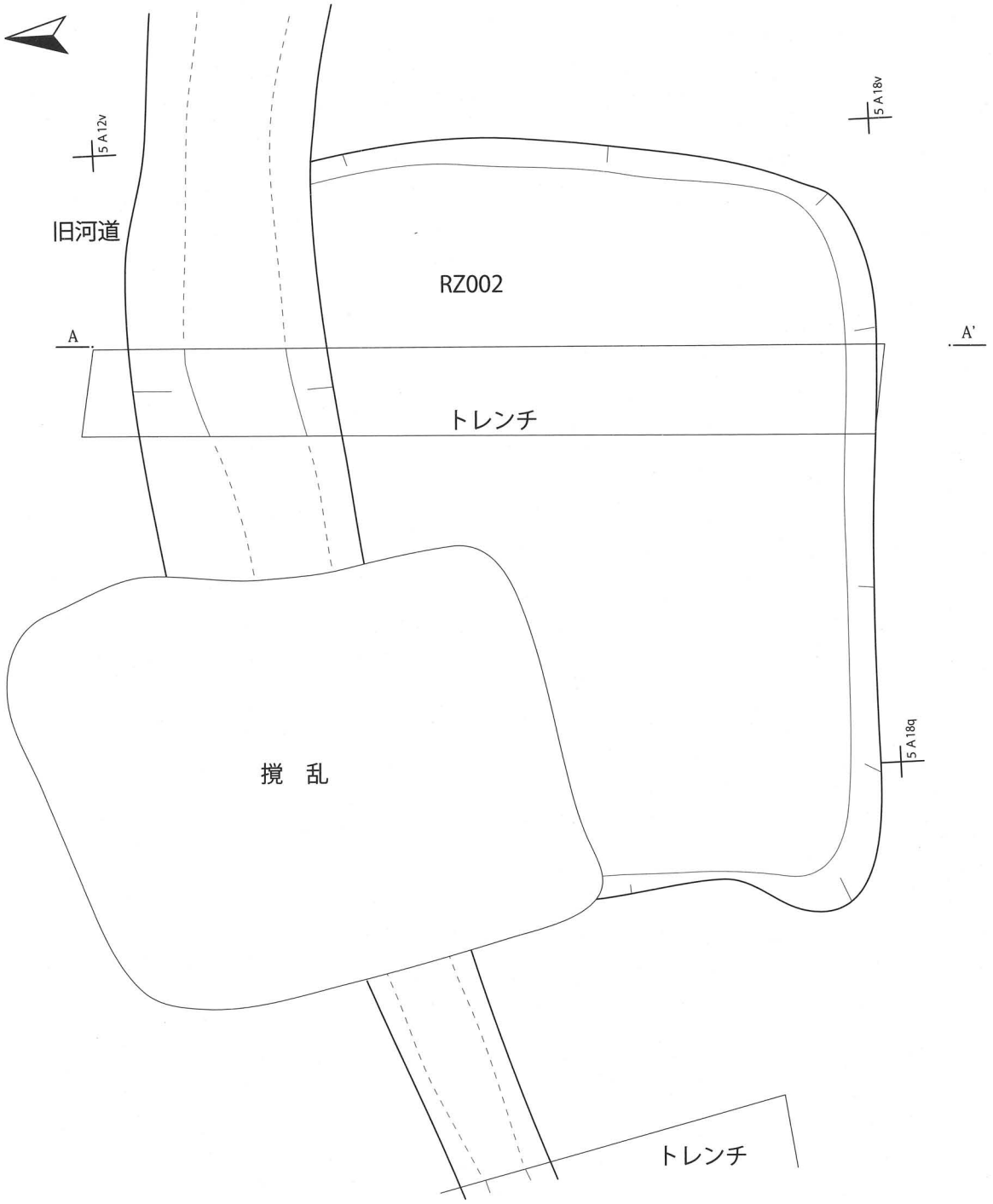
性格不明遺構

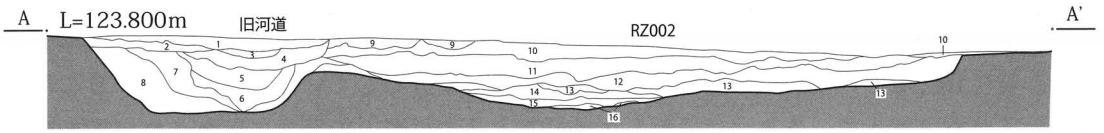
RZ001性格不明遺構（第 47・48 図、写真図版 26・37・45・46）

〈位置・検出状況〉第 23 次調査４Ａ 10 ｖグリッドに位置する。不整形な黒色のプランで検出した。東西方向に断面を設定し（Ａ－Ａ′ ベルト）、土層を確認したところ、土坑（ＲＤ 219）とは別の遺構が重複しているのを確認した。平面形がいびつなので、性格不明遺構とした。

〈重複関係〉ＲＤ 219･223、ＲＢ 061 と重複する。本遺構はＲＤ 219･223 より古く、ＲＢ 061 より新しい。

〈平面形・規模〉不整な隅丸方形を呈し、南西側が突出する。規模は検出面4.66×3.87m、深さ18 cm である。





1 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　褐色砂質シルト、黒色土の混合層。一括堆積。
2 10YR2/3 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　礫微量含む。
3 10YR2/1 黒色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　褐色砂質シルト少量含む。
4 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　粘性強　しまり疎　褐色砂質シルト筋状に少量偏在。
5 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　粘性弱　しまり密　下部に礫微量偏在。
6 10YR3/2 ～ 3/3 黒～暗褐色粘質シルト　粘性強　しまり疎　礫微量含む。
7 10YR2/3 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり密　礫少量含む。
8 10YR3/3 暗褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　筋状に褐色砂質シルト少量偏在、礫やや多く含む。
9 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり疎　10YR4/6 ～ 5/6 地山ブロック全体に混入。一括土。
10 10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　地山ブロック全体に混入。
11 10YR3/4 暗褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　筋状に礫多量偏在する。
12 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性弱　しまり疎　褐色砂質シルト少量ラミナ状に偏在する。
13 10YR3/4 暗褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　礫微量含む。
14 10 YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり疎　筋状に暗褐色シルト少量偏在する。水気を帯びた層。
15 10YR4/4 ～ 3/4 褐色～暗褐色砂質シルト　粘性弱　しまり疎　礫微量含む。水気を帯びた層。
16 10YR2/2 黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり疎　礫多量含む。

0　1:100　6m

第49図　RZ002性格不明遺構・旧河道

〈埋土〉黒～黒褐色粘質シルトを主体とし、炭化物や礫が混入する。埋土下位に褐色粘土の堆積が目立つ。なおⅠ層は本遺構とＲＤ 219 にまたがって堆積している。
〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は西側をのぞき、全周する。直立気味である。
〈出土遺物〉近世磁器１点（148）、石製品２点（149・150）が出土している。148 は肥前産の碗の口縁部片である。1690 ～ 1780 年の所産。149 は両面に磨痕が認められる石製品である。150 は石臼で全体の２分の１が欠損している。
〈時期〉148 の年代観から 1690 ～ 1780 年に帰属するものと思われる。

RZ002性格不明遺構（第 49 図、写真図版 26）
〈位置・検出状況〉第 23 次調査５Ａ 12 ｐグリッドに位置する。旧河道の南側に広がる不整形な黒色のプランで検出した。竪穴住居のプランにも見えるが、住居よりも大きく、また柱穴・炉などの付属施設がないことから、性格不明遺構とした。
〈重複関係〉旧河道と重複する。本遺構の方が古い。
〈平面形・規模〉不整な隅丸方形を呈す。規模は 11.20 × 11.60 ｍを測り、深さ 42cm である。
〈埋土〉暗～黒褐色粘質シルトを主体とし、褐色砂質シルトが帯状に堆積し、ラミナを形成している。
〈底面・壁〉底面はゆるやかなうねりが認められ、特中央部はやや窪む。壁は直立気味である。
〈出土遺物〉なし。
〈時期〉検出面から考えると近世以降に帰属するものと思われる。ただし、旧河道より古いので、もっと遡る可能性が高い。

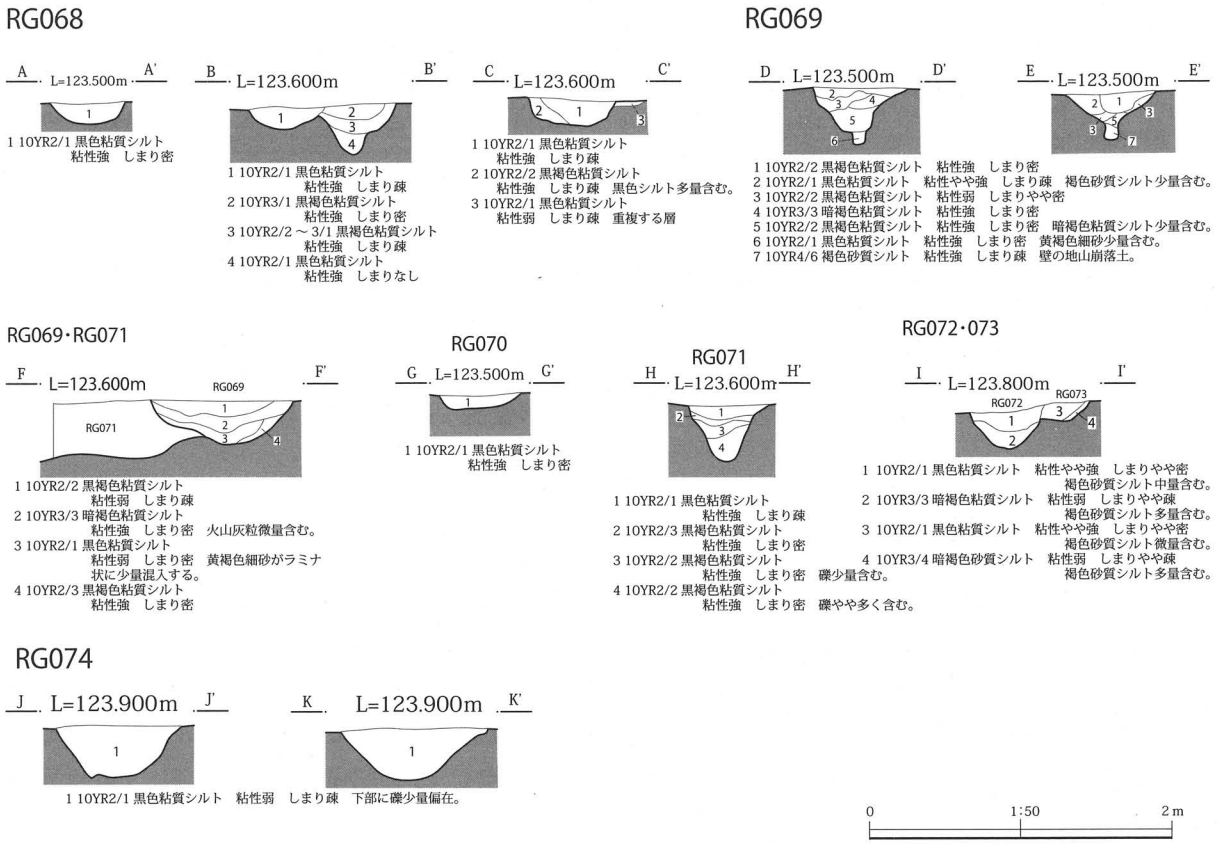
溝（第 50 ～ 53 図、写真図版 27・28・37）
第 23 次北側、第 24 次調査区の北側に分布する。今回の調査では７条の溝を確認した。いずれも黒色のプランで検出している。
規模などの概要については第14表に一括した。今回の調査での最大長はＲＧ 074 の 78.4 ｍであるが、ＲＧ 068 は第 18 次調査区で見つかった溝と連結し、さらに長大である。断面形状は浅い皿状のものが主体となるが、ＲＧ 069 だけは薬研状を呈する。
溝の時期については、出土遺物に乏しいので明確には分からない。他の遺構と検出面が同一であることから近世～近代に帰属すると思われる。第Ⅶ章でも触れるがＲＧ 068・074 については明治時代初期に作成された「飯岡新田地割絵図」にその姿が描かれている。したがって江戸後期から明治初期までは存在した溝であることが伺える。ただし、ＲＧ 068 の埋土からは火山灰がブロック状に混入していた。恐らく十和田ａテフラと思われ、従って古代までさかのぼる可能性も捨てきれない。
検出した溝は、北東から南西方向にはしる溝とそれに直交する溝の２種類に分けられる。ＲＧ 068 は掘立柱建物跡群と墓坑群の北側に隣接しており、溝の北側からはこれらの遺構はみつからなかった。一方、ＲＧ 072 はその西側から掘立柱建物跡や柱穴群が分布していない。したがってこれらの溝は建物群や墓域を区画する、あるいはそれらのエリアとその外側との境界に設置された溝と捉えられそうである。その他の溝もＲＧ 068・072 と平行しており、同様な機能・用途を有するものと思われる。

旧河道（第 11・49 図、写真図版 26）
〈位置・検出状況〉 第 23 次北側、第 24 次調査区の南側を東西方向にはしる旧河道を確認した。精査については４箇所トレンチを入れ、その土層を確認するにとどめており、全容は定かではない。

第50図　RG068～073溝

RG074
調
査
区
外
調
査
区
外
K
K'
J
J'
RD235
RD234
4B16s
4B18p
RD233
4B15n
RD234
4B19m
RD231
RD230
4B20i
RI068
4B18e
RD226
～228
4B20j
RI067
RD222
RD225
RD224
RD223
RZ001
RD221
RD220
RD219
5A21j
RD243
RD244
RD242
5A21t
RI066・067
4A18s
第 23 次調査区
第 24 次調査区
0
1:300
10m

第51図　RG074溝



第52図　RG068 ～ 074溝断面

第14表　溝一覧

遺構名	図版番号	写真図版	位置	重複関係			断面形態	規模（m）		埋土様相	出土遺物	時期	備考
				旧	新	不明		長さ	深さ				
R G 068	52	27	4 A23 q ～ 4 A 8 x	RD205	RD212	RD236	皿状	75.0	0.1～0.2	黒褐色粘質シルト単層	なし	古代～近世	十和田 a テフラ混入
R G 069	52	27	5 Y 1 q ～ 4 A12 p	RD202			薬研状	56.5	0.3～0.4	黒褐色粘質シルト７層	なし		
R G 070	52	28	4 A24 q ～ 4 A23 t				皿状	6.5	0.1	黒褐色粘質シルト単層	なし		
R G 071	52	28	4 A16 c ～ 4 A18 d		RG069		逆三角形	(7.0)	0.3～0.4	黒色～黒褐色粘質シルト４層	なし		
R G 072	52	28	4 A13 r ～ 4 A23 t	RG073	RD211・RD214・RD241		皿状	(21.0)	0.2～0.3	黒～暗褐色粘質シルト２層	なし		
R G 073	52	28	4 A14 t ～ 4 A19 t		RD211・RG072		皿状	(25.5)	0.1～0.2	黒～暗褐色粘質シルト２層	なし		
R G 074	53	28	4 B22 s ～ 4 C 9 f		RD228・RI066・067		逆台形	78.2	0.3～0.4	黒色粘質シルト単層	151	19世紀代	

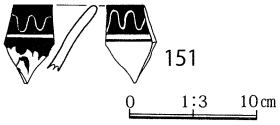
〈重複関係〉ＲＺ 002 と重複する。旧河道の方が新しいものと思われる。

〈埋土〉ＲＺ 002 と重複する箇所のベルトで土層を確認した。黒色～黒褐色粘質シルトを主体とし、褐色砂質シルトが混入する。場所によっては筋状に堆積しているが、ラミナを形成するほどではない。堆積様相は底面にむかって、斜方向に堆積している。

〈底面・壁〉底面は平坦である。壁は外へと大きく直線的にひろがる。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉出土遺物がなく、定かではない。重複するＲＺ 002 よりも新しいことを考えると近世頃までは埋まりきらず沢状に残存していたものと思われる。



第53図　溝出土遺物

第15表　溝出土遺物観察表

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代
				口径	底径	器高			
151	37	鉢	RG074　検出面上	－	－	(2.6)	白色　黒い粒	不明	19 世紀前半～半ば

遺構外出土遺物（第 54 ～ 59 図・写真図版 30 ～ 46）

遺構外から出土した、近世以降の遺物は小コンテナ（18 ℓ）箱で 16 箱分に相当する。

出土した場所は主に第 23 次北側調査区および第 24 次調査区の北側、墓坑が集中する場所の周辺や４Ａ13ｐグリッドに位置する撹乱周辺、ＲＩ 065・066 の周辺などである。遺物は近世から近代にかけての陶磁器類が多く、他に銭貨・煙管・鉄製品・ガラス製品・砥石が出土している。

91 点図示した。

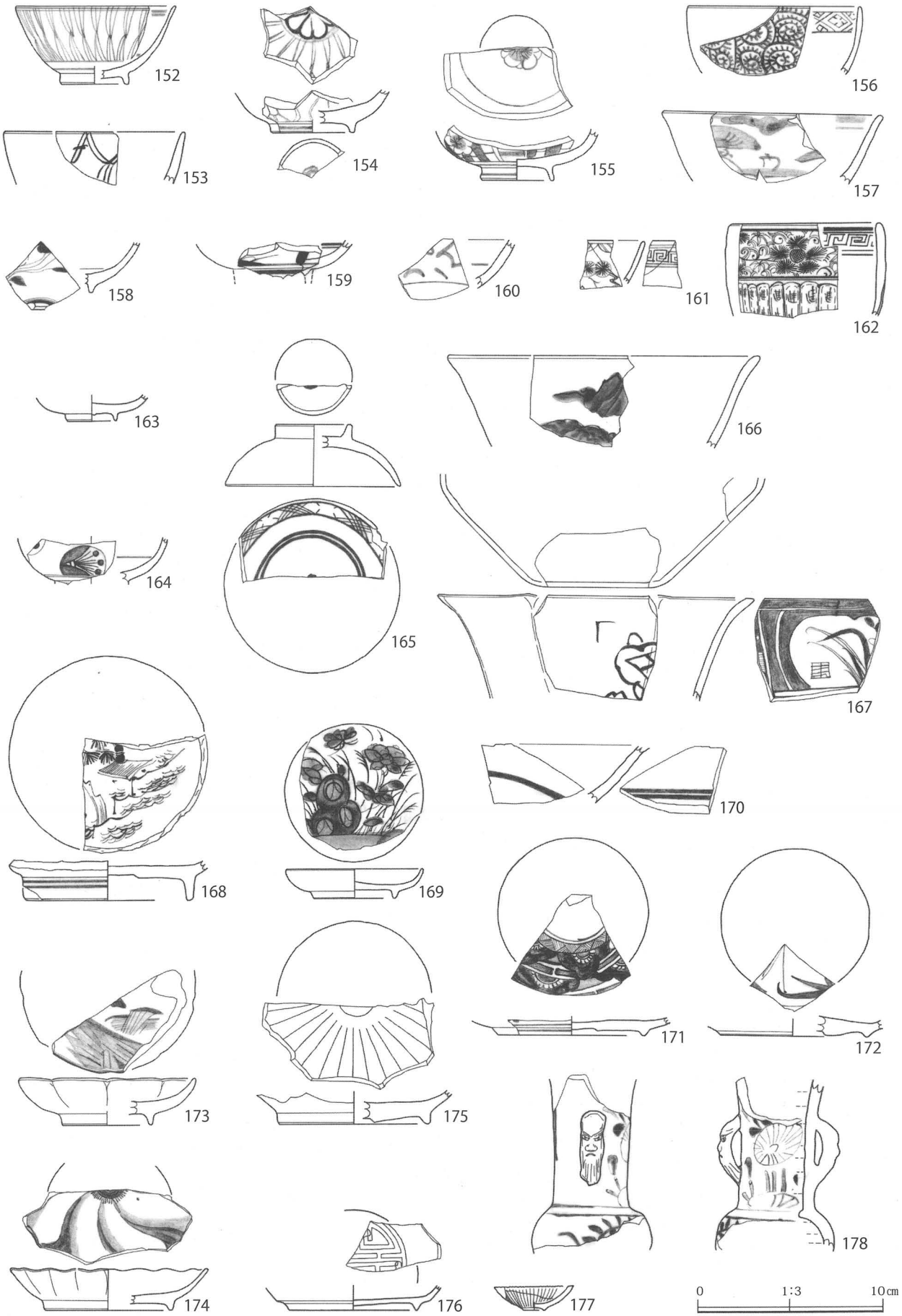
152 ～ 202 は近世に帰属するものと思われる資料である。

152 ～ 164 は磁器碗で、年代は 1690 年頃から 19 世紀半ばまでと幅広い。製作地は肥前産（152 ～ 156・161・164）と瀬戸産（157 ～ 160）、産地不明（163）に分けられる。また焼き継ぎが施されるものが２点（160・161）ある。形態の分かるものは少ないが、17 世紀～ 18 世紀代の所産のもの（152・156）はやや丸く、それより新しいもの（157）は口縁部がやや反る形状を呈する。ただし 162 のみほぼ直立気味に立ち上がる形状であった。165 は碗蓋で焼き継ぎが施されている。166 ～ 168 は鉢でいずれも肥前産。166 はやや古い（1690 ～ 1780 年）が、その他は 19 世紀代の所産である。166 は外へと大きく広がり口縁部がやや反る形状である。167 は口縁端部で大きく外反する口縁部片で、上面形は八角形を呈するものと推定される。168 は大型の鉢の底部片で、内面に絵柄が施されている。また焼き継ぎが施されている。169 ～ 177 は皿類である。176 は製作地不明、他は肥前産である。年代は 1690 年頃から 19 世紀代までと幅広い。いずれも内面に絵柄が認められる。173・174 は外面が波状を呈する。176 の底部片は小さいが内面の凸文から壽文皿と思われる。製作地、年代とも不明である。今回、近世、近代ともに墓や仏壇に飾る道具類が出土している。177 は紅皿で、墓壙（RD194・199・201）から出土したものと形状･大きさともに類似する。178 は磁器製の仏花器である。取っ手が付き、その取っ手に泥めんこなどでよくみる表情の人面が凸文によって作成されている。

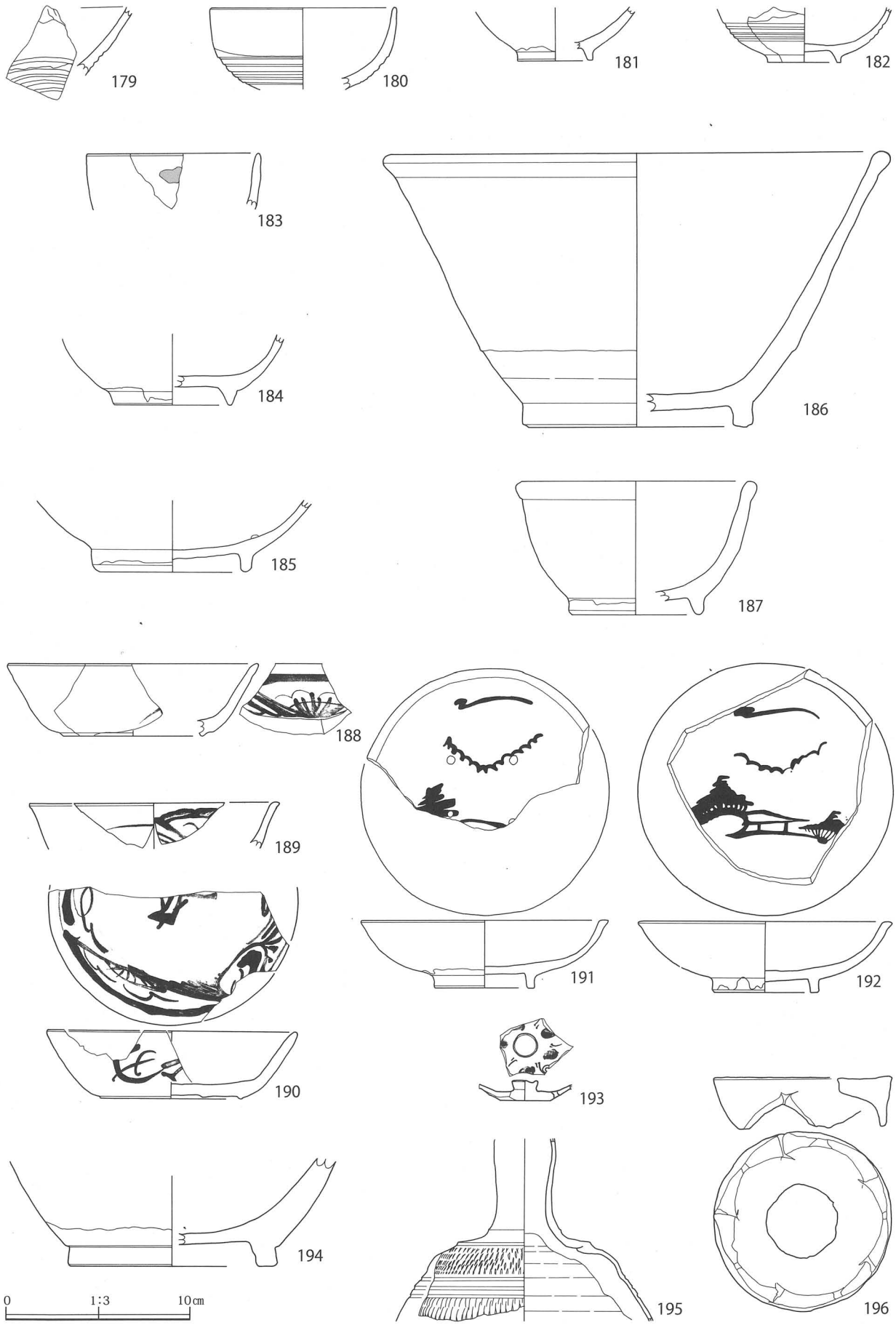
179 ～ 183 は陶器碗である。179 が瀬戸・美濃産、その他は大堀相馬産である。年代は 18 世紀代から 19 世紀の範疇に収まる。いずれも破片で全体の形状が定かではないが、179・181 は外へと直線的に開く形状、180・182・183 は底部付近が丸みをもち、直立気味に立ち上がる形状を呈するものと思われる。182 は漆継ぎが施されている。184 ～ 187 は陶器鉢である。いずれも在地系で、19 世紀かそれ以降の所産である。184 は目跡が認められる。185 は内面に重ね焼き痕が残る。186 はやや大ぶりの鉢で口縁部が外へとひらく、擂鉢のような形状を呈する。187 は丸みをおびた形状で、漆継ぎが施されている。188 ～ 190 は陶胎染付の皿である。18 世紀末の瀬戸・美濃産で、内外面に絵柄が描かれている。191・192 は陶器皿。在地系で 19 世紀以降の所産である。内面にのみ絵柄が認められる。191 は内面に目跡と思われる痕跡が認められる。193 は土瓶か急須の蓋であるが、取っ手部分のみしかみつからなかった。大堀相馬産である。184 は在地系の甕底部片である。195 は頸部から胴上半部分のみのすず徳利で、在地系のものである。

196 は陶器窯に使われる窯道具の一種で、ききょう台である。

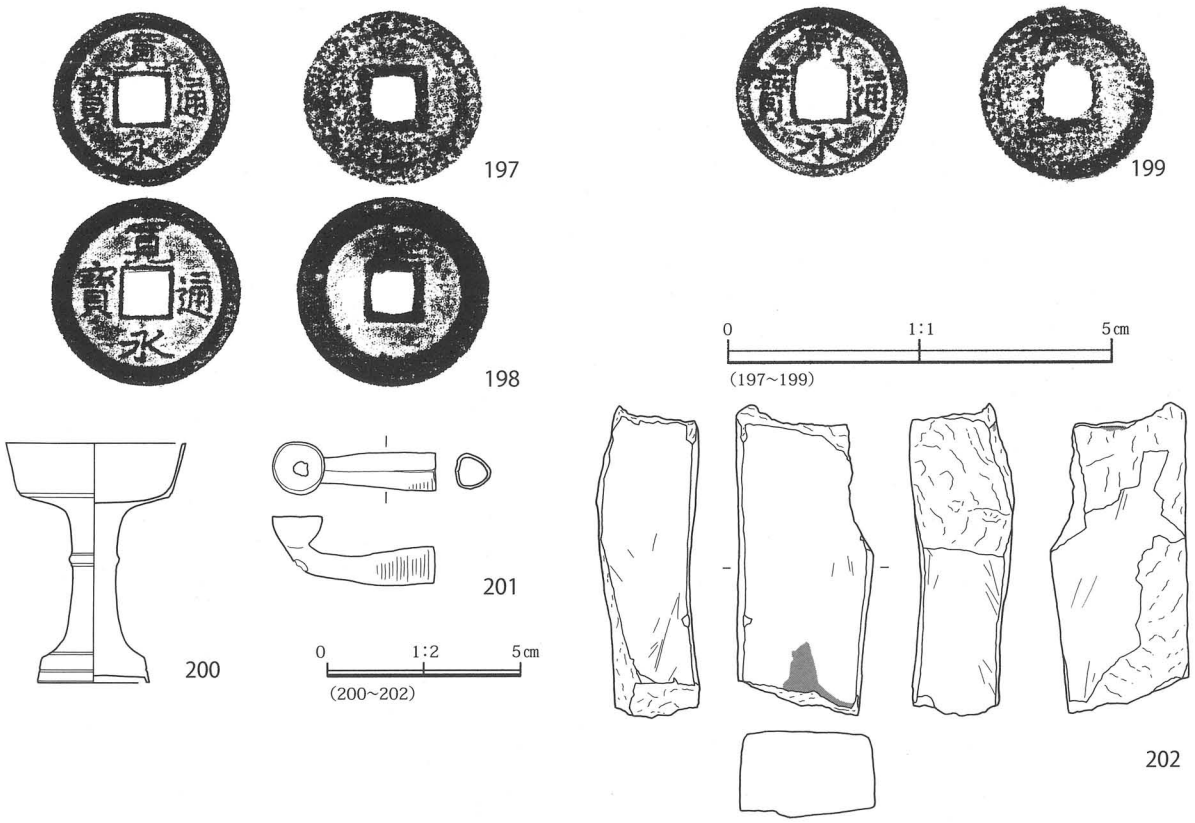
近世に帰属する遺物は他に銭貨、金属製品、砥石がある。197 ～ 198 は寛永通宝（新寛永）でいずれも出土地点は墓坑群（ＲＤ 192 ～ 240）の周辺からみつかった。副葬品であったものが遺構外に出



第54図　遺構外出土遺物（1）



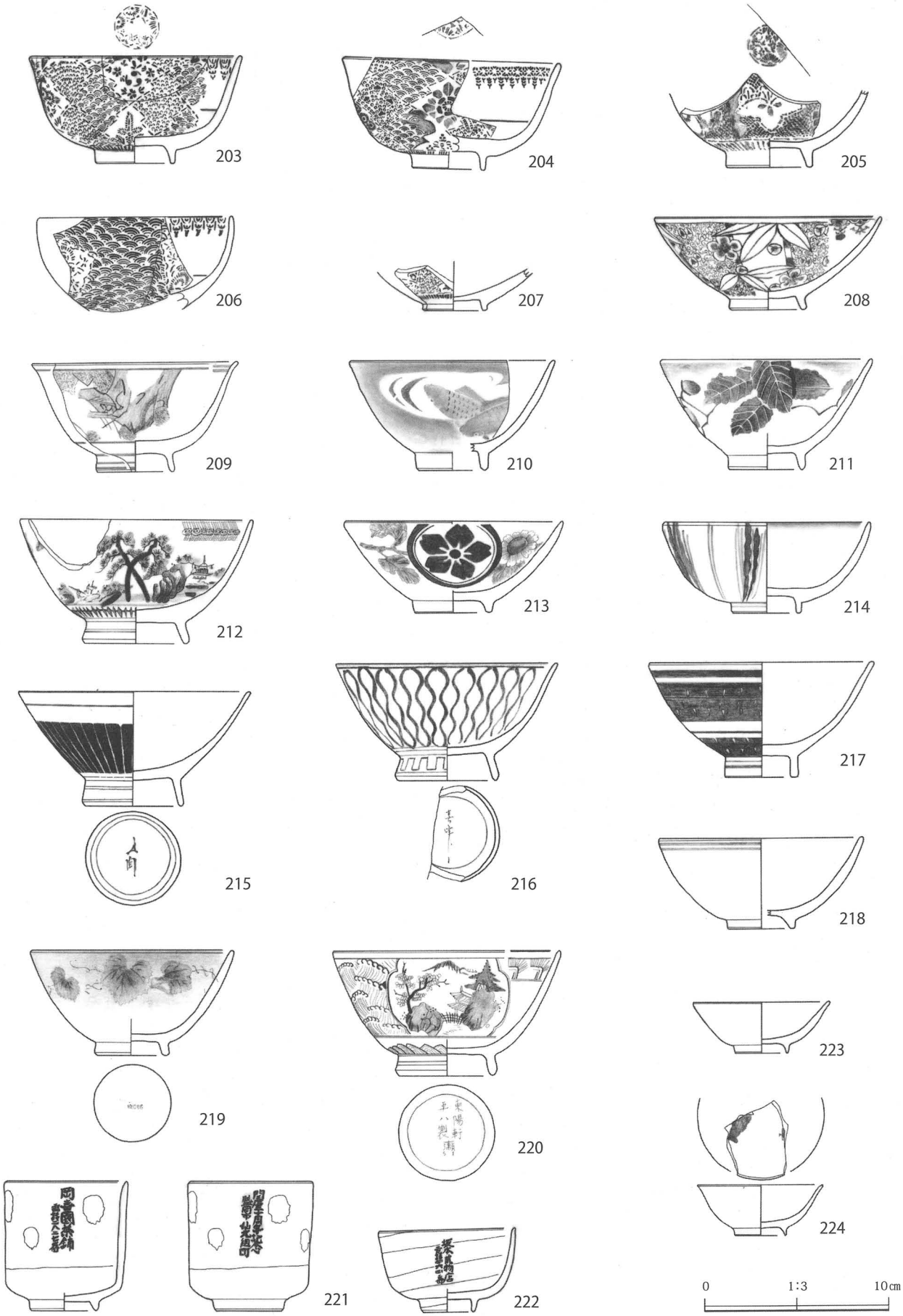
第55図　遺構外出土遺物（2）



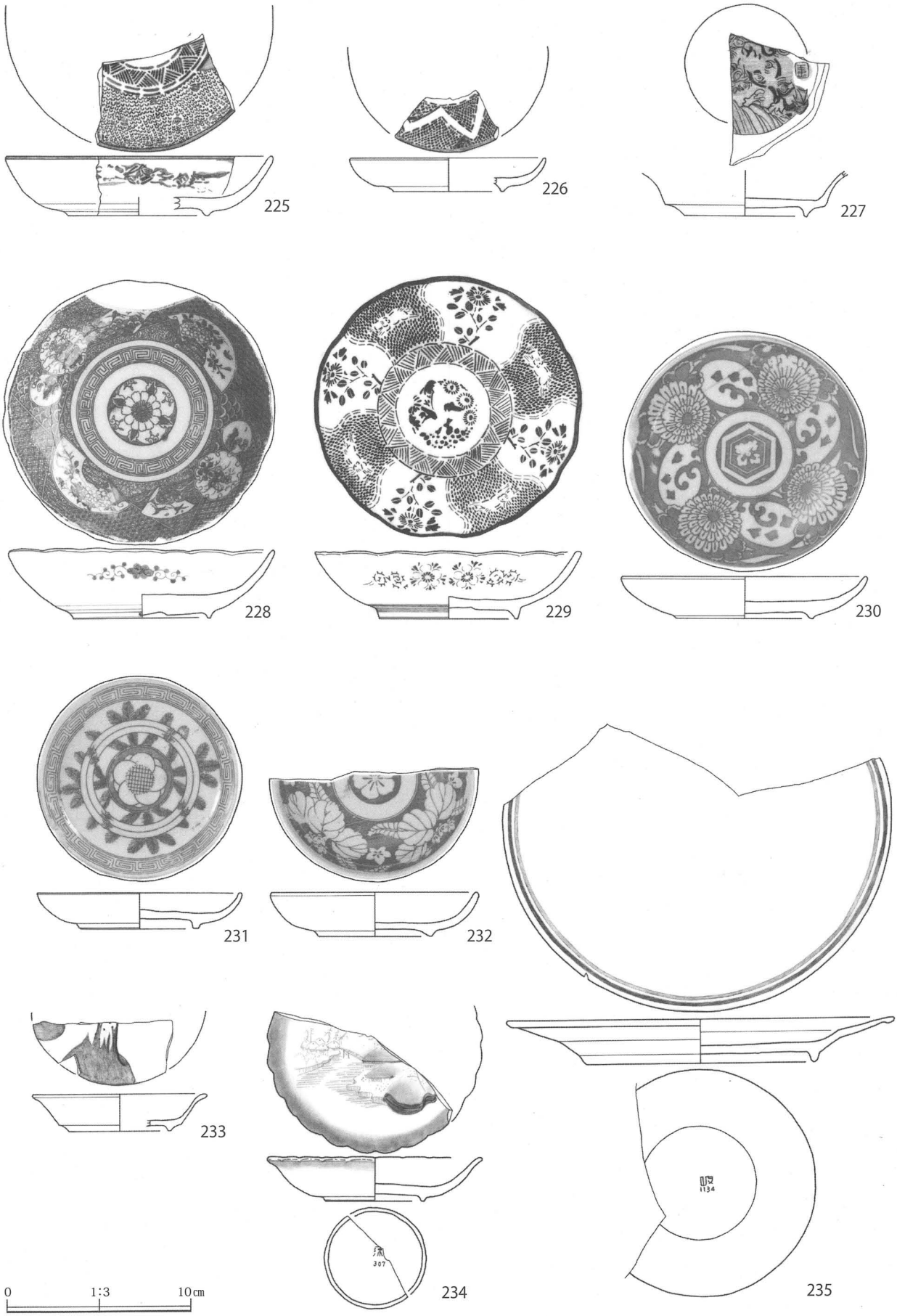
第56図　遺構外出土遺物（3）

てしまったか。198 は背文、他の２点は無背文である。200 は銅製の仏飯器である。撹乱から出土しており、近代まで下る可能性がある。201 は風倒木内から出土した煙管の雁首である。先端がやや欠損する。銅製である。202 は砥石である。長方形を呈し、４面に研磨の痕跡が認められる。

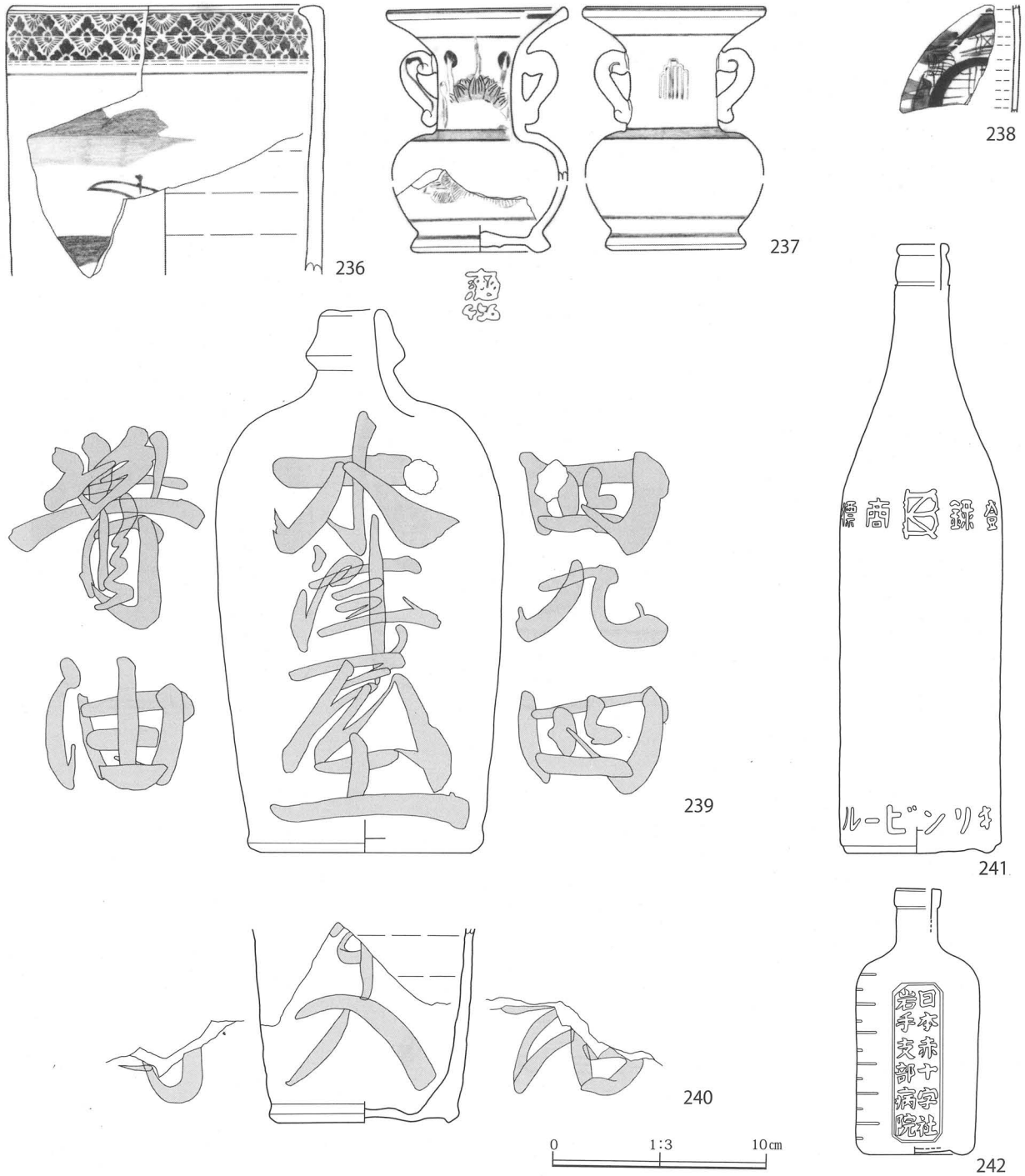
203 ～ 242 は近代に帰属する遺物である。磁器類では碗・皿・湯呑み・盃がある。203 ～ 220 は飯碗である。19 世紀末（明治時代）から 20 世紀前半（昭和 10 年代）の範疇に収まる。絵付けについては、型紙刷（203 ～ 207・209）と、銅板転写（208・213）が認められ、その他は不明である。203 は 1870 年～明治時代末の所産である。焼き継ぎ痕が認められる。218 ～ 220 は所謂「統制陶器」で、昭和 16 ～ 20 年頃に出回り、以降も使用されていた。218・219 は底面に統制陶器を示す刻印がある。218 は国民食器の類で「岐 1086」とあり、岐阜県瑞浪市で焼かれたと思われる。219 は「東陽軒平八製 瀬 51」とあり、愛知県瀬戸市で焼かれたものである。221・222 は湯呑みである。どちらも昭和時代に帰属する。221 は「岡喜園茶舗」、「開店二十周年記念」と記されている。岡喜園茶舗は岩手県盛岡市仙北町において今も店が営まれている（2010 年段階）。昭和 12 年に開店しているので、221 は昭和 32 年（1957 年）の所産である。222 は「坂本荒物店」とある。店舗が現存するかは定かではない。223・224 は盃である。文字・絵柄は剥げてしまったが、軍隊除隊盃の可能性があり、昭和 20 年代ごろの所産であろうか。225 ～ 235 は皿である。19 世紀後半～ 20 世紀初頭の範疇に収まるものと思われる。絵付については、型紙刷（225・226・229）と、銅板転写（228・230 ～ 232）で、他は不明である。234・235 は統制陶器で、底面に刻印が認められる。234 は「瀬 307」とあり、愛知県瀬戸市産、235 は「岐 1134」とあり、岐阜県瑞浪市産である。233 は陶胎染付の火鉢で、製作地は平清水と思われる。19 世紀後半～ 20 世紀初頭の所産である。237 は統制陶器の仏花器で、昭和 16 ～ 20 年代の所産である。底面には凸印で「瀬 456」とあり、愛知県瀬戸市産である。238 ～ 240 は陶器の徳利である。



第57図　遺構外出土遺物（4）



第58図　遺構外出土遺物（5）



第59図　遺構外出土遺物（6）

239・240は通徳利（貧乏徳利）である。239は「木津屋」「醤油」「四九四」とある。木津屋は岩手県盛岡市仙北町に存在する木津屋味噌店（2010年段階）であり、元々は天保3年、味噌・醤油の醸造販売を正業とし盛岡市肴町に店を構えた「木津屋」である。明治時代初頭には都南村の方にも販売規模を拡大しており、その頃から通徳利が使われはじめ、昭和20年代までは使われていたようである。なお「四九四」については顧客に徳利を貸し出す際の通し番号ではないかと思われるが詳細は不明。239は通徳利の底部片である。「八」という文字が認められる。

241はビール瓶で、胴下部に「キリンビール」とある。昭和初期の所産か。242は薬用のガラス瓶。

凸印で「日本赤十字社岩手支部病院」とある。盛岡赤十字病院の前身で、大正９年４月、旧盛岡中学校跡地に創立された。昭和18年に現在の名前に改称し、昭和62年には現在の盛岡市三本柳に新築移転した。従って242は大正９年～昭和18年の初産であることが分かる。

第16表　遺構外遺物観察表

近世磁器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
152	37	碗	４Ａ12ｗ～13ｗ　撹乱	8.8	3.6	4.3	白色　黒い粒	肥前	1690～1780年	
153	37	碗	１Ａ11ｖ　撹乱	(9.0)	－	(2.9)	白色	肥前	1690～1780年	
154	37	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	－	(4.6)	(3.4)	にぶい黄橙	肥前	1690～1780年	
155	37	碗	第23次調査区北端Ⅰ層	－	3.8	2.6	白色	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	
156	37	碗	４Ａ12ｗ～13ｗ　撹乱	(9.4)	－	(3.7)	白色	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	21と組み合わせか
157	37	碗	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(12.0)	－	(3.8)	白色	瀬戸	19世紀前半～半ば	
158	37	小碗	４Ｂ17ｂ～17ｄ　撹乱	－	－	(2.8)	白色	瀬戸か	19世紀前半～半ば	
159	37	碗	４Ｂ17ｂ～17ｄ　撹乱	－	－	(2.0)	白色　黒い粒	瀬戸	19世紀前半～半ば	
160	37	碗	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	－	－	－	白色	瀬戸	19世紀前半～半ば	焼き継痕あり
161	37	小碗	４Ｂ17ｂ～17ｄ　撹乱	－	－	(2.4)	白色	肥前か	19世紀前半～半ば	焼き継痕あり
162	34	小碗？	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(4.0)	－	(5.1)	白色　黒い粒	肥前	19世紀前半～半ば	
163	34	小碗	４Ａ14ｏ～16ｏ　撹乱	－	(2.7)	(2.0)	白色	不明	19世紀前半～半ば	
164	37	碗	Ｐ303･307周辺Ⅳ層上面	(8.2)	－	－	白色	肥前か	19世紀前半～半ば	
165	34	碗蓋	４Ｂ14ｍ周辺　撹乱	(4.2)	(9.6)	3.4	灰白色	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	外面青磁　漆継ぎ痕あり
166	37	鉢	４Ｂ14ｍ周辺　撹乱	(17.0)	－	(5.1)	白色　黒い粒	肥前	1780～1860年頃	
167	37	鉢	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	(17.2)	－	(5.6)	白色　黒い粒	肥前	19世紀前半～半ば	38と同一？
168	34	鉢	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	(10.3)	(9.0)	(2.2)	白色　黒い粒	肥前	19世紀前半～半ば	凹蛇目高台　焼き継痕あり
169	34	皿	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	(3.8)	2.2	2.7	白色	肥前	1690～1780年	染付に赤の色絵
170	37	大皿	調査区北側木根下	－	－	(3.2)	白色	肥前	1690～1780年頃	16と同一？
171	37	皿	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	－	(8.0)	(1.1)	白色　黒い粒	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	凹蛇目高台
172	37	皿	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	－	(4.0)	－	白色　黒い粒	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	凹蛇目高台
173	34	皿	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(9.6)	(5.0)	2.6	白色	肥前	19世紀前半～半ば	口紅あり　口唇部に鉄釉
174	34	皿	第23次南側調査区検出面上	(10.8)	(7.1)	2.3	白色　黒い粒	肥前	19世紀前半～半ば	
175	34	皿	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	－	(8.4)	(1.8)	白色	肥前	19世紀前半～半ば	凹蛇目高台、型おこしの皿
176	37	皿	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	－	(7.0)	(1.4)	白色	不明（在地か）	19世紀（以降の可能性あり）	壽文皿、型おこしの皿
177	37	紅皿	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	(4.3)	(1.1)	1.3	白色	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	
178	37	仏花器	４Ａ14ｏ～16ｏ　撹乱	－	－	(9.6)	白色	不明	19世紀前半～半ば	色絵

近世陶器・陶胎染付

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
179	31	腰錆碗	４Ｂ18ｆ周辺撹乱	－	－	(3.3)	灰白色	灰釉、鉄釉	瀬戸・美濃	18世紀前半	
180	31	碗	ＲＤ200北西隣検出面上	(10.0)	－	(4.5)	灰白色	灰釉（やや失透性の釉）	大堀相馬	18世紀	
181	31	碗	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	－	(4.1)	(2.7)	灰色	灰釉	大堀相馬	18世紀	
182	30	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	4.0	(2.9)	灰白色	外面に鉄釉内面に灰釉	大堀相馬	18世紀	うるし継ぎ
183	31	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	(9.3)	－	(2.9)	灰黄褐色	わら灰釉に銅緑釉	大堀相馬	19世紀前半	
184	31	鉢	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	－	(6.5)	(3.9)	褐灰色		在地	19世紀	目跡あり
185	31	鉢	調査区北側木根下	－	8.0	(3.7)	灰白色		在地	19世紀以降	重ね焼き痕あり
186	31	鉢	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(27.5)	(12.4)	15.0	褐灰色		在地	19世紀以降	109と同一

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
186	30	鉢	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(27.5)	(12.4)	15.0	褐灰色		在地	19 世紀以降	108 と同一
187	31	鉢	調査区北側木根下	(13.0)	(7.0)	7.3	褐灰色		在地	19 世紀以降	うるし継ぎ
188	32	陶胎染付皿	４Ａ23～25ｒ　Ⅰ層	(13.4)	(7.5)	4.0	灰色	染付	瀬戸・美濃	18 世紀末	
189	32	陶胎染付皿	４Ｂ17ｂ～17ｄ 撹乱	(12.6)	－	(2.6)	灰白色	染付	瀬戸・美濃	18 世紀末	
190	32	陶胎染付皿	４Ａ12ｗ～13ｗ 撹乱	(12.5)	(7.8)	3.7	褐灰色	染付	瀬戸・美濃	18 世紀末	
191	30	皿	墓坑群周辺Ⅳ層上面	(13.5)	(5.4)	3.7	褐灰色		在地	19 世紀以降	目跡（？）あり
192	30	皿	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	(13.8)	5.8	3.9	褐灰色	染付	在地	19 世紀以降	
193	30	土瓶（急須か）蓋	４Ｂ17ｂ～17ｄ 撹乱	－	－	(1.1)	褐灰色		大堀相馬	19 世紀以降	
194	30	甕	墓坑群周辺Ⅳ層上面	－	(5.7)	(5.9)	灰白色		在地	19 世紀以降	
195	32	すず徳利	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	－	－	(10.0)	灰黄褐色		在地	19 世紀以降	
196	30	ききょう台	出土地不明	(9.7)	－	(2.8)	にぶい橙				陶器窯の窯道具

銭貨

番号	写真図版	出土位置・層位	銭貨名	備考	初鋳年（鋳造年）	材質	たて（mm）	よこ（mm）	厚さ（mm）	穿径（mm）	重量（ｇ）
197	44	調査区北側　墓坑群周辺　木根撹乱	新寛永		1697	銅	23.27	23.42	1.3	5.87	2.7
198	44	調査区北側　墓坑群周辺	新寛永文銭		1668	銅	25.23	25.14	1.23	5.82	3.1
199	44	調査区北側　墓坑群周辺	新寛永		1697	銅	22.85	22.58	1.07	6.44	2.4

金属製品

番号	写真図版	器種	残存部位	出土位置・層位	材質	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	重さ（ｇ）	備考
200	42	仏飯器	完形	４Ａ14ｔ～16ｔ　撹乱	銅	7.0	4.4	9.5	165.2	
番号	写真図版	器種	残存部位	出土位置・層位	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（ｇ）	備考
201	41	煙管	雁首のみ	風倒木内	銅	42.82	13.49	16.32	4.5	
306	41	包丁	完形	風倒木内	鉄	22.2	4.8	1.3	151.7	

石製品

番号	写真図版	出土位置・層位	器種	残存部位	石質	年代	産地	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）
202	44	４Ａ12ｗ～13ｗ 撹乱	砥石	完形	デイサイト	新生代新第三紀	奥羽山脈	124.63	52.58	39.71	356.5

近代磁器

掲号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
203	34	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	(11.4)	(4.2)	5.9	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	焼き継ぎをしている
204	38	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	(11.6)	(4.0)	6.0	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
205	38	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	－	4.7	(5.2)	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
206	38	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	(10.6)	－	(5.1)	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
207	34	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	－	(3.2)	(2.3)	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
208	35	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	(12.4)	(4.0)	5.1	白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	
209	36	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	11.2	4.0	6.0	白色	型紙刷	19 世紀後半（明治時代前半か）	
210	36	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	(11.2)	(3.6)	6.0	白色	銅板転写か	20 世紀前半か	
211	35	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ 撹乱	11.5	4.2	6.1	白色	銅板転写か	20 世紀前半か	
212	35	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	12.6	5.6	6.8	白色	型紙刷？	20 世紀前半か	
213	35	碗	４Ａ７ａ～９ａ 撹乱	12.0	4.2	5.1	白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	

掲号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
214	35	碗	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(11.0)	3.6	5.0	白色	型紙刷？	20 世紀前半か	
215	35	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	12.6	5.6	6.3	白色	銅板転写か	20 世紀前半か	
216	35	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	11.1	5.7	6.5	白色	銅板転写か	20 世紀前半か	
217	38	碗	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(12.2)	(4.0)	6.3	白色	銅板転写？	20 世紀前半か	
218	36	碗（統制陶器）	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(11.0)	(3.6)	5.0	白色	白い釉	昭和 16 ～ 20 年頃	高台内の凸印が欠損していて産地不明　国民食器
219	35	碗（統制陶器）	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	11.1	4.1	5.8	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「岐 1086」
220	35	碗（統制陶器）	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	12.3	5.1	6.8	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「東陽軒平八製　瀬 51」
221	35	湯のみ	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	6.7	3.4	7.1	白色	透明な釉	1957 年	「岡喜園茶舗　電話二八二七番」「開店二十周年記念　盛岡市仙北組町」
222	35	湯のみ	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	7.5	2.7	4.5	白色	透明な釉	20 世紀前半～中頃	「坂本荒物店　電話四六四番」
223	35	盃	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	7.5	2.9	2.8	白色	白い釉	20 世紀前半か	軍隊除隊盃か　文様は剥落？
224	36	盃	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(6.9)	(2.8)	2.8	白色	白い釉	20 世紀前半か	
225	36	皿	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(14.5)	(7.6)	3.2	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
226	36	皿	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	(10.0)	(6.0)	1.7	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
227	36	皿	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	－	6.6	(2.3)	白色	型紙刷？	19 世紀後半以降	
228	35	皿	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	14.4	7.5	3.7	白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	
229	35	皿	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	14.4	8.6	3.8	白色	型紙刷	1870 ～明治末頃	
230	38	皿	４Ｂ17ｂ～17ｄ撹乱	13.2	7.4	2.3	白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	
231	36	皿	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	11.1	6.5	2.0	白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	
232	36	皿	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(11.3)	(7.2)	2.4	灰白色	銅板転写	1870 ～ 20 世紀初頭	
233	36	皿	４Ｂ17ｂ～17ｄ撹乱	(19.6)	(5.6)	2.0	白色	色絵？	19 世紀後半以降	
234	36	皿（統制陶器）	出土地不明	(11.6)	(5.5)	2.4	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「瀬 307」
235	36	皿（統制陶器）	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	20.9	12.2	2.5	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「岐 1134」　国民食器

近代陶器

番号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代	備考
				口径	底径	器高					
236	39	火鉢（陶胎染付）	４Ａ17ｔ周辺Ⅳ層上面	(14.8)	－	(12.9)	灰黄色	口縁部に型紙刷	平清水か	19 世紀後半～20 世紀初頭か	
237	39	仏花器（統制陶器）	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(8.5)	5.6	－	白色		瀬戸	昭和 16 ～ 20 年頃	「瀬 456」凸印
238	39	徳利	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	－	－	(5.1)					
239	30	通徳利	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	2.6	10.0	25.9			美濃高田窯か	江戸後期～昭和 20 年頃	「木津屋」「醤油」「四九四」
240	30	通徳利	１Ａ11ｖ　撹乱	－	(8.2)	(4.6)	淡黄		美濃高田窯か	江戸後期～昭和 20 年頃	

ガラス製品

番号	仮番号	器種	出土位置・層位	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	製作年代	備考
241	211	ビール瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	2.2	6.8	29.0	茶色	明治 40 年～戦前	王冠
242	213	薬瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	2.1	4.4	12.7	透明	昭和 60 年頃	目盛　「日本赤十字社　岩手支部病院」

3　第18次調査「北区」との関連と出土した近世遺物について

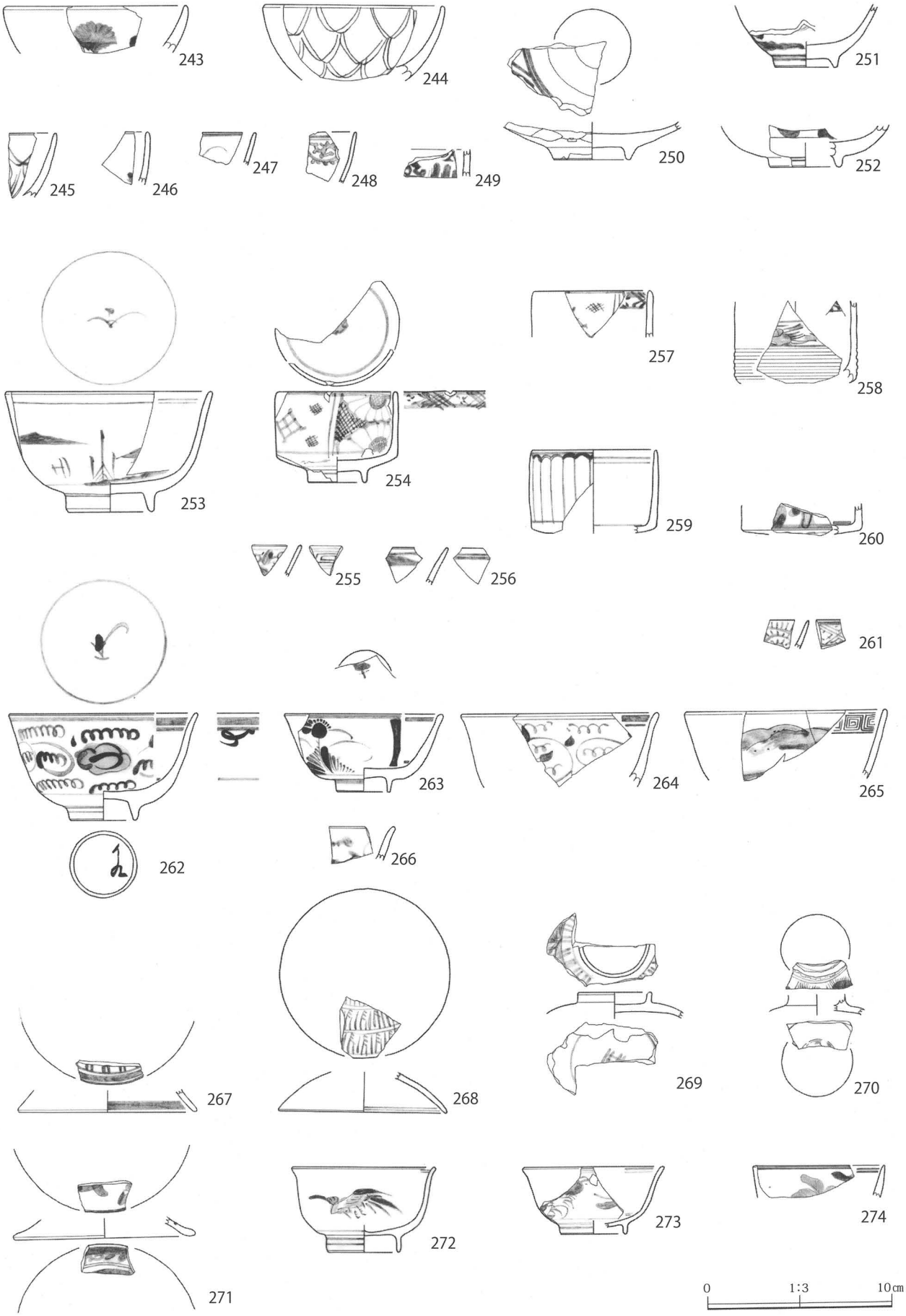
平成20年度に調査した第18次調査の「北区」（以下、18次北区）は、今回調査の第23次調査区の北東端と隣接している。18次北区は調査区のほぼ全体に現代宅地による撹乱が認められ、また調査区内に多数認められた黒色プランは盛岡市教育委員会からの教示もあり、近世末以降に帰属するとの判断から個々の事象についての詳細は記載されていない。

第23・24次調査区では、見つかった遺構の多くが17～19世紀の民家跡とそれらに関連する施設であることがわかった。その調査結果を踏まえ、再度18次調査で出土した遺構外の遺物を外観すると、第23・24次調査で出土した近世遺物とほぼ同時期のものが少なくない。第18次調査に関しては、すでに報告書が刊行されているが、第22・24次調査区との連続性を知る上で、第18次調査の報告書で不掲載となった近世資料について、代表的なものだけ本稿において掲載することとした。

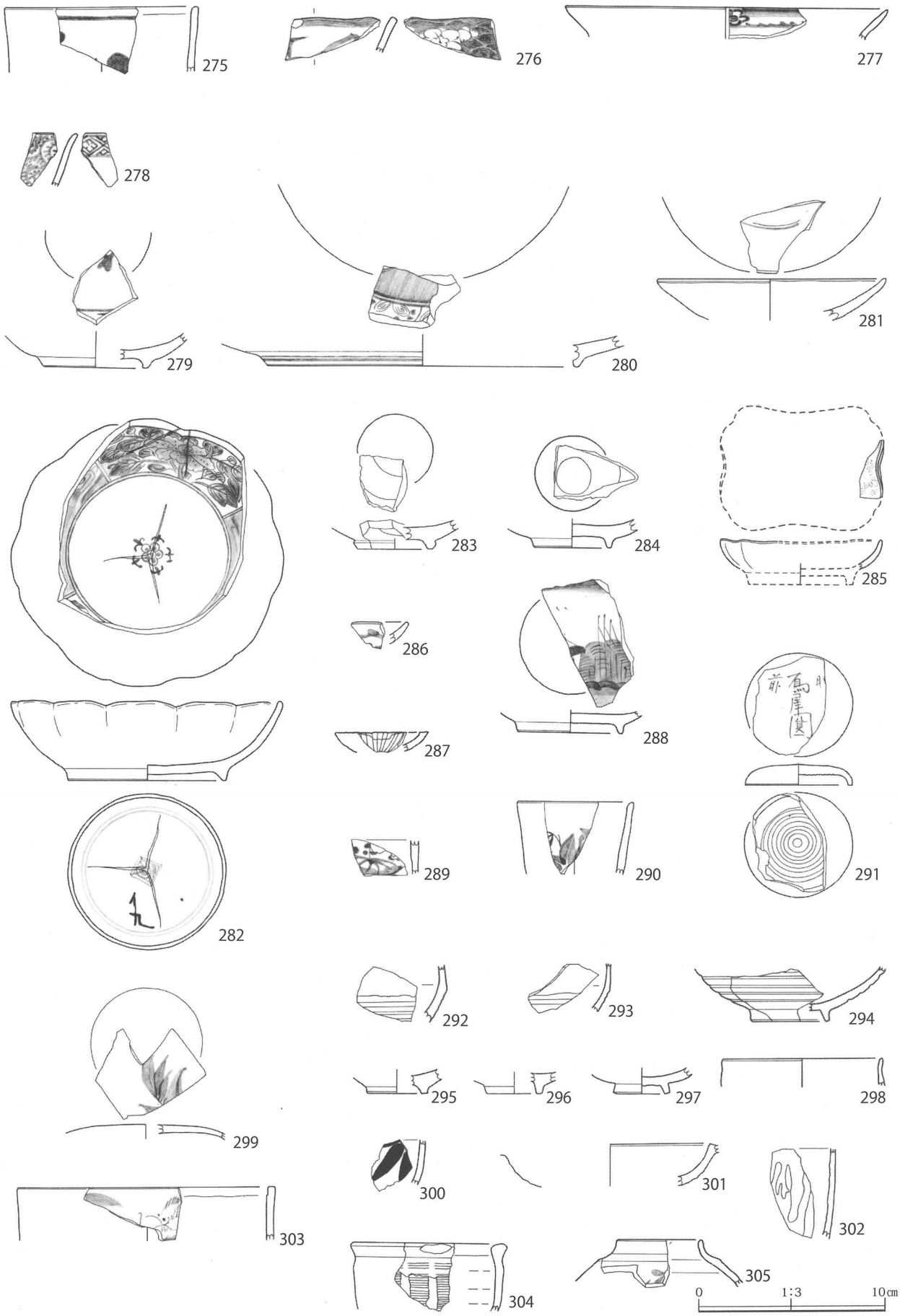
63点図示した。内訳は磁器51点、陶器12点である。年代幅をみてみると、磁器は1690年頃から19世紀半ばまでの広い時期幅が認められるが、陶器については18世紀～19世紀前半に収まる。出土位置や層位をみてみると、おおむねⅠ層（表土層）からの出土で、小片が多いが、第23・24次調査で出土した該期の陶磁器と比べると、残存状況は良いように見えた。

243～266は磁器碗である。肥前産（243～261）と瀬戸産（262・263・264・266）、産地不明のもの（265）がある。瀬戸産は19世紀以降に帰属するものに限られる。全体の形状が復元できたものは少ないが、年代が古いものは丸碗で、18世紀後半（1780年ごろ）以降のものは口縁部がやや反り気味になるものや筒形碗が認められるようになる。なお焼き継ぎが確認された碗が２点（262・265）ある。262の底には焼き継ぎの際に記したものと思われる「イ　九」の文字が認められる。267～271は磁器碗蓋で、肥前産（267～270）と瀬戸産（271）がある。いずれも小片で形状などはよく分からない。なお267と269は器面の絵柄が同じものであるが、この２点は接合しなかったので、同一個体かは不明である。272～274あ磁器湯呑みで、いずれも肥前産であろうと思われる。1780年以降の所産であり、磁器碗と同様、口縁部端部が反る形状をとる。275は肥前産の蓋付鉢である。1690～1780年頃の所産。小片で形状は不明である。276～278は鉢でいずれも肥前産。18世紀後半～19世紀代の所産であるが、小片で全体は不明である。279～288は皿類で、279は瀬戸産、他は肥前産である。碗や鉢と比べ、皿はやや年代が古いものが多い。282は全体の形状が分かる皿である。底が広く、口縁部は波状を呈する。焼き継ぎを施しており、底面には262と同様、「イ　九」の文字が記されている。287は肥前産の紅皿で、第23･24次調査区の墓坑（RD194･199･201）出土の紅皿と類似している。289は胴部片で、形状から瓶類と推定する。290はやや深いつくりの猪口の口縁部片である。289は肥前産の薬用器の蓋である。上面に「肥前 烏犀圓」と記されている。烏犀圓は中国、宋代に「不老長寿、若返りの妙薬」とされた漢方薬で、江戸時代には佐賀藩の秘薬として調製されていた。1796年（寛政８年）に八代目佐賀藩主鍋島治茂が同藩、薬種商の野中忠兵衛（野中家）に下賜し、製薬、販売を許したことで、全国に広まることとなる。したがって、291については18世紀末以降に村内の有力者が、佐賀より取り寄せた薬用器と思われる。299・303は段重とその蓋である。どちらも肥前産、1690～1780年頃の所産である。

292～305は陶器片である。小破片が多く、全体の形状が分かるものはほとんど無い。292～300は陶器碗である。ほとんど18世紀の大堀相馬産であるが、297・300は京・信楽系のものである。301は皿である。302は胴部片で小さいが、徳利の胴部片と思われる。304は18世紀頃の瀬戸産で、茶道具の火入である。305は土瓶の口縁部のみで19世紀代の大堀相馬産である。



第60図　第18次調査区出土近世遺物（1）



第61図　第18次調査区出土近世遺物（2）

第17表　第18次調査区出土遺物観察表

近世磁器

番号	写真図版	器種	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高				
243	39	碗	(10.0)	－	(2.6)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	コンニャク印判
244	39	碗	(9.8)	－	(4.1)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
245	39	碗	－	－	(3.5)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
246	39	碗	－	－	(2.9)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
247	39	碗	－	－	(1.8)	灰白色	肥前か	1690 ～ 1860 年	
248	39	碗か	－	－	－	白色 黒粒	肥前	1690 ～ 1780 年	
249	39	碗か	－	－	(1.5)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年頃	色絵あり（赤色）
250	39	碗	－	(4.2)	(2.1)	白色 黒粒	肥前	1690 ～ 1780 年	見込蛇目釉はぎ
251	36	碗	－	3.2	(3.5)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
252	39	碗	－	(4.0)	(2.3)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
253	36	碗	(11.4)	4.6	6.7	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	
254	39	碗	(6.4)	(3.2)	5.0	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	筒形碗
255	39	碗	－	－	(1.7)	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年	
256	39	碗	－	－	(2.0)	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年	
257	39	筒型碗	(6.6)	－	(2.6)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	
258	39	碗	－	－	(4.5)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	筒形碗
259	39	碗	(6.8)	－	4.6	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	筒形碗
260	39	筒型碗	－	－	(2.6)	灰白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	
261	39	碗	－	－	(1.6)	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	
262	36	碗	10.4	3.6	5.9	白色	瀬戸	19 世紀前半	焼継痕あり　記号「イ九」
263	39	碗	(8.6)	(2.8)	4.3	灰白色	瀬戸	19 世紀前半	
264	39	碗	(10.8)	－	(4.0)	白色	瀬戸	19 世紀前半	
265	40	碗	(11.0)	－	(3.8)	白色	不明	19 世紀前半～中頃	焼継痕あり
266	40	碗	－	－	(1.9)	白色	瀬戸	19 世紀前半	
267	40	碗蓋	－	(9.8)	(2.2)	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	63 と同じ柄　同一個体かは不明
268	40	碗蓋	－	(9.0)	(2.2)	白色 黒粒	肥前	1780 ～ 1860 年	
269	40	碗蓋	－	(4.1)	(1.5)	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	

番号	写真図版	器種	法量（cm）			胎土	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高				
270	40	碗蓋	－	－	(1.1)	白色 黒粒	肥前か	1780 ～ 1860 年	
271	40	碗蓋	－	(10.0)	(1.1)	白色	瀬戸	19 世紀前半	
272	40	湯呑み	(7.8)	(3.8)	4.7	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年	
273	40	湯呑み	(7.8)	(3.4)	3.7	白色	肥前か	1780 ～ 1860 年	
274	40	湯呑み	(7.2)	－	(1.8)	白色	肥前か	19 世紀前半	
275	40	蓋付鉢	(10.5)	－	(3.6)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年頃か	口唇～口縁内面無釉
276	40	鉢	－	－	(1.4)	白色 黒粒	肥前	1780 ～ 1860 年頃	
277	40	鉢	(12.8)	－	－	白色	肥前	18 世紀後半～ 19 世紀初頭	外面青磁
278	40	鉢	－	－	(3.0)	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	
279	40	皿	－	(5.6)	(2.0)	灰白色	瀬戸	1650 ～ 1690 年	
280	40	大皿	－	(16.8)	(1.7)	白色 黒粒	肥前	1690 ～ 1780 年	口径 1 尺
281	40	皿	(12.4)	－	(2.3)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
282	40	皿	(14.6)	8.5	4.4	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	型おこしの皿　外面青磁釉　外底面銘「渦福」　焼継痕あり　焼継記号「イ九」
283	40	皿	－	(4.0)	(1.6)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	見込蛇目釉はぎ
284	40	皿	－	(4.2)	(1.6)	灰白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
285	40	皿	－	－	(3.5)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	型おこし　近世の型紙刷
286	40	皿	－	－	(1.5)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
287	40	紅皿	(5.0)	－	(1.1)	白色	肥前	1780 ～ 1860 年	
288	40	皿	－	(5.6)	(1.3)	白色	肥前か	19 世紀中頃	
289	40	瓶類	－	－	(2.1)	白色	肥前	1780 ～ 1860 年頃	
290	40	猪口	(6.4)	－	(4.0)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年	
291	40	薬用器の蓋	－	(5.7)	1.2	白色	肥前	1820 ～ 1860 年頃	「肥前　烏犀圓」
299	40	段重の蓋	－	－	(0.8)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年頃か	
303	40	段重	(14.0)	－	(3.0)	白色	肥前	1690 ～ 1780 年頃か	口唇～口縁内面無釉

近世陶器

番号	写真図版	器種	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代
			口径	底径	器高				
292	32	碗	－	－	(3.1)	灰白色	外：上灰釉、下鉄釉 内：灰釉	大堀相馬	18 世紀
293	32	碗	－	－	(2.7)	灰白色	外：灰釉、鉄釉 内：灰釉	大堀相馬	18 世紀
294	32	碗	－	(4.0)	(2.9)	灰白色	外：鉄釉、灰釉 内：灰釉	大堀相馬	18 世紀

番号	写真図版	器種	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作地	製作年代
			口径	底径	器高				
295	32	碗	－	(3.2)	－	灰白色	灰釉	大堀相馬	18 世紀
296	32	碗	－	(3.1)	(1.2)	白色	外：鉄釉 内：灰釉	大堀相馬	18 世紀
297	32	碗	－	(3.1)	(1.5)	灰白色	灰釉	京・信楽系	18 世紀～ 19 世紀前半
298	32	碗	(8.4)	－	(1.5)	浅黄	灰釉	大堀相馬	18 世紀
300	32	碗	－	－	(2.8)	灰白色	灰釉に緑色の上絵付	京・信楽系	18 世紀後半～ 19 世紀前半
301	32	皿	－	－	(2.3)	浅黄	灰釉	大堀相馬	18 世紀
302	32	徳利？	－	－	(5.0)	灰白色	内外灰釉 外面に褐釉流しかけ	大堀相馬	18 世紀
304	32	火入	(8.4)	－	(4.7)	灰黄色	口：内外灰釉 胴：外鉄釉・内無釉	瀬戸	18 世紀頃
305	32	土瓶	(4.6)	－	－	灰白色	灰釉に鉄絵	大堀相馬	19 世紀前半～中頃

4　調査区外から出土した近代～現代遺物について

第 23・24 次調査区北側の撹乱から近代以降に帰属する陶磁器類が出土した。撹乱出土は本来なら不掲載であるが、遺物を概観すると、遺構内出土の近世～近代遺物と共通するものも見受けられる。したがってやや時代は下るが、遺構群との関連を考え、写真による一括掲載という形で掲載する。

319 ～ 325 は湯のみである。319 は RI067 から出土した碗(40)と絵付が共通する。326 は碗蓋である。327 ～ 331 は碗である。329 は RI067 出土の 40 と同一の碗である。332・333 は大形の鉢で、所謂どんぶりである。334 ～ 336 は小鉢。口縁部が波状を呈し、青色の縁取りがなされる。337 ～ 341 は湯飲みの破片で、口縁部が外反する器形で、胴部に青色で円を描き、その内側に絵柄が描かれる。342 は大皿の破片である。高台が付き、外へと内湾しながら広がる器形である。内面に色絵が描かれている。343 ～ 360 は皿の類である。352 は遺構外から出土した 229 などと共通する。361 ～ 364 は花瓶である。本遺跡の遺構外出土の仏花器と共通する点があり、これらの花瓶も仏具の一種であろうか。365・366 は仏飯具である。367・368 は一合徳利で、同一個体である。青地に白色の模様が描かれる。369 は徳利の底部である。銅板転写により絵付が施されている。370 は急須か湯のみの蓋である。371 は大形の碗の底部片か。372 は陶器製のブレーカーで青文字で「NITTO　15A.250V.〒5 － 1677」と記される。陶器製ブレーカーは戦後以降も一般的に使われていた。373 ～ 391 は破片資料である。373 は壺の胴部片か、青色に塗られた把手が付き、凸字で「は」の文字が見受けられる。374・376・387 ～ 389 は碗の口縁部片である。いずれも絵柄の施し方は不明で、現代に近い。387 ～ 389 は大きさからみて所謂どんぶりである。390・391 は擂り鉢の底部片である。392 ～ 406 はガラス製品である。392 はガラス瓶であり、底部に「ZENKOREN」とあるが、商品名か会社名か定かではない。393 もガラス瓶で、口縁部が欠損する。「□　ROIL」とあり、油を入れる容器であったものと思われる。394 は円錐形のガラス瓶である。395・396 はガラス製の瓶蓋で、大きな摘みが作り付けられている。397 ～ 496 は白色質あるいは黒色質のガラス瓶で器形は様々であるが、大きさや口径が類似している。クリーム容器であろうと思われる。

第18表　近代～現代遺物観察表

掲号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
319	49	湯飲み	4 A14 t ～16 t 撹乱	8.2	3.0	4.8	白色	銅板転写	２０世紀前半か	40 と類似
320	49	湯飲み	4 A12w～13w 撹乱	(8.2)	3.4	4.5	白色		２０世紀前半か	内外緑色の釉
321	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	8.2	3.2	4.8	白色	銅板転写	２０世紀前半か	外側のみ緑色の釉
322	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	7.6	3.2	5.2	白色	色絵	２０世紀前半か	
323	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	(8.2)	3.3	5.2	白色	銅板転写	２０世紀前半か	円文
324	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	8.8	3.4	4.7	白色		２０世紀前半か	41 と同じ湯飲み
325	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	8.2	3.4	5.4	白色		２０世紀前半か	
326	49	碗蓋	4 A14 o ～16 o 撹乱	4.9	13.7	3.8	白色		２０世紀前半か	325 と同じ色調の模様
327	49	碗	4 A14 o ～16 o 撹乱	(15.4)	(6.0)	6.2	白色		２０世紀前半か	
328	49	碗	4 A14 o ～16 o 撹乱	15.7	7.5	8.0	白色		２０世紀前半か	
329	49	碗	4 A14 o ～16 o 撹乱	(10.2)	3.8	5.9	白色	銅板転写	２０世紀前半か	40 と同じ碗
330	49	碗（統制陶器）	4 A14 o ～16 o 撹乱	(13.4)	5.2	6.4	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「東陽軒平八製　瀬 51」 220 と同一
331	49	碗（統制陶器）	4 A12w～13w 撹乱	(11.1)	4.1	(5.8)	白色		昭和 16 ～ 20 年頃	「岐 1086」 219 と同一
332	49	碗	4 A12w～13w 撹乱	19.0	7.7	6.3	白色		２０世紀前半か	ラーメン茶碗
333	49	碗	4 A14 o ～16 o 撹乱	15.4	6.1	7.0	白色		２０世紀前半か	どんぶり
334	49	鉢	4 A14 o ～16 o 撹乱	(8.8)	3.3	5.1	白色		２０世紀前半か	
335	49	鉢	4 A12w～13w 撹乱	(9.4)	4.0	5.2	白色		２０世紀前半か	内面に色絵（剥げている）
336	49	鉢	4 A14 o ～16 o 撹乱	(10.0)	(4.0)	5.0	白色		２０世紀前半か	
337	49	湯飲み	4 A12w～13w 撹乱	－	－	(4.5)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
338	49	湯飲み	4 A14 o ～16 o 撹乱	－	－	(4.5)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
339	49	湯飲み	4 A12w～13w 撹乱	－	－	(4.8)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
340	49	湯飲み	4 A12w～13w 撹乱	－	－	(4.6)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
341	49	湯飲み	4 A14 t ～16 t 撹乱	－	－	(4.7)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
342	49	大皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	24.0	(11.2)	7.9	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
343	49	小皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	9.4	4.3	2.0	白色		２０世紀前半か	
344	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(17.6)	(11.2)	2.6	白色		２０世紀前半か	内面に凸字で竹林
345	49	小皿	4 A12w～13w 撹乱	(8.6)	4.8	1.7	白色		２０世紀前半か	内外面の口縁に青色の釉
346	49	小皿	4 A14 t ～16 t 撹乱	(8.8)	(4.5)	1.7	白色		２０世紀前半か	波状口縁．内面に色絵
347	49	小皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(10.6)	(5.4)	2.0	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
348	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(12.8)	(7.6)	2.4	白色		２０世紀前半か	波状口縁．内外面に青色釉　内面に色絵
349	49	皿	4 A12w～13w 撹乱	(15.4)	(8.4)	(2.7)	白色		２０世紀前半か	
350	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(15.2)	8.4	2.2	白色		２０世紀前半か	内面に模様
351	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	21.6	11.5	1.5	白色		２０世紀前半か	
352	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(15.4)	(8.8)	4.0	白色	銅板転写？	２０世紀前半か	
353	49	皿	4 A14 t ～16 t 撹乱	15.4	7.7	3.0	白色		２０世紀前半か	
354	49	小皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	8.8	4.4	1.6	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
355	49	皿	4 A14 t ～16 t 撹乱	(11.2)	(6.0)	2.0	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
356	49	小皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(7.7)	(3.3)	2.2	白色		２０世紀前半か	外側茶色釉　内面に色絵
357	49	皿	4 A12w～13w 撹乱	(12.4)	(6.4)	2.5	白色		２０世紀前半か	内面に模様
358	49	皿	4 A14 t ～16 t 撹乱	(19.3)	(11.3)	4.9	白色		２０世紀前半か	359 と同一
359	49	皿	4 A14 o ～16 o 撹乱	(19.3)	(11.3)	4.9	白色		２０世紀前半か	358 と同一
360	49	皿	4 A14 t ～16 t 撹乱	(23.0)	(11.6)	4.3	白色		２０世紀前半か	内面に色絵　底面に「MINO CHINA」
361	50	花瓶	4 A14 o ～16 o 撹乱	6.7	(8.2)	11.1	白色		２０世紀前半か	

掲号	写真図版	器種	出土位置・層位	法量（cm）			胎土色調	釉薬絵付	製作年代	備考
				口径	底径	器高				
362	50	花瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	6.2	6.4	12.3	白色		２０世紀前半か	凸文による竹林
363	50	花瓶	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	8.2	6.8	11.5	白色		２０世紀前半か	外面に花文
364	50	花瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	－	4.3	(11.3)	灰白色		２０世紀前半か	上白い釉　下鉄釉　陶器
365	50	仏花器	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(5.0)	3.6	6.0	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
366	50	仏花器	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(5.0)	4.0	6.1	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
367	50	一合徳利	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	－	4.3	(11.1)	白色		２０世紀前半か	368と同一
368	50	一合徳利	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	－	4.3	(12.4)	白色		２０世紀前半か	367と同一
369	50	徳利	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	－	6.6	(7.0)	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
370	50	蓋	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	7.7	5.8	2.5	白色		２０世紀前半か	茶碗か急須の蓋　外面に色絵
371	50	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	3.8	6.1	灰白色		２０世紀前半か	内外面に青色の釉
372	50	陶器製ブレーカー	４Ｂ17ｂ～17ｄ撹乱	5.3×4.3	－	7.0	灰白色、黒い粒	銅板転写	２０世紀前半か	「NITTO　15A.250V.〒５－1677」
373	50	壺？	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(7.6)	－	(6.6)	灰白色		２０世紀前半か	「は」の文字
374	50	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	－	(6.8)	灰白色		２０世紀前半か	両面に釉　外面下は釉なし　陶器
375	50	小鉢	４Ｂ17ｂ～17ｄ撹乱	(6.4)	(2.5)	2.6	白色		２０世紀前半か	凸文
376	50	碗	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	－	(2.4)	白色		２０世紀前半か	「湯沃銀□」の文字
377	50	皿	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	10.7	4.5	1.4	白色		２０世紀前半か	凸文による波状
378	50	皿	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	－	(1.4)	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
379	50	徳利	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	3.3	－	－	白色		２０世紀前半か	外面に色絵
380	50	急須	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	－	(7.0)	灰白色		２０世紀前半か	緑色釉　陶器
381	50	皿	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(23.0)	－	(5.4)	灰白色		２０世紀前半か	内面に色絵
382	50	皿	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(17.2)	－	(4.6)	灰白色		２０世紀前半か	陶器
383	50	皿	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	－	(12.0)	(0.9)	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
384	50	皿	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	(12.4)	(3.0)	(2.1)	白色		２０世紀前半か	内面に色絵
385	50	皿	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(8.8)	(4.6)	1.6	白色		２０世紀前半か	
386	50	皿	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	－	(8.6)	4.6	白色	銅板転写	２０世紀前半か	
387	50	どんぶり	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	(16.6)	(6.8)	7.7	白色		２０世紀前半か	外側に色絵
388	50	どんぶり	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(14.6)	－	(6.0)	白色		２０世紀前半か	外側に色絵
389	50	どんぶり	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	(20.4)	－	(5.3)	灰白色		２０世紀前半か	陶器・両面に色絵
390	50	擂鉢	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	(12.4)	(5.2)	にぶい赤褐		２０世紀前半か	陶器
391	50	擂鉢	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	10.6	(4.4)	にぶい橙		２０世紀前半か	陶器
392	50	ガラス瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	2.8	4.4	11.2	－		２０世紀前半か	凸字「ZENKOREN]
393	50	ガラス瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	－	5.3×3.5	(8.0)	－		２０世紀前半か	凸字「NO」「S.　」「□R　OIL」
394	50	ガラス瓶	風倒木	2.0	4.6	4.8	－		２０世紀前半か	
395	50	ガラス栓	４Ａ24ｔ～25ｔ撹乱	－	2.5	3.6	白透明		２０世紀前半か	
396	50	ガラス栓	４Ａ24ｔ～25ｔ撹乱	－	2.7	3.8	白透明		２０世紀前半か	
397	50	ガラス瓶	４Ａ７ａ～９ａ撹乱	5.7	4.5	6.6	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
398	50	ガラス瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	－	5.5	6.6	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
399	50	ガラス瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	2.7	3.1	4.6	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
400	50	ガラス瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	4.0	3.1	4.1	黒		２０世紀前半か	クリーム瓶
401	50	ガラス瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	3.1	3.2	5.6	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
402	50	ガラス瓶	４Ａ14ｏ～16ｏ撹乱	2.9	3.0	5.8	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
403	50	ガラス瓶	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	2.7	3.0	5.3	半透明		２０世紀前半か	クリーム瓶
404	50	ガラス瓶蓋	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	－	5.0	1.4	白透明		２０世紀前半か	
405	50	ガラス瓶	４Ａ12ｗ～13ｗ撹乱	1.9	2.0	2.1	白透明		２０世紀前半か	凸文
406	50	ガラス瓶	４Ａ14ｔ～16ｔ撹乱	3.9	4.2	3.0	白透明		２０世紀前半か	クリーム瓶

Ⅵ　自然科学分析

1　矢盛遺跡第23次調査で出土した木製品の樹種

吉川純子（古代の森研究舎）

（1）は　じ　め　に

矢盛遺跡は盛岡市向中野の北上川と雫石川の分岐点近くの河岸段丘上に位置する遺跡で、第23次調査では江戸時代末～明治とみられる屋敷跡とそれに伴う井戸、墓坑などが検出されている。そこで当時の木材利用状況を調査するため井戸と墓坑から出土した木製品5試料の樹種同定を行った。木製品からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を作製しガムクロラールで封入し生物顕微鏡で観察・同定をおこなった。

（2）同　定　結　果

出土した木製品の樹種同定結果を表1に示す。井戸の木枠は針葉樹とコナラ属コナラ節であった。棺材はスギが使われていた。副葬品は散孔材であった。以下に同定した樹種の木材解剖学的記載を行う。

スギ（Cryptomeria japonica（Linn.fil.）D.Don）：早材から晩材への移行は急で晩材部が厚く、晩材部に黒い樹脂細胞が認められる。接線断面と放射断面でも樹脂が顕著である。分野壁孔はスギ型で横に長い楕円形となり、1分野に2-3個存在する。

針葉樹：痛みが激しく内部に菌類の繁殖が著しく、また、放射組織が劣化して一部溶けており、分野壁孔などの形態が確認できなかったため針葉樹と同定した。

コナラ属コナラ節（Quercus sect. Prinus）：年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に小管孔が配列する環孔材で横断面で広放射組織が目立つ。道管の穿孔板は単一で放射組織は単列と広放射組織があり同性である。

散孔材：木材組織内に菌類などが侵入し、細胞壁が腐食されているため詳細な構造が不明である。道管内に胞子のようなものが詰まっている様子が確認でき、孔の径がほぼ均一なため散孔材と判断した。放射組織は1-3,4細胞幅程度で同性のようである。

第19表　矢盛遺跡出土木製品の樹種

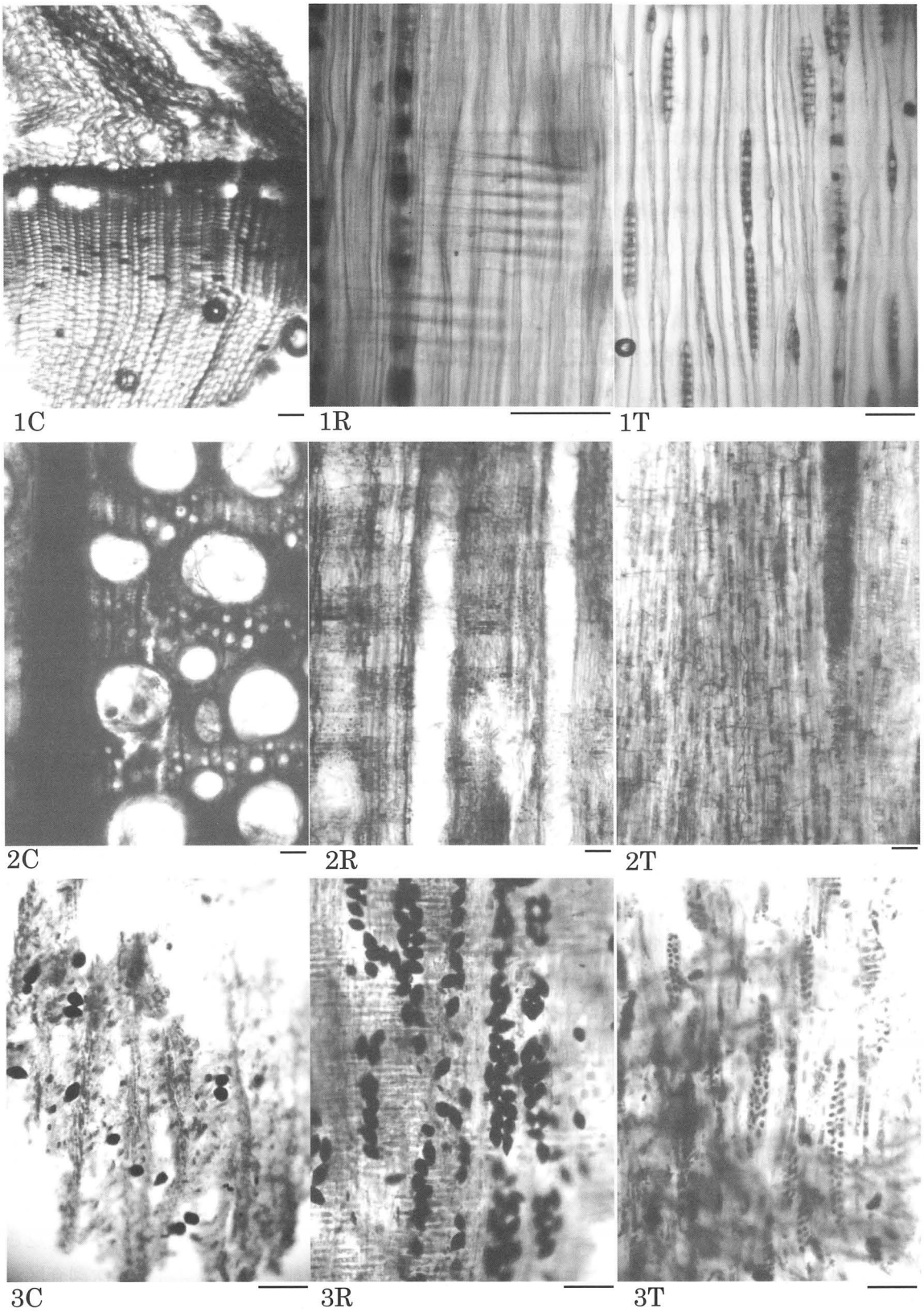
番号	遺構	状況	分類群
1	RI067	木枠	針葉樹
2	RI066	木枠	コナラ属コナラ節
3	RD223	底板	スギ
4	RD223	箱板破片	スギ
5	RD202	櫛破片	散孔材

（3）考　　察

近世の井戸から出土した木枠は針葉樹とコナラ節であった。東北の土木材利用はスギなどの針葉樹とクリが多く（山田 1993）、コナラ節は代用として利用された可能性がある。棺材とみられる板片はいずれもスギであった。東北における棺材のスギ利用は18世紀以降多くなる傾向にある（山田 1993）が、それ以前には東北の棺材の確認例が少ない。

引用文献

山田昌久.　1993.　日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別第1号．植生史研究会．1-244.



図版1 矢盛遺跡第23次調査で出土した木材の顕微鏡写真
1.スギ(23号土坑箱板破片)2.コナラ属コナラ節(2号井戸木枠)3.散孔材(13号墓櫛破片)
C:横断面,R:放射断面,T:接線断面、スケールは0.1mm

第62図　矢盛遺跡出土木製品の顕微鏡写真

Ⅶ まとめ

1　明治時代初頭の地割図からみた矢盛遺跡の近世遺構群

第71図は明治5年（1876年）頃に作成された「飯岡新田地割絵図　第二地割字才川」の図である。

明治4年の戸籍法制定および廃藩置県を経て、人民は戸主を中心に一戸をかまえ、また土地は官私の区分を行った上で、その所有権を認め、地券の公布をまって売買が許されるようになった。土地の官私区分については沽券状（永代証文・売買貸借証文・納税等で所有権が確認できる書類）により、その所有権が確認された。

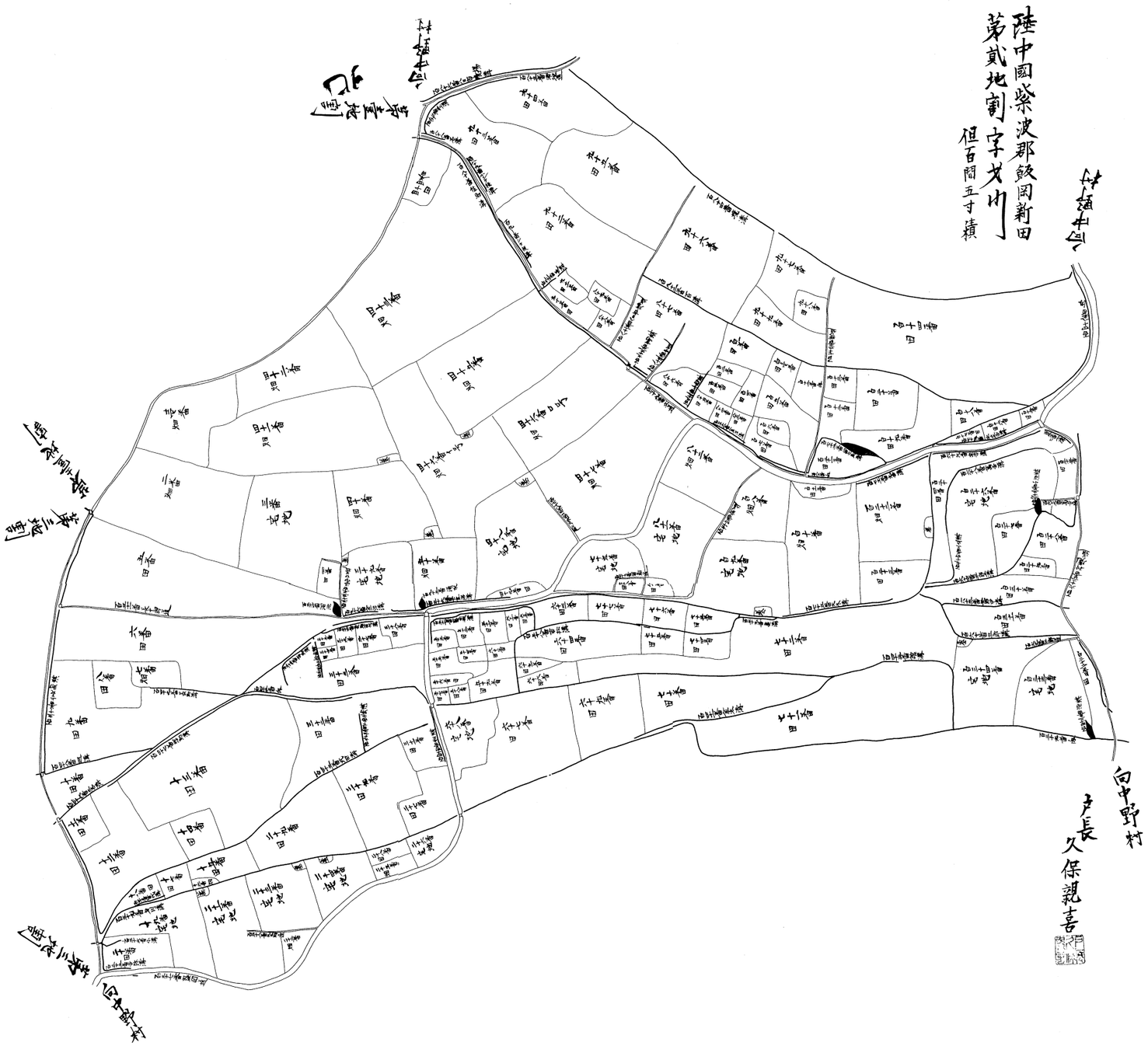
また平行して土地の実地調査が行われており、一郡毎に境界を定め、耕地（田･畑）と宅地（墓も）の面積を測り、地図･台帳が作成された。この実地調査によって作成された図面は「村書上絵図」、「地押絵図」、「地引絵図」と称され、境界の査定、土地紛争の解決の重要な証拠として大いに利用されたようである。そして「飯岡新田地割絵図」もそのうちの一つである。

「飯岡新田地割絵図」は名前の通り地割毎に絵図面が作成されており、第一地割から第十地割まで計10枚の絵図面からなる。作成された由来は上記の通りであるが、作成時期を考えると、江戸時代後期から明治時代（18世紀～19世紀ごろ）の村勢を知る上で貴重な資料である。ちなみに発掘調査の2010年段階、当地は盛南開発事業の進行により、当時の姿はみる影もないが、戦後、米軍によって撮影された上空写真には絵図に描かれている地割の面影が残っていた。したがって江戸時代の地割、宅地や耕地の別は昭和時代前半まで残存していたことが分かる。

第63図は「飯岡新田地割絵図　第二地割字才川」を写したものである。そこには15箇所において「宅地」の記載がある。これが15世帯（戸）が住んでいたことを意味するものかどうか定かではないものの、これらの場所に民家跡と思われる規模の建物が建てられていたことが考えられる。ちなみに矢盛遺跡第23・24次調査で検出した掘立柱建物跡群を中心とする近世遺構はこの地割図でみると、二十一番、二十三番に位置する（第64図）。そこには「宅地」とあるので、掘立柱建物群が「民家」であったことが伺える。またそれぞれの番地の北側片隅には「墓」いう記載があり、これが今回検出した墓坑群（ＲＤ192～240）の可能性が高い。さらにその北側には「百三十九番才川溝」と記載された溝が東西方向に描かれているが、これはＲＧ068が相当するのではないかと考える。ＲＧ068は埋土に十和田ａテフラとおぼしき灰白色火山灰が混入するので、帰属時期が古代まで遡る可能性もあるが、この地割絵図によればＲＧ068は近代頃まで存続していたものと思われる。また二十三番宅地の南側には「百三十八番○○道」と記載され、宅地内へとつながる小道が描かれている。これが推定であるが、ＲＧ074ではないかと思われる。

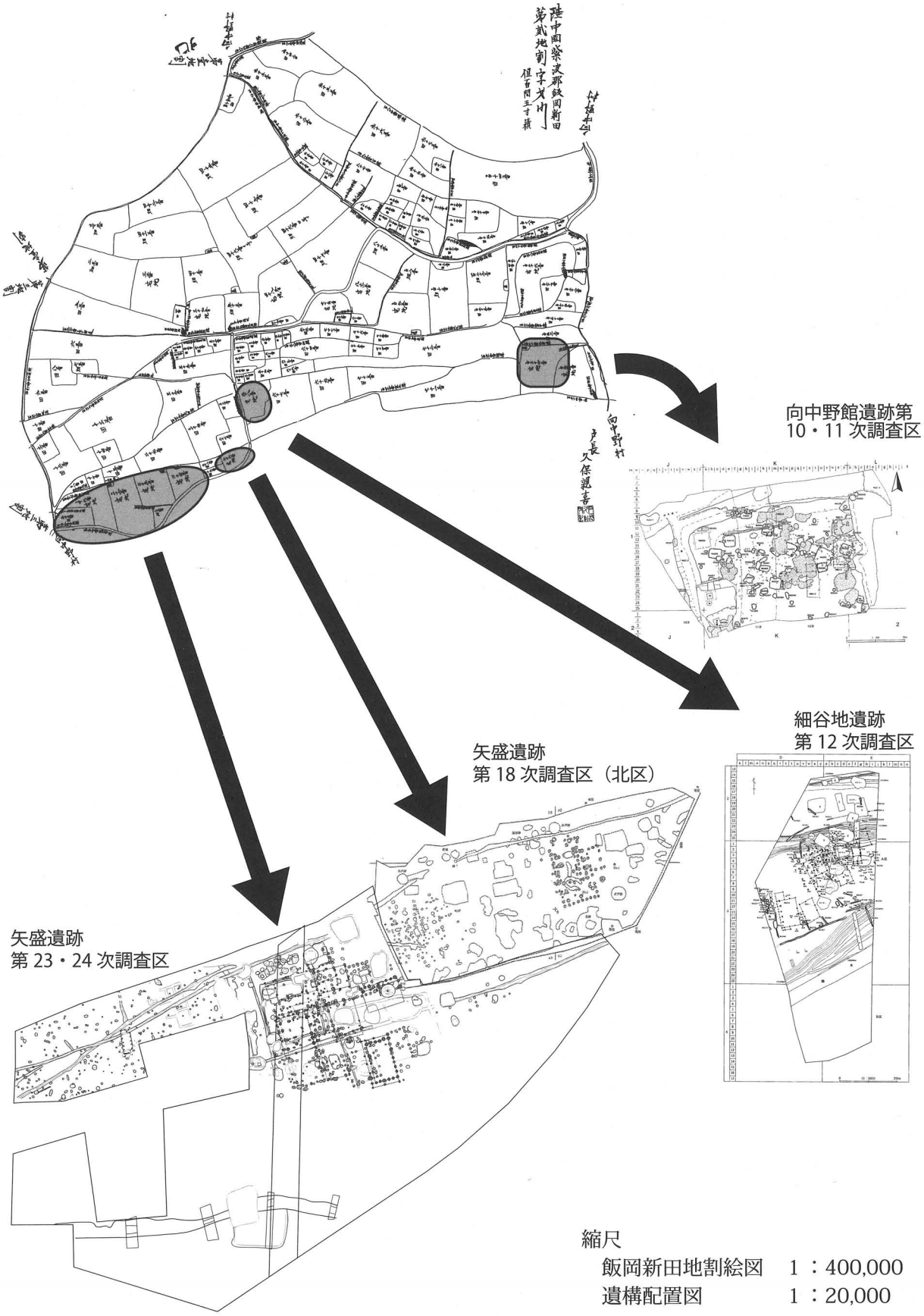
こうしてみていくと、本遺跡で検出した近世遺構は出土遺物からみて構築年代自体は江戸時代後期であるが、その後、この地割絵図に現れている通り、明治時代初頭までは確実に存続したことが伺える。なお宅地北側には田・畑が広がっている。南側が別の地割であることを考えても、矢盛遺跡第23・24次調査区から見つかった近世民家跡に住む人々は北側の田畑を所有していたことが推定される。ちなみにその田畑（十八番地・十七番地・十五番地・二十九番地）は矢盛遺跡第6次調査区が相当する。この第6次調査では数点の近世陶磁器が見つかったが、遺構は全く見つかっていない。これは田畑であったことを考えると当然である。

この地割図には他の調査区や別の遺跡から見つかった近世遺構群も描かれている。矢盛遺跡第18次調査北区は二十四番か二十六番宅地が相当し、見つかった墓坑群も記載されている。また細谷地遺



第63図　飯岡新田地割絵図第二地割才川

飯岡新田地割絵図第弐地割字才川
（第 65 図）



第64図　飯岡新田地割絵図との比較

跡第12次調査で見つかった18～19世紀の遺構群は六十八番地の宅地が相当する。この調査では墓坑群が集中し、墓域を形成していた。ただし、地割絵図にその記載が無い。

2　掘立柱建物跡群の変遷について

矢盛遺跡第23・24次調査では716個の柱穴状土坑を検出し、それらから15棟の掘立柱建物跡を推定した。いずれも近世の民家跡とそれらに伴われる倉庫（小屋）と思われる。建物の構築年代は出土遺物から17世紀後半～18世紀代に帰属するものと推定され、前述の通り、「飯岡新田地割絵図　第二地割才川」における記載から、明治時代初頭ごろまでは存続していたものと推定される。

推定できた掘立柱建物跡群は重複している。したがって、複数回におよぶ建て替えが考えられる。その際には母屋となる建物が位置を変えたり、あるいは軸方向を変えていったものと思われる。

残念ながら、全ての掘立柱建物跡で、柱穴同士の重複が認められた訳ではないので、各掘立柱建物跡の新旧関係を明確にすることはできなかった。そこで掘立柱建物跡のなかで、重複していない建物同士をグループ化し、また別のグループ掘立柱建物跡の柱穴の重複関係から、新旧関係を推定することができた。そして掘立柱建物跡群は５つのグループに分けることができ、従って建物の変遷は５時期に渡る可能性が高い。

以下、それらの変遷について、みていく。

〈第１期〉

ＲＢ048・049・050・051・052の５棟が該当する（第９図青で示した掘立柱建物跡、第65図左上）。

掘立柱建物跡の規模では、ＲＢ048が最も大きく、東西両側には庇が付く。ＲＢ049～051はそれよりも小さい。またＲＢ049は東西方向に２面庇が付く。ＲＢ052は桁行きは他に比べ長くなるが、柱穴自体を観察すると、他の建物より径が小さくやや貧弱である。

ＲＢ048～051の桁行きの軸方向はほぼ一致し、北西－南東に向いている。一方、ＲＢ052一棟だけはそれより約90度直交しており、他とは異なっている。ただし厳密に言うと、ＲＢ049はＲＢ048などよりやや西に傾いており、他とはやや方向にずれがある。

以上の建物の規模や庇を有する特徴から、ＲＢ048は主屋、ＲＢ049は離れ（？）と考えることができる。それ以外の掘立柱建物跡は納屋・蔵ではないかと推察する。

これらの掘立柱建物跡群に伴われる他の遺構についてみていくと、井戸は掘立柱建物跡群と重複していないので、いずれの井戸も該当する可能性がある。ただし、ＲＩ067は壁が石組で構築されており、この時期のものより新しい井戸であろうと推察されるので、この時期に伴われる井戸があるとしてもその他の井戸であろうと思われる。他に土坑では掘立柱建物跡に隣接し、かつ重複関係がみられないＲＤ218・231などがこの時期に該当するのではないだろうか。

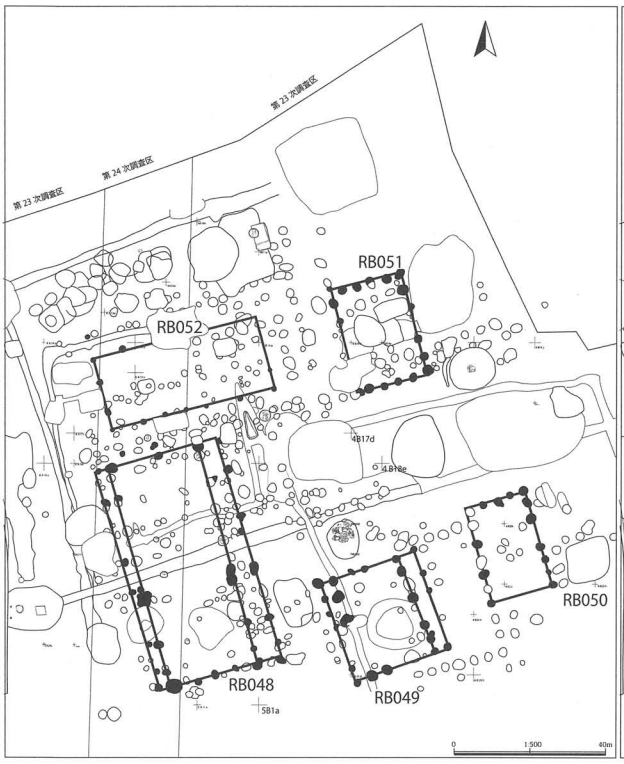
〈第２期〉

ＲＢ053・054・055・056・057の５棟が該当する（第９図赤で示した掘立柱建物跡、第65図右上）。

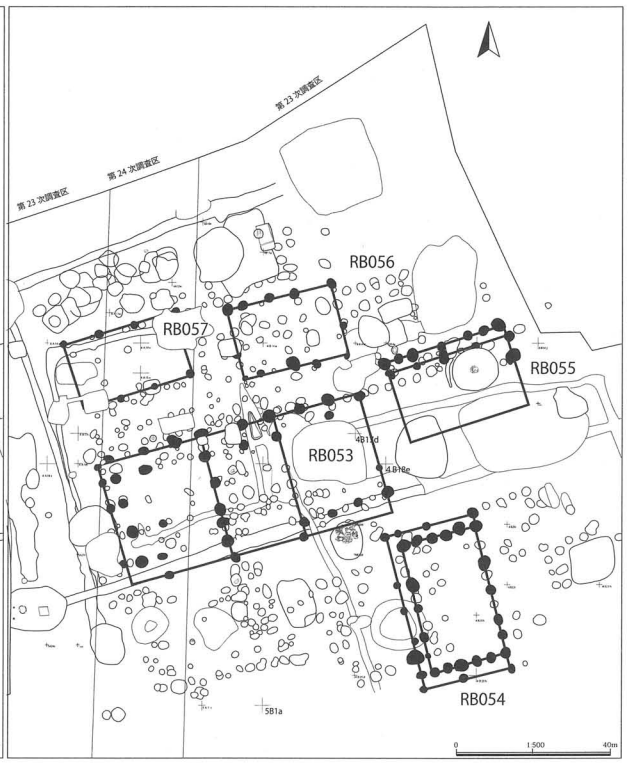
掘立柱建物跡の規模では、ＲＢ053が最も大きい。第１時期で「母屋」と推定したＲＢ049よりさらに大きく、また使われる柱も多い。ＲＢ054～057はそれよりも小さい。ただし、ＲＢ054には３面に庇が付く。ＲＢ054は柱穴の径も大きく、比較的しっかりした造りの建物である。またＲＢ055にも庇が付いていた可能性も考えられるが、建物の南側半分が撹乱によって壊されており、全容は定かではない。

桁行きの軸方向をみてみると、ＲＢ054を除いた全ての掘立柱建物跡が第１期の主立った掘立柱建

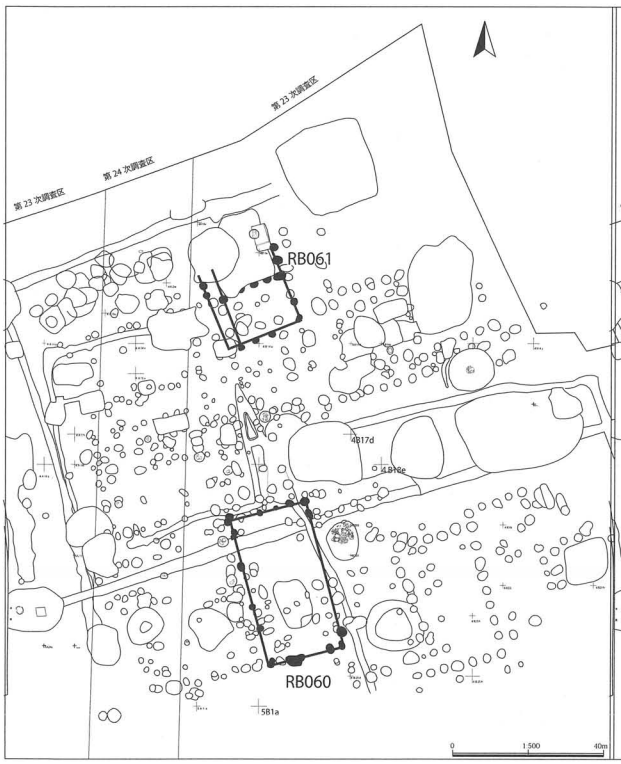
第１期



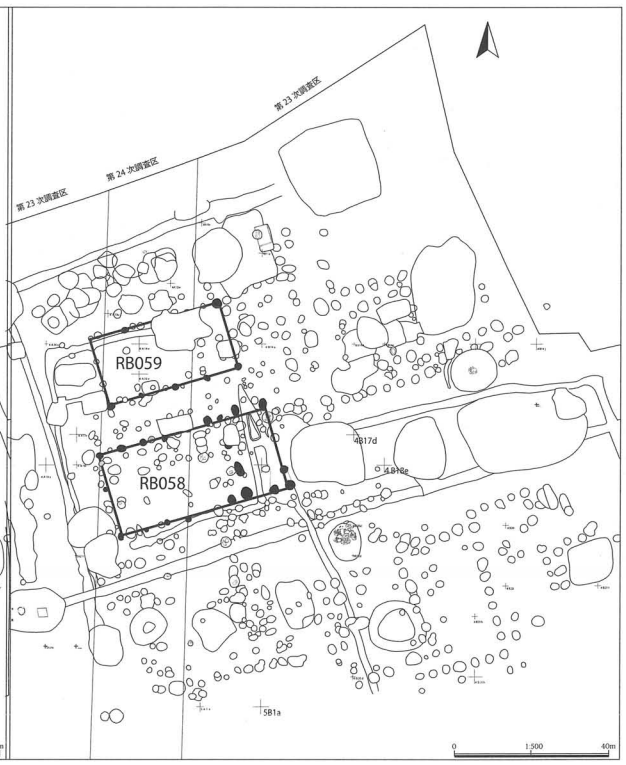
第２期



第３・４期（１）

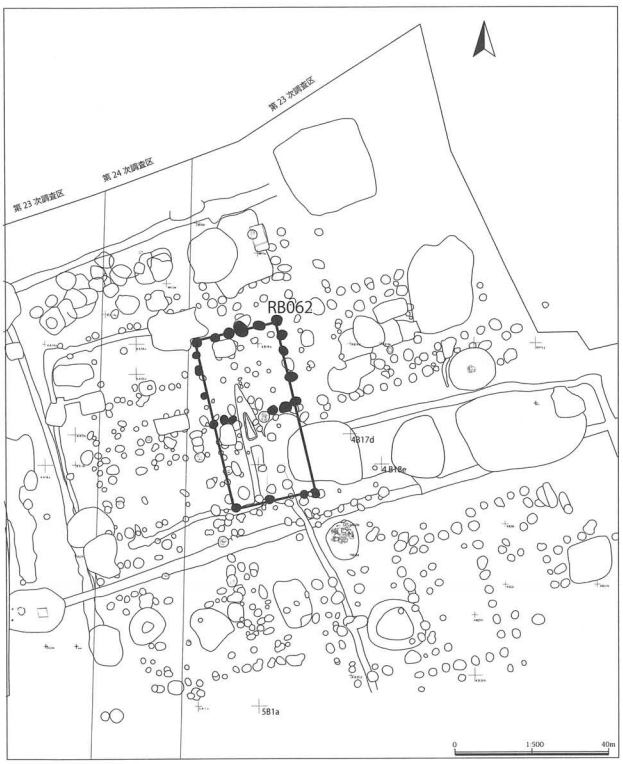


第３・４期（２）



第65図　掘立柱建物跡群変遷図（１）

第５期



第66図　掘立柱建物跡群変遷図（２）

物跡群の軸方向と直交する方向に向いている。そしてＲＢ 054 を除いた全ての掘立柱建物跡群の軸方向がほぼ一致している。ＲＢ 054 はそれらに直交している。

以上の建物の規模や庇を有する特徴から、ＲＢ 053 は主屋、ＲＢ 054 は離れと思われ、主屋と離れで軸方向が直交するような配置であったことが伺える。その他の掘立柱建物跡は納屋・蔵であろうか。第１期の建物を立て直す際、主屋の位置自体はそれほど変えず、しかし軸方向は直交するように大きく変更したものと推定される。

これらの掘立柱建物跡群に伴われる別の遺構では、井戸は重複していないＲＩ 065・066 が該当するものと思われ、また土坑ではＲＤ 222 ～ 224 などが該当する可能性が考えられる。

〈第３時期・第４時期〉

ＲＢ 058･059 のグループ（第 65 図右下）と、ＲＢ 060・061 のグループ（第 65 図左下）とが該当する。ただしこれらの２つのグループの掘立柱建物跡は直接的な重複関係がなく、両グループ間の新旧関係は分からない。したがって第３期、第４期に該当するグループをまとめてみていく。

まず、ＲＢ 058・059 のグループである。

掘立柱建物跡の規模をみると、ＲＢ 058 の方が大きいが、ただしどちらも前時期までで主屋と推定したＲＢ 048・053 の規模と比べると小さく、むしろ離れや納屋・蔵に推定される建物の規模に類似する。

桁行きの軸方向はＲＢ 058・059 とも、ほぼ同じ方向である。またそれらは第２期の主立った掘立柱建物跡と同じ軸方向でもある。

ＲＢ 058・059 ２棟の柱間や柱穴の規模を比べると、差異が見られ、同じ規格でないことがみてとれる。そこから２棟は同じ性格の建物ではなかった可能性が考えられる。

以上の特徴から考えると、このＲＢ 058・059 は第１期、第２期で主屋とした建物には相当しない。すなわち主屋は調査区外のどこかに存在するか、あるいは構築年代を考えても礎石建物に移っていることも考えられる。礎石建物であった場合、今回の調査の遺構検出段階では、そのような礎石となる石の配列は認められなかったので、削平された可能性もある。したがってこのグループについては主屋はみつからず、ＲＢ 058・059 については、納屋・蔵のような建物ではないかと推定する。

次にＲＢ 060・061 のグループをみていく。

掘立柱建物跡の規模については、ＲＢ 061 が北側をＲＺ 001 によって壊されており、全容が分からず、比較できない。ただ梁間を比べる限りでは、２棟はほぼ同規模の建物であることが推測される。また２棟とも前述のＲＢ 058・059 と同様、第１期・第２期で主屋と推定した掘立柱建物跡の規模よりも小さい。

桁行きの軸方向を比較すると、２棟はほぼ同じ方向で、またそれは第１期の主立った掘立柱建物跡とほぼ同方向である。これはＲＢ 058・059 の軸方向とは直交する方向でもある。

ＲＢ 060・061 の柱間間隔や柱穴の規模を比較すると、それほど差異は認められない。すなわち同じような性格の建物であった可能性がある。ただ、ＲＢ 058・059 とは違い、２棟間には距離がある。

以上の特徴から考えると、ＲＢ 060・061 のグループにも主屋として推定できる建物は認められず、ＲＢ 060・061 は離れや納屋・蔵といった類の建物であった可能性が考えられる。

両グループの時期変遷については前述の通り、定かではない。推定する材料としては第１期と第２期とで軸方向が 90°変更されている点があり、そこから考えると、第３期は第２期の掘立柱建物跡の軸方向と直交するＲＢ 060・061 の方が該当し、第４期はそれにまた直交するＲＢ 058・059 の方が該当する可能性が考えられる。

〈第５時期〉

該当する掘立柱建物跡はＲＢ 062 のみである。したがってこの時期についてはこのＲＢ 062 からした推定できず、全体像は分からない。おそらくこの時期になると、礎石建物が主流となり、掘立柱建物自体は姿を消しつつあったのではないかと推察する。

ＲＢ 062 の規模についてはＲＢ 058 の規模に類似するが、第１期・第２期の主屋としての建物ほど大きくない。柱穴の径は北側は比較的大きくしっかりしているが南側は貧弱である。

桁行きの軸方向は第１期・第３期（ＲＢ 060・061 のグループ）と同じ方向を向いており、それらの建て替えであることが伺える。

以上のことからこの時期について推測するならば、ＲＢ 062 は前時期の建物の建て替えとして建てられたが、主屋などの主要な建物は、掘立柱建物跡よりも礎石建物を主体とし、唯一、１棟、離れか納屋・蔵に掘立柱建物跡を採用したものと思われる。

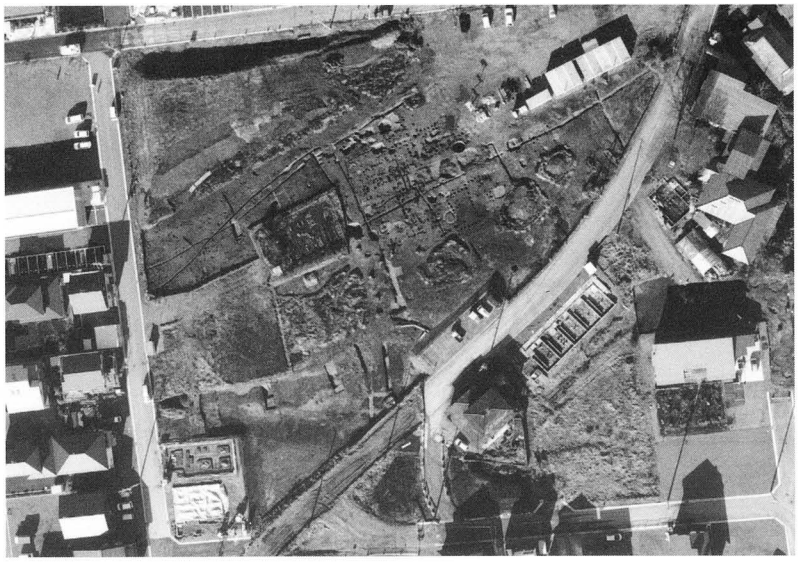
以上のような、掘立柱建物跡群にみられる５時期の変遷が考えられる。

あくまでも、かぎられた情報からの推測であるが、17 世紀後半から 19 世紀にかけ、掘立柱建物跡から礎石建物へと変遷していく過程を１世帯のなかでみてとれる貴重な資料といえる。

参考文献

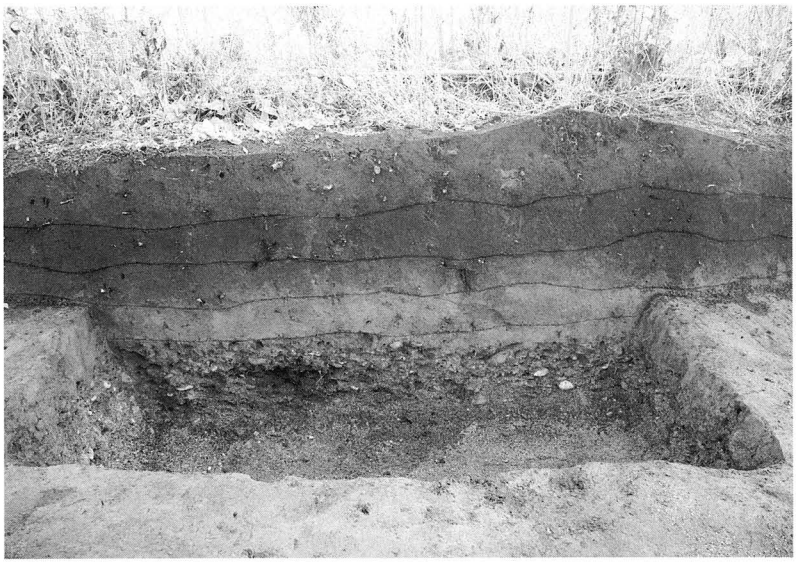
相原康二　2009　「岩手県出土の鏡鑑類について」『紀要ＸＸⅧ』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
1996 『小幅遺跡第２次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 244 集）
1996 『小幅遺跡第４次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 265 集）
1998 『小幅遺跡第５次・第７次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 267 集）
1999 『熊堂Ｂ遺跡第５次・台太郎遺跡台 16 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 293 集）
2001 『岩手県埋蔵文化財発掘調査概報（平成 12 年度）』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 370 集）
2001 『台太郎遺跡第 18 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 369 集）
2002 『飯岡才川遺跡第３次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 393 集）
2002 『岩手県埋蔵文化財発掘調査概報（平成 13 年度）』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 397 集）
2003 『台太郎遺跡第 26 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 416 集）
2003 『飯岡沢田遺跡第５次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 419 集）
2003 『野古Ａ遺跡第 12 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 420 集）
2003 『台太郎遺跡第 44 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 422 集）
2003 『岩手県埋蔵文化財発掘調査概報（平成 14 年度）』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 423 集）
2005 『平成 16 年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 469 集）
2005 『矢盛遺跡第６次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 488 集）
2006 『飯岡沢田遺跡第９・10 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 489 集）
2007 『細谷地遺跡第９次・第 10 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 500 集）
2008 『飯岡才川遺跡第７・13 次・細谷地遺跡第 12 次・矢盛遺跡第９次発掘調査報告書』
（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 508 集）
2008 『細谷地遺跡第 13 次・第 14 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 513 集）
2008 『矢盛遺跡第 10・11 次・向中野館遺跡第９次・台太郎遺跡第 58 次発掘調査報告』
（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 516 集）
2008 『平成 19 年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 524 集）
2009 『平成 20 年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 546 集）
2009 『矢盛第 18・19 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 555 集）
2010 『向中野館遺跡第 10・11 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 557 集）
2010 『細谷地遺跡第 19・20 次発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 556 集）
盛岡市教育委員会　2009 『盛岡市遺跡地図（2008 年版）』（盛岡市教育委員会）
盛岡タイムス　1997 『盛岡の老舗Ⅱ』（盛岡タイムス社）
山下峰司　2009　「飯碗の名称について」『研究紀要第 16 輯』（瀬戸市埋蔵文化財センター）

写　真　図　版



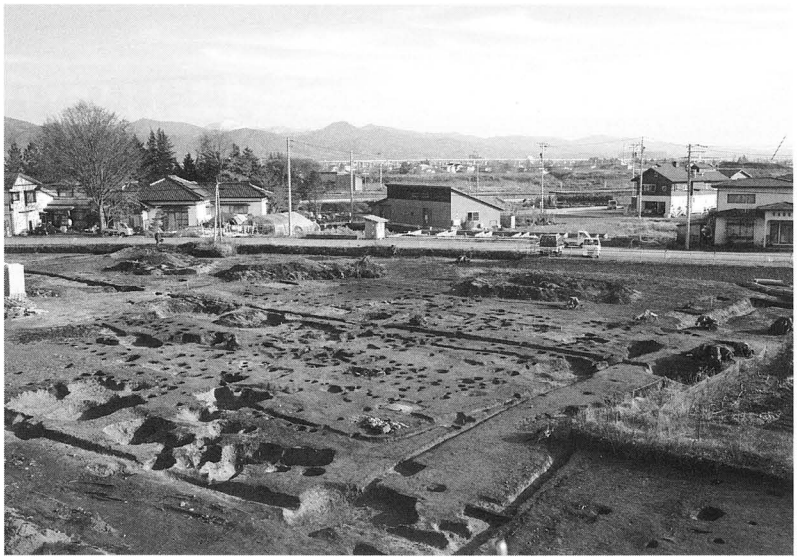
第23次北側調査区・第24次調査区全景
（南から）

第23次南側調査区全景（西から）



基本層序（北から）

写真図版１　調査区全景、基本層序



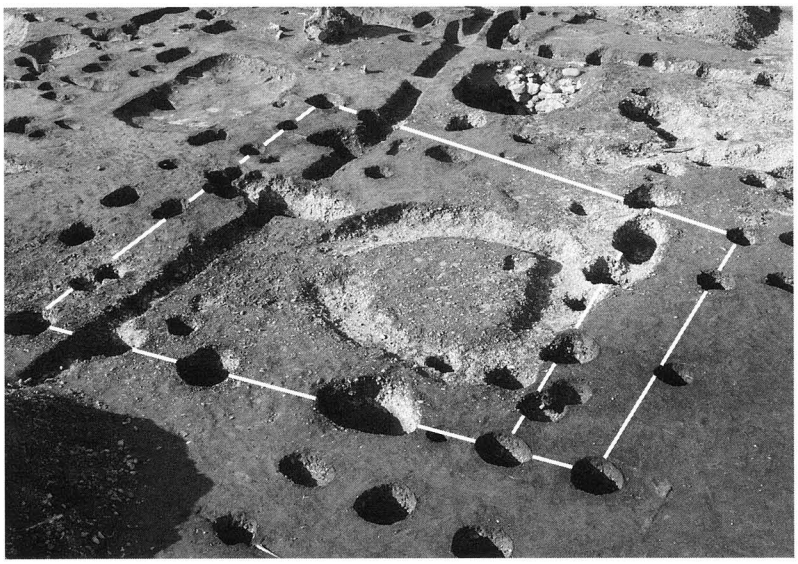
掘立柱建物跡群①（北西から）

掘立柱建物跡群②（南から）

掘立柱建物跡群③（東から）

写真図版２　掘立柱建物跡１

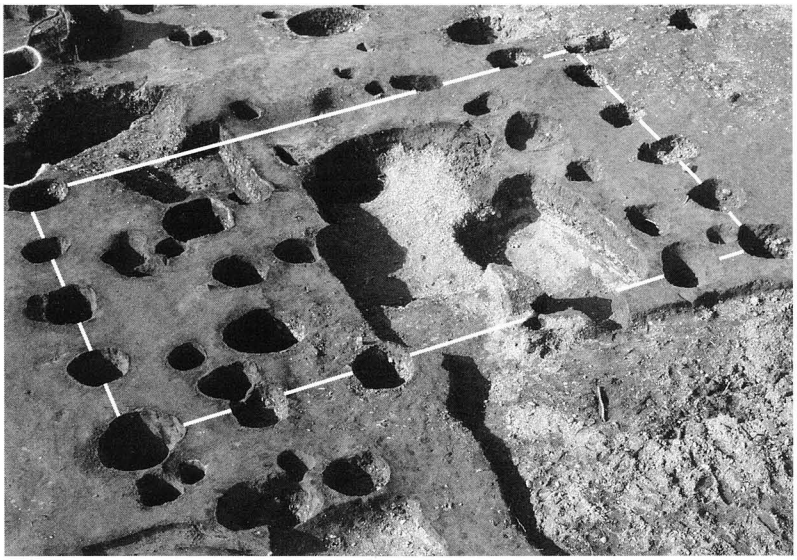
RB048全景（南から）



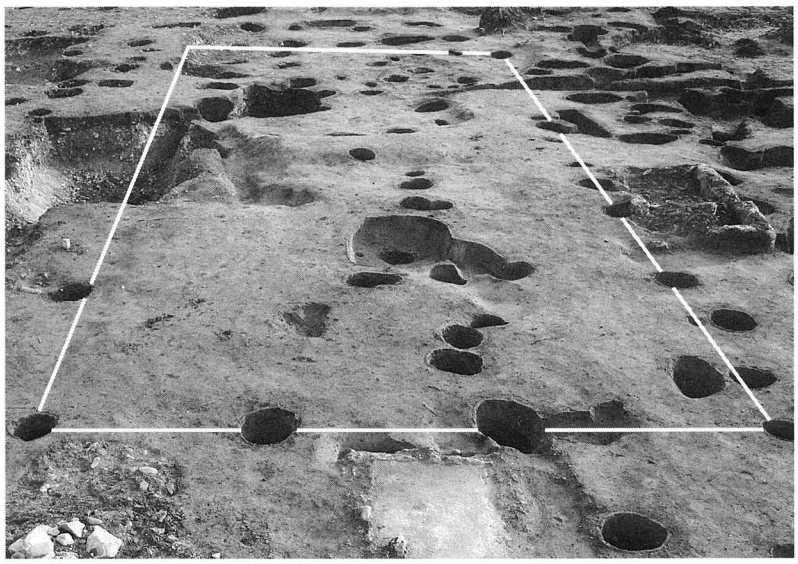
RB049全景（南東から）

RB050全景（南から）

写真図版３　掘立柱建物跡２



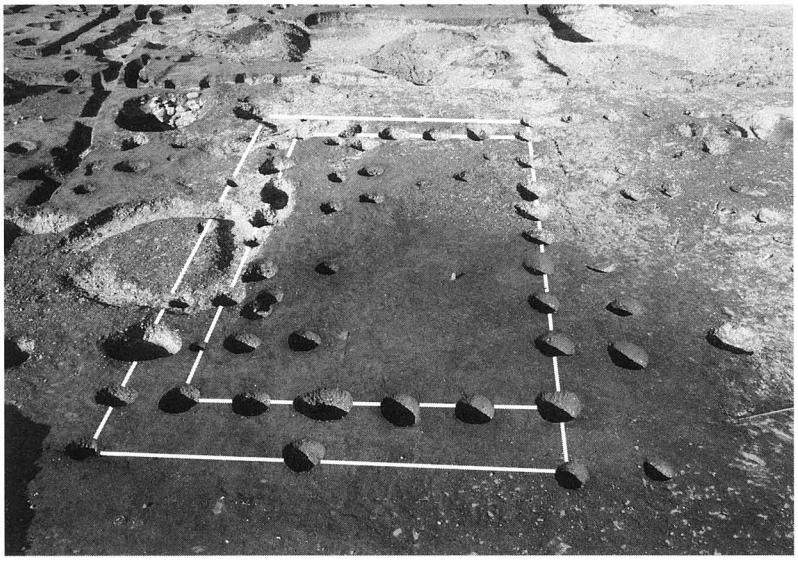
RB051全景（南東から）



RB052全景（西から）

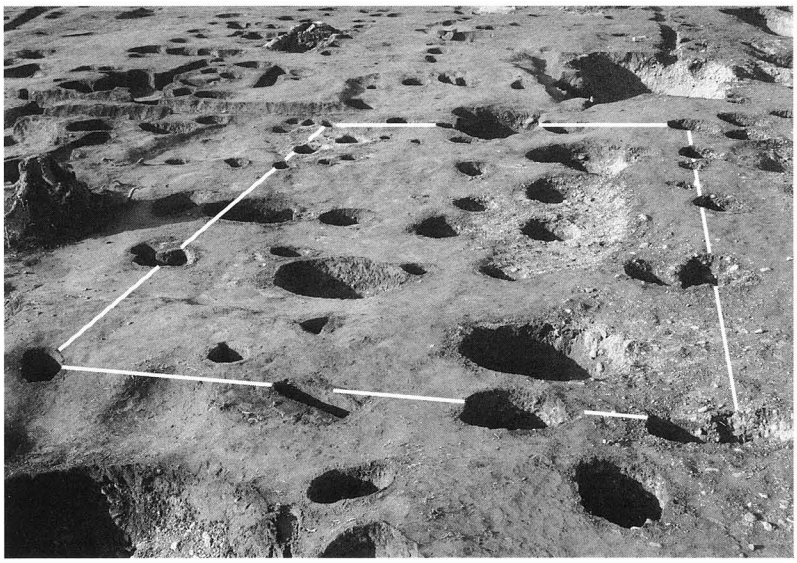
RB053全景（東から）

写真図版４　掘立柱建物跡３



RB054全景（南から）

RB055全景（東から）

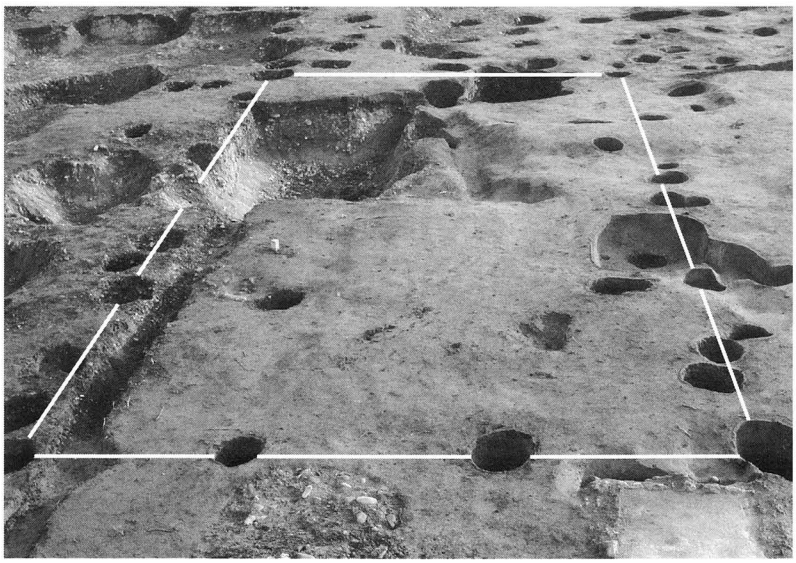


RB056全景（東から）

写真図版５　掘立柱建物跡４

RB057全景（西から）

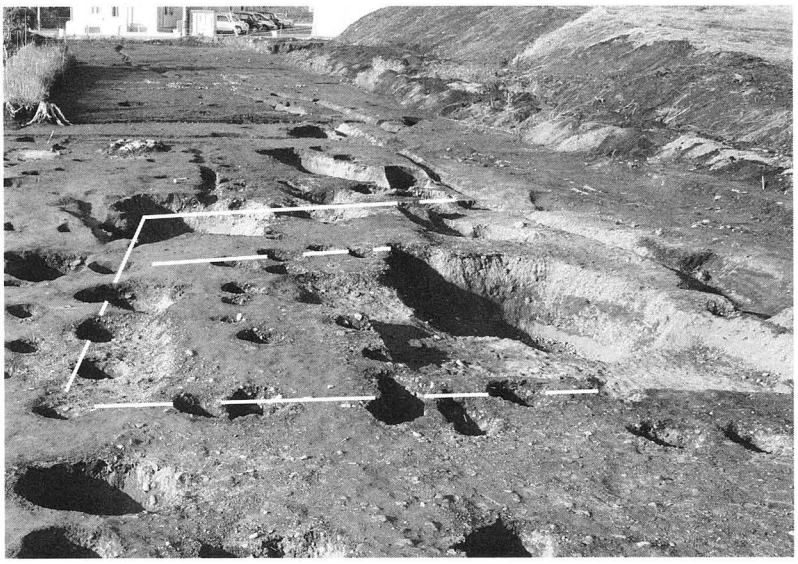
RB058全景（西から）



RB059全景（西から）

写真図版６　掘立柱建物跡５

RB060全景（南東から）

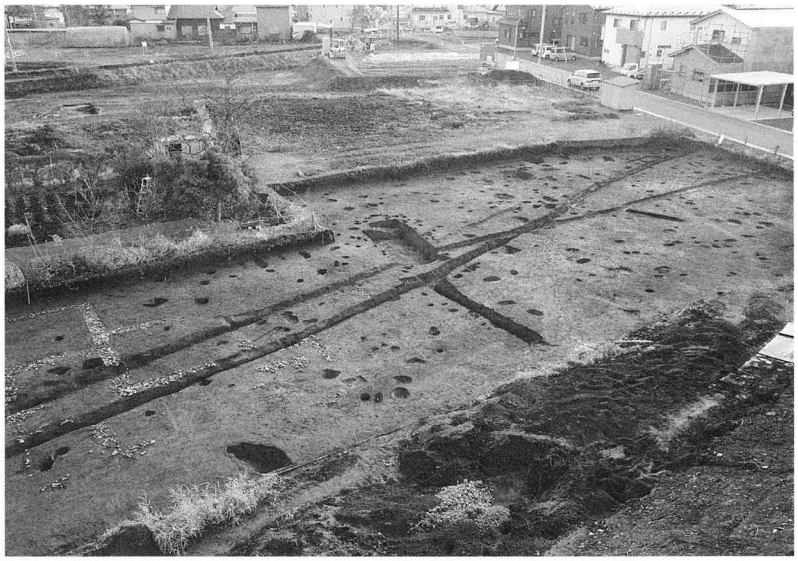


RB061全景（東から）

RB062全景（北から）

写真図版７　掘立柱建物跡６

調査区北端柱穴群（北から）



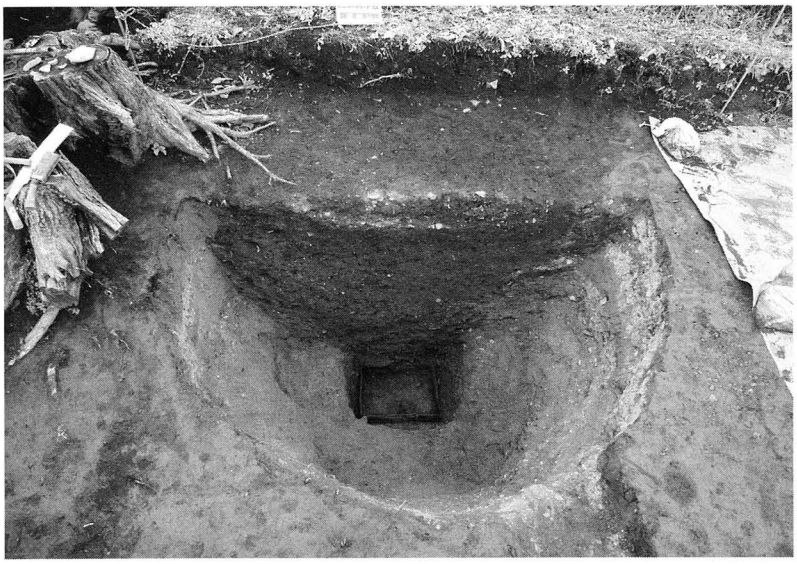
調査区北西側柱穴群（北東から）

底面に根固石のある柱穴（南から）
（RB048・P236）

写真図版８　掘立柱建物跡７

RI065断面（南から）

RI065底面石組（東から）



RI066断面（東から）

写真図版９　井戸１

RI066底面木枠（東から）

RI065・066 底面検出状況（東から）

RI067石組検出状況（南から）

写真図版10　井戸２

RI067石組アップ（南から）

RI067底面木枠（南から）

RI068全景（西から）

写真図版11　井戸３

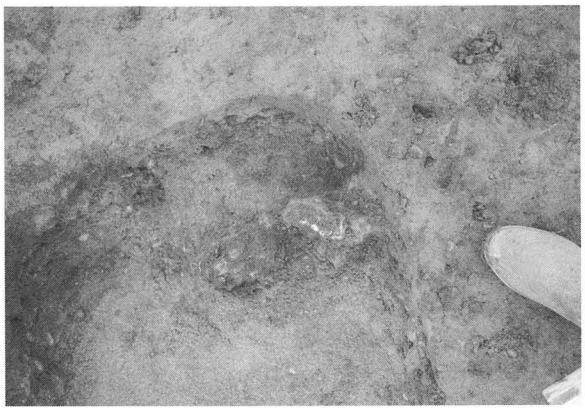
RI068断面（西から）

RI069全景（東から）

RI069断面（南から）

写真図版12　井戸４

RD190全景（南から）



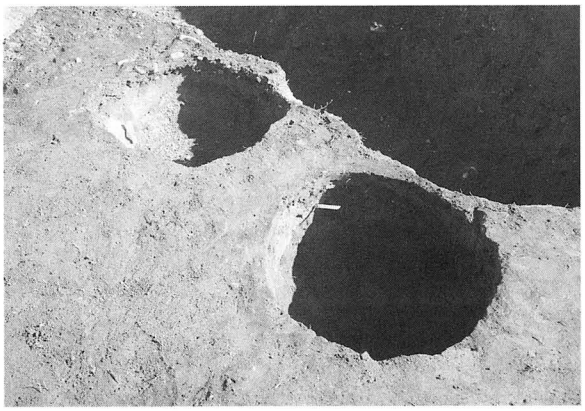
RD190人骨出土状況（北から）

RD191全景（北から）

RD191断面（南から）

RD191人骨出土状況（北から）

RD191人骨アップ（南から）



RD192・193全景（西から）

RD192埋土上位人骨出土状況（南から）

写真図版13　墓壙1

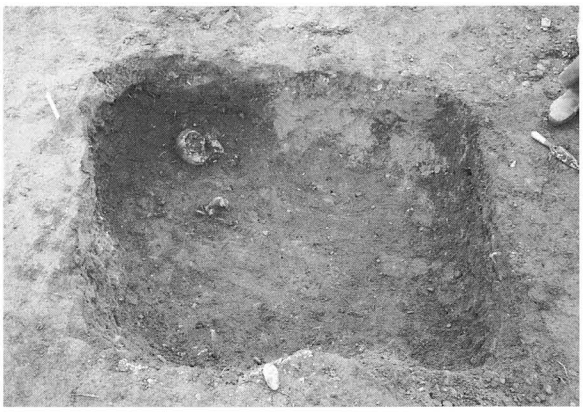
RD192埋土下位人骨出土状況（南西から）

RD192埋土下位下顎出土状況（南から）

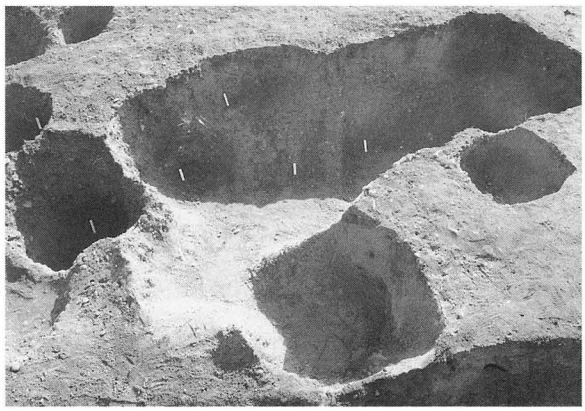
RD193人骨出土状況（北から）

RD193人骨アップ（北から）

RD194完掘（東から）



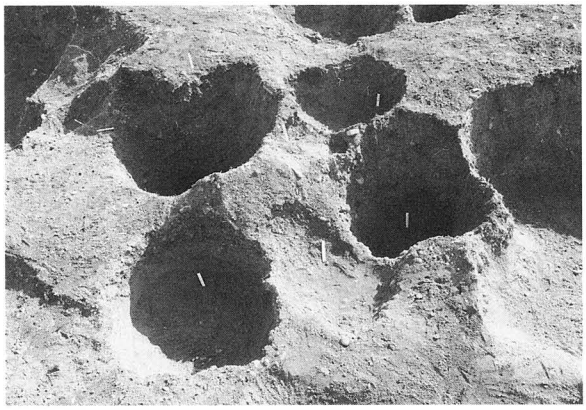
RD194人骨出土状況（南東から）



RD195～200全景（北から）

RD197人骨出土状況（南から）

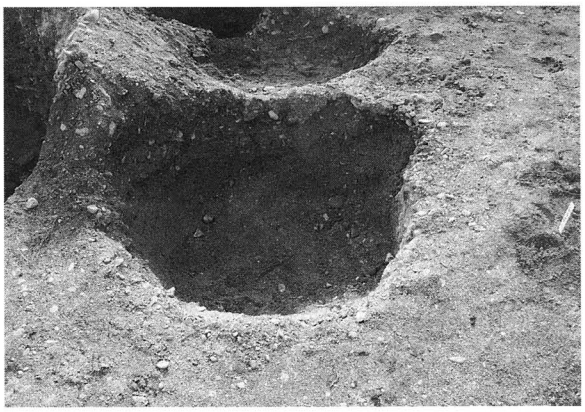
写真図版14　墓壙２



RD201・203～205・236・237全景（北から）

RD201人骨出土状況（南から）

RD204歯列出土状況（南から）



RD205全景（北から）

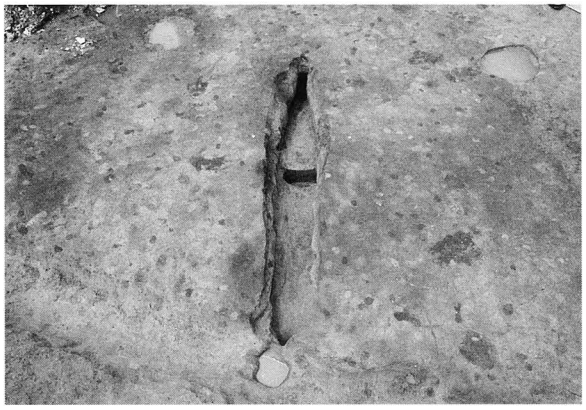
RD236・237（北から）

RD238～240（北から）

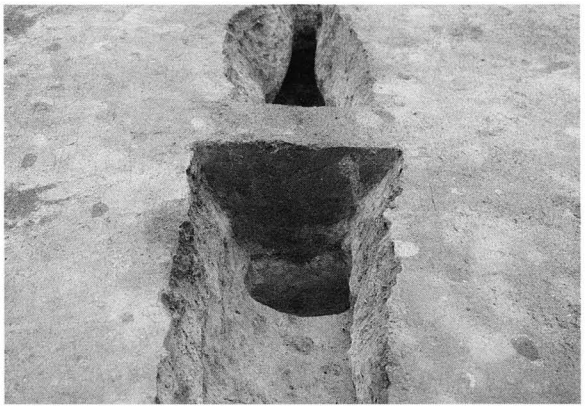
RD239人骨出土状況（南から）

RD240人骨出土状況（南から）

写真図版15　墓壙３

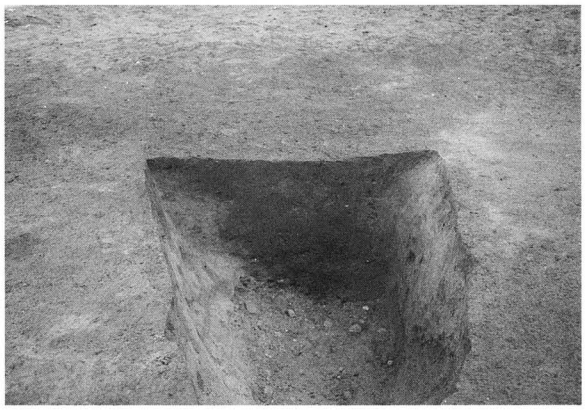


RD185全景（南から）

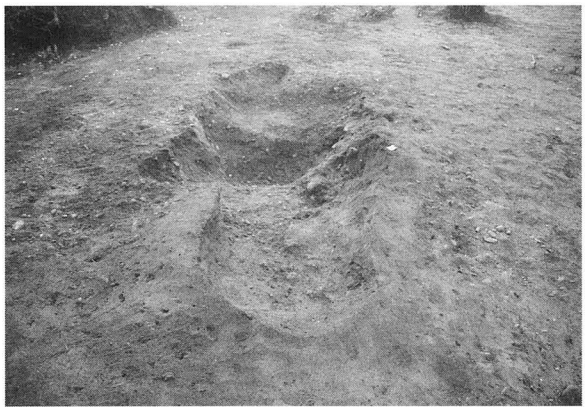


RD185断面（南から）

RD186全景（南西から）

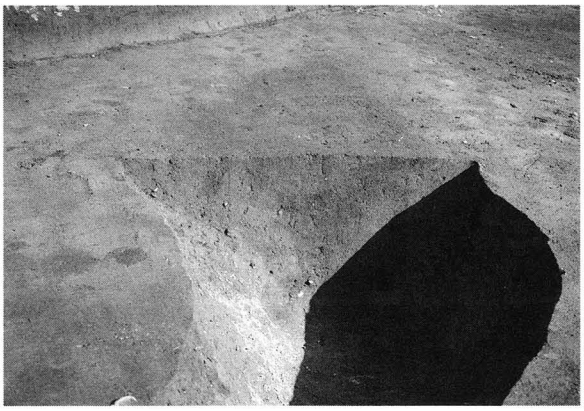


RD186断面（南西から）



RD187全景（北西から）

RD187断面（南東から）



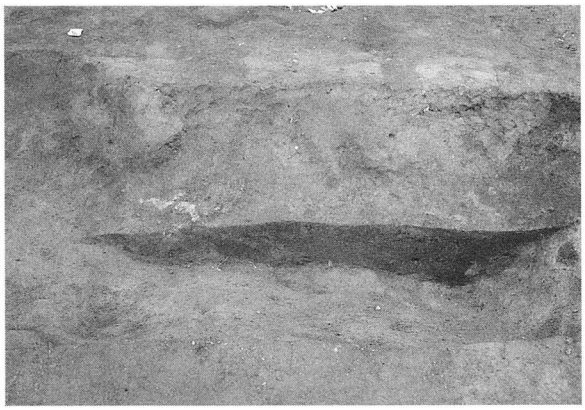
RD188断面（南西から）

RD188全景（南西から）

RD189全景（南東から）

写真図版16　土坑1

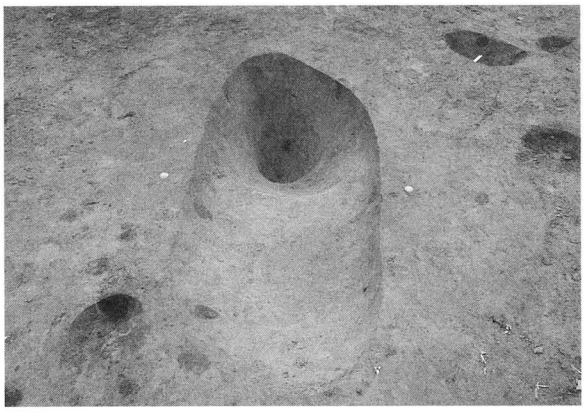
RD189断面（東から）



RD189焼土断面（南西から）

RD206全景（東から）

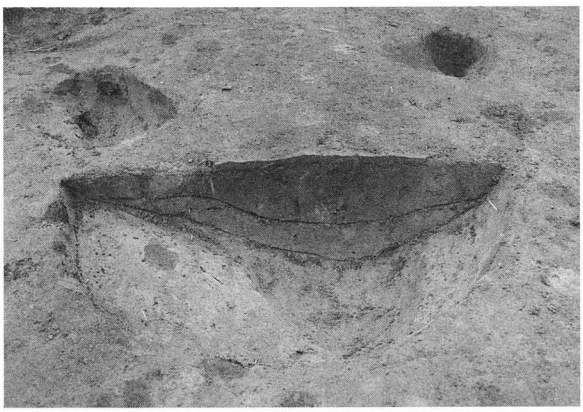
RD206断面（北から）



RD207全景（北から）

RD207断面（南西から）

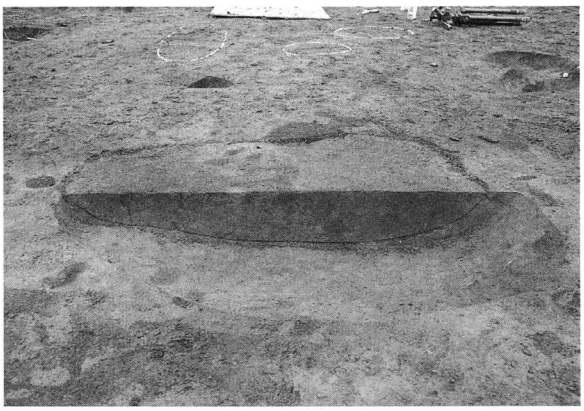
RD208全景（北から）



RD208断面（北東から）

写真図版17　土坑２

RD209全景（西から）

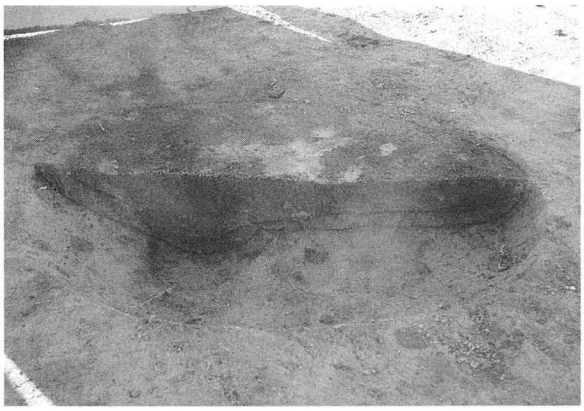


RD209断面（南から）

RD210全景（北から）

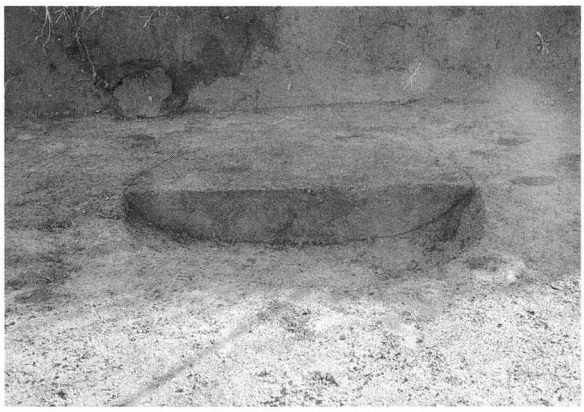
RD210断面（北から）

RD211全景（南から）



RD211断面（東から）

RD213全景（東から）



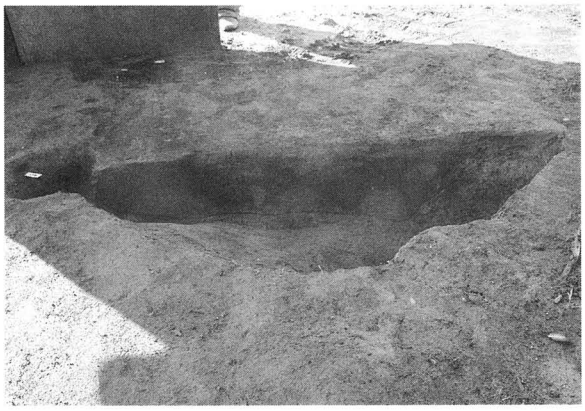
RD213断面（北から）

写真図版18　土坑３

RD212全景（南から）

RD212断面（北西から）

RD214全景（北西から）



RD214断面（東から）

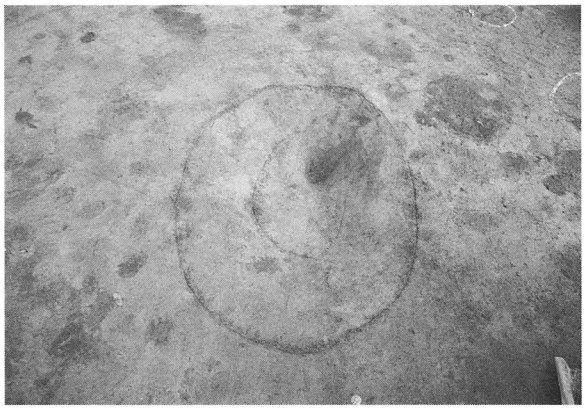
RD215全景（西から）

RD215断面（南から）

RD216全景（北から）

RD216断面（東から）

写真図版19　土坑４



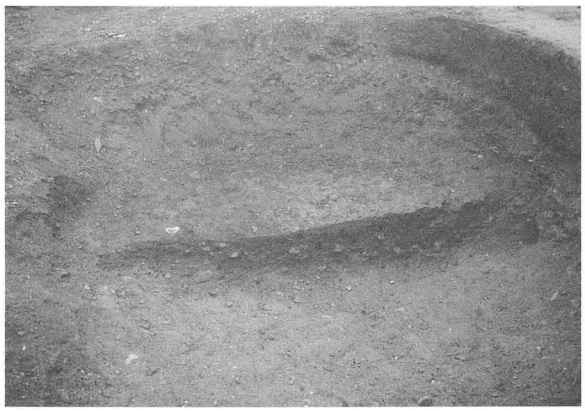
RD217全景（南西から）

RD217断面（東から）

RD218全景（北から）

RD218断面（南から）

RD219全景（南から）

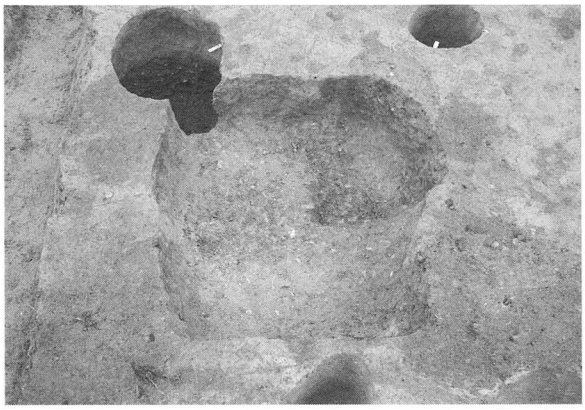


RD219断面（南から）

RD220全景（西から）

RD220断面（北から）

写真図版20　土坑５



RD221全景（北から）

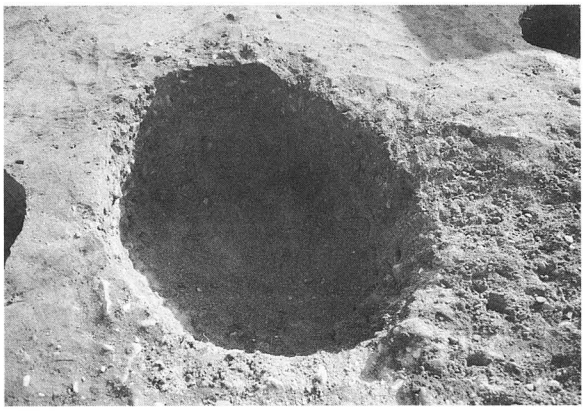
RD221断面（南から）

RD222全景（北から）

RD222断面（西から）

RD223全景（南東から）

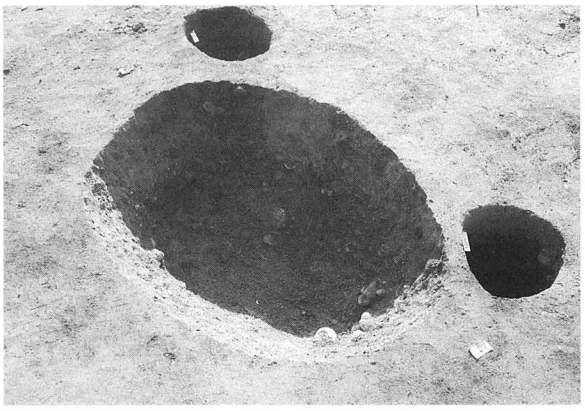
RD223断面（南東から）



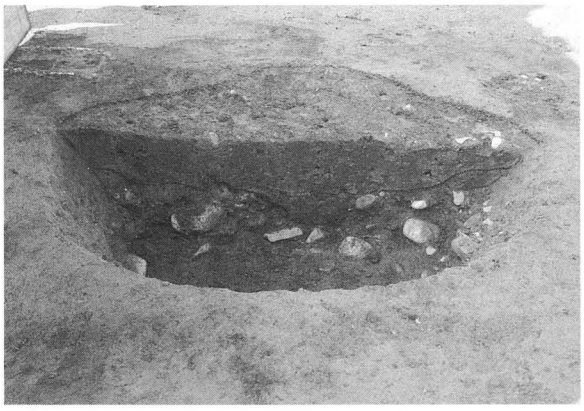
RD224全景（北から）

RD224断面（東から）

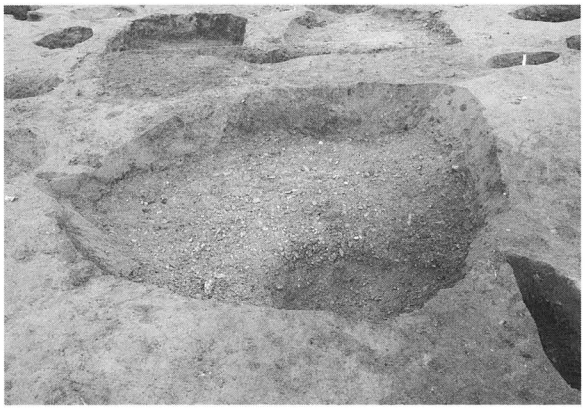
写真図版21　土坑６



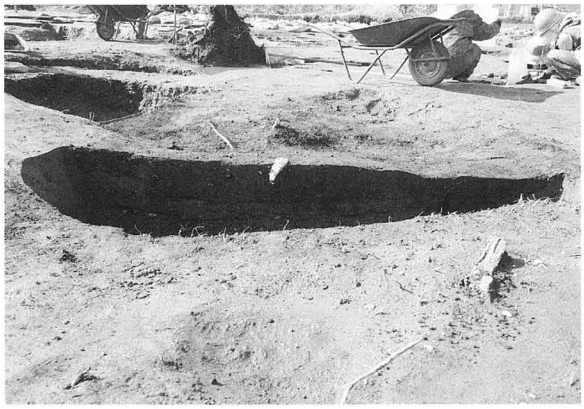
RD225全景（北から）



RD225断面（東から）



RD226全景（西から）



RD226断面（東から）

RD227全景（東から）

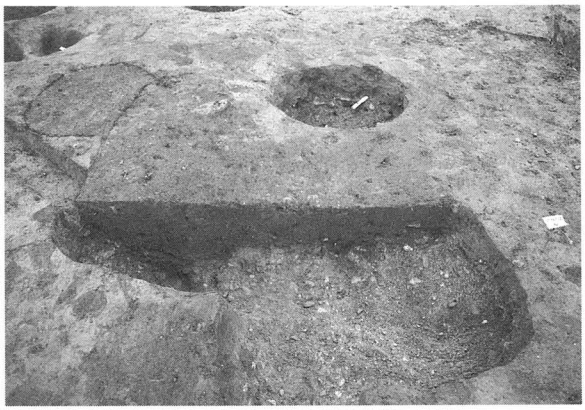
RD227断面（東から）

RD228全景（東から）

RD228断面（東から）

写真図版22　土坑７

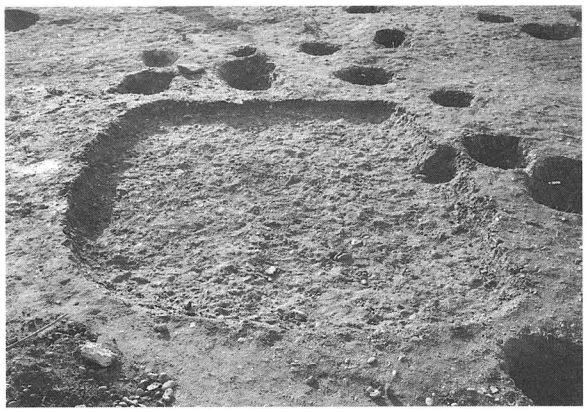
RD229全景（東から）



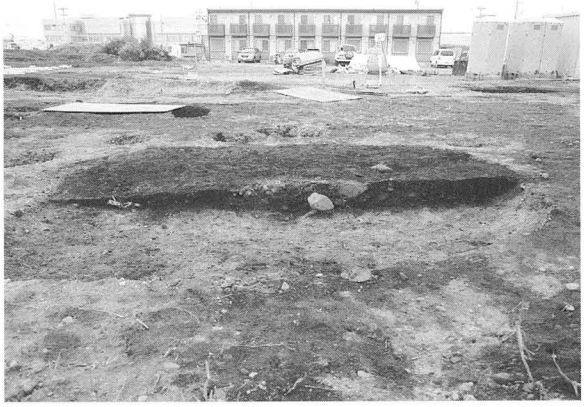
RD229断面（北東から）

RD230全景（北から）

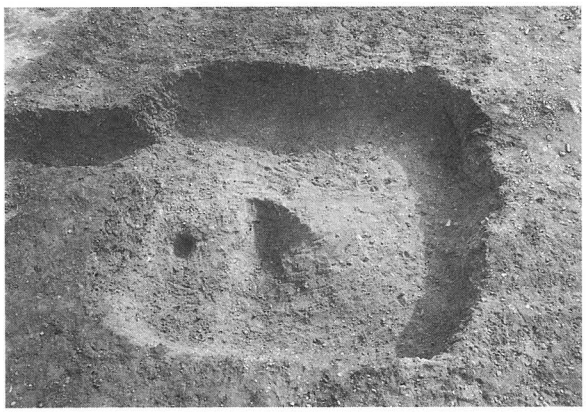
RD230断面（西から）



RD231全景（東から）



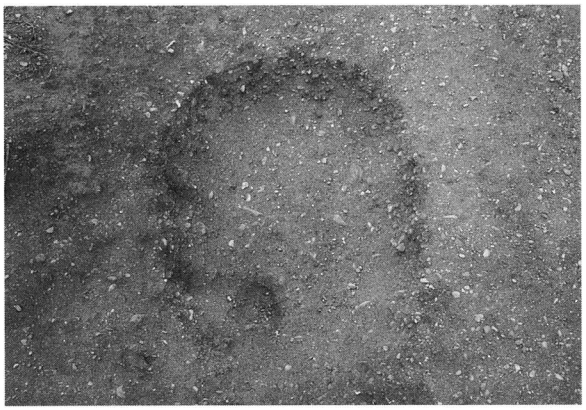
RD231断面（南から）



RD232全景（北から）

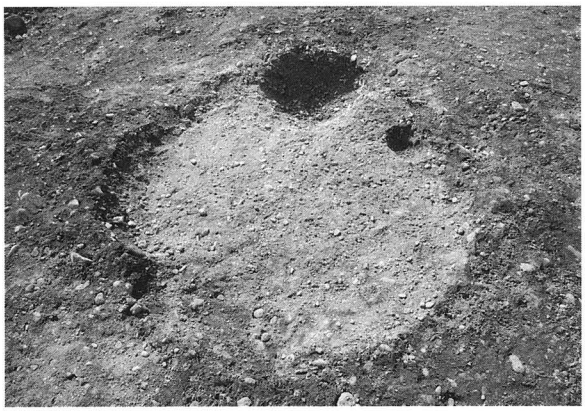
RD232断面（西から）

写真図版23　土坑８

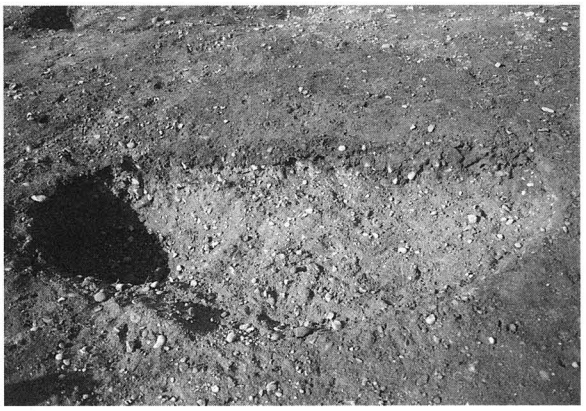


RD233全景（北から）

RD233断面（東から）

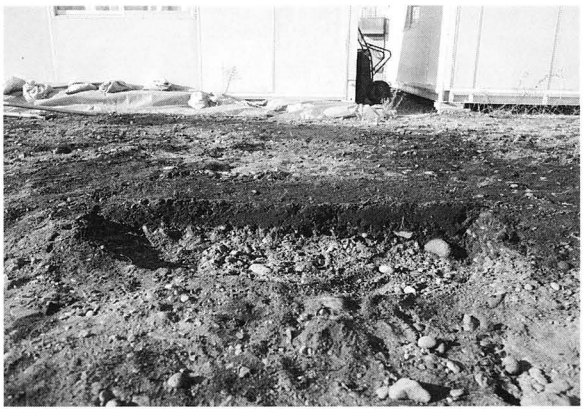


RD234全景（北東から）



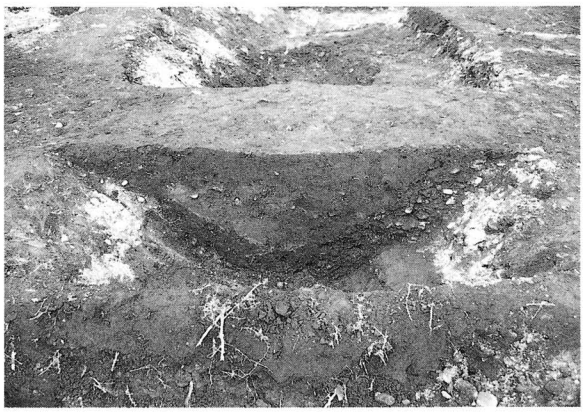
RD234断面（南東から）

RD235全景（南東から）



RD235断面（南から）

作業風景

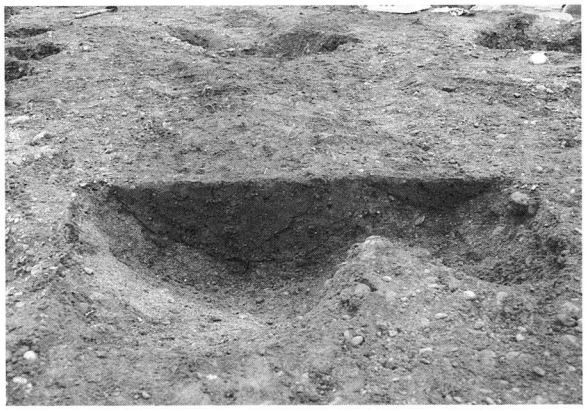


RD241断面

写真図版24　土坑９

RD242・243全景（東から）

RD242断面（西から）

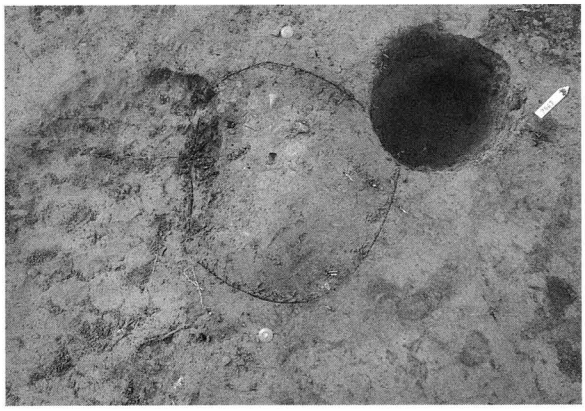


RD243断面（東から）

作業風景

RD244全景（東から）

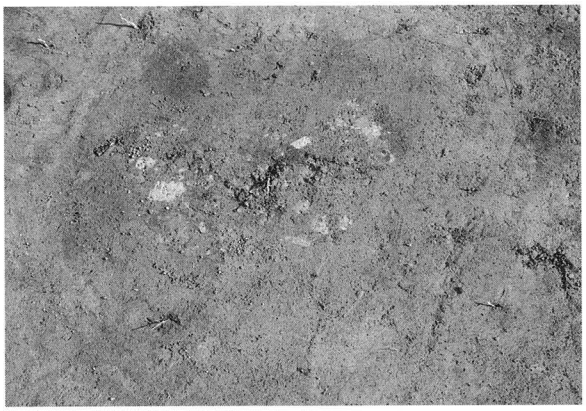
RD244断面（北から）



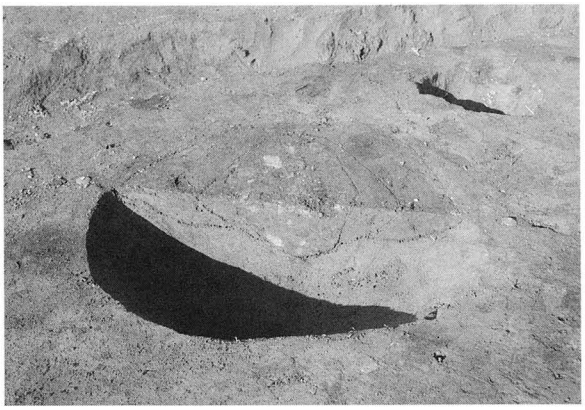
RF012全景（北から）

RF012断面（南東から）

写真図版25　土坑 10、焼土遺構 1



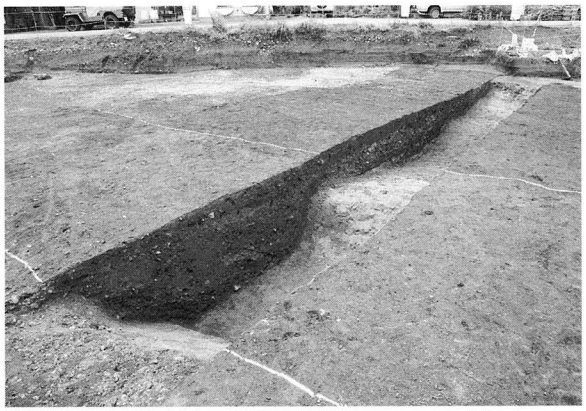
RF013全景（西から）



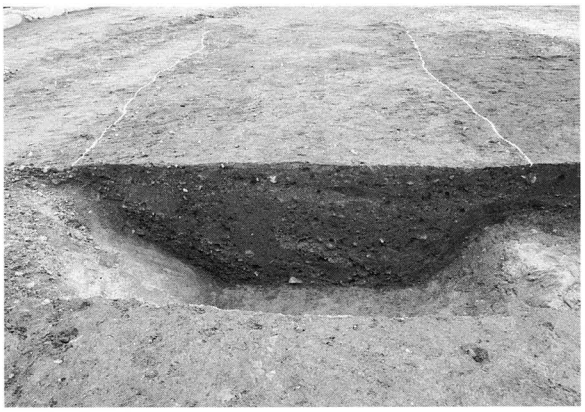
RF013断面（南から）

RZ001全景（南西から）

RZ001断面（北東から）



RZ002断面（西から）



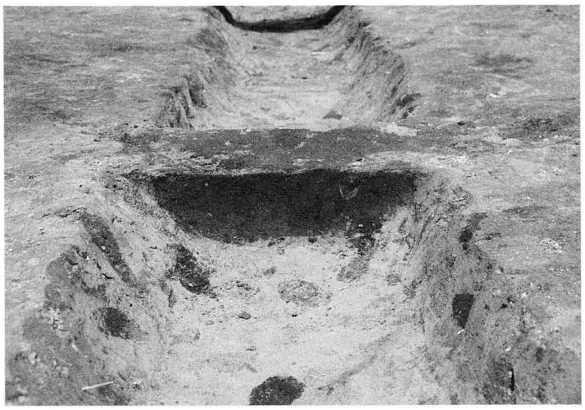
旧河道断面（西から）

旧河道全景（南東から）

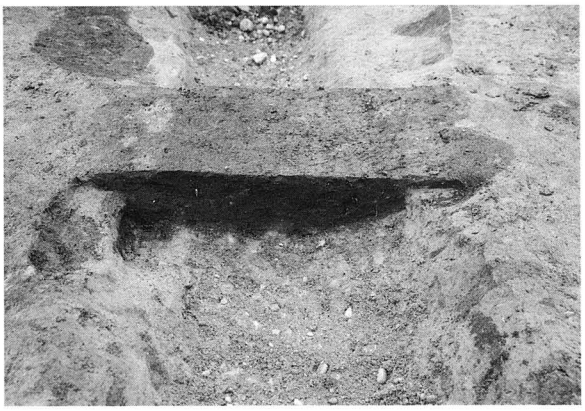
旧河道全景（西から）

写真図版26　焼土遺構、性格不明遺構、旧河道

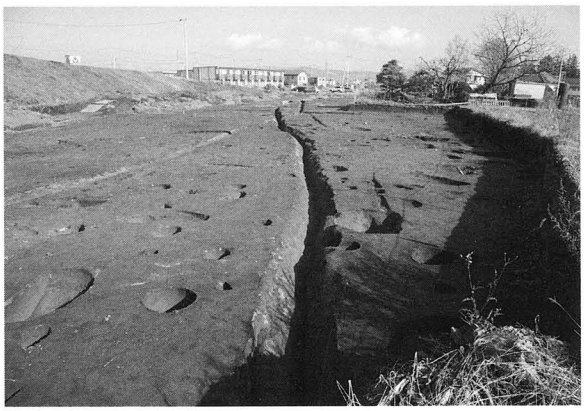
RG068全景



RG068断面

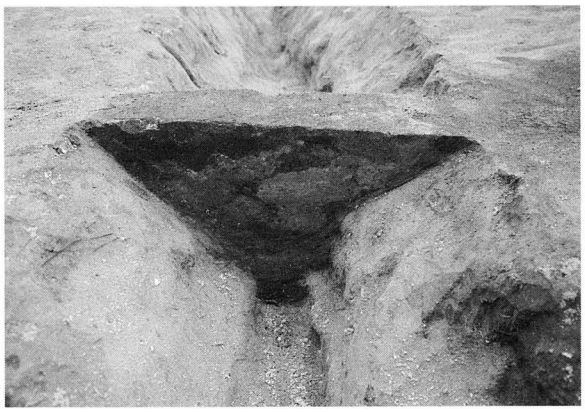


RG068断面



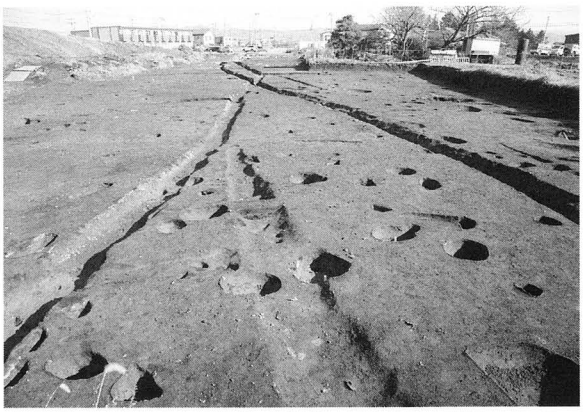
RG069全景

RG068・069断面



RG069断面

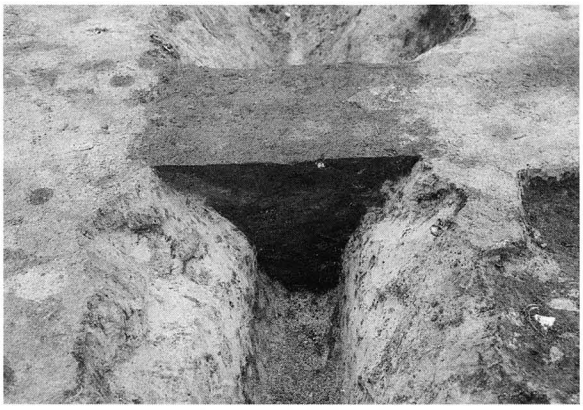
RG069断面



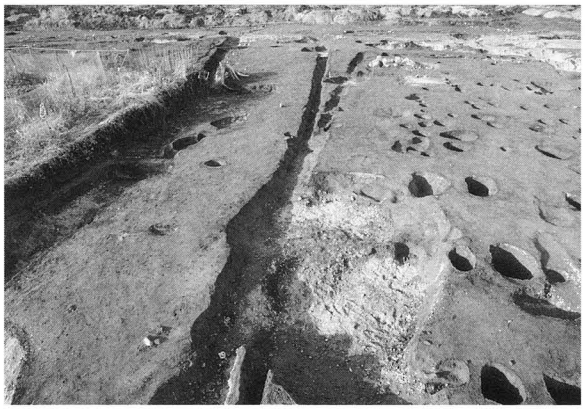
RG070全景

写真図版27　溝1

RG070断面



RG071断面



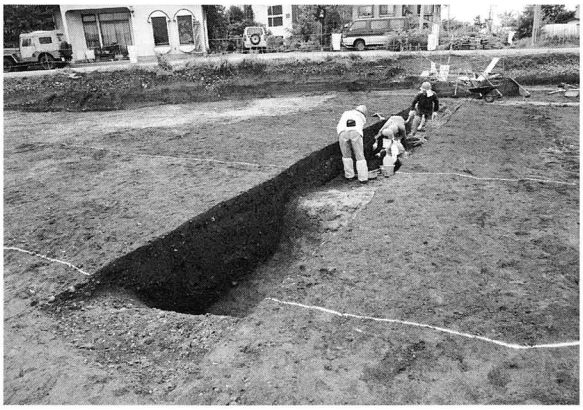
RG072・073全景（南から）

RG072・073断面（南から）

RG074全景（西から）

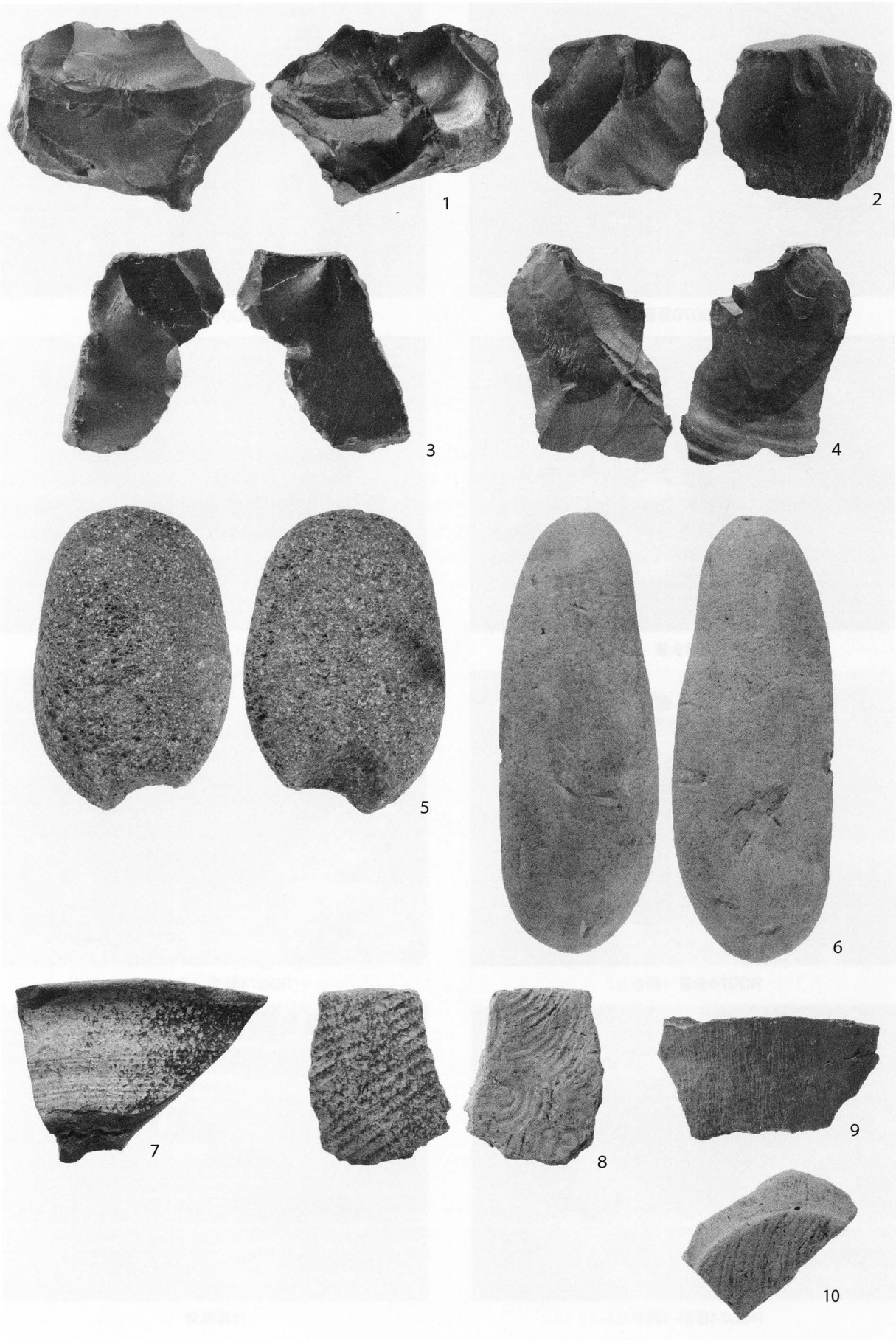
RG074断面（西から）

RG074断面（西から）



作業風景

写真図版28　溝2

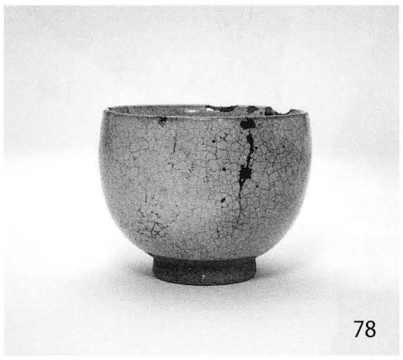


写真図版29　縄文時代・古代の遺物

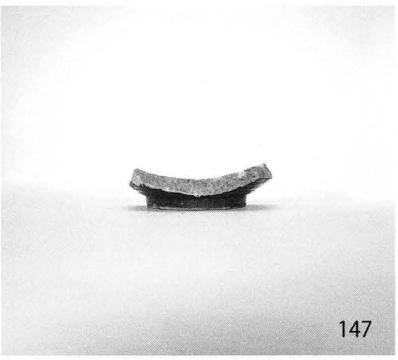
19

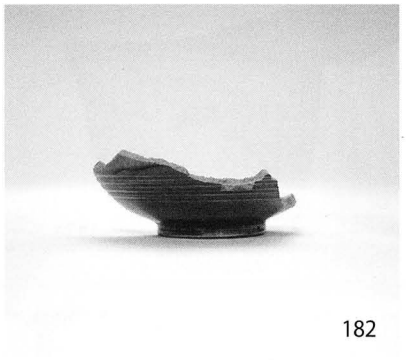
42

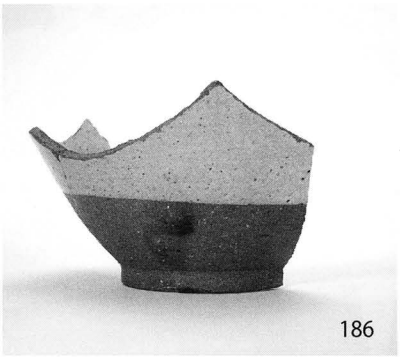
63

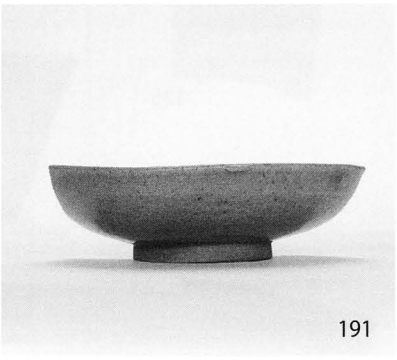

78

89

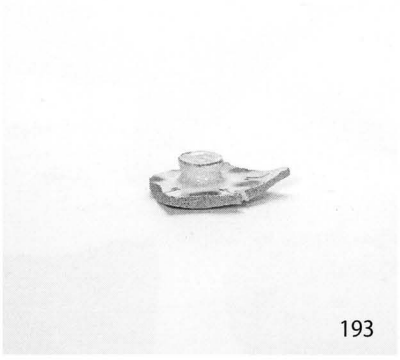

147

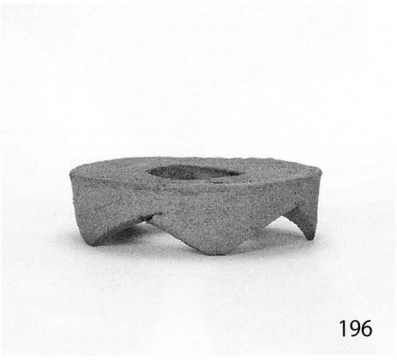

182


186


191

192


193


196

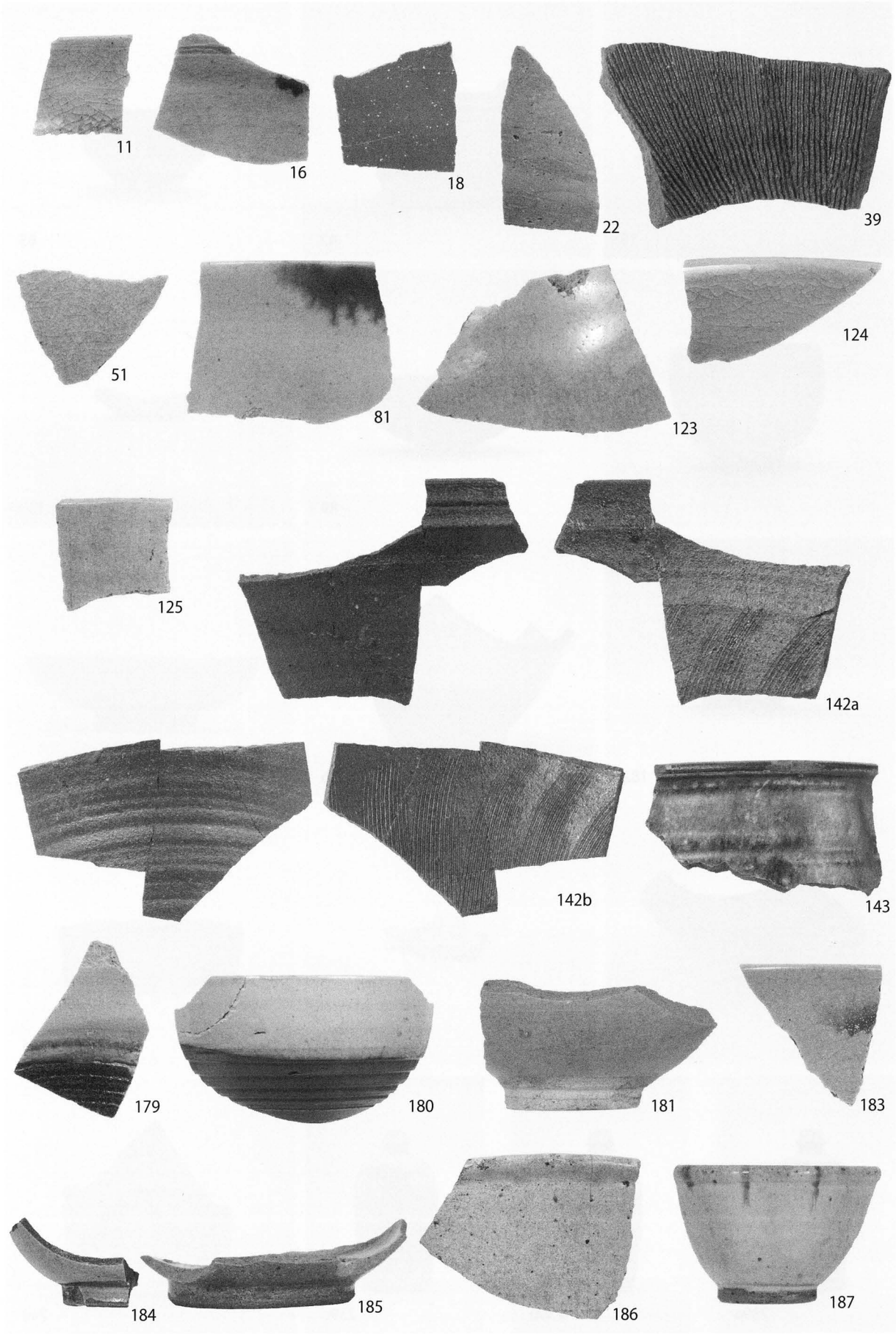
239a

239b

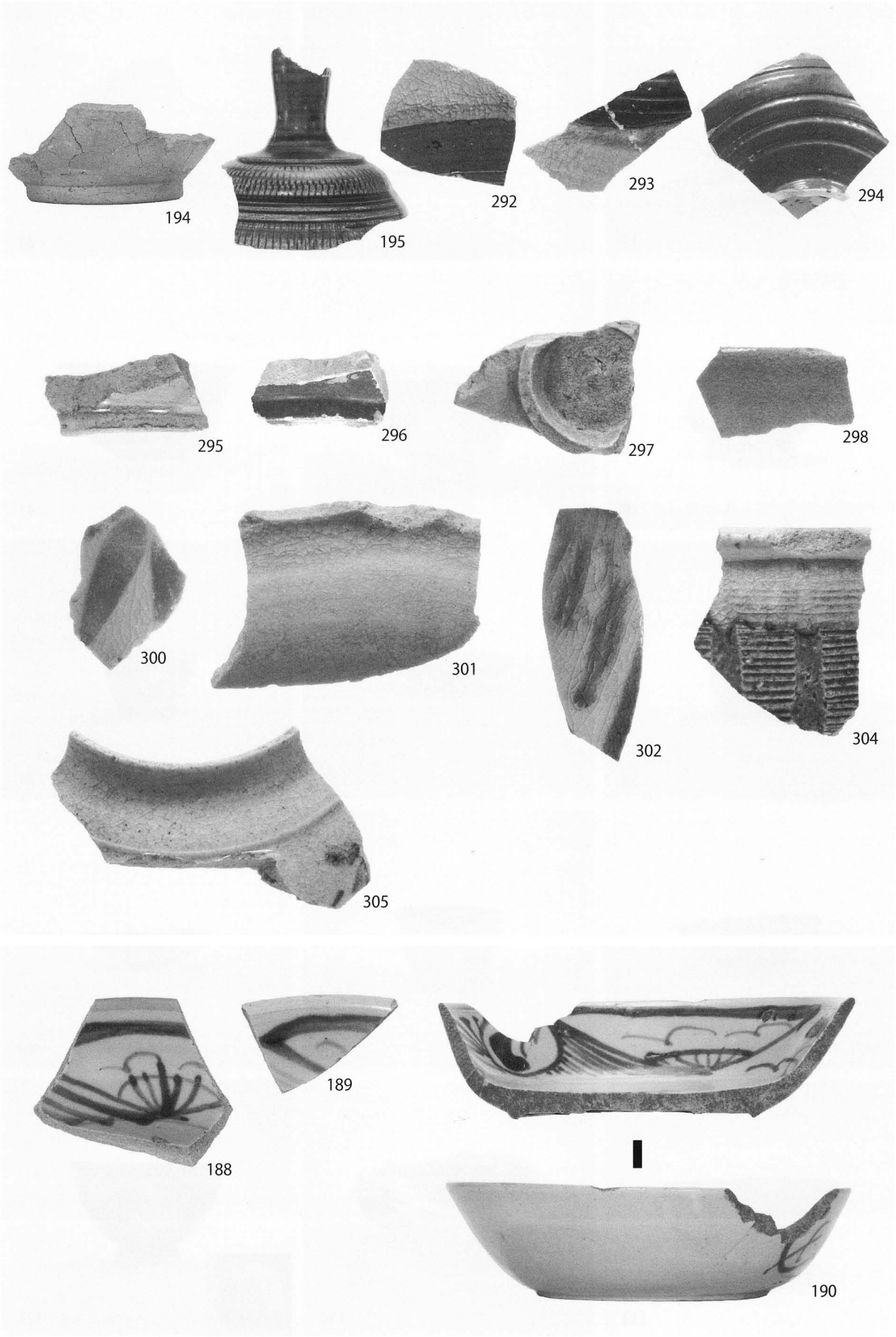
239c

240

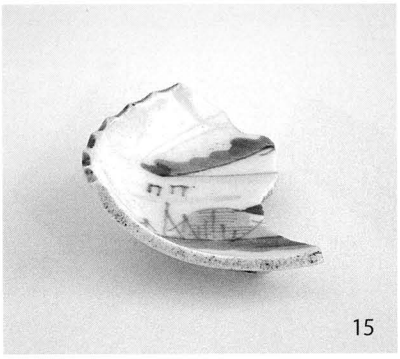
写真図版30　近世・近代の遺物（陶器１）

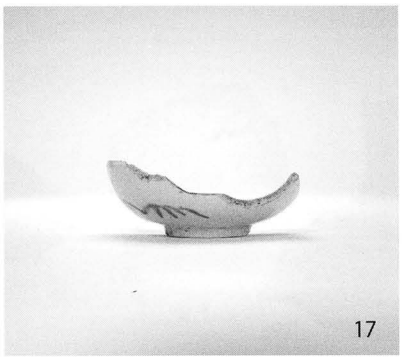


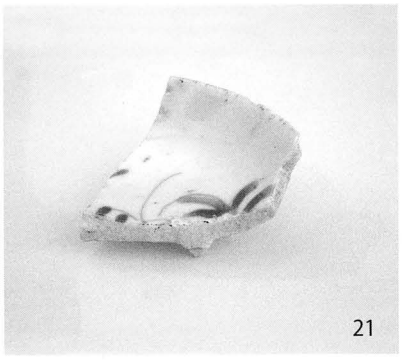
写真図版31　近世・近代の遺物（陶器２）

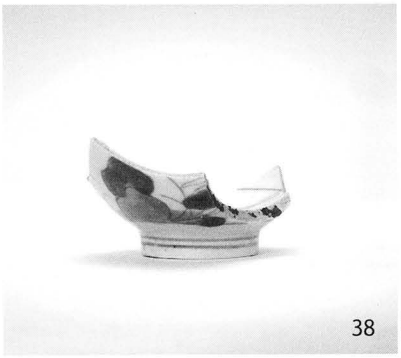


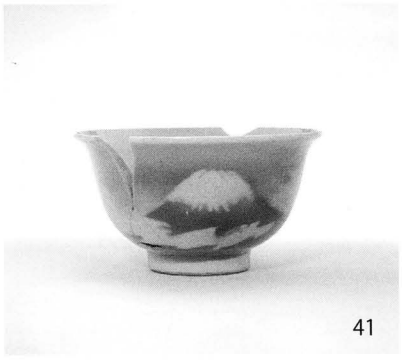
写真図版32　近世・近代の遺物（陶器・陶胎染付）

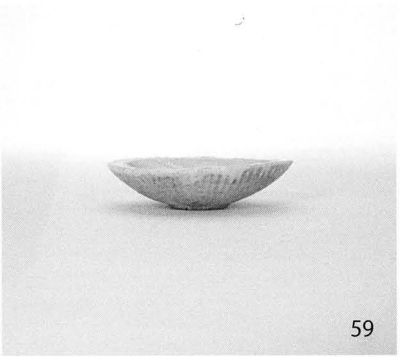


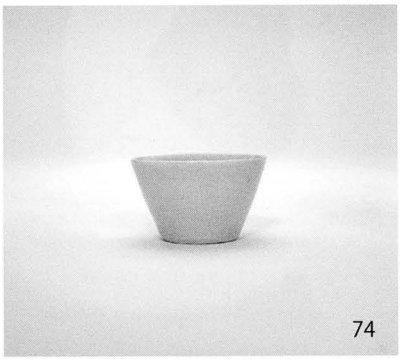


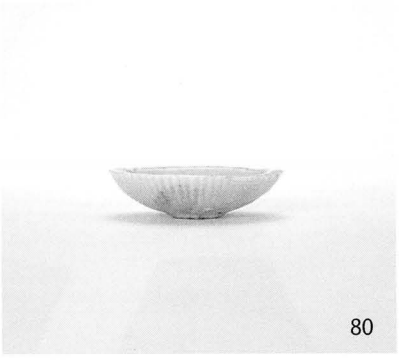


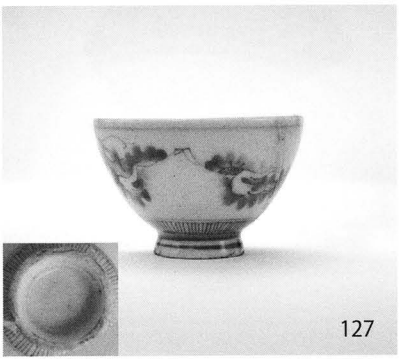








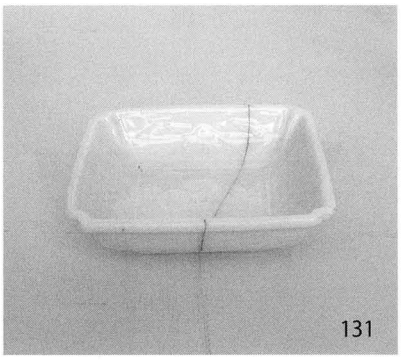


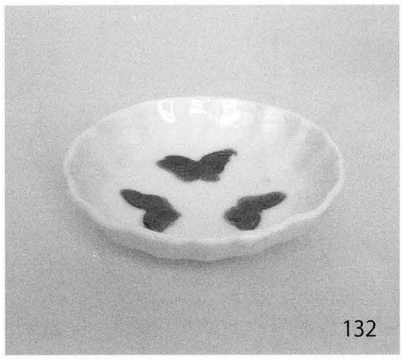


写真図版33　近世・近代の遺物（磁器１）

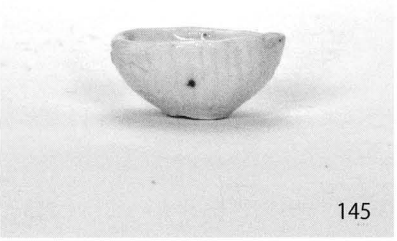
128

129

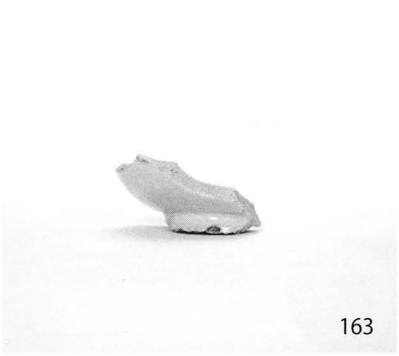

131

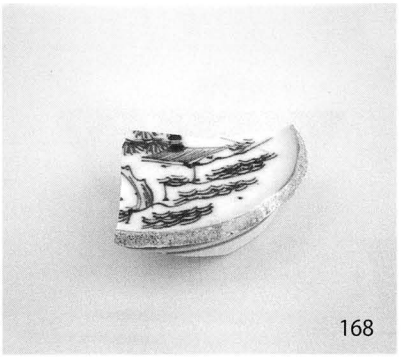

132

133


145

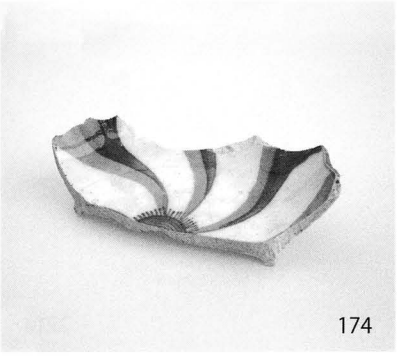
162

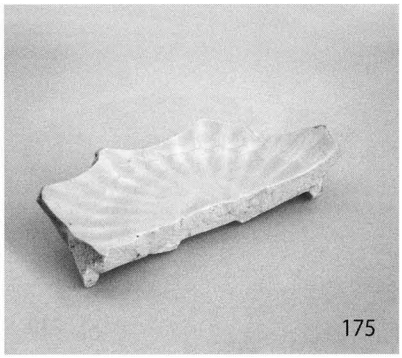

163


168

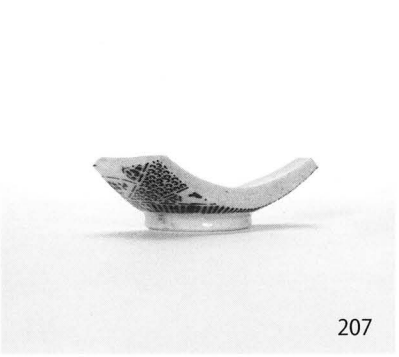
169

173


174

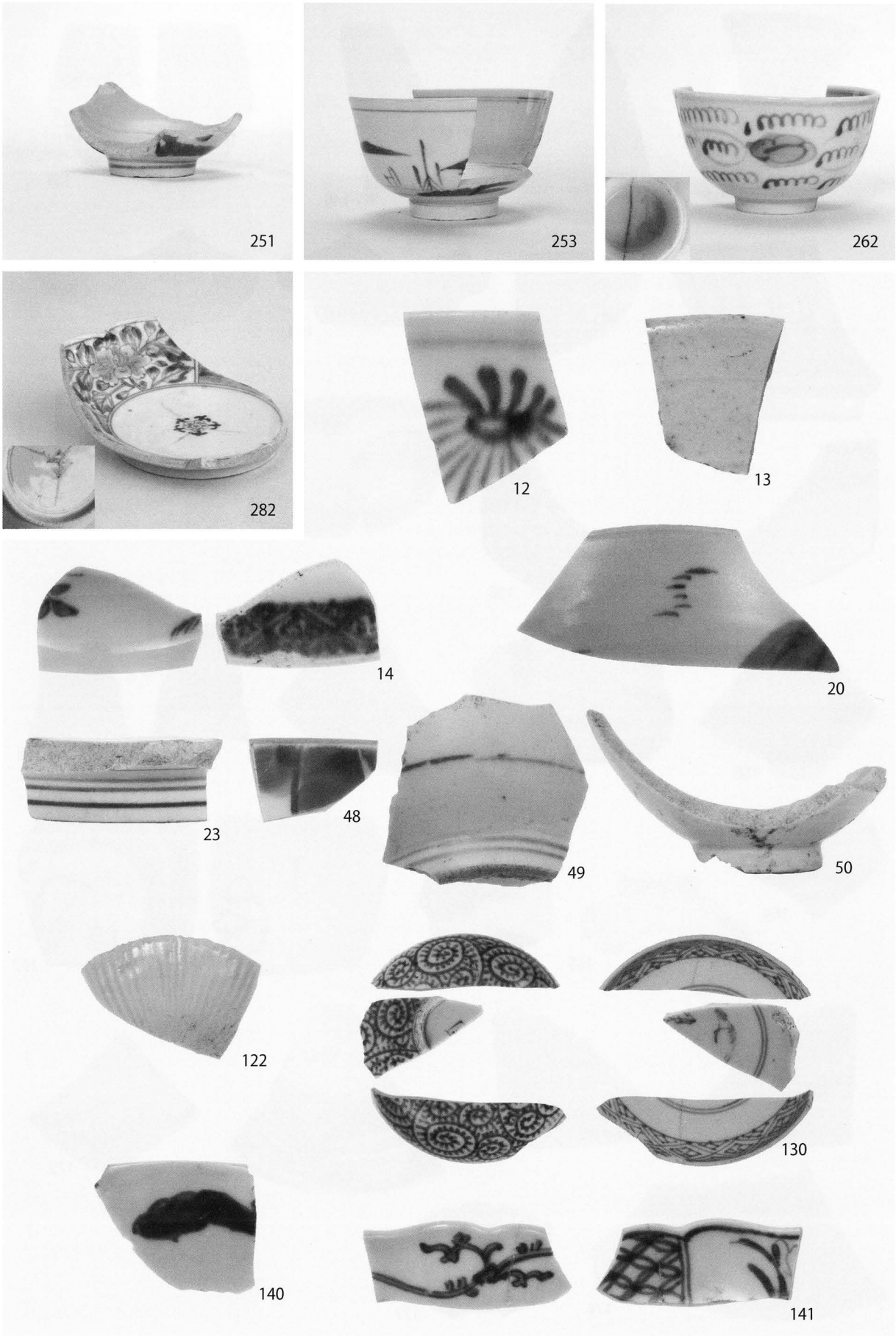

175

203

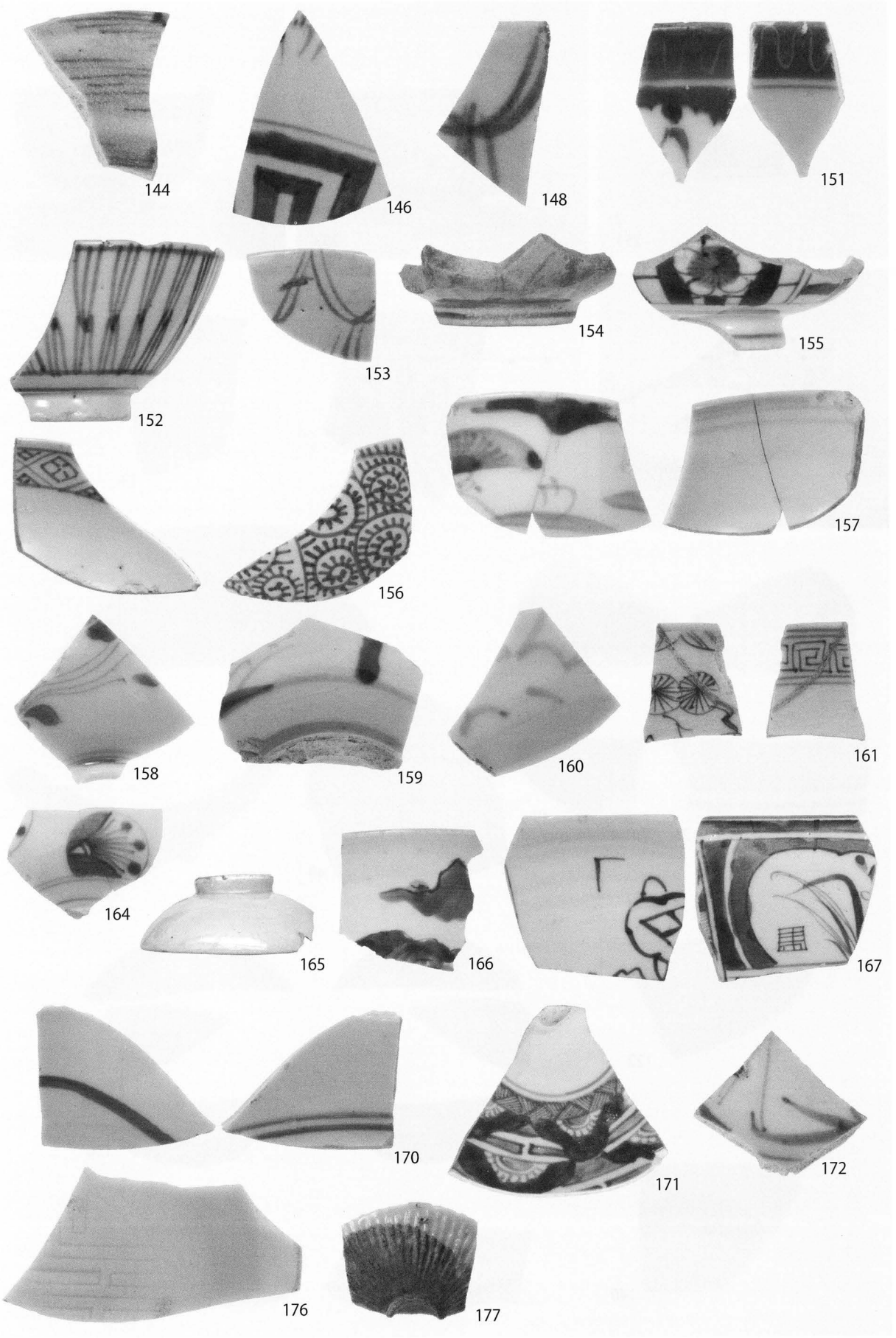

207

写真図版34　近世・近代の遺物（磁器２）

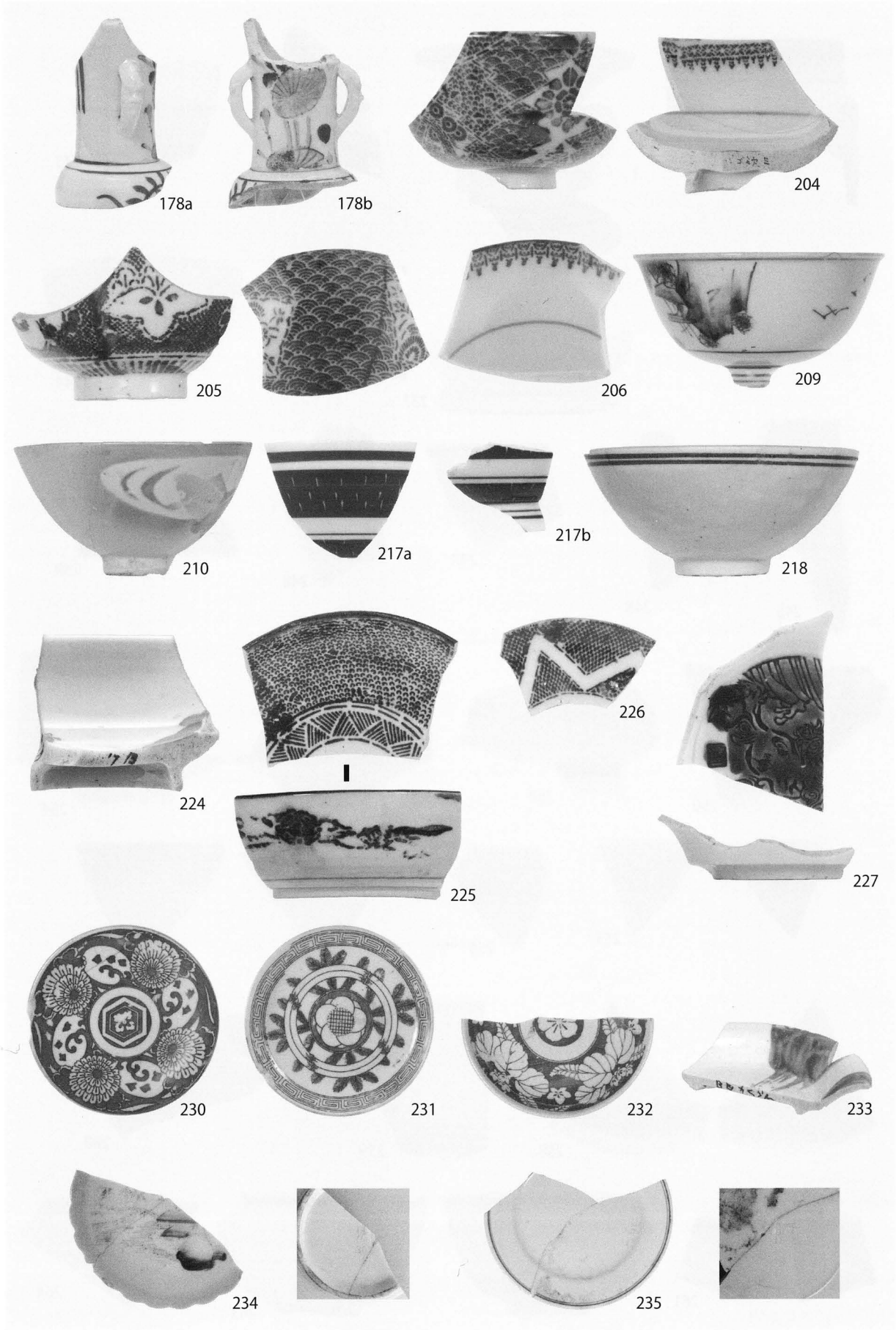
写真図版35　近世・近代の遺物（磁器３）



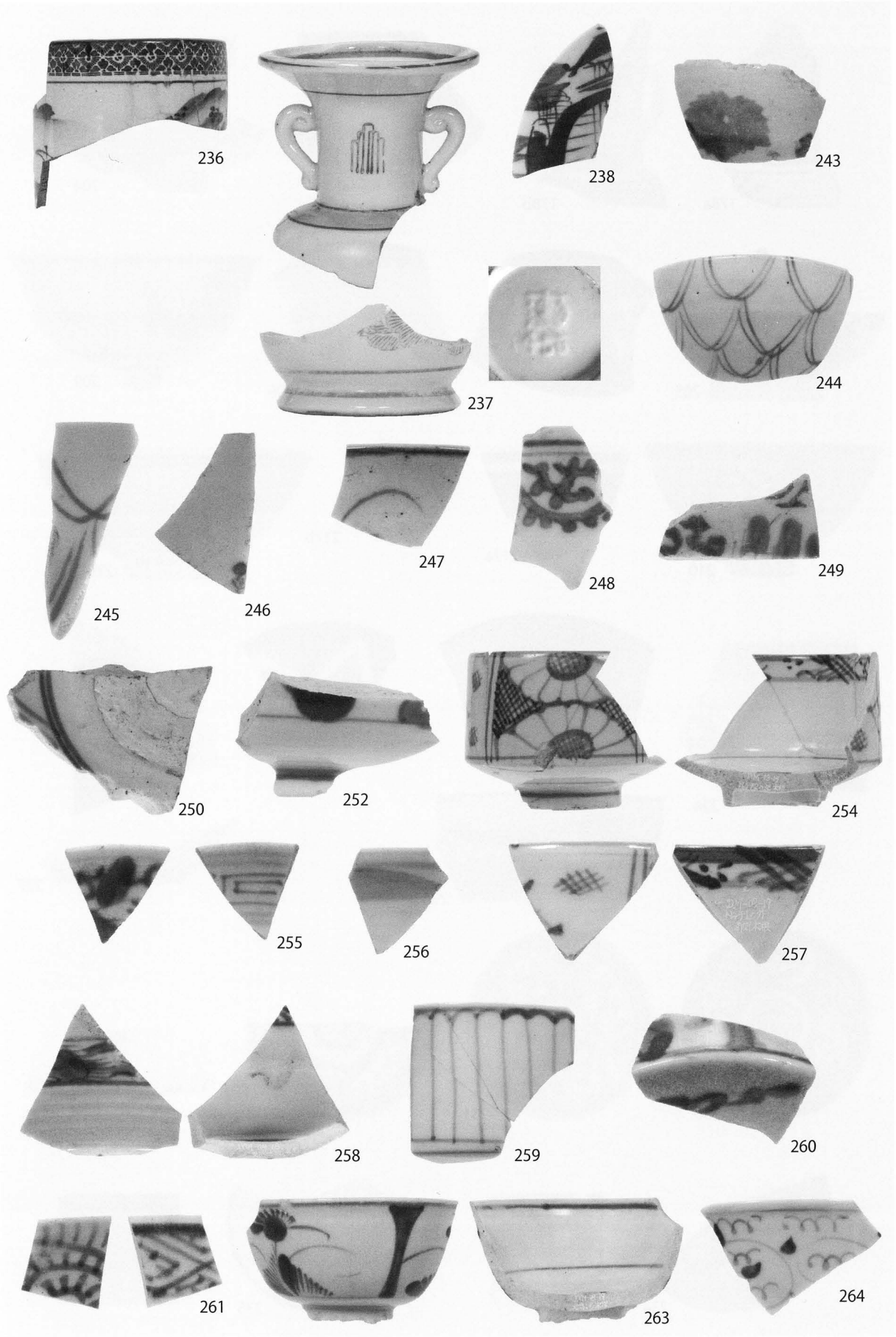
写真図版36　近世・近代の遺物（磁器４）



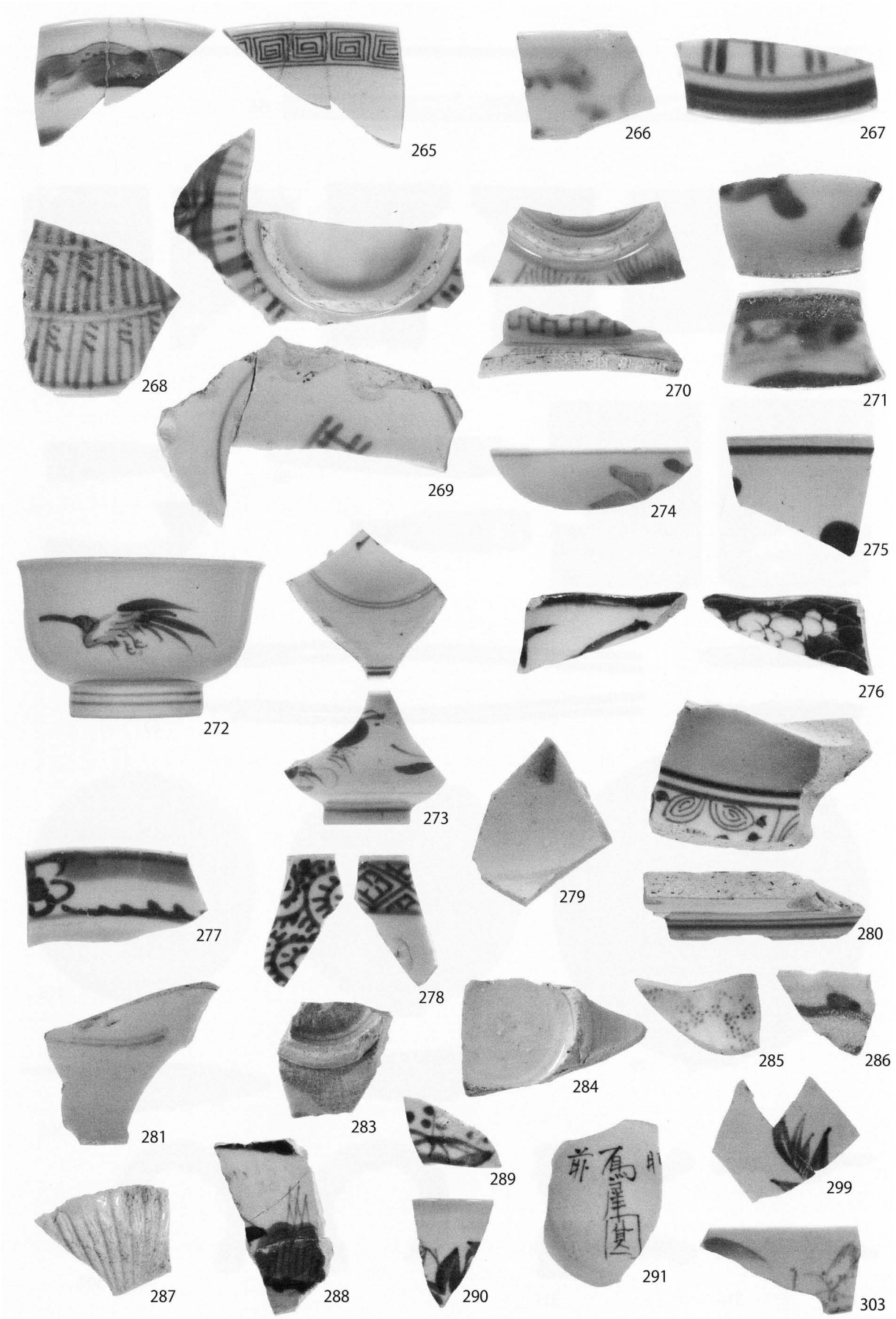
写真図版37　近世・近代の遺物（磁器５）



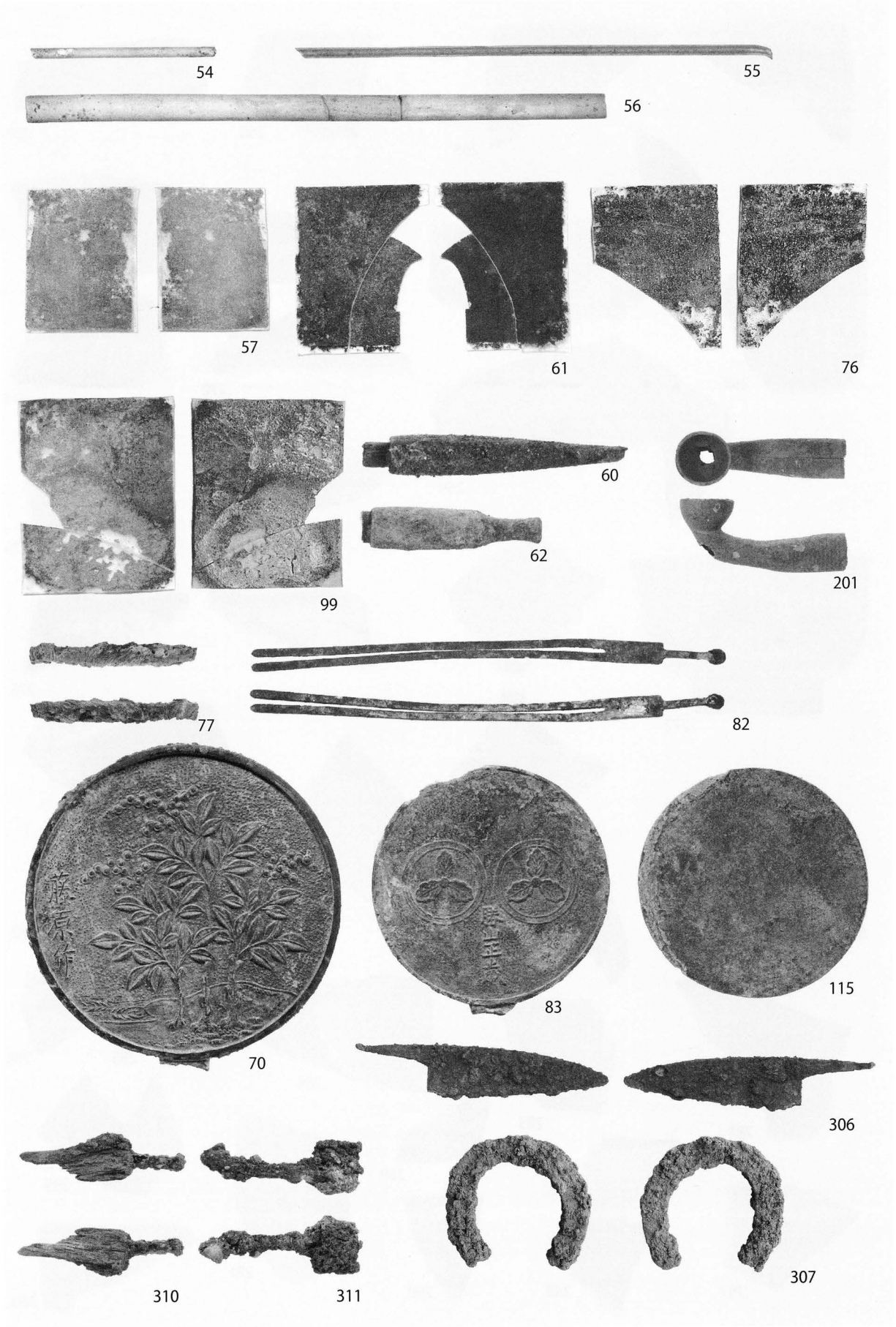
写真図版38　近世・近代の遺物（磁器６）



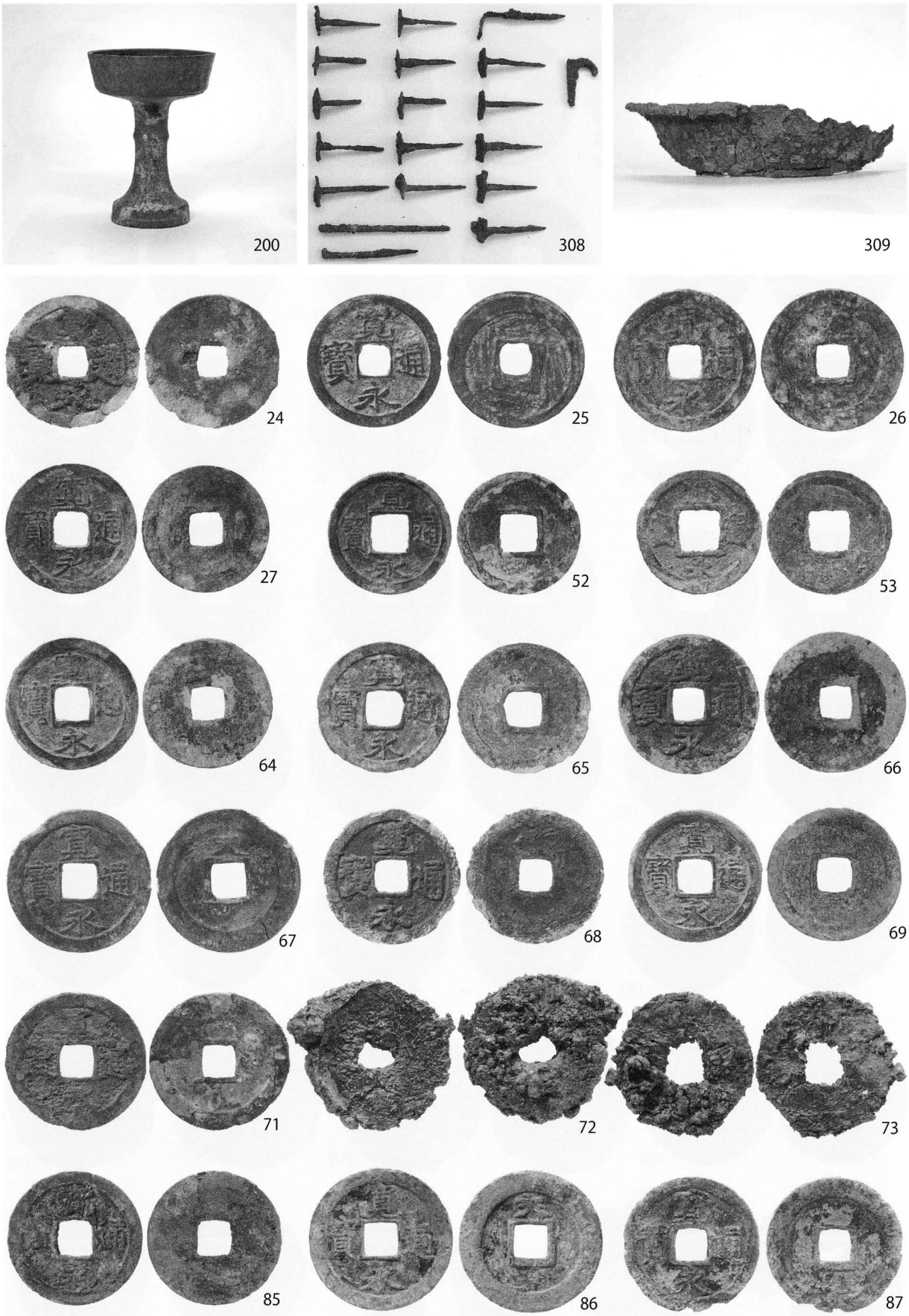
写真図版39　近世・近代の遺物（磁器７）



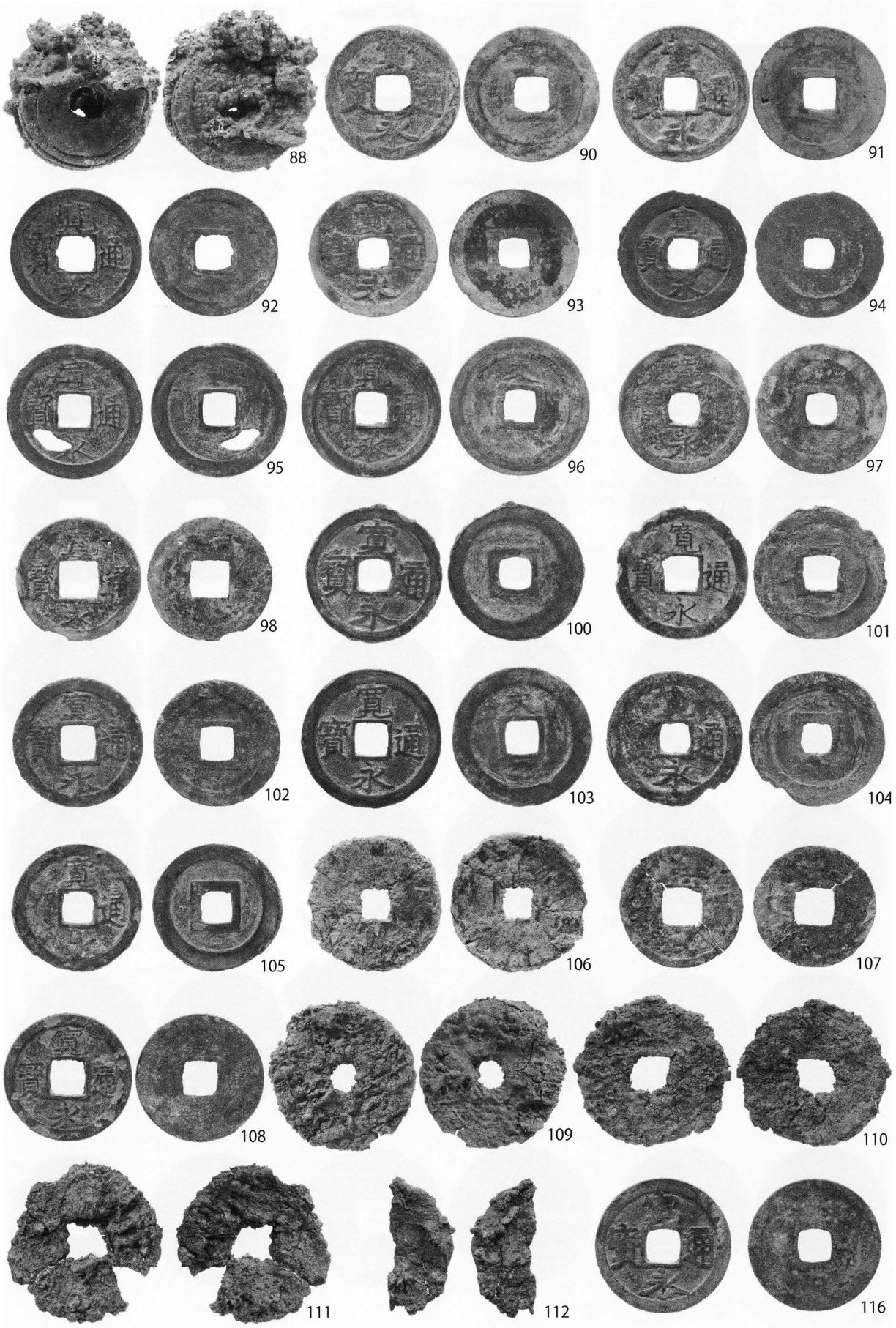
写真図版40　近世・近代の遺物（磁器８）



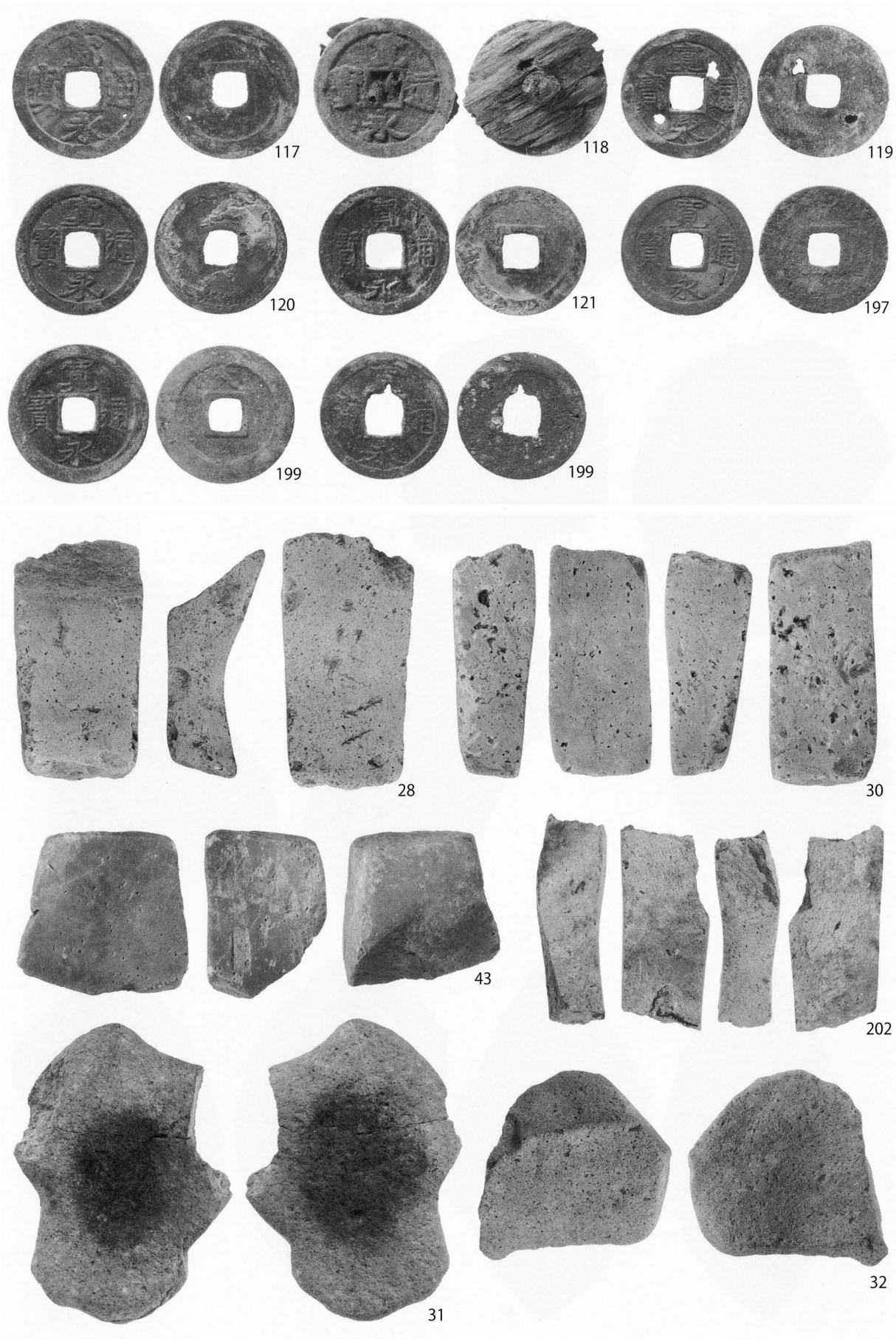
写真図版41　近世・近代の遺物（ガラス・金属製品）



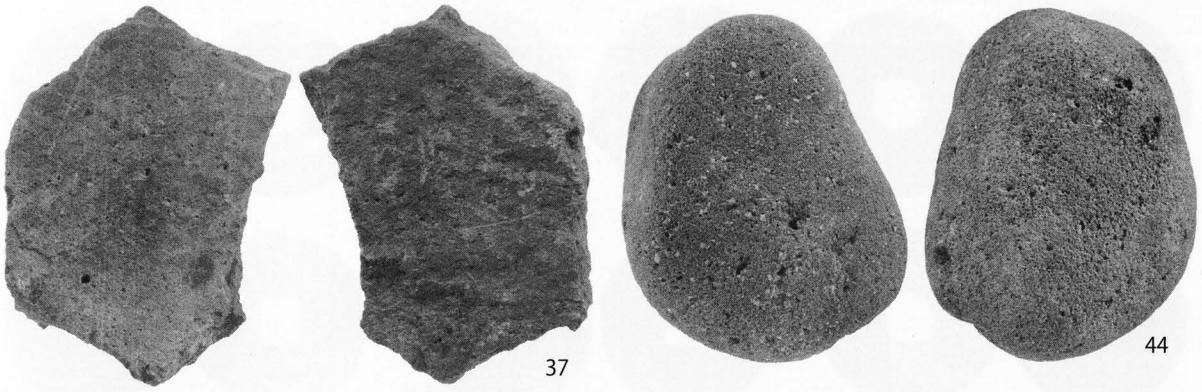
写真図版42　近世・近代の遺物（金属製品・銭貨１）

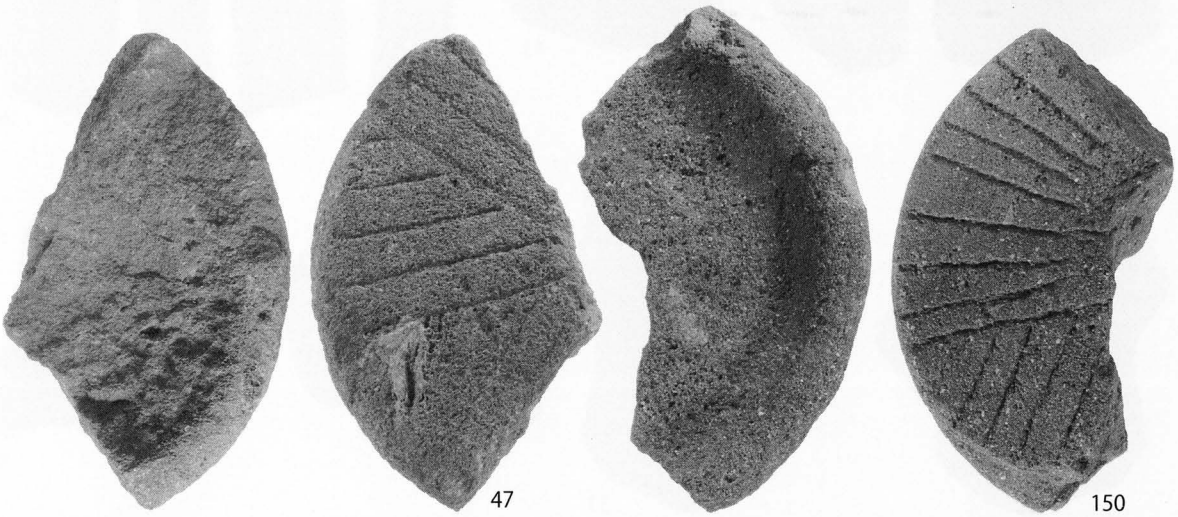


写真図版43　近世・近代の遺物（銭貨２）

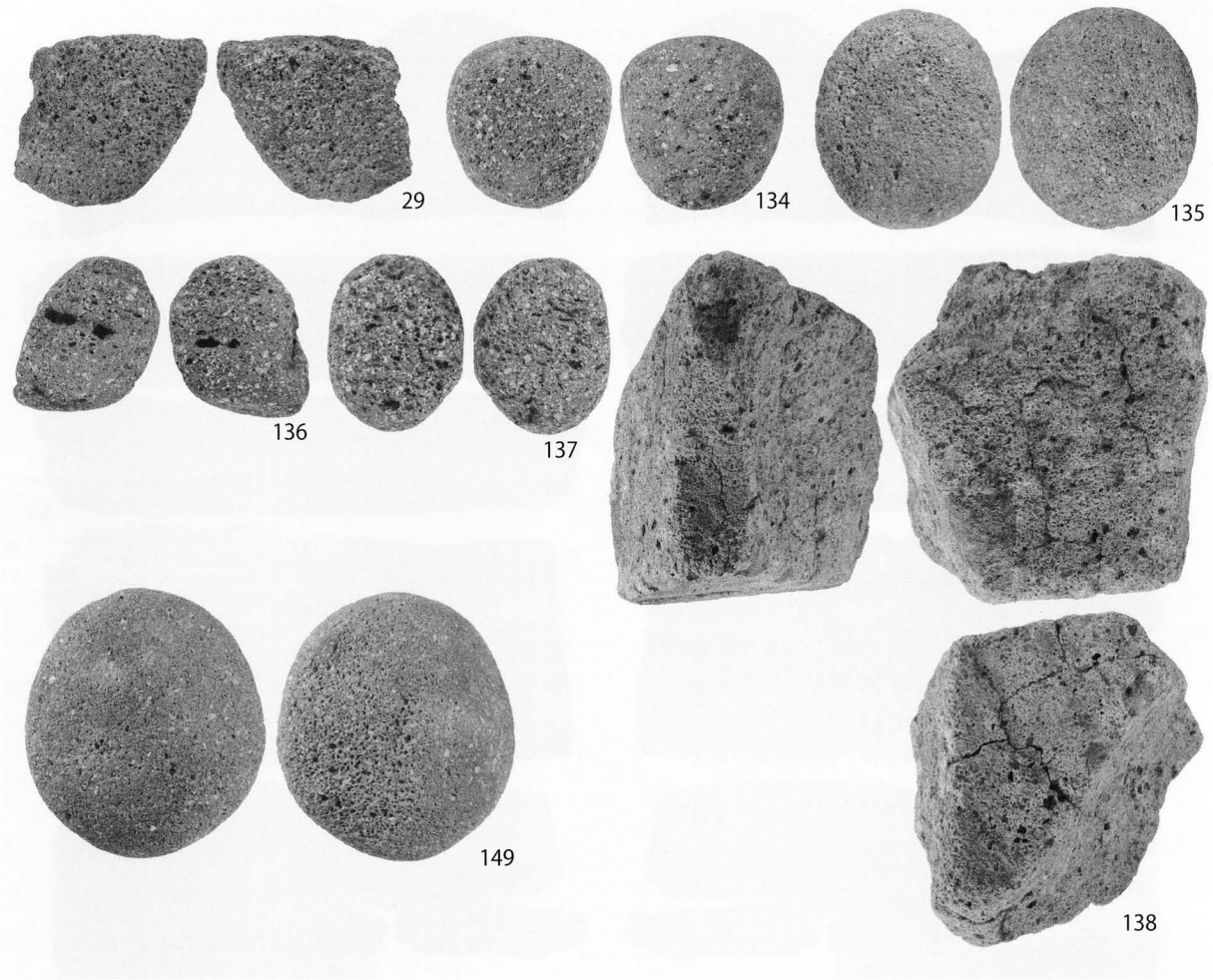


写真図版44　近世・近代の遺物（銭貨３・石製品１）

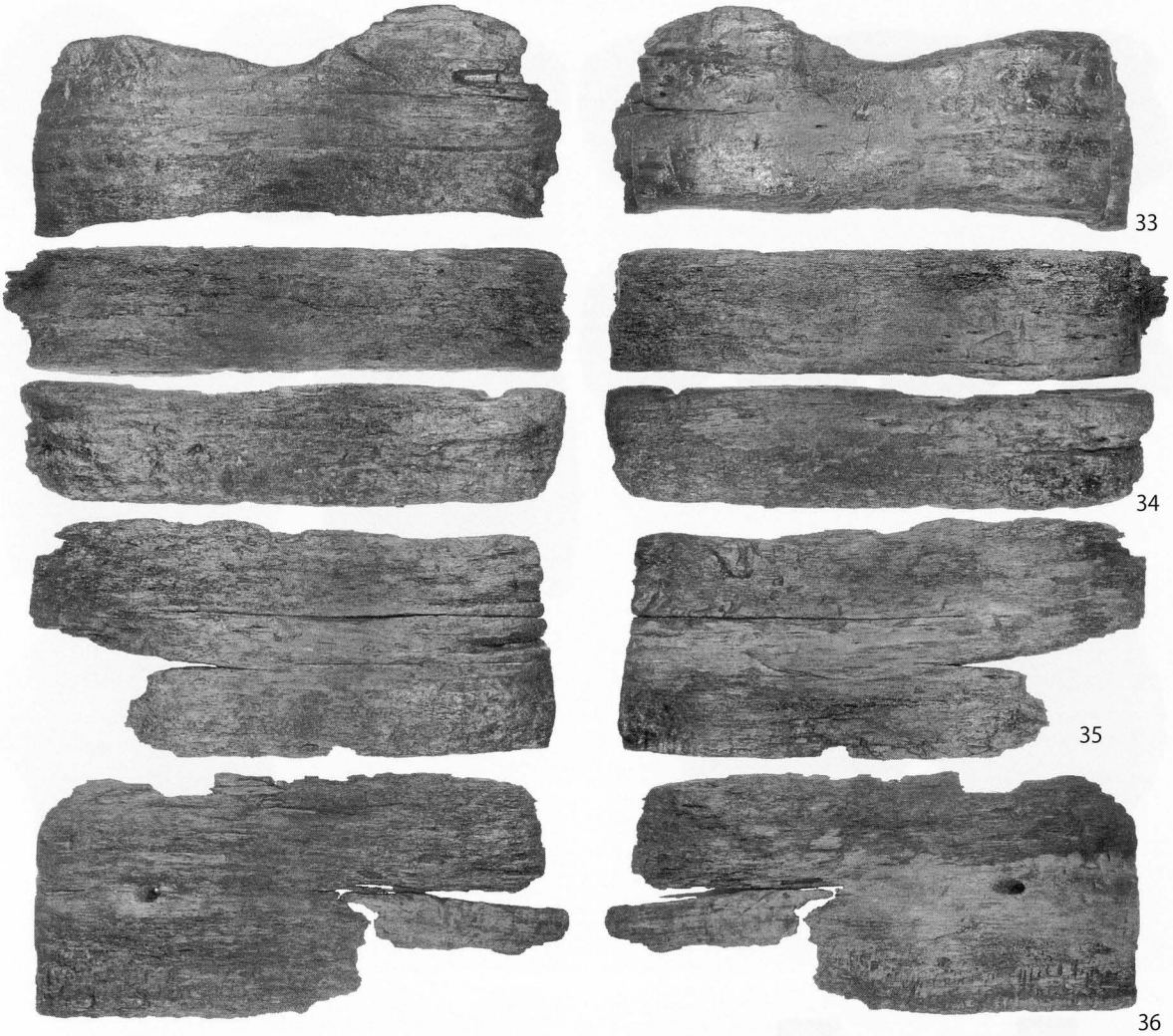


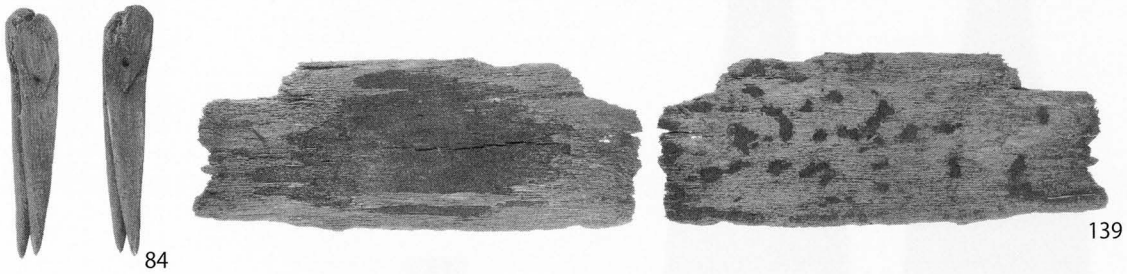


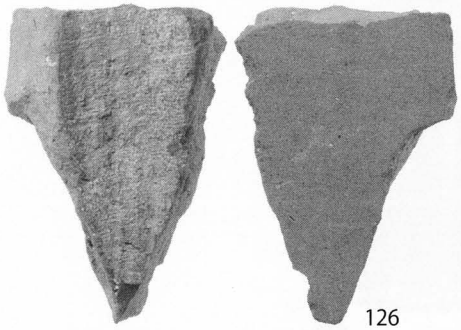
写真図版45　近世・近代の遺物（石製品２）



写真図版46　近世・近代の遺物（石製品３・ガラス瓶）

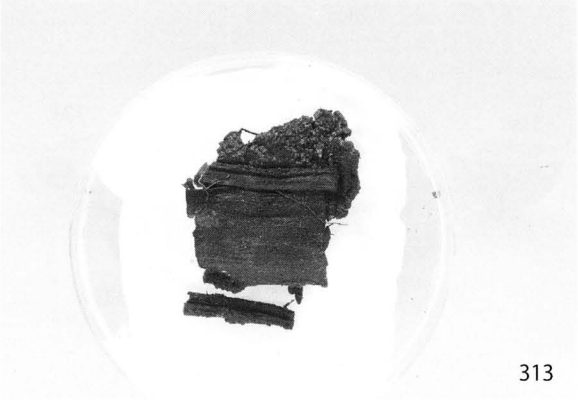




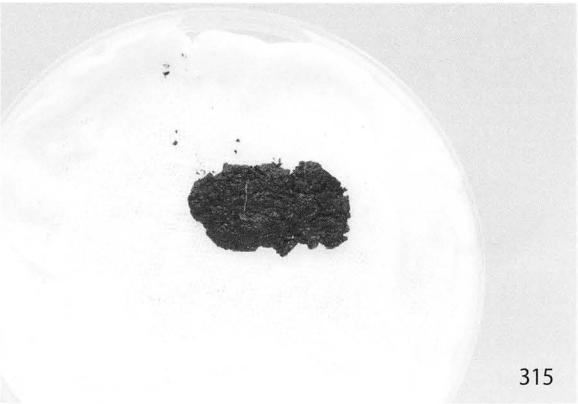


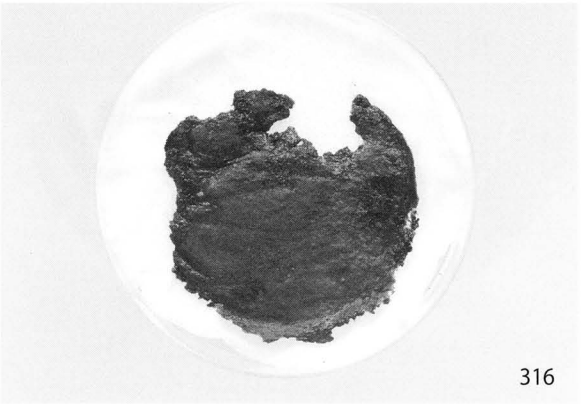
写真図版47　近世・近代の遺物（木製品・瓦）

312

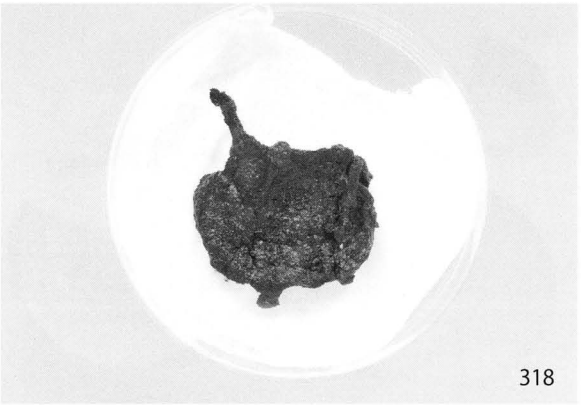

313

314

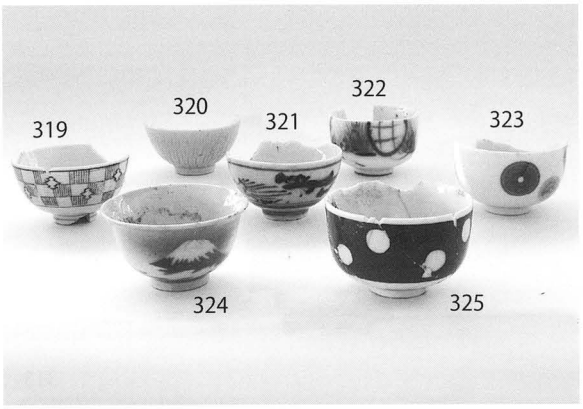

315

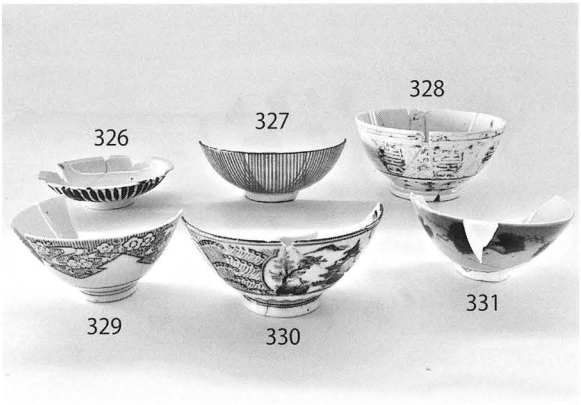

316

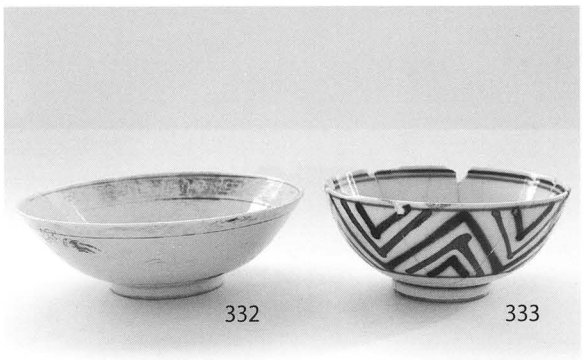
317

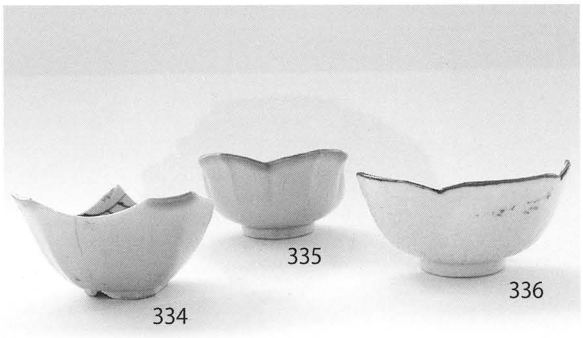

318

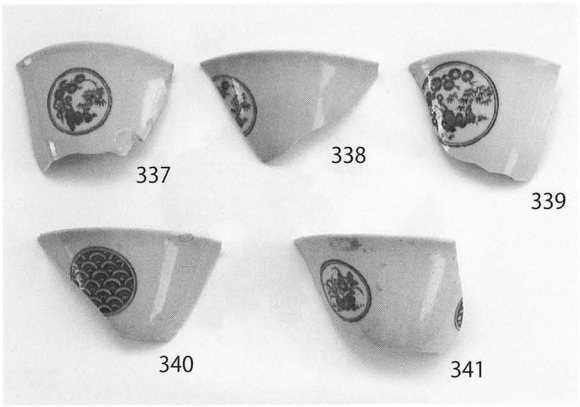
写真図版48　近世・近代の遺物（有機質資料）

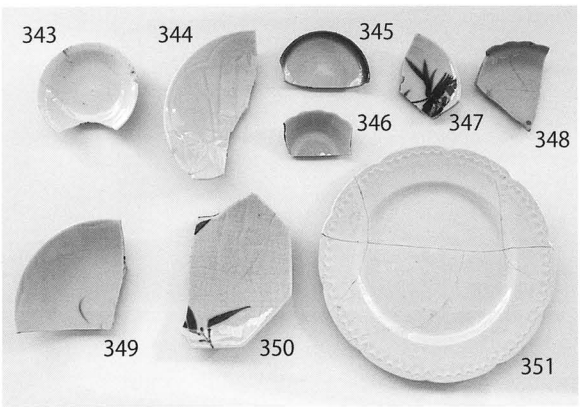


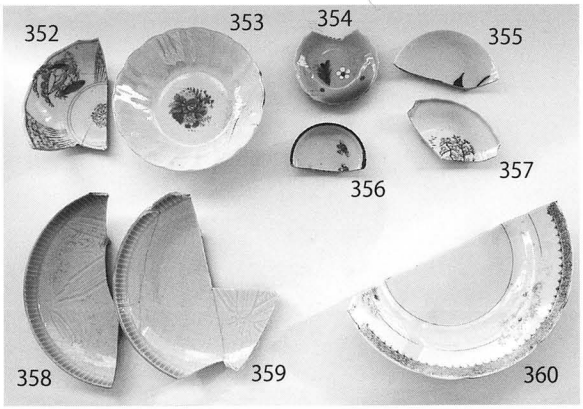




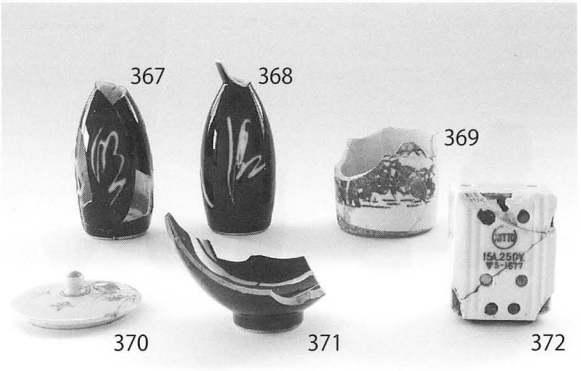


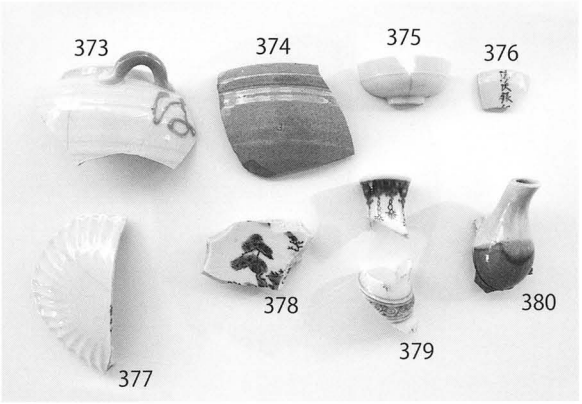


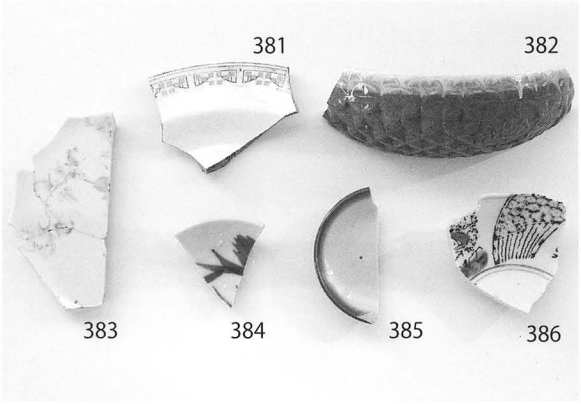


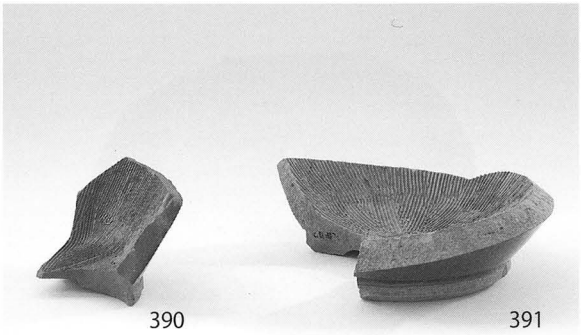


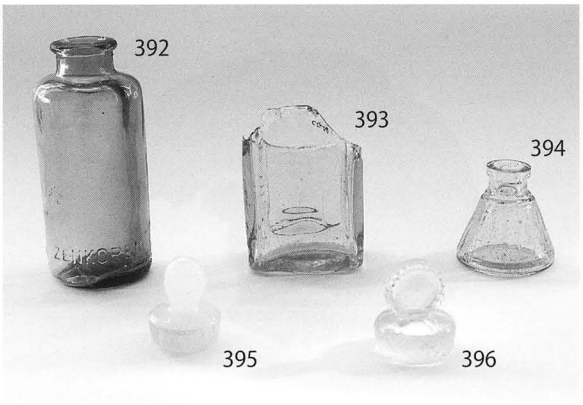
写真図版49　近代以降の遺物１（写真掲載のみ）

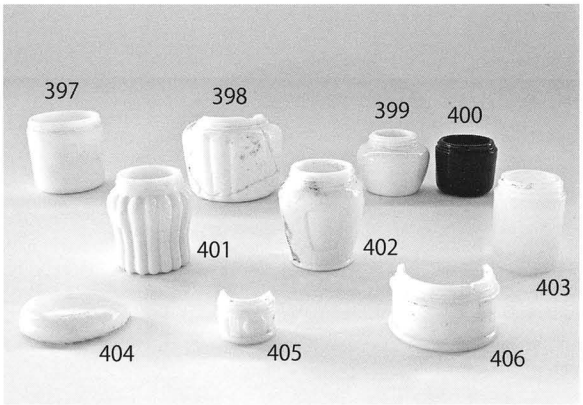








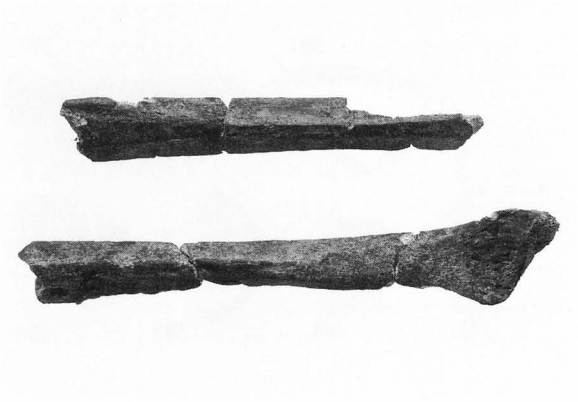




写真図版50　近代以降の遺物２（写真掲載のみ）

RD190出土人骨

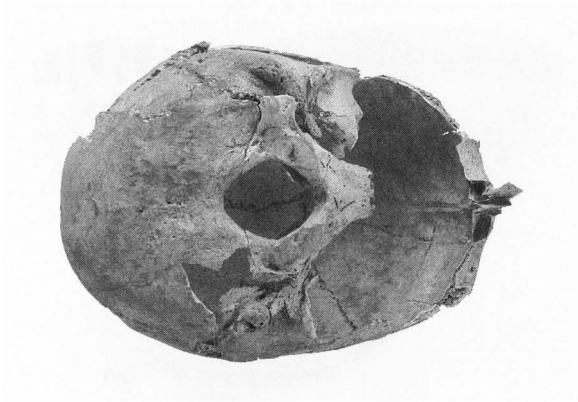
RD191出土人骨



RD191出土人骨大腿部

RD192頭蓋骨右前

RD192頭蓋骨右側面



RD192頭蓋骨下面２

RD192頭蓋骨上面

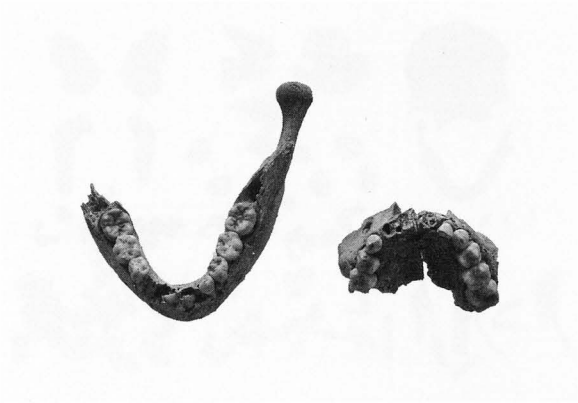
RD192頭蓋骨前面

写真図版51　墓壙出土人骨１

RD192大腿骨他

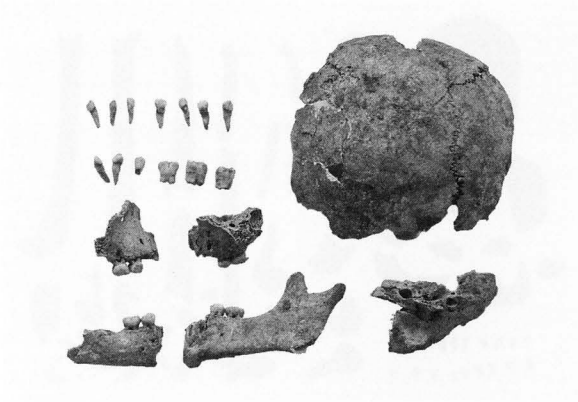
RD192腸骨・坐骨・肩甲骨

RD192頭蓋下顎骨

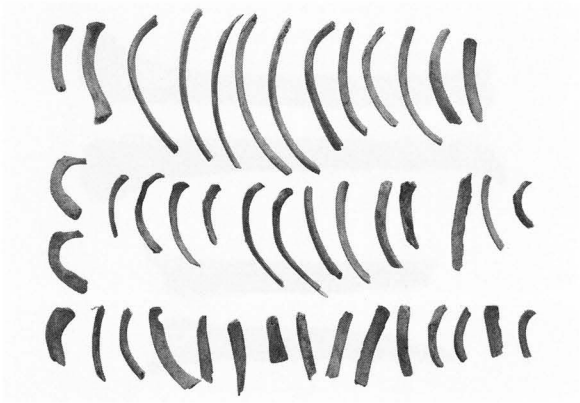


RD192（下位）上・下顎骨

RD192（下位）大腿骨他



RD192（下位）頭蓋骨

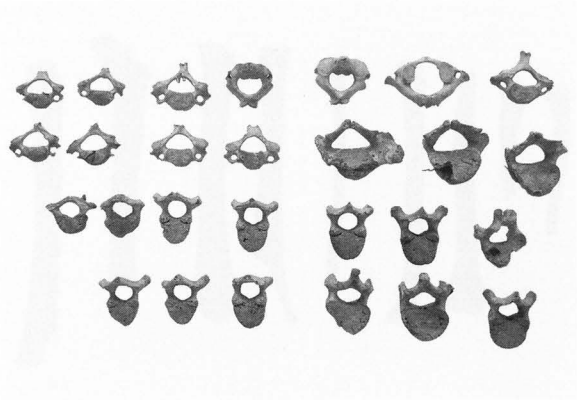


RD192鎖骨・助骨

RD192手（または足）の骨

写真図版52　墓壙出土人骨２

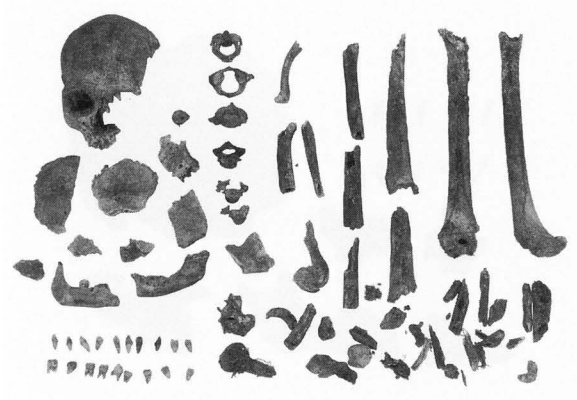
RD192墓頭蓋上顎骨



RD192墓脛椎・胸椎

RD193

RD193頭蓋骨



RD194

RD194下顎骨・歯

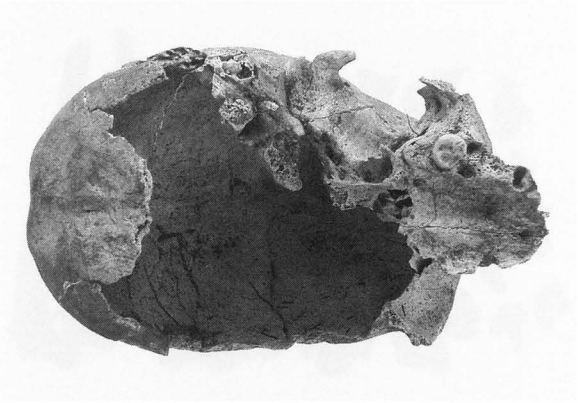
RD194肩甲骨

RD194大腿骨・脛骨

写真図版53　墓壙出土人骨３

RD194頭蓋骨右前

RD194頭蓋骨右側面



RD194頭蓋骨下面

RD194頭蓋骨上面

RD194頭蓋骨前面

RD194脛椎

RD196

RD197

写真図版54　墓壙出土人骨４

RD198

RD199

RD200

RD201

RD201大腿骨他

RD201頭蓋骨左前

RD201頭蓋骨左側

RD201頭蓋骨上面１

写真図版55　墓壙出土人骨５

RD202

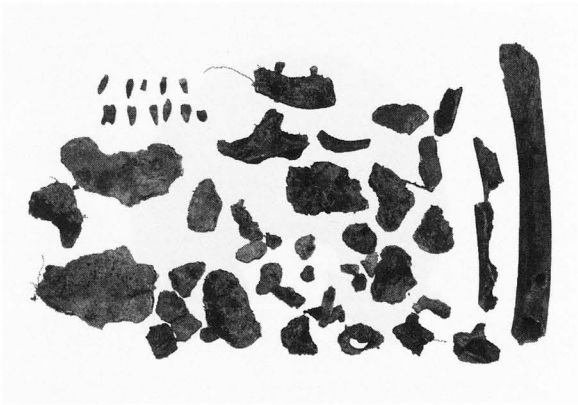
RD203

RD204

RD205

RD236

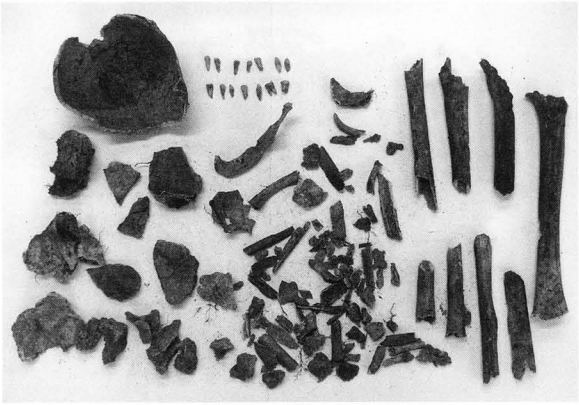
RD238



RD239

RD239頭蓋骨

写真図版56　墓壙出土人骨６



RD240

RD240下顎骨・歯

RD240大腿骨他

RD240頭蓋骨下面

RD240頭蓋骨左前

RD240頭蓋骨左側面

RD240頭蓋骨上面

RD240頭蓋骨前面

写真図版57　墓壙出土人骨７

報告書抄録

ふりがな	やもりいせきだいにじゅうさん・にじゅうよんじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	矢盛遺跡第23・24次発掘調査報告書
副書名	盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第578集
編著者名	須原　拓
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL (019) 638－9001
発行年月日	2011年2月28日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所収遺跡	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
矢盛遺跡 (第23次)	岩手県盛岡市 向中野字野原 49－3ほか	03201	LE26-0139	39度 40分 26秒	141度 08分 01秒	2009.07.01 ～ 2009.11.26	5,720㎡	盛岡南新都市土地区画整理事業
矢盛遺跡 (第24次)						2009.07.01 ～ 2009.11.26	425㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢盛遺跡 (第23・24次)	狩猟場	縄文時代	陥し穴4基 土坑2基	石器	過去の矢盛遺跡で見つかっている陥し穴に連なるものであり、合わせて狩猟場を形成する。
	散布地	古代		土師器、須恵器	
	集落跡	近世～近代	掘立柱建物15棟 井戸5基 墓坑21基 土坑34基 焼土遺構2基 性格不明遺構2基 溝7条	陶磁器・瓦・窯道具・銭貨(洪武通宝・古寛永・新寛永)・銅製品(煙管・簪・鏡)・鉄製品(釘)ガラス製品(鏡・簪)木製品(櫛・井戸枠)	江戸時代後期から明治時代初期の建物群とそれらに伴う井戸や墓域を確認した。

要約	主に近世～近代の建物群とそれに伴う井戸や土坑が見つかり、またその遺構群の北側には墓域が形成され20基近い墓坑が検出した。これらの遺構群は明治時代初期に作成された「飯岡新田地割絵図」に描かれている。当時の飯岡新田の様相を知る上で貴重な資料となる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第578集

矢盛遺跡第23・24次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成23年2月22日

発　行　平成23年2月28日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話(019) 638－9001

発　行　盛岡市都市整備部盛岡南整備課
〒020－8531　岩手県盛岡市津志田14地割37番地2号
電話(019) 651－4111

(独)都市再生機構岩手都市開発事務所
〒020－0864　岩手県盛岡市西仙北1丁目16番10号
電話(019) 636－1511

(財)岩手県文化振興事業団
〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番1号
電話(019) 654－2235

印　刷　第一印刷有限会社
〒020－0122　岩手県盛岡市みたけ四丁目6－40
電話(019) 646－6001

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011